堀田城之内遺跡

岐阜環状線建設工事に伴う 緊急発掘調査報告書

1997

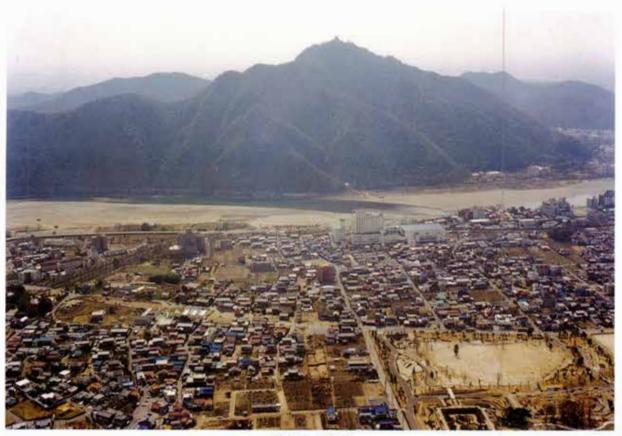
岐 阜 県 土 木 部 財団法人 岐阜県文化財保護センター

堀 田 城 之 内 遺 跡

岐阜環状線建設工事に伴う 緊急発掘調査報告書

1 9 9 7

岐 阜 県 土 木 部 財団法人 岐阜県文化財保護センター



調査区と岐阜城



城之内遺跡近景

清らかな長良川が市域を西流し、織田信長・斉藤道三の居城として華やかな 一舞台を飾った岐阜城が市街地を見下ろす岐阜市は、豊かな景観に恵まれ、堂々 たる歴史を物語る町です。そして、今なお情緒ある町並みがいたるところに残っ ており、人々の暮らしの中にも風情と人情が感じられます。

このたび、岐阜県土木部岐阜土木事務所による岐阜環状線建設工事に伴い、 工事予定地内の埋蔵文化財の記録保存をはかるため、岐阜市長良に所在する堀 田城之内遺跡の発掘調査を実施しました。

今回の調査では古墳時代~古代にいたる竪穴住居跡を50軒以上検出し、また、いわゆる焼失家屋も確認できました。先に調査が行われました岐阜市遺跡調査会の成果と合わせますと200軒近くの竪穴住居跡が確認されたことになり、当地には数百年続いた大集落が存在していたことが検証されつつあります。また、戦国時代の屋敷の区画溝も検出され、美濃国守護大名である土岐氏の居館(枝広館)との関連性も十分に考えられます。出土遺物には大量の土師器をはじめ須恵器、灰釉陶器、山茶碗などがあり、これらの変遷を辿る過程を通して先人の築きあげた歴史と文化を髣髴とさせます。

最後になりましたが、発掘調査および出土品の整理・報告書作成にあたりましては、関係諸機関・各位の温かいご理解とご協力を頂き、感謝申し上げます。 また、現地における調査に際しましては、地元の方々に多大なるご協力を賜り、 厚くお礼申し上げる次第であります。

平成9年3月

財団法人 岐阜県文化財保護センター 理事長 篠 田 幸 男

- 1. 本書は岐阜市長良堀田地内に所在する堀田城之内遺跡(G33G03153)の発掘調査報告書である。
- 2. 本調査は岐阜環状線建設工事に伴うもので、岐阜県土木部岐阜土木事務所から岐阜県教育委員会 を通じて委託を受け、発掘調査は財団法人岐阜県文化財保護センターが実施した。
- 3. 発掘調査は平成6~7年度に実施し、八賀晋三重大学教授の指導のもとに、市原輝明・各務光洋 (平成6年度)、三輪晃三(平成7年度)が担当した。
- 4. 本書に記載した遺物の実測は次の者が行った。 武藤美和子・杉原 麻記・今尾さち子・小木曽美智・國井 悦子・竹中百合子・薮下賀代子 高嶌 桂子・小谷 和彦・小野木 学
- 5. 実測図等のトレースは次の者が行った。 武藤美和子・今尾さち子・小木曽美智・國井 悦子・竹中百合子・藪下賀代子・高嶌 桂子
- 6. 遺物の写真撮影は佐藤右文氏に委託して行った。
- 7. 本書の執筆は第5章第1節を(株)パレオ・ラボ植田弥生氏、第5章第2節を岐阜大学教育学部 附属小学校古田靖志氏、その他を小野木学が行った。また、編集は小野木が行った。
- 8. 水準測量、空中写真測量は国際航業株式会社に委託して行った。
- 9. 住居出土の炭化材の樹種同定は(株)パレオ・ラボに委託した。
- 10. 須恵器の編年観については渡辺博人氏(各務原市埋蔵文化財センター)、灰釉陶器の編年観については山内伸浩氏(多治見市文化財保護センター)、古代の土師器の分類については内堀信雄氏、井川祥子氏(岐阜市教育委員会)、石器·石製品の観察表作成には長屋幸二氏(岐阜県教育委員会)にそれぞれ御教示を頂いた。石材鑑定は藤岡比呂志氏(本センター調査員)の肉眼観察による。
- 11. 発掘調査および報告書作成にあたって次の方々や諸機関からご助言、ご指導、ご協力を頂いた。 記して感謝の意を表する次第である。(敬称略、五十音順)

赤澤 德明·赤塚 次郎·岩田 修·大熊 厚志·大熊 茂弘·尾野 善裕 恩田 裕之·笠原 辰男·春日井 恒·加納 俊介·小谷 和彦·近藤 大典 佐野 康雄·鈴木 敏則·鈴木 元·清山 健·高木 宏和·高木 洋中井 正幸·中嶋 郁夫·贄 元洋·西村 勝広·橋詰 佳治·服部 哲也 藤澤 良祐·藤田 英博·三宅 唯美·村木 誠·森 泰道·山田 宜久 吉田 正人·奈良大学考古学研究室·(財)元興寺文化財研究所 滋賀県坂田郡社会教育研究会文化財部会

- 12. 発掘調査作業ならびに調査記録および出土品の整理等には次の方々の参加、協力を得た。
 - ・補助調査員 木俣恵美子・杉原 麻記・武藤美和子
 - · 発掘作業員

矢崎 久子・服部かおる・西部 康彦・酒井 克治・高井 譲・宮脇 紀子 神山 智子・石毛 博之・堀 三恵・鈴木 豊・千田 明子・山田 初恵 大谷 豊八・永田 勇夫・井村 武市・纐纈 豊市・神山 春男・白木川シラノ 杉山 和子・藤原 守・岩田ヨシヲ・本多 敏夫・岡崎 正子・小野島 璋 伊藤 行子・松井 昭一・井上 実・三島 彰・伊藤 邦夫・武藤 富咭 高岡 良夫・内田 由美・梶谷 博子・高島トモエ・三島 史子・高橋 純子

·整理作業員

今尾さち子・小木曽美智・國井 悦子・竹中百合子・薮下賀代子

13. 調査記録および出土品は、財団法人岐阜県文化財保護センターで保管している。

凡例

- 1. 出土遺物の実測図の縮尺は、土器は1/3、石器、石製品は2/3、1/2、1/3のいずれか、鉄器は1/3である。
- 2. 遺物番号は1番から通番を、第6章の参考資料は1001番から通番をそれぞれ付した。
- 3. 陶器の回転へラ削りの上端ないし下端は、実線で表記した。
- 4. 調査で用いたグリッドは国家座標を基準とし、A区は 10×10 m、B~D区は 5×5 mで設定した。
- 5. 遺構実測図の縮尺は、1/50、1/100を基本とする。
- 6. 遺構の図中、スクリーントーンの部分は焼土の範囲を示している。
- 7. 遺構の略号は下記の通り用いた。

住居……SB

溝······SD

掘立柱建物……SH

集石遺構 ·······SI

土坑………SK

土器集積……SU

その他……SX

柱穴・小穴……P

- 8. 遺構番号は、原則として発掘調査時の番号を用いている。
- 9. 土層および土器類の色調は、小山正忠・竹原秀雄 1996『新版 標準土色帳』日本色研事業株式会 社に従った。

目 次

序			
例言	Î		
凡例	i)		
第 1	章	発掘調査の経過	1
	第1節	発掘調査に至る経過	1
	第2節	発掘調査の経過と方法	1
第2	2章 i	遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
	第1節	遺跡周辺の立地、環境	1
	第2節	周辺の遺跡	4
第3	章 章	基本層序と遺構・遺物概要	7
	第1節	基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
	第2節	遺構・遺物概要	3
第4	章	遺構と遺物1	2
	第1節	下層面(下)の遺構と遺物1	2
	第2節	下層面(上)の遺構と遺物3	5
	第3節	上層面の遺構と遺物3	8
	第4節	A区の遺構と遺物4	5
	第5節	その他の遺構、包含層出土の遺物4	7
第5	章	自然科学分析	5
	第1節	堅穴住居から出土した炭化材の樹種12	5
	第2節	遺跡および周辺の地形・地質について12	7
第6	章	参考資料	9
第 7	音 :	キレめ1 3	c

挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図2	第46図	A区SK 1・SI 1 実測図45
第2図	グリッド設定図3	第47図	A区SI 2 実測図46
第3図	周辺の遺跡分布図5	第48図	遺物実測図(1)49
第4図	基本層序7	第49図	遺物実測図(2)50
第5図	高坏坏部角度・沈線幅計測模式図… 9	第50図	遺物実測図 (3)51
第6図	須恵器坏蓋の端部形態9	第51図	遺物実測図(4)52
第7図	SB1~3·5·19·21実測図12	第52図	遺物実測図 (5)53
第8図	SB6 実測図13	第53図	遺物実測図(6)54
第9図	SB7・17・25・54実測図14	第54図	遺物実測図 (7)55
第10図	SB 8 実測図14	第55図	遺物実測図(8)56
第11図	SB9・18実測図14	第56図	遺物実測図 (9)57
第12図	SB10・11実測図15	第57図	遺物実測図 (10)58
第13図	SB12実測図16	第58図	遺物実測図(11)59
第14図	SB12遺物出土状況17	第59図	遺物実測図 (12)60
第15図	SB14・15実測図18	第60図	遺物実測図 (13)61
第16図	SB16実測図 ······18	第61図	遺物実測図(14)62
第17図	SB20·24実測図19	第62図	遺物実測図(15)63
第18図	SB22·23実測図19	第63図	遺物実測図 (16)64
第19図	SB26・28・55・57実測図20	第64図	遺物実測図(17)65
第20図	SB27・56実測図21	第65図	遺物実測図 (18)66
第21図	SB29~32・SK139実測図22	第66図	遺物実測図 (19)67
第22図	SB33・49実測図23	第67図	遺物実測図 (20)68
第23図	SB34・35・37実測図24	第68図	遺物実測図 (21)69
第24図	SB36・51実測図24	第69図	遺物実測図 (22)70
第25図	SB38実測図25	第70図	遺物実測図 (23)71
第26図	SB39・53実測図25	第71図	遺物実測図 (24)72
第27図	SB40・SK141実測図26	第72図	遺物実測図 (25)73
第28図	SB41実測図27	第73図	遺物実測図(26)74
第29図	SB44・45・52実測図28	第74図	遺物実測図 (27)75
第30図	SB46・43実測図29	第75図	遺物実測図 (28)76
第31図	SB47実測図29	第76図	遺物実測図 (29)77
第32図	SB48実測図30	第77図	遺物実測図 (30)78
第33図	SB50実測図31	第78図	遺物実測図 (31)79
第34図	SB50付近遺構検出状況31	第79図	遺物実測図 (32)80
第35図	D区西壁セクション図34	第80図	調査地域周辺の地形127
第36図	SH 1 実測図35	第81図	遺物実測図(33)130
第37図	下層面(上)の遺構実測図36	第82図	遺物実測図 (34)132
第38図	SH 2 実測図38	第83図	遺物実測図 (35)133
第39図	SH 3 実測図38	第84図	S字甕・宇田型甕口縁形態略図 …136
第40図	SA 1~10実測図39	第85図	遺構切り合い関係模式図137
第41図	SA11~13実測図 ······40	第86図	城之内遺跡概況図138
第42図	溝実測図(1)41	第87図	遺構変遷図(1)139
第43図	溝実測図(2)42	第88図	遺構変遷図(2)140
第44図	SK 8 ・29・72実測図43	第89図	遺構変遷図(3)141
第45図	P 206実測図44	第90図	1期器種組成グラフ143

第91図 第92図 第93図	1 ・ 2 期器種組成グラフ143 1 ・ 2 期甕組成グラフ144 1 ・ 2 期高坏組成グラフ144	第94図 第95図	高坏口縁部内面の沈線幅 ······145時期別出土遺物個体数 ·····145
	付 図	目 次	
付図 1 付図 2	下層面(下)遺構全体図 下層面(上)遺構全体図	付図 3 付図 4	上層面遺構全体図 A区遺構全体図
	表 目	次	
第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第	編年対応表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第	遺物観察表(15) 107 遺物観察表(16) 108 遺物観察表(17) 109 遺物観察表(18) 110 遺物観察表(19) 111 遺物観察表(20) 112 遺物観察表(21) 113 遺物観察表(21) 113 遺物観察表(22) 114 遺物観察表(23) 115 遺物観察表(24) 116 遺物観察表(25) 117 遺物観察表(26) 118 遺物観察表(27) 119 遺物観察表(28) 120 遺物観察表(30) 122 遺物観察表(1) 123 石製品観察表(1) 123 石製品観察表(2) 124 石製品観察表(2) 124 石製品観察表(2) 124 石製品観察表(2) 124 日本記載を表(2) 124 日本記載を表(2) 124 日本記載を表(2) 124 日本記載を表(2) 124 日本記載を表(2) 124 日本記載を表(2) 124 日本記載を表(2) 124 日本記載を表(32) 134 遺物観察表(33) 135
第24表	遺物観察表(13)105		直物觀察表(33) ······135 炉法量一覧表 ·····141
第25表	遺物観察表 (14)106 写真図 版	百日分	
	サ 共 凶 ル	双口八	
図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図図版版版版版版	遺構図版 (1) 図版 9 遺構図版 遺構図版 (2) 週版10 遺構図版 遺構図版 遺構図版 遺構図版 図版11 遺構図版 遺構図版 (4) 週版12 遺構図版 遺構図版 (5) 週版13 遺構図版 遺構図版 (6) 図版14 遺物図版 遺構図版 (7) 週版15 遺物図版 遺構図版 (8) 図版16 遺物図版	(10) (11) (12) (13) (1) (2)	図版17 遺物図版(4) 図版18 遺物図版(5) 図版19 遺物図版(6) 図版20 遺物図版(7) 図版21 遺物図版(8) 図版22 遺物図版(9) 図版23 遺物図版(10) 図版24 竪穴住居出土炭化材の電子顕微鏡写真

第1章 発掘調査の経過

第1節 発掘調査に至る経過

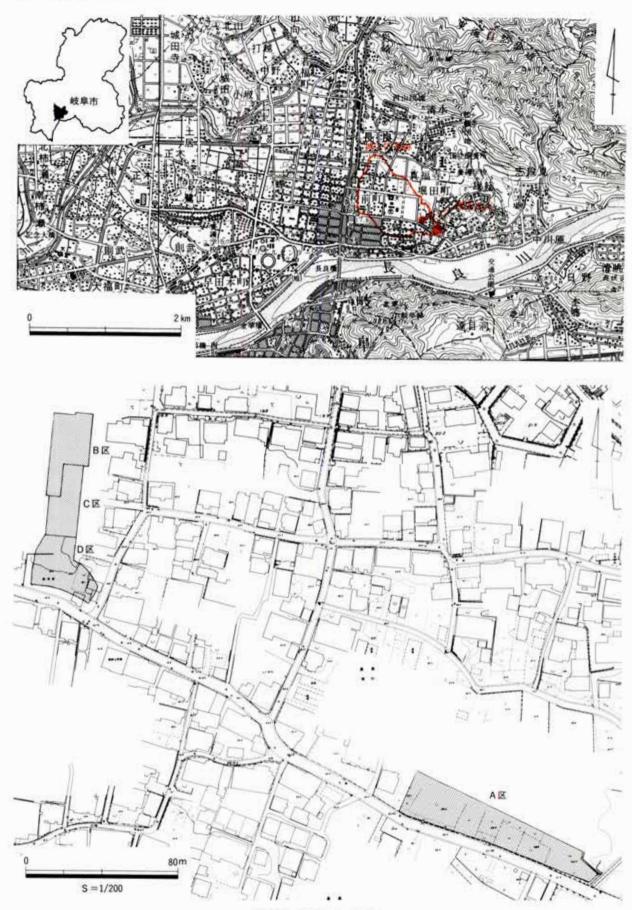
本遺跡は岐阜市長良堀田地内(937-1・2、938-1、941-1・2・3、942-1、943-1・3、946-1・2、947、994-1、995番地)に所在する。岐阜市は岐阜県の県庁所在地であり、21世紀に向けて新しい計画や文化施設の建設が相次いで行われている。その一つに岐阜環状線建設がある。岐阜環状線とは岐阜市中心部の外側をループ状に結ぶ道路で、県道岐阜環状線、国道21号線、国道156号線から構成されている。その主たる目的は、美濃方面(県道岐阜美濃線)、高富方面(国道256号線)、大垣・各務原方面(国道21号線)、名古屋方面(国道22号線)などと放射状に結び、岐阜市周辺への交通の流れを円滑にすることである。この岐阜環状線建設に先立ち、平成5年7月に岐阜土木事務所より岐阜県教育委員会文化課に工事計画等が示された。そして、道路建設区域が遺跡範囲内を通過することから、平成6年3月1日~3日にかけて岐阜県教育委員会が試掘調査を実施した。その結果、遺物包含層と遺構面が確認されたため、財団法人岐阜県文化財保護センターが岐阜県教育委員会の委託を受け、今回の調査が実施されることとなった。

第2節 発掘調査の経過と方法

今回の調査は2年に亘り、東西2ケ所の地点を調査した。そして便宜上、東側の調査区をA区、西側の平成6年度調査区をB区、平成7年度調査区の北側をC区、南側をD区と呼称した。なお、調査期間は平成6年7月11日~平成7年3月24日、平成7年5月26日~平成8年3月22日であり、調査面積は平成6年度2000㎡、平成7年度2138㎡である。

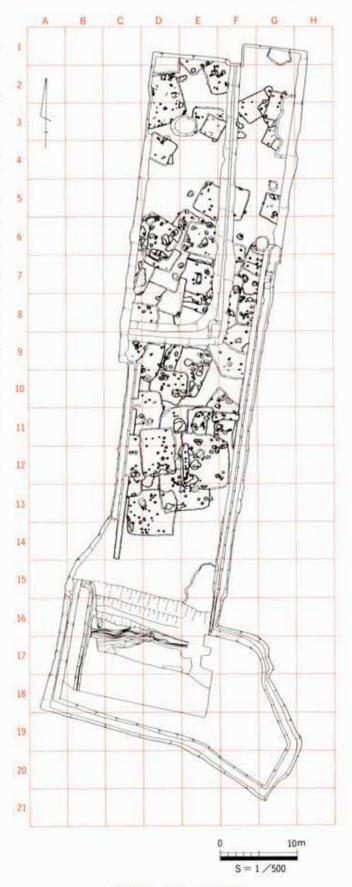
平成6年度はA区の調査から始まった。まず、表土削平をバックホウにより行い、試掘による基本層序の確認のため、調査区南側に幅70cm程のトレンチを設定した。トレンチの土層断面を検討した結果、遺構の分布が希薄であったことから、A区は遺構検出を行った後すぐに遺構掘削を手掛けた。また、7月中旬よりB区の表土削平をバックホウにより行い、以後、A区とB区を同時に掘削した。なお、B区は遺構面が複数存在することが明らかであったが、遺構検出が極めて困難であったため、明確に上層面が把握できなかった。そして、地山面まで掘削する過程で検出された遺構はあぜをつくりながら柱状に残し、最終的には遺構面1枚での調査となった。また、B区もA区と同様に調査区の南北にトレンチを設定し土層確認を行ったが、地山面に至っても平面的な遺構検出は困難であり、サブトレンチを多用した。10月中旬にはSD1のプランを検出し終え、11月下旬には竪穴住居の掘削を開始した。そして、12月下旬にA区の調査を完了し、シートをかけて保存した後、1月下旬に空中写真撮影を実施した。B区は2月下旬でほぼ掘削が終了し、2月26日に現地説明会を行い、3月7日に空中写真撮影を実施し、以後、残りの図面作成に労した。

平成7年度はSD1の土層を再確認し、SD1が掘り込まれる上層面での遺構検出から始まった。平成6年度と同様に遺構検出が極めて困難であったため、精査を繰り返し行い、9月中旬に上層面の空中写真撮影を実施した。その後、地下道建設工事が年度内に実施されるD区の調査を行った。調査を進



第1図 遺跡位置図

めるにつれ、D区の遺物包含層が急激に下方 に落ち込むこと、および調査期間との兼ね合 いから、人力掘削を行わずやむを得ずバック ホウによる掘削を行い、出土遺物で層位が不 明瞭なものは□層~□層として取り上げた。 そして、D区下層面の空中写真撮影を11月上 旬に実施した。12月上旬にはC区の竪穴住居 等の遺構検出を終了したが、竪穴住居の埋土 上面から掘り込まれているピットと土坑が幾 つか検出されたため、これらの遺構を下層面 (上) とし、掘削を開始した。そして、掘削 が終了した後、20分の1のスケールで遺構平 面図を作成し、同時に竪穴住居等の下層面 (下)の遺構掘削を開始した。SB50付近は竪 穴住居の切り合い関係が非常に判別しづら く、精査を何度も行った。また、1月上旬に は記録的な大雪のために作業が難航した。そ して、C区の空中写真撮影およびフォトエレ ベーターシステムによる写真撮影を行ったの が3月中旬である。それ以後、竪穴住居の断 ち割りや図面作成を行い、3月22日に調査を 終了した。



第2図 グリッド設定図

第2章 遺跡の立地と環境

第1節 遺跡周辺の立地、環境

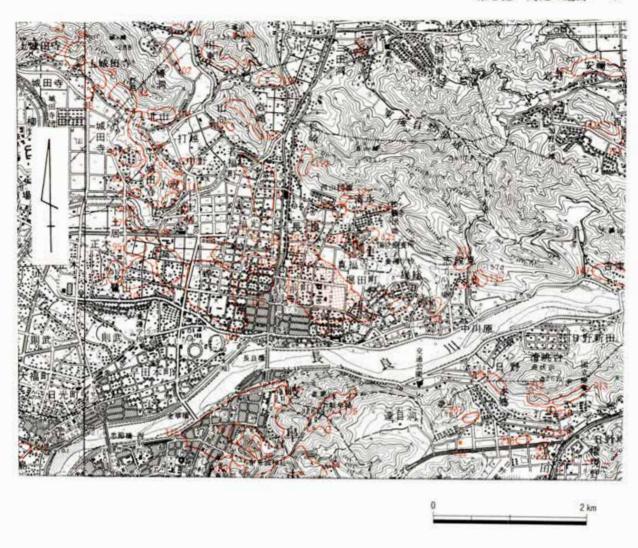
岐阜市は濃尾平野の北部から美濃山地の南縁部に広がり、海抜300~400mの山地、および海抜30m以下の台地・沖積平地からなる。このうち、沖積平地は南部の木曽川扇状地末端につづく自然堤防と後背湿地・旧河道の分布地域、中央~西部にかけての長良川扇状地の地域、伊自良川沿いの低湿な後背湿地の地域と山地間の地域などに分けられ、本遺跡はそのうちの長良川扇状地上に位置する。長良川扇状地(岐阜扇状地)は、岐阜市中川原付近を扇頂とする緩扇状地であり、岐阜市街地の大半がこの扇状地上に位置する。そして、扇状地礫層の上面に弥生時代の遺跡が位置することから、扇状地の形成は少なくとも縄文時代以前から継続していたとされている。これは岐阜市教育委員会が平成5・6年に行った調査で、扇状地礫層より上部に位置する黒色土から松河戸火山灰(MT)やカワゴ平軽石(Kg)に同定される、約3000年前に降灰した火山灰が確認され、さらにその上層から縄文時代晩期の土器が出土していることからも裏付けられる。また、遺跡周辺の旧地形については平成5~6年度に実施された岐阜市遺跡調査会の報告(高本他1996)で「字絵図」に記載されている等級の違いから詳細な分析がなされており、旧河道の位置や美濃守護土岐氏の居館と推定される「枝広館」の範囲、および方形区画の東辺中央部分に土橋の存在がある可能性などが示唆されている。

第2節 周辺の遺跡

今回の調査が行われた城之内遺跡の推定範囲は南北1km、東西1.2kmにも及ぶ。そして、過去幾度か発掘調査と試掘あるいは立ち合い調査が行われている。

本遺跡周辺では旧石器時代~弥生時代までの遺跡分布は密とはいえない。そのうち、旧石器時代の遺跡としては寺田遺跡、日野遺跡、寺田轟遺跡が本遺跡の南東約3.5kmに位置するのみである。縄文時代の遺跡は本遺跡北に西野々遺跡、龍門寺遺跡が位置する。弥生時代の遺跡は旧石器時代、縄文時代の遺跡数より増加するが、古墳時代以降の遺跡数と比べると少ない。そして、その分布は本遺跡より北西に位置する遺跡が多い。

古墳時代になると、第3図に示したように本遺跡周辺に古墳の存在が目立つようになる。なかでも本遺跡北約1㎞に位置する龍門寺1号墳は割竹形木棺を有し、三角縁獣文帯四神四獣鏡、方格規矩鏡、五獣鏡などの鏡3面や勾玉、碧玉製棗玉・管玉、硝子製丸玉・小玉、滑石製勾玉・臼玉などの玉類、碧玉製石釧、櫛、鉄製品などが出土しており、三角縁獣文帯四神四獣鏡は京都府椿井大塚山古墳出土鏡と同笵である。その他、鏡が出土している古墳として鎌磨1号墳、中野1号墳、龍門寺12・14・15号墳などがある。これらの前・中期古墳に対し、後期古墳の存在も目立つ。なかでも西山古墳群は第1古墳群34基、第2古墳群18基が確認されており、第1古墳群4・5号墳は昭和41年に発掘調査が行われ、4号墳は直径16m、高さ6.5mを測る3段築成の円墳で、内部主体として両袖式の横穴式石室を有する。そして、出土遺物に金環、直刀、鉄鏃、刀子、須恵器、土師器などがある。また、上城田寺古墳群は4支群に分かれ、第1古墳群25基、第2古墳群11基、第3古墳群21基、第4古墳群13基が確



No.	道路名	まり代	No.	遺跡名	49代	No.	遺跡名	#5代
84	上城田寺第1古墳群	古墳	110	岩崎 1 号增	古墳	135	志段見第2古墳群	古地
85.	上城田寺第2古墳群	古墳	111	打越遺跡	9k-4:	136	长良志段見遺跡	古代一中世
86	上城田寺第3古墳群	古墳	112	中野古墳群	古地	137	岩井古墳群	古墳
87	上城田寺第4古墳群	古墳	113	四层敷占填群	古相	142	北長塚古墳群	古相
88	上城田寺流跡	縄文	114	富原古墳	530	143	北長塚遺跡	縄文
89	坂尾古墳群	古墳	115	八代流鋒	古墳一中世	147	長良古津遺跡	170.00
90	城田寺庭原遺跡	古代一中世	116	福光束入流跡	中世	172	東島寺屋敷遺跡	中世一戦国
91	鎌密流跡	弥生	117	福光東B遺跡	- 95.4	175	岐阜城下町遺跡	戦国一近世
92	維務古墳群	古墳	118	四對々遺跡	縄文一弥生	176	岐阜奉行所跡	近世
93	下城田寺中世墓	中世	119	長良天神遺跡	\$6:4	177	岐阜城于畳敷遺跡	古代一報問
94	下城田寺遺跡	弥生	120	繁山治郎丸遺跡	古代一晚间	178	政功战器	48[4]
95	正明寺城之前遺跡	古代一中世	121	太田遺跡	古代一戦国	179	北洲古墳群	古墳
96	下土居遺跡	弥生	122	繁山仙道流游	古代一戰国	181	上加納山古墳群	古相
97	下土居若宮遺跡	古代一中世	120	域之内遺跡	# 3 - 40.00	197	母総第1占項群	古墳
98	下土居北門遺跡	古代一中世	124	常山經流路	古代~較加	198	雄総第2古項群	15:10
99	繁山古墳群	占填	125	操光花 / 木町遺跡	古代一級国	199	護国之寺道跡	古代
00	鷺山市場遺跡	古代一戦国	126	三田親古墳群	占填	200	日野第1占坑群	古墳
10	特别第1古墳群	古墳	127	西山第 1 古墳群	古墳	200	日野1号坑	占填
12	桥洞第2古墳群	古墳	128	西山第2古墳創	古墳	201	日野第2古墳群	古墳
04	劉塚古墳	古墳	128	例由4号班	At the	202	轮聚古墳	54
05	格测打越占填料	古墳	129	西山洞古墳群	古墳	212	船伏山古墳群	占墳
16	打越北山古墳群	占填	130	長良福泉遺跡	古代一中世	213	E1 野子195.26-20年	奈良
07	韓山古墳群	古墳	131	旗門寺遺跡	縄文	216	日野北石神道路	縄文
38	山向古墳群	古墳	132	龍門寺古墳群	古墳	218	李田遺跡	田石器 一条生
99	岩崎第1古墳群	古墳	133	经自用编件	泰良	219	口野流跡	田石器一古井
10	岩崎第2古墳群	古墳	134	志段見第1古墳群	古地	220	专用真道路	10.6729

6 第2章 遺跡の立地と環境

認されている。そのうち第1古墳群2号墳からは須恵器皮袋形提瓶が出土している。また、平成3~4年にかけて行われた発掘調査では14基の横穴式石室が調査され、遺物が出土した5基の古墳の年代は6世紀中葉~7世紀後半に位置付けられている。これらの古墳の存在に比べ、古墳時代の集落は極めて少ない。第3図に示した遺跡分布のうち、古墳、ないしは古墳群以外の遺跡で古墳時代の遺物が採集されているのは城之内遺跡と八代遺跡、日野遺跡であり、八代遺跡は遺跡内に古墳群が含まれる。

古代の様相としてまず東山道の存在が挙げられる。東山道は近江国から美濃国を経て信濃国に至る 幹線道路であり、その駅の一つである方県駅が『延喜式』に記されている。方県駅の推定地は岐阜市 合渡、岐阜市長良の2箇所があるが、駅間の距離や長良廃寺・護国之寺の存在、地形的要因などから 長良に至る経路の方が妥当であるとされ、現在では方県駅の推定地は長良の方が有力である。本遺跡 周辺の古代の遺跡の様相は不明な点が多いが、第3図に示したなかでは城之内遺跡から西側にその分 布域が偏っている。

中世の様相としてまず守護所である枝広館の存在が挙げられる。枝広館の位置は、岐阜市教育委員会による平成3年度の試掘調査と平成4年度の本調査によりほぼ確定されている。そして、それらの調査で検出された堀は幅15m、深さ4m前後であり、土塁と堀の斜面の一部が崩れ落ちて堀底部に堆積し、堀の中全域にわたり洪水による砂層が検出された。さらに、これが守護所が枝広館から大桑城に移り変わる契機となる天文4年(1535)の長良川大洪水に相当すると推定されている。そして、平成5・6年度の岐阜市遺跡調査会による調査では、SE2より越州窯系青磁と11世紀後半を遡らないとされる白磁碗が出土している。また、字絵図による方形区画の痕跡から今回の調査で検出されたSD2と枝広館の関連性を示している。さらに、本遺跡と長良川を挟んで位置する岐阜城千畳敷遺跡では多量の中世遺物が出土しており、各層を通じて土師器が出土総数の80~90%という高い比率を占めることが明らかにされている。

参考文献

天木日出夫他 1994 「上城田寺古墳群」岐阜市教育委員会

内堀信雄他 1990 「千畳敷 一織田信長居館伝承の発掘調査と史跡整備一」岐阜市教育委員会

内堀信雄他 1991 「千畳敷II —財団法人加藤栄三・東一記念館建設に係る緊急発掘調査の記録—」岐阜市教育委員会

内堀信雄他 1996 「岐阜市遺跡詳細分布調査報告書」岐阜市教育委員会

大熊厚志 1990 「城之内遺跡 長良高等学校体育館建設に伴う岐阜大学跡地の緊急発掘調査報告書」岐阜県 教育委員会

各務光洋 1991 「城之内遺跡II」岐阜県教育委員会・財団法人岐阜県文化財保護センター

岐阜市 1979 「岐阜市史 史料編 考古・文化財」

岐阜市 1980 「岐阜市史 通史編 原始・古代・中世」

高木洋他 1996 「堀田・城之内―岐阜市堀田土地区画整理事業に伴う発掘調査―」岐阜市遺跡調査会

高田徹・内堀信雄 1994 「美濃における15・16世紀代の守護所変遷」『守護所から戦国城下へ 一地方政治都 市論の試み一』名著出版

堀正人他 1990 「城之内遺跡―東長良中学校建設に従う岐阜大学跡地の緊急発掘調査―」岐阜市教育委員会

第3章 基本層序と遺構・遺物概要

第1節 基 本 層 序

本遺跡は数箇所に近現代の攪乱がみられるものの、層序は比較的安定している。しかし、D区は落 ち込みにあたるため、ここでいう基本層序は主にB・C区を対象としている。なお、遺構検出面は基 本的に上層面がIIb層直上、下層面がIII層直上である。

以下、I層より順に概述する。

I層 明黄褐色砂質土 (10YR6/6) 表土である。30~50cmの堆積であり、調査区全域にわたり確認 された。

II a 層 にぶい黄褐色砂質土 (10YR5/3) 20cm前後の堆積であり、調査区全域にわたり確認された。 かたくしまり、小礫を多く含む。また、陶器類の包含量が多い。

II b 層 にぶい褐色砂質土 (7.5YR5/3) 20~40cmの堆積であり、調査区全域にわたり確認された。 かたくしまり、小礫をわずかに含む。また、遺物包含量が最も多い。

III層 暗褐色シルト (10YR3/3) 20cm前後の堆積であり、B・C区においてにぶい赤褐色シルト (5 YR4/3) が混在し、D区ではにぶい赤褐色シルトが暗褐色シルトを凌駕する。

IV層 黄褐色砂質土 (10YR5/4) 20cm前後の堆積であり、調査区 全域にわたり確認された。B・C区は暗褐色シルトがわずかに混在 する。

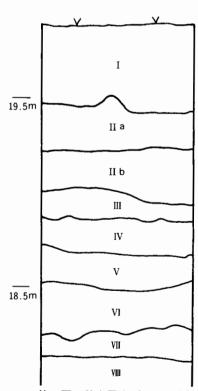
V層 黒褐色シルト (10YR2/3) 20cm前後の堆積であり、B・C 区において確認された。

VI層 褐色シルト (10YR4/4) 20~30cmの堆積であり、B・C区 において確認された。なお、VI層とVII層の境は漸移的であり、その 境は明確でない。

VII層 黒色シルト (10YR1.7/1) 10~20cmの堆積であるが、B区 では50cm程の堆積がみられる箇所もある。調査区全域にわたり確認 され、D区は黄褐色砂質土(10YR5/4)がわずかに混在する。

VⅢ層 にぶい黄褐色粘土(10YR5/4) 30cm前後の堆積であり、B・ C区において確認された。

なお、A区の層序は全く様相が異なる。表土は褐色土で20~30cm の堆積であり、主に近世陶器の包含量が多い。その下に暗褐色土が 20cm前後堆積し、それ以下は基本的に砂層と礫層の互層構造であり、 わずかに粘土層がレンズ状にみられる箇所があるのみである。遺構 面は暗褐色土直上であり、A区東側には確認されなかった。



第4回 基本層序(S=1/20) (B区東壁セクションの一部)

第2節 遺構・遺物概要

(1) 遺構概要

今回の調査はA区とB~D区の2地点に分かれる。A区では土坑1、集石遺構8、不明遺構1、合計10基の遺構が検出され、時期はいずれも中世以降である。B~D区では上層面と下層面の2枚の遺構面が確認され、上層面では土坑53、ピット450、溝5、下層面では住居56、土坑79、ピット315、溝1、合計958基の遺構が検出された。上層面は遺構検出が極めて困難であり、B区においてはII b層掘削時において検出された遺構と下層面まで掘り込んでいる遺構を捉らえられたのみである。そのため、付図2ではC・D区に遺構分布が集中している。下層面は56基の住居が検出されたが、住居の埋土直上から掘り込まれている土坑、ピットも数多く検出されたため、それらを区別するために下層面(上)と下層面(下)とした。基本的に下層面(上)と下層面(下)の遺構の区別は埋土の色調の違いで判断している。また、一つの住居において多時期にわたる遺物が出土している場合が多く、その年代観は第1に炉あるいはカマドに伴う遺物と床面直上の遺物、第2に住居に伴うピット、土坑の遺物、第3に埋土全体の遺物の様相と遺構間の切り合い関係、といった優先順位で考えた。しかし、遺構間の切り合い関係から住居の時期がある程度推定できても、その時期が埋土全体の遺物の様相と異なる場合は時期不明とした。なお、遺構名は調査時における名称に従っている。

(2) 遺物概要

今回の調査で出土した遺物は縄文時代~近世まで多時期にわたり、そのうち古墳時代を中心とする 土師器が最も多い。また、遺物の分類、名称などは基本的に既存の報告・研究成果に依拠しており、 以下、器種毎に記す。

A) 土師器(古墳時代) 愛知県廻間遺跡(赤塚他1990)、松河戸遺跡(赤塚他1994)の報告書にある 分類、名称を参考とした。

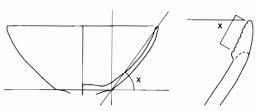
く字状口縁台付甕(く字甕) 1類~4類までは廻間分類A1~A4にそれぞれ対応する。5類は口 縁端部が直立ないしは内傾するもの。なお、く字甕と受口甕の基本的な違いは、口縁部内面が内彎す るか否かで判断した。

受口状口縁台付甕(受口甕) 1類と2類は廻間分類B1とB2に対応するが、2類のうち口縁端部の面に沈線や刻みを施すものが散見できるので細分した。(2 a) 面に沈線を施すもの、(2 b) 面に沈線を施さないもの、(2 c) 口縁部外面に刻みを施すもの、(2 d) 口縁部外面に沈線を施すもの、(2 e) 口縁部外面に沈線と刻みを施すもの。3類は口縁端部に面を有しないもの。

S字状口縁台付甕(S字甕) O類、A類、B類、C類、D類を口縁部形態から廻間分類に対応させた。小型品はE類とした。(第7章参照)

高坏 坏部が半球形を呈しないものを A、半球形を呈するものを Bとした。 A 類のうち坏部が深いものを A 1(廻間分類 A 2)、坏部が大きく外傾するものを A 2(廻間分類 A 4)、坏部が内反り気味に外反するものを A 3(松河戸分類 B 3~5)、 A 3のうち垂下稜を有するものを A 4 とした。また、高坏 A 類は口縁部形態も分類した。すなわち、端部内外面に沈線を施さないものを a、内面の沈線幅が 1.4cm以内のものを b、内面の沈線幅が1.5cm以上のものを c、外面に沈線を有するものを d とした。 なお、高坏 A 類は 'A 1 a'というように坏部形態、口縁部形態の順に記し、坏部がほぼ復元できる個体

は坏部の角度と口稜比(稜径/口径×100)を示した(第5回)。B類は3つに分類し、口縁部に沈線を施さないものをB1類、口縁部内面および外面のどちらかに沈線を施すものをB2類とした。B3類はB1類と形態的には類似するでが、胎土中に赤褐色粒を含み、胎土も赤褐色に近い色調を



第5図 高坏坏部角度、沈線幅計測模式図

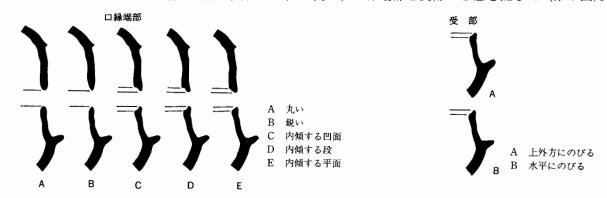
呈する、字田型甕に伴う高坏である。なお、有稜高坏は断定できるもののみ記した。

中小型壺 出土数が少ないため形態的にはすべて一括した。しかし、口縁部に沈線を施すものが幾つかみられるので、口縁部に沈線を施さないものを1類、口縁部に沈線を施すものを2類とした。

鉢 廻間分類A1~6、B1~3の他に、高坏B3類に伴う鉢(153等)をB4とした。

その他 器台、パレス壺、広口壺、柳ヶ坪型壺はいずれも廻間分類に対応するが、広口壺のうち直立する二重口縁を有するもの(4·1010)のみ広口壺 6、パレス壺のうち口縁部が内彎し、端部の垂下がわずかしかみられないもの(459)をパレス壺 6 とした。また、山陰系口縁甕、甕脚台、高坏脚部は岐阜市遺跡調査会による報告(高木他1996)に対応させた。

- B) 土師器(古代) 名称は岐阜市遺跡調査会による報告(高木他1996)に従い、細分類は内堀・井川分類(内堀・井川1996)に従った。
- C) その他 須恵器、灰釉陶器、中世陶磁器、その他の遺物の名称はいずれも岐阜市遺跡調査会による報告(高木他1996)に従った。なお、須恵器のうち、古墳時代に属するものはその産地が特定できないので、坏蓋に限って既存の分類(野上1980)に従い、口縁端部と受部の形態を記した(第6図)。



第6図 須恵器坏蓋の端部形態

また、これらの遺構・遺物の帰属時期を明確にするために古墳時代初頭~中世後期までを約50年から100年を目安に26期に分けた(第1表)。²⁾

- 1) bとcの分類基準は1期の高杯の口縁部破片84点を対象とした計測結果による (第94図)。
- 2) それぞれの併行関係は赤塚他1990、齊藤1995を参考とした。また、渡辺1996の年代観は中村1981に従い、 山内1994の年代観は山内伸浩氏の御教示による。

参考文献

赤塚 次郎他 1990 『廻間遺跡』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

赤塚 次郎他 1994 『松河戸遺跡』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

赤塚 次郎 1996 「東海系土器から見た東日本の古墳時代」『第40回 埋蔵文化財研究集会 考古学と実年代

第 [分冊 発表要旨集] 埋蔵文化財研究会

内堀信雄・井川祥子 1996 「美濃における古代土師器煮沸具の様相」『第4回 東海考古学フォーラム 鍋と 甕 そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会

齋藤考正 1995「猿投、美濃、美濃須衛窯編年と他窯編年対比表」『須恵器集成図録第3巻 東日本編I』雄山 関出版株式会社

高木洋他 1996 『堀田城之内一岐阜市堀田土地区画整理事業に伴う発掘調査―』岐阜市遺跡調査会

中野晴久 1994 「赤羽・中野「生産地における編年について」」『全国シンポジウム「中世常滑焼をおって」資 料集』日本福祉大学知多半島総合研究所

中村浩 1981 『和泉陶邑窯の研究-須恵器生産の基礎的考察-』 柏書房

野上丈助 1980 『陶邑』 V 大阪府教育委員会

藤澤良祐 1986 「瀬戸大窯発掘調査報告書」『瀬戸市歴史民俗博物館 研究紀要』V

藤澤良祐 1994 「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要 第3号』三重県埋蔵文化財センター

藤澤良祐 1996 「中世瀬戸窯の動態」『古瀬戸をめぐる中世陶器の世界~その生産と流通~資料集』瀬戸市教育委員会 (財)瀬戸市埋蔵文化財センター

宮腰健司 1987 「尾張における欠山式土器とその前後」 『欠山式土器とその前後 研究・報告編』 愛知考古学 談話会

山内伸浩他 1994 『白土原14号窯発掘調査報告書』 多治見市教育委員会

渡辺博人 1984 『美濃須衛古窯跡群資料調查報告書』各務原市教育委員会

渡辺博人 1996 「美濃の後期古墳出土須恵器の様相―蓋坏の型式設定とその編年試案―」『美濃の考古学』創刊号 美濃の考古学刊行会



調査前風景(A区)





作業風景



平成8年1月 積雪状況

第1表 編年対応表

100	堀田城之内 遺跡	尾張 (宮腰1987)	濃尾平野 (赤塚1996)	陶邑窯 (中村1981)	猿投窯 (齊藤1995)	美濃須衛窯 (渡辺1984)	美濃の後期古墳 (渡辺1996)	美濃窯 (山内1994)	山茶碗 (藤澤1994)	常滑 (中野1994)	古瀬戸大窯 (藤澤1996、86)
100 -			山中式後期			-					
200 -	1期	欠山期	廻間I式								
		元屋敷(古)期	廻間II式								
300 ~	2期	元屋敷(中)期	廻間III式								
400 -	3期		松河戸Ⅰ式	lear a countrie	loor a 1 sec						
			松河戸 II 式 宇田式前期	第1段階 2 I 3	第1小期 2 3						
500 -	4期 a		宇田式中期	4 5 第1段階	5		1型式				
	b 5期		宇田式後期	3	第1小期		3 4				
600 -	6期		-0-0-0-0-0-0-0-0	II 4 5	3	後半	5 6	(1-1-1-1-1-1-1-1-			**********
	7期			6 第1段階 III 2	第1小期	III 前半 後半	7 8 9				
700 -	8期			第1段階 IV 2	第1小期	第1小期					
800 -	9期			3 4	IV 3	IV 2					
	10期			V 第1段階	第1小期 V a	第1小期			5000000		
900 -	11期				2	2		光ヶ丘 1			
	12期		(000000000		第1小期 VI 2			大原 2 虎渓山 1			
1000 -	14期				VI 2 3			丸石 2 明和 27			
	15期		8888888		第1型式			西坂 1	第3型式		*******
1100 -	15期				2				第3至氏 	1 a 型式	
1200 -	17期								5	2	古(草創期) 瀬 【期
	18期								6	5	戸II
1300 -	20期		1-1-1-1-1-1-1-1-1-1		141414141414141	***********	1-1-1-1-1-1-1-1-1-		8	6 a 6 b	前 期 IV I期
1	21期								9	7	中 II 期 III IV
1400 -	22期			9999999		0.0.0.0.0.0.0.0.0.0	141414141414141414		10	9	1期
	23期								11	10	後 期 IV (古) IV (新)
1500 -	25期									11	第1段階
1600 -										12	太 3 4
											5
1700											

遺構と遺物 第4章

第1節 下層面(下)の遺構と遺物

1 竪穴住居

SB1 (第7図) 検出時にプランが明確に確認できた住居である。ピットの埋土はいずれも褐色土で あるが、主柱穴といえるものは検出されなかった。

出土遺物の内訳は第6表の通りである。そのうち3点(1~3)を図示した。1は高坏A1aであ る。坏部内外面のミガキの長さが短く、その方向も規律がない。3は須恵器で器台の可能性が高い。 突帯が2本張り付けられ、突帯の上面にわずかに自然釉が降灰している。ヘラ状工具による線刻は非 常に細く、文様か絵画かは判断できない。本住居からは欠山・元屋敷期~古代の遺物が出土しており、 その年代は判断し難い。

SB2(第7図) 中央付近がSB1に切られているため、その全様は把握できない。なお、ピットの埋 土はいずれも褐色土である。

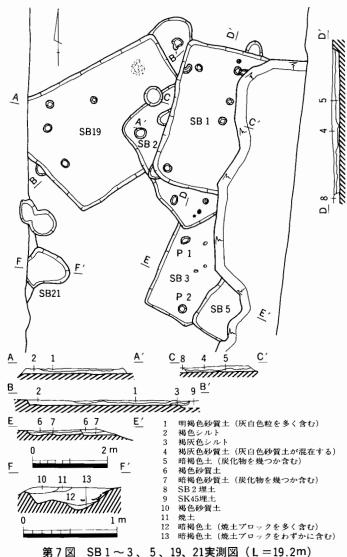
出土遺物の内訳は第6表の通りであ る。そのうち1点(4)を図示した。4 は外反する有段口縁を呈する。口縁端部 は尖がり気味で、端部に刻みが施される。 本住居からの出土遺物は少ないが、大半 は欠山期~元屋敷期にみられる遺物であ り、その時期は遺構の切り合い関係から 2期と推定される。

SB3 (第7図) ピットの埋土はいずれ も明褐色砂質土であり、深さはP1が50 cm、P2が40cmを測るが、その性格は不 明である。

出土遺物の内訳は第6表の通りであ る。そのうち3点(5~7)を図示した。 5は手づくね成形の鉢Bである。器壁は 厚く、口縁部は外反する。本住居からは 欠山・元屋敷期~古代の遺物が出土して おり、その時期は判断し難い。

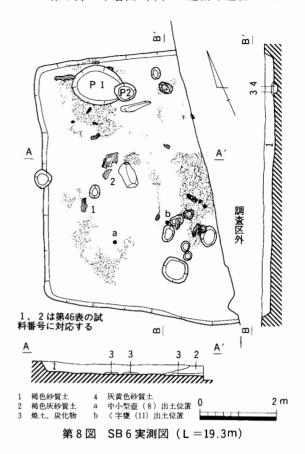
SB5 (第7図) わずかに南西角が検出 されたのみであるが、形態と壁の立ち上 がりから竪穴住居と判断した。

出土遺物の内訳は第6表の通りであ



る。しかし、いずれも細片であり、図示していない。 本住居からは元屋敷期~古墳時代後期の遺物が出土 しているが、その時期は判断し難い。

SB6(第8図) いわゆる焼失家屋である。埋土は 褐色砂質土の単層であり、ピットの埋土は大部分が 灰黄色砂質土である。ピットは幾つか検出されたが、 いずれも主柱穴といえるものはなく、P1・P2は 埋土上面からの掘り込みである。炭化物・炭化材は 床面直上において検出され、2cm程の堆積で住居全 域に広がる。炭化材の遺存状態は悪く、形が判別で きるものは少ない。そして、主に住居の中央から北 側にかけて散在し、南側には炭化物・炭化材ともに 希薄な分布を示す。なお、中央付近に長さ30~40cm の円礫1個が床面に据えられた状態で検出され、い ずれも表面に被熱による剝離がみられた。また、出 土遺物のうち、中小型壺(8)とく字甕(11)は炭 化物を掘削している最中に出土しており、本来は完 形であったものが潰れたような状態で出土した(図 版 3 一右中下)。



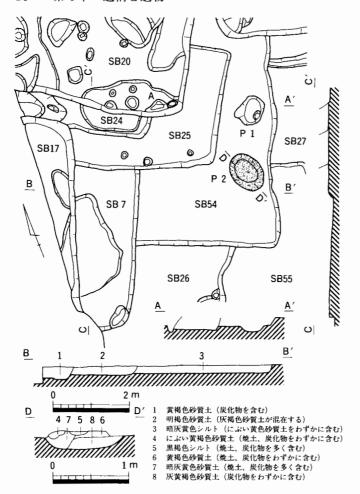
出土遺物の内訳は第6表の通りである。そのうち4点(8~11)を図示した。8は中小型壺1であり、底部が円盤状に突出する。11はく字甕4である。体部外面下方はハケ状工具による右上がりのケズリ、上方はハケによる右下がりの調整が施されている。本住居からは欠山期~元屋敷期にみられる遺物が出土しており、その時期は1期~2期と推定される。

SB7 (第9図) 床面において幅3.3mの方形土坑が検出された。その埋土は褐色系の砂質土であり、 焼土・炭化物等は検出されなかった。

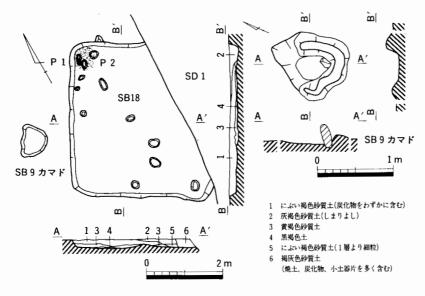
出土遺物の内訳は第6表の通りである。そのうち2点(12、13)を図示した。12は口縁部内面に瘤状突起を有し、口縁端部にハケによる連続圧痕が施される。今回の調査ではこのような形態の壺は1点のみの出土である。時期的には弥生時代~古代の遺物が出土しており、本住居の時期は判断し難い。SB8(第10図) 検出面から床面までの高さが約10cmであり、住居の上面は削平されている。なお、焼土・炭化物等は検出されなかった。

出土遺物の内訳は第6表の通りである。そのうち2点(14、15)を図示した。15は広口壺1である。 口縁部内面および口縁端部に横方向のミガキが施されるが、全体的に摩滅が激しく調整は判然としない。本住居には宇田型甕や須恵器が若干混入するが、元屋敷期にみられる遺物が大半であり、その時期は2期と推定される。

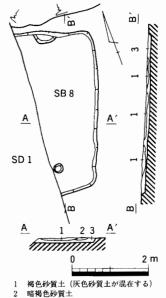
SB9(第11図) カマドのみ残存していたが、袖部の向きからカマドの北西方向に住居が存在していたと思われる。 焚口と想定される場所には炭化粒を多く含む暗褐色土が堆積し、燃焼部底面には焼土が薄く堆積していた。また、袖部は灰白色粘土で構築されていた。なお、支石は円礫で長さ30cmを測



第9回 SB7、17、25、54実測図(L=19.3cm)



第11図 SB9カマド (L=19.4m)、SB18 (L=19.2m) 実測図



暗褐色砂質土 灰褐色土 (他層より粘性が高い)

第10図 SB8実測図(L=19.3m)

る。

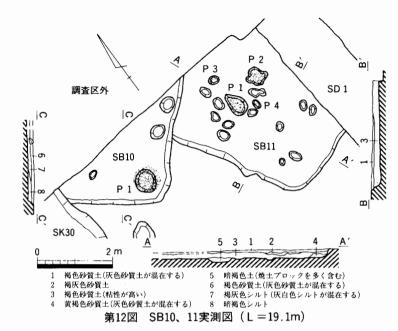
出土遺物の内訳は第6表の通 りである。そのうち2点(16、 17) を図示した。時期的にはカ マドから出土した須恵器(16) の年代から10期と推定される。 SB10(第12図) 床面が褐灰色 シルトないしは暗褐色シルトの 貼床である。ピットの埋土は褐 色砂質土であり、P1には黒褐 色土が混在し、炭化物が検出さ れた。また、出土遺物のうち、 18は南西壁中央付近で出土し、 その北西に円礫が据えられてい た。

出土遺物の内訳は第6表の通 りである。そのうち1点(18) を図示した。本住居からは元屋 敷期にみられる遺物が出土して

おり、その他の時代の遺物はみられない。そのため、その時期は2期と推定される。しかし、18のよ うに脚台が付属せず、丸底の土師器の甕が出土しており、今回の調査ではそのような甕がS字甕B類 に共伴する例がないため、速断は避けたい。

SB11(第12図) 比較的遺存状態がよく、床面もしっかりしている。住居中央付近の床面直上におい て焼土がP1・P2で確認され、さらに炭化物の集中がP3・P4で確認された。また、ピットは幾つか検出されたが、いずれも浅く柱穴といえるものはない。

出土遺物の内訳は第6表の通りである。そのうち5点(19~23)を図示した。19は中小型壺2であり、頸部は厚手で、体部に張りがない。20は鉢であり、口縁部が厚手で端部を上方へつまみ上げている。また、口径と体部最大径がほぼ同じである。23は高坏脚部Aであり、脚部外面上

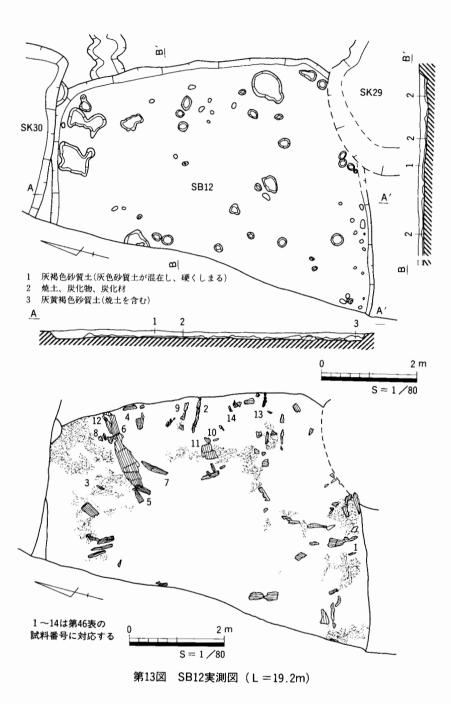


方には赤彩が施されている。今回の調査で高坏の脚部に赤彩が確認できるものはこの1点のみである。 本住居にはわずかに須恵器と山茶碗が混入しているが、大半は欠山期~元屋敷期にみられる遺物であり、その時期は1期~2期と推定される。

SB12(第13、14図) いわゆる焼失家屋である。埋土は灰褐色砂質土の単層であり、焼土・炭化物・炭化材はいずれも床面直上に堆積している。床面においてピットは幾つか検出されたが、いずれも深さ5cm~10cmと浅く、柱穴というより落ち込みか住居構築の際の掘り方と想定される。炭化材は中央から放射状に倒れたように検出されたものが幾つかある。その形が判然とするものはわずかだが、中央付近からの検出は無く、いずれも壁から内側に2mの範囲内からの出土である。また、焼土も炭化材と同様に壁周辺に分布がみられ、中央付近にはない。一方、炭・炭化物は床面全域に広がっていた。遺物は灰褐色砂質土の中ほどから出土しはじめ、大半が焼土・炭化物の直上に位置する。そして、焼土・炭化物より下位レベルからは出土しなかった。また、遺物分布は東側に偏り、中央、北壁、南壁付近は希薄である。しかし、遺物の接合関係は第14図に示したように出土地点が離れている破片が接合する個体も少なくなく、同じ焼失家屋であるSB6の遺物の出土状況と異なっている。

出土遺物の内訳は第6~7表の通りである。そのうち23点(24~46)を図示した。24は受口甕2 b である。頸部下方~体部上方外面にかけて横線文が施され、横線文を切るように列点文が施されている。25は受口甕1である。頸部は比較的薄く、口縁端部は上方につまみ上げられる。また、口縁部外面に刻み、体部外面上方に横線文と列点文という文様構成は27と同じである。26はく字甕3である。今回の調査で明確にく字甕3と確認できる資料は非常に少ない。27、28は鉢A1である。27は口縁端部を上方につまみ上げ、その外傾面に沈線を2条施している。また、口縁部外面に刻み、体部上方に横線文と列点文を加え、さらに口縁部内面にミガキを加えて精巧に製作されている。28は体部上方~口縁部内外面にかけてハケ状工具で丁寧に横ナデが施され、口縁端部は明瞭に面取りされている。29は広口壺1であり、口縁端部に3条の沈線が施され、頸部は中程で屈曲している。31は甕の脚台Aであり、台部外面も羽状のハケを施している。35はパレス壺の体部破片と思われ、多状沈線文の上下に竹管文が施されている。36は土製品の玉であり、用途不明である。37は大型の高坏A1aである。坏部

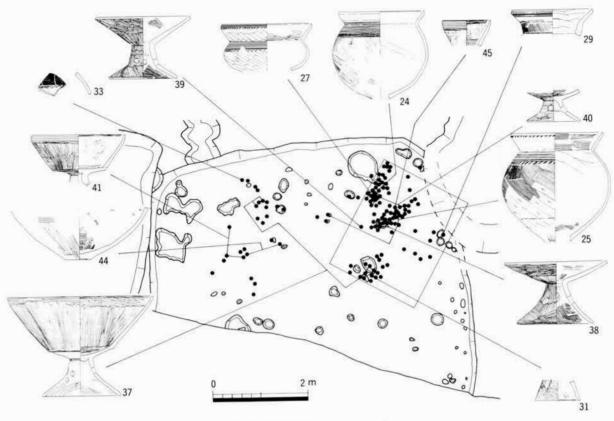
内外面の縦ミガキは口縁部 から坏部下方の屈曲部まで 上下の切り合いが認められ ない。また、口縁端部は平 坦面を作り出し、丁寧にミ ガキが施されている。坏部 の角度は52°、口稜比は43.8 である。また、脚部の穿孔 は3孔2組6穿孔であり、 今回の調査における住居出 土の遺物のうち、この形態 の穿孔は他にSB39出土の 高坏の脚部破片があるのみ である。38、39、46はいず れも器台A2である。坏部 の立ち上がりは38が弱く、 39は強い。また、脚部形態 は38が滑らかに外反し、39、 46は中程で屈曲する。口縁 端部および脚端部はいずれ も面取りし、穿孔は1孔3 組3穿孔と同じである。40 は高坏脚部Bであり、坏部 は半球形を呈する可能性が 高い。41は高坏A1 d であ る。口縁端部は若干内彎し、 外面に3条の沈線が施され



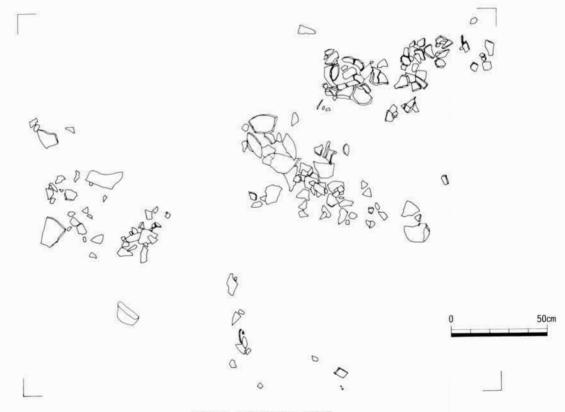
る。坏部の角度は60°、口稜比は55.3である。43は高坏B2であり、熱による剝離が激しい。44は壺の底部破片である。体部外面に1単位が長いミガキが施され、さらに底部外面にも全面にミガキが認められる。

本住居には須恵器、灰釉陶器、山茶碗、土師器皿などがわずかに混入するが、大半は欠山期~元屋敷期にみられる遺物である。年代的には、その指標としているS字甕の口縁部破片がなく、体部破片が1点確認できただけであるために判断し難い。しかし、高坏(37)の穿孔形態が今回の調査でSB12とSB39の2例(住居出土品のみ)のみであり、25や27、39のように古い様相を残した遺物も出土していることから本住居の時期を1期、ないしはそれ以前と考えたい。

SB14 (第15図) 正方形を呈し、床面は暗褐色シルトの貼床である。ピットの埋土はいずれも褐色砂質土であり、深さは10cm前後で浅い。なお、P1のみ柱痕が確認されたが、本住居に伴うか否かは不



遺物分布図(遺物S=1/8)



第14図 SB12遺物出土状況

明である。

出土遺物の内訳は第7表の通りである。そのうち4点(47~50)を図示した。48は中小型壺1である。体部に比べ、底部の器壁が非常に厚い。49は底部外面の木葉痕が体部外面まで付着している。本住居には須恵器や灰釉陶器が若干混入しているが、大半は欠山期~元屋敷期にみられる遺物であり、その時期は2期と推定される。

SB15 (第15図) 床面は暗褐色シルトの貼床であり、硬くしまる。ピットの埋土はいずれも明褐色砂質土であり、深さは10cm以下と浅く、主柱穴といえるものは検出されなかった。

出土遺物の内訳は第7表の通りである。そのうち4 第15図 SB14、15実測図 (L=19.2m) 点 (51~54) を図示した。51は内面の指圧列痕が明瞭に残る。本住居には古墳時代中期の遺物がみられるが、大半は欠山期~元屋敷期にみられる遺物であり、その時期は1期~2期と推定される。

SB16 (第16図) 全体に遺存状況がよく、検出面から床面まで約30cmの深さがある。床面は褐色シルトの貼床であり、東角において炭化物が1cm程の薄い堆積で確認された。ピットはいずれも浅く柱穴の可能性は低い。

出土遺物の内訳は第7表の通りである。そのうち9点(57~63、660、684)を図示した。660は半分以上欠損しているが、土製の紡錘車と思われる。本住居には頸部外反甕や須恵器などの古代の遺物がわずかに混入しているが、床面と焼土から欠山期~元屋敷期にみられる遺物が出土しており、その時期は1期~2期と推定される。

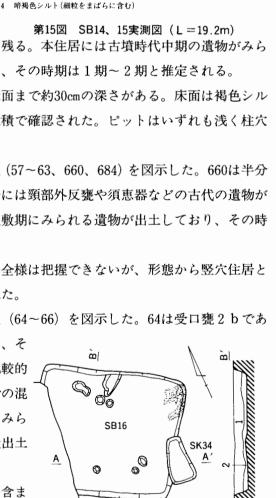
SB17(第9図) 大半が調査区外に位置するため、その全様は把握できないが、形態から竪穴住居と判断した。なお、埋土中からわずかに炭化物が検出された。

出土遺物の内訳は第7表の通りである。そのうち3点(64~66)を図示した。64は受口甕2bであ

り、体部内面中程に粘土輪積み痕が明瞭に残る。そして、その粘土輪積み痕より下方では直径5 mm以下の混和材が比較的多くみられるのに対し、上方では少なく、同一個体内での混和材の包含量が違う。本住居からは欠山期~元屋敷期にみられる遺物が多く出土しているが、須恵器や山茶碗も少量出土しており、その時期は判断し難い。

SB18 (第11図) P1・P2埋土中には焼土粒が幾つか含まれていた。また、住居北寄りに焼土と炭化物および小土器片を多く含む層の広がりがみられたため、付近にカマドか炉が存在していたと思われる。ピットの埋土は褐色砂質土ないしは黄色砂質土であり、主柱穴は確認できなかった。

出土遺物の内訳は第7表の通りである。そのうち3点(55、



m

ωĺ

2 m

Α′

0

SB14

0

ωi

2

褐色砂質土(灰白色砂質土がわずかに混在する)

明褐色砂質土(黄色砂質土が混在する)

SB15

80

SK29

第16図 SB16実測図 (L=19.2m)

褐灰色砂質土(灰色砂質土が混在する)

2 褐色シルト

œ۱

2 m

56、659)を図示した。659は滑石製の紡錘車であり、今回の調査で住居から出土した石製の紡錘車は1点のみである。本住居からは欠山・元屋敷期~古代・中世の遺物が出土しており、その時期は判断し難い。

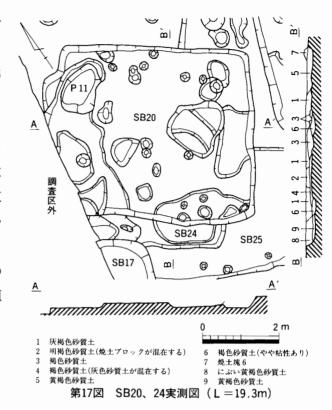
SB19 (第7図) 床面は褐色シルトの貼床である。ピットは4基検出されたが、いずれも柱穴といえるものはない。北東壁中央付近の床面直上において焼土粒と炭化物が検出されたことから炉ないしはカマドが存在した可能性がある。

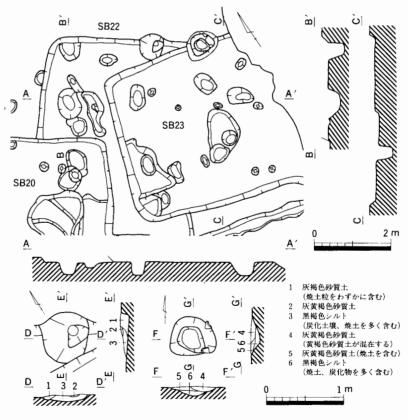
出土遺物の内訳は第7表の通りである。その うち2点(67、68)を図示した。本住居には須 恵器がわずかに混入しているが、大半は欠山・ 元屋敷期にみられる遺物であり、その時期は2 期と推定される。

SB20(第17図) 埋土がいずれも砂質土であり、 床面の検出が困難であった。中 央付近の埋土には焼土がブロッ ク状に混在していたが、これは 焼土塊6と同様に他の住居に伴 うものである。西側には深さ10 cm程の落ち込みが検出された が、その性格は不明である。ま た、P11は埋土が3層に分かれ、 上層が灰黄褐色砂質土、中層が 灰黄褐色シルト、下層が黒褐色

出土遺物の内訳は第7~8表の通りである。そのうち5点(69~73)を図示した。時期的には貝田町期の遺物(69)~9世紀前半の遺物まで多岐に渡り、特にS字甕A、S字甕B、頸部外反甕の出土が目立つ。しかし、ピット出土の遺物である須恵器坏身B(73)から判断して、本住居の時期は10期と推定

シルトである。





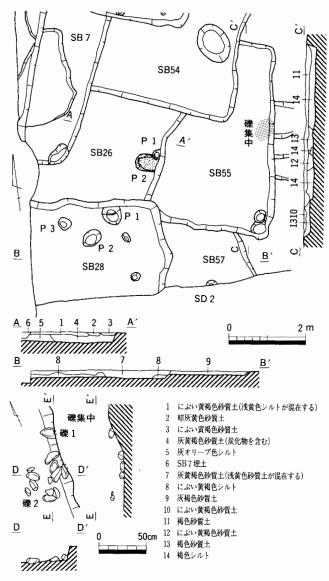
第18図 SB22、23実測図

される。

SB21 (第7図) 20cm程掘り込まれた土坑に、焼土ブロックがまとまって検出され、その上面には焼土が7cm程の厚さで堆積していた。そして、大部分がSD1に切られているため判然としないが、土坑の南北方向に褐色砂質土の広がりが検出されたためにカマドを東壁に有する住居と判断した。なお、カマドの東側の立ち上がり付近には須恵器蓋(74)が内面を上にして検出された。

出土遺物の内訳は第8表の通りである。 そのうち10点(74~83)を図示した。74~77 は須恵器であり、いずれも9世紀前半に比 定される。78は頸部外反甕B3類である。 平底で底部内面に渦巻き状の指ナデ痕が認 められる。79~83は土錘である。いずれも 端部に面を有し、最大幅が体部中程にある 形態である。本住居の時期はカマドから出 土した須恵器の年代から10期と推定され る。

SB22 (第18図) 埋土はしまりのある明褐色土の単層である。また、ピットの埋土はいずれも褐色砂質土である。北壁中央付近で検出された焼土には、袖部に該当する構



第19図 SB26、28、55、57実測図 (L=19.2cm)

造物がないことから炉と判断した。ここでは、床面上に焼土と炭化物の堆積がみられたが、壁および 床面の硬化はなかった。

出土遺物の内訳は第8表の通りである。しかしいずれも細片であり、図示していない。時期的には 欠山・元屋敷期~7世紀の遺物が出土しているが、炉から頸部外反甕Aが出土しており、本住居の年 代は5~7期のいずれかと推定される。

SB23 (第18図) 埋土は褐色砂質土の単層であり、東側では暗褐色砂質土と灰褐色砂質土が混在していた。壁および床面の依存状態は良好であった。ピットの埋土はいずれも褐色砂質土である。炉は北壁中央付近で検出され、下層には焼土と炭化物がまとまって検出された。

出土遺物の内訳は第8表の通りである。そのうち3点(84~86)を図示した。時期的には元屋敷期~8世紀初頭の遺物が出土しており、元屋敷期にみられる遺物が最も多い。しかし、炉から須恵器甕の体部破片が幾つか出土しており、それらと共伴する須恵器鉢(85)の時期から、本住居の時期は7期と推定される。

SB24 (第17図) 大半がSB20に切られているためその全様は把握できないが、形態と壁の立ち上がり

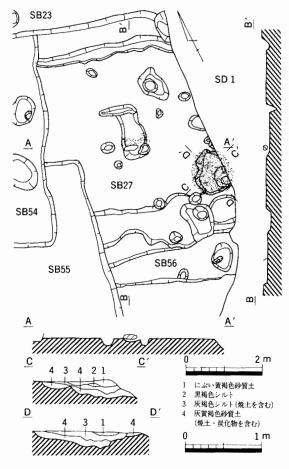
から竪穴住居と判断した。

出土遺物の内訳は第8表の通りである。そのうち 1点(87)のみ図示した。出土遺物数が少なく、ま た、時期も多岐に渡るため、本住居の時期は判断し 難い。

SB25(第9図) 埋土は褐色砂質土である。幅が3.2 mで、柱穴も検出できなかったため方形土坑の可能性もあるが、壁の立ち上がりがしっかりしているため、竪穴住居とした。

出土遺物の内訳は第8表の通りである。しかし、いずれも細片であり、図示していない。時期的には 欠山・元屋敷期~古代の遺物が出土しており、本住 居の年代は判断し難い。

SB26 (第19図) 東面以外はすべて他の竪穴住居に切られているため、その全様は把握できない。床面は灰オリーブ色シルトの貼床で、中央付近から東壁にかけて炭化物を含む土坑状のわずかな落ち込みが確認された。そして、P2上層には明赤褐色の焼土および炭化物が堆積していたため、炉であった可能性が高い。なお、P2の南側にあるP1の深さは37cmで、炭化物が混在していた。



第20図 SB27、56実測図 (L=19.3m)

出土遺物の内訳は第8表の通りである。そのうち2点(88、89)を図示した。88は柳ヶ坪型壺の体部破片であり、胎土中に赤褐色粒を多く含む。89は高坏A2cであり、口縁部内面の沈線幅が5.4cmあり、今回の調査で出土した高坏の中では、沈線が多く、その幅が広いものの一つである。本住居には須恵器や灰釉陶器が若干混入しているものの、欠山期~元屋敷期にみられる遺物が大半で、S字甕はB類が1点しか出土していないが、とりあえずその時期を2期としたい。

SB27 (第20図) 埋土には褐色砂質土に褐灰色シルトが混在する。床面中央には長さ37cmの円礫が縦位に据えられており、円礫の両側には径約30cm、深さ約20cmのピットがある。これらのピットの埋土はいずれも粘性のある褐色砂質土であるが、焼土、炭化物等はみられない。円礫の北側には約85cmの範囲で焼土が広がり、焼土直下には深さ約10cmの浅い落ち込みが検出された。また、住居南東角においても焼土が検出されている。検出面で楕円状に焼土の広がりが確認され、特に灰黄褐色砂質土中にまとまった炭化物が含まれていた。さらに住居南北両側において溝状の掘り込みが検出された。北側は幅約40cm、深さ約10cm、南側は幅約1 m、深さ約15cmを測る。埋土はいずれも褐色系の砂質土である。

出土遺物の内訳は第8表の通りである。そのうち3点(90~92)を図示した。時期的には欠山期~元屋敷期にみられる遺物と8~9世紀の遺物が出土している。前者は主に中央の炉と溝状の掘り込みから出土しており、後者は主に南東角における焼土から出土している。これらから、SB27として検出し

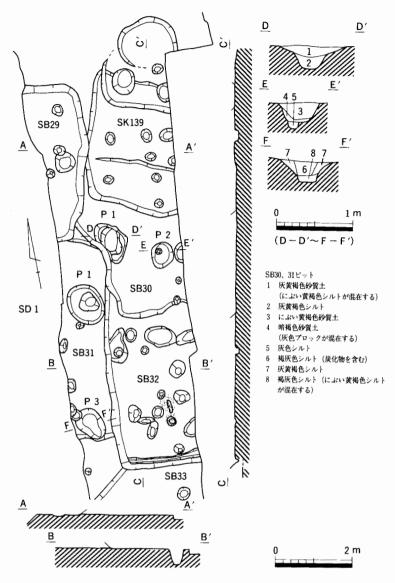
たプランは欠山期~元屋敷期のものであり、S字甕はB類が1点しか出土していないが、とりあえずその時期を2期としたい。

SB28 (第19図) 床面はにぶい黄褐色シルトの貼床で、中央付近は硬化が顕著であった。ピットの埋土はいずれも褐色砂質土であり、P2とP3はわずかに炭化物を含む。SD1を挟んで位置するSB51と形態的に連続性があり、貼床の色調と埋土が類似していることから、あるいはSB28とSB51は同一の住居かもしれない。出土遺物の内訳は第8表の通りである。そのうち3点(93~95)を図示した。93は頸部が全体的に外反し、口縁部が若干肥厚し、端部に明確な面を有する。受口甕2cとしたが、今回の調査では他に例がなく異系統

の甕と認識すべきであろう。本住居

からは欠山期~元屋敷期にみられる 遺物が出土しており、S字甕はB類

が1点しか出土していないが、とり あえずその時期を2期としたい。



第21図 SB29~32、SK139実測図 (L=19.1m)

SB29 (第21図) 西側半分をSD1 に切られる。埋土はにぶい黄褐色砂質土であり、ピットはシルト質の土が混在する。

出土遺物の内訳は第9表の通りである。そのうち1点(96)を図示した。本住居の出土遺物点数は少なく、また欠山・元屋敷期にみられる遺物は多いが、須恵器や山茶碗もわずかに混入しており、本住居の時期は判断し難い。

SB30 (第21図) 埋土はにぶい黄褐色砂質土で、床面は灰褐色シルトの貼床である。 P 1 南側には若干の炭化土壌が検出されたが、焼土、炉等はみられない。

出土遺物の内訳は第9表の通りである。しかし、いずれも細片であり図示していない。本住居からは元屋敷期~古墳時代後期の遺物が出土しており、また、ピット出土遺物も同様に時期幅が広いため、その時期は判断できない。

SB31(第21図) 東側をSB30·SB32に、西側をSD1に切られているため、その全様は把握できない。 埋土は灰黄褐色砂質土の単層である。なお、P1・P3は規模からみて柱穴の可能性が高い。

出土遺物の内訳は第9表の通りである。そのうち1点(97)を図示した。本住居からは欠山・元屋

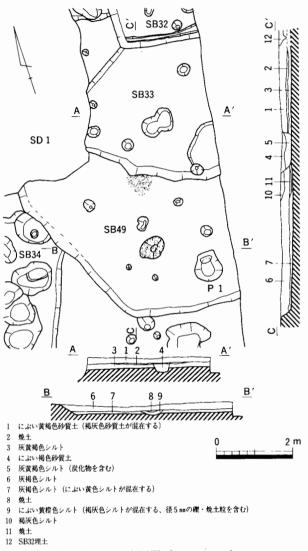
敷期~古代の遺物が出土しているが、欠山・元屋 敷期にみられる遺物が大半である。また、P1よ り当該期の高坏の破片が出土しており、本住居の 時期は1期~2期と推定される。

SB32 (第21図) 埋土は灰褐色砂質土の単層である。床面中央からやや南寄りに長さ30cmの円礫が1個確認され、円礫付近には焼土が薄く堆積していた。また、礫の南北両側には深さ約10cmのピットが検出された。なお、住居南壁沿いに幅10~20cm、深さ10cmの溝が検出されたが、周溝かSB33の立ち上がりであるかは判断できなかった。

出土遺物の内訳は第9表の通りである。そのうち2点(98、99)を図示した。本住居には宇田型甕や須恵器がわずかに混入しているが、大半は欠山期~元屋敷期にみられる遺物が出土しており、ピット出土の遺物はすべて欠山期~元屋敷期にみられる形態である。そのため、本住居の時期は1期~2期と推定される。

SB33 (第22図) 床面ほぼ全域に渡り、2 cm程の 堆積で焼土が広がる。床面は灰黄褐色シルトの貼 床で、全体に硬化が顕著であった。ピットの埋土 はいずれも黄褐色系のシルトか砂質土である。

出土遺物の内訳は第9表の通りである。そのう



第22図 SB33、49実測図(L=19.1m)

ち2点(100、101)を図示した。100は高坏A1aである。坏部角度は62°、口稜比は57.1である。101はく字甕1の小型品である。口縁端部に刻み、体部外面上方に列点文が施される。体部外面は全面に煤が付着し、内面はブロック状に付着する。なお、脚台が付属する可能性が高い。本住居からは欠山期~元屋敷期にみられる遺物が出土しており、その時期は遺構の切り合い関係から1期~2期と推定される。

SB34 (第23図) 灰黄褐色砂質土が埋土であるが、SB35埋土と比べるとやや堅い印象を受け、また住居北東端の地山が軟弱であることから、あるいは貼床が存在したかもしれない。中央から北側には焼土粒が散在しており、P4埋土中にも焼土が確認できた。P6・P10・P12・P13は南北方向に並んでおり、深さ30cm~50cmを測る。P13は上層がにぶい黄褐色砂質土で、下層が暗褐色シルトである。その他のピットは上層がにぶい黄褐色砂質土、下層が灰黄褐色砂質土である。しかし、それらの性格は不明である。

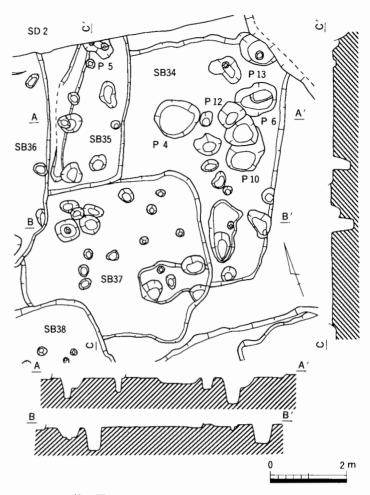
出土遺物の内訳は第9表の通りである。そのうち7点(102~108)を図示した。時期的には欠山・元屋敷期~8世紀までの遺物が出土している。同様にピット出土の遺物も宇田期~8世紀までの遺物が出土していることから、本住居の時期は判断し難い。

SB35 (第23図) 北側がSD1に、西側がSB36に切られているため、その全様は把握できない。住居の埋土はにぶい黄褐色砂質土であり、ピットの埋土はいずれも褐色系の砂質土である。南北方向に幅約50cm、深さ5cm~10cmの浅い溝が柱穴に接して走っていることから、間仕切りの溝かもしれない。

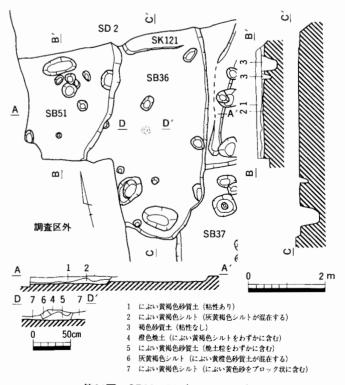
出土遺物の内訳は第9表の通りである。そのうち1点(109)を図示した。本住居からは元屋敷期~8世紀の遺物が出土している。同様にピット出土の遺物も多時期に渡ることから、本住居の時期は判断し難い。

SB36 (第24図) にぶい黄褐色シルトの貼床を有する住居である。中央付近に炉と考えられる径約40cmのピットが検出され、ピット上面には厚さ 2 cm~7 cmの焼土が堆積していた。なお、ピットの埋土はいずれも褐色系の砂質土である。

出土遺物の内訳は第9表の通りであ る。そのうち8点(110~117)を図示 した。110、111は同一個体と思われる。 体部内面下方には炭化物がブロック状 に付着している。113はく字甕1であ る。口縁端部に刻み、体部外面に列点 文が施されるが、その他の調整、文様 は器面の摩滅が激しく判然としない。 114はパレス壺2である。3本の棒状浮 文が欠損した痕跡が認められる。116は 口縁部が若干受口状を呈しているため 受口甕3aとした。他の甕と比べて口 径が小さい。器面は被熱のためか剝離 が激しく、調整はほとんどわからない。 なお、同一個体と思われる破片から想 定して116は脚台を有する可能性が高



第23図 SB34、35、37実測図 (L=19.1m)



第24図 SB36、51 (L=19.1m)

い。117は口縁部が大きく外折する鉢A1である。体部外面に 横線文と列点文を有するが、口縁部に刻みは確認できない。 本住居の出土遺物には高坏脚部Cや須恵器が若干みられる が、大半は元屋敷期に属し、その時期は2期と推定される。 SB37(第23図) 埋土はにぶい黄褐色砂質土が主で、灰黄褐 色砂質土が混在し、焼土、炭化物はみられない。ピットの埋 土はいずれも褐色系の砂質土である。東面より中央にかけて 浅い溝状の遺構が検出されたが、その性格は不明である。

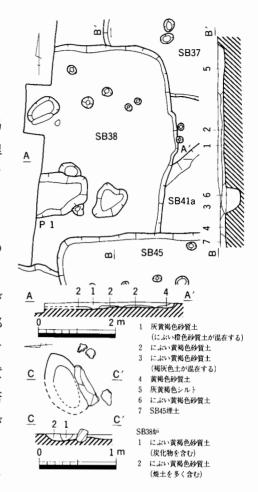
出土遺物の内訳は第9表の通りである。しかし、いずれも 細片であるため図示していない。時期的には欠山期~古代の 遺物が出土しており、本住居の時期は判断し難い。

SB38 (第25図) 埋土は上下 2 層に分かれるものの砂質土が主体であり、北側においてシルトがみられる。ピットは大部分が褐色砂質土である。 P 1 検出面には土師器壺の胴部破片が外面を上にして出土し、遺物から西側約70㎝の範囲で灰黄褐色砂礫が検出された(図版 7 一右中上)。また、中央から若干北側に寄る位置で炉が検出された。長さ56㎝の角礫 1 個が北北西の方位に縦位に据えられており、礫北側には炭化物、焼土を含む径約85㎝の土坑が位置する。角礫の上面は被熱しているが、角礫南側の偏平な円礫は被熱が認められない。

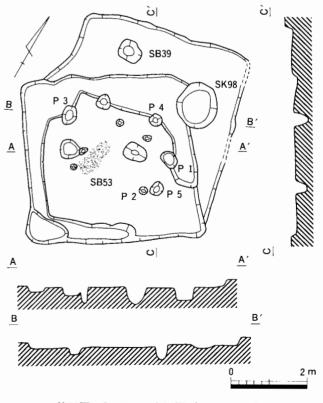
出土遺物の内訳は第9表の通りである。そのうち2点(118、119)を図示した。118は口縁部内面および口縁端部にハケによる羽状文が施されている。本住居からは欠山・元屋敷期~古代の遺物が出土しているが、炉より欠山期~元屋敷期にみられる台付甕の脚台破片が数点出土しており、またS字甕はB類が1点しか出土していないが、とりあえずその時期を2期としたい。

SB39 (第26図) D7区の住居を完掘した後 検出された住居である。大半がSB53に切られ ており全様が把握できないが、おそらく正方 形のプランを呈すると思われる。埋土は褐色 シルトが主で、にぶい黄褐色砂質土をわずか に含んでいる。ピットは1基確認されたが、 その性格は不明である。

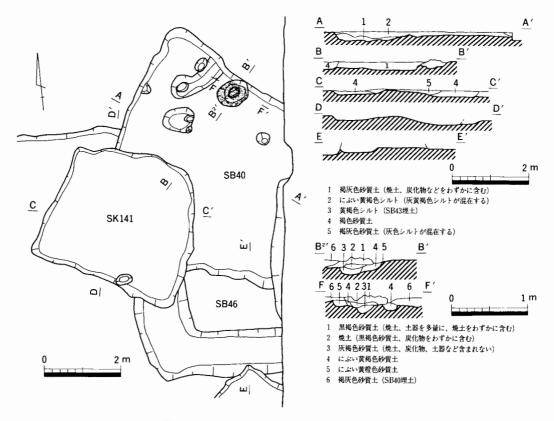
出土遺物の内訳は第9~10表の通りであ



第25図 SB38実測図 (L=19.1m)



第26図 SB39、53実測図 (L=19.5m)



第27図 SB40、SK141実測図(L=19.2m)

る。そのうち2点(120、121)を図示した。121は完形に近い高坏A1bであり、脚部形態はAである。 坏部は深く、内外面のミガキの単位は非常に細かい。なお、坏部外面の稜から口縁先端への角度は54°、 口稜比は36.8である。その他、図示できない破片として3孔2組6穿孔の高坏の脚部破片が出土して いる。時期的には欠山期~元屋敷期にみられる遺物が出土しているが、本住居を切るSB53が1期の遺 構と推定されるため、本住居の時期も1期、あるいはそれ以前と推定される。

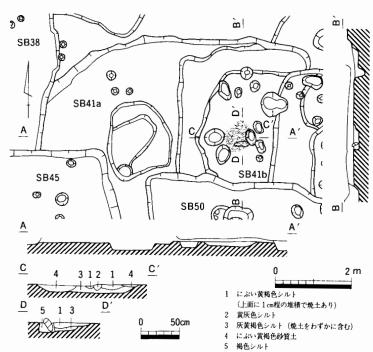
SB40 (第27図) 西側半分に10cm程の掘り方がみられ、その部分に黄褐色系のシルトを充塡して床面を水平にしている。北東の壁際において検出された炉の中央には長軸67cm、短軸45cmの掘り込みがみられた。また、その底面に頸部外反甕 (122) が潰れたような状態で出土した。そして、炉内の焼土や灰を搔き出したと推定される土 (4・5層) が約1.8mの範囲で検出された。

出土遺物の内訳は第10表の通りである。そのうち6点 (122~127) を図示した。122は頸部外反甕A 1 である。体部内面上方には斜めハケ、下方は単位が不明だが縦方向のケズリが施されている。126は 甑である。底部に穿孔が2ヶ所みられる。本住居からは欠山・元屋敷期~古代の遺物が出土しているが、122など頸部外反甕の破片が炉から出土していることから、本住居の時期は5~7期のいずれかと 推定される。

SB41(第28図) 埋土はにぶい黄色砂質土を含む灰黄褐色砂質土である。埋土掘削中に住居のプランに沿わない溝状の掘り込みが検出されたため、前者をSB41a、後者をSB41bとした。しかし、SB41aは形態が不確定であり、しかも床面が掘削時に把握できなかったため、浅い落ち込みの可能性が高い。SB41bの溝状の掘り込みの埋土はにぶい黄褐色シルトである。北西角のみ検出され、南側はSB50に切られる。住居中央からやや西寄りの位置で炉が検出された。長さ36cmの円礫1個を東西方向に縦

位に据えており、円礫の東西方向には 浅いピットを有する。焼土は礫を中心 に約80cmの範囲で厚さ1cm程堆積して いた。なお、出土遺物のうち、128は SB41bで検出された溝状の掘り込み の外側に接して、灰黄褐色砂質土中よ り頸部を上にして検出された。

出土遺物の内訳は第10表の通りである。そのうち1点(128)を図示した。128はパレス壺1である。現存している部分には全面に赤彩が施され、口縁端部に3本の棒状浮文が3方向に付けられている。なお、出土遺物の大半はSB41aからの出土であり、SB41bの溝状の掘り込みからはほとんど出土し



第28図 SB41実測図 (L=19.2m、炉L=19.1m)

ていない。SB41aにはわずかに須恵器が混入するが、大半は元屋敷期にみられる遺物であり、とりあえず2期の遺構と考えたい。SB41bは遺構の切り合い関係から考えると1期、あるいはそれ以前となるが、遺物がほとんど出土していないため判断し難い。

SB43(第27図) 遺構の西端がわずかに検出されたのみで、周囲の状況から竪穴住居と判断した。また、大半が調査区外に位置しているため、確認するに留った。

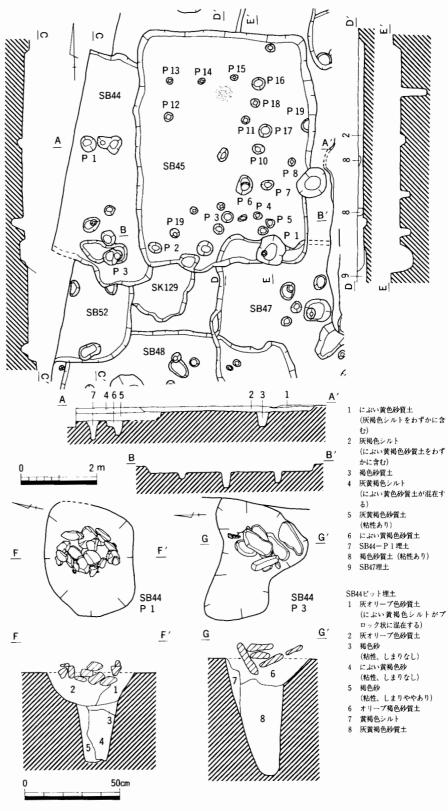
SB44 (第29図) 東側をSB45に切られ、西側半分は調査区外に位置するため、その全様は把握できない。しかし、本住居の出土遺物とピットの様相は他の住居にみられないものがあり、本遺跡内では特異といえる。 P1、P3は検出時において拳大~人頭大の円礫が集中してみられ、その埋土は砂質土が主体である。ピット上部における擂鉢状の凹みは抜き取り跡とも捉らえられ、ピットの深さは検出面からP1が58cm、P3が62cmを測り、他の住居のピットよりも深い。また、出土遺物のうち661は、中央からやや北寄りの床面より若干高い位置で出土し、欠損した先端を上にしてささったような状態で検出された。なお、埋土の一部には炭化土壌もみられた。

出土遺物の内訳は第10表の通りである。そのうち1点(661)を図示した。661は用途不明の石製品であり、とりあえず棒状石製品とした。本住居からは欠山期~元屋敷期にみられる遺物が出土しており、その時期は遺構の切り合い関係から1期~2期と推定される。

SB45 (第29図) 埋土は基本的に灰褐色シルトで、床面中央やや北側で若干の焼土が検出された。床面においてピットは幾つか検出され、そのうち主柱穴は $P3 \cdot P5 \cdot P7 \cdot P12 \sim P17 \cdot P19$ の10本で、 $2 \parallel (3 \parallel) \times 3 \parallel$ の構成が想定し得る。ただし、 $P4 \cdot P10 \cdot P18$ も深さ30cm ~ 40 cm を測り、しかも直線状に並ぶため住居の改築も考えられる。P1は、その位置と規模から貯蔵穴の可能性が高い。なお、遺物は住居の南東付近より多く出土した。

出土遺物の内訳は第10表の通りである。そのうち 4 点 (129~132) を図示した。129は口縁部外面に 擬凹線が施してあるためパレス壺とした。口縁部内面には羽状文らしき文様が確認できるが、全体的 に器面の摩滅が激しいため判然としない。また、赤彩が施されていたかない。本能できない。本値をは須恵と山茶碗が、大半は欠山期~元屋敷り、遺構の切り合い関係といる。 は遺物全体の様相から、される。

SB46 (第30図) SB40, SK141を完掘した後に検 出された住居である。埋 土はにぶい黄色砂をわず かに含むにぶい黄褐色砂 質土であり、住居北側に はその下に灰色シルトを ブロック状に含む灰黄褐 色砂質土がみられた。床 面には溝状の掘り込みが 巡っており、幅1.1m ~1.5m、深さ10cm~20cm を測る。その埋土は上層 がにぶい黄褐色砂質土、 下層がにぶい黄褐色シル ト、ないしは灰オリーブ 色砂である。北側の溝状 の掘り込みには幅1.7m 程の浅い土坑状の落ち込 みと深さ30cm~40cmの ピットが6基検出された が、その性格は不明であ



第29図 SB44、45、52実測図 (L=19.1m)

る。床面中央から若干西側で、東西にピットを有する炉が検出された。ピットの間には長さ30cmの角礫1個が据えられていたが、礫に被熱面はみられなかった。ピットの深さは西側が27.8cm、東側が17.5cmで、その埋土はいずれも焼土を含まず、砂質土の単層であった。また、礫北側には径80cm程の土坑

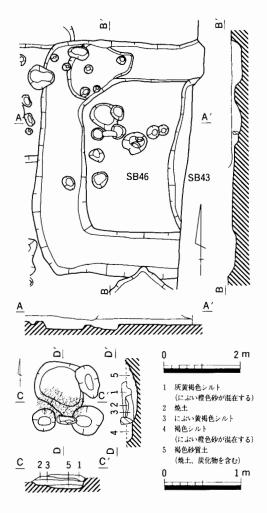
が検出され、その埋土はピットと同一であった。焼土は 礫の北側において70cmほどの範囲に広がっていたが、床 面および土坑の壁に焼成による固化は認められなかっ た。

出土遺物の内訳は第10表の通りである。そのうち1点(133)を図示した。本住居からは欠山期~元屋敷期にみられる遺物が出土しており、その時期は遺構の切り合い関係から1期~2期と推定される。

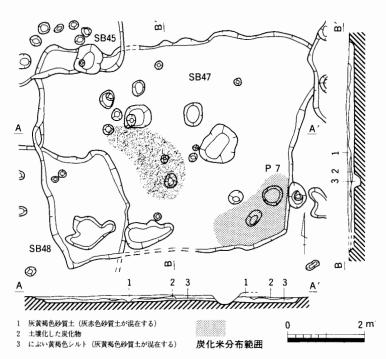
SB47(第31図) 床面中央において厚さ0.5~1 cmの土壌 化した炭化物が広い範囲で検出された。また、南東角付近において貼床直上で炭化米がまばらに検出された。炭化米は15cm程の堆積で、2 m程の範囲内に分布する。炭化米を取り除くと2 つのピットが検出され、P 7 底部には炭化米がかたまって検出された。なお、貼床直上および掘り方でピットは幾つか検出できたが、明らかに柱穴といえるものは無く、それらの性格は不明である。

出土遺物の内訳は第10表の通りである。そのうち14点(134~147)を図示した。145は鉢B1である。底部は上げ底で、底部周縁は逆三角形を呈する。134はく字甕4であり、体部外面のハケが一部羽状に施されてる。135は受口甕2bである。口縁部の長軸が13.9cm、短軸が13.4cm

を測り、若干歪んでいる。136~138は 手焙り形土器であり、同一個体の可能 性が高い。136は覆端部が上下に拡張 し、列点文と刻みが施され、列点文の 上下は凹線状となっている。また、覆 部外面には波線文と羽状文の組合わせ を少なくとも2段施されている。なお、 文様はいずれもクシにより施されてい る。137は体部中程に一条の突帯を貼り 付け、突帯と口縁部の間にヘラで斜格 子文が描かれている。口縁部形態はく の字状であり、口縁端部上面を覆部と の接合面としている。138は底部であ り、上げ底気味である。なお、142は 136~138と同一個体か否か判別できな い。外面の斜格子文の幅が137より太



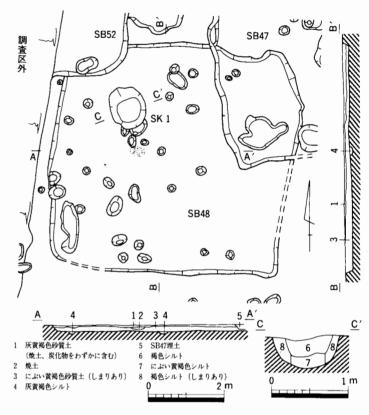
第30図 SB46、43実測図 (L=19.2m)



第31図 SB47実測図(L=19.1m)

く、突帯には刻みが施されている。仮に142が136~138と同一個体であれば、内面に横ケズリが施されているため覆部外面に付属する突帯か貼付浮文の一部となるであろう。144は手づくね成形による鉢であり、口縁部の歪みが顕著である。本住居からは欠山期~元屋敷期にみられる遺物が出土しており、S字甕の形態からその時期は1期と推定される。

SB48 (第32図) にぶい黄褐色砂質土の貼床を有する住居であり、中央付近に焼土が検出された。焼土は最大の厚さ6cmを測り、埋土上層と下層の境から出土している。下層直下には直径30cm程の浅いピットが幾つか検出され、その埋土は褐色系のシルト中に炭化物を含むものが多い。北側に位置するSK



第32図 SB48実測図 (L=19.1m)

1は検出当初は土坑と捉らえていたが、セクションから柱穴と想定される。

出土遺物の内訳は第10表の通りである。そのうち1点(148)を図示した。本住居からは欠山期~元屋敷期にみられる遺物が出土しており、その時期は遺構の切り合い関係から1期と推定される。

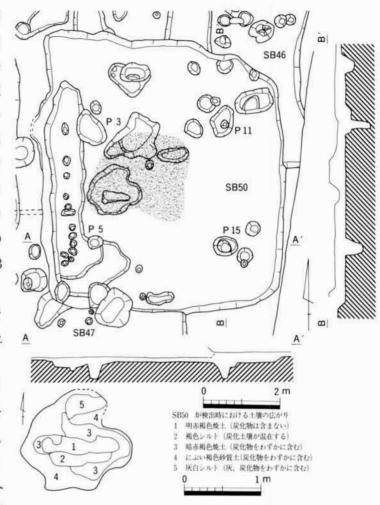
SB49 (第22図) 床面は灰褐色シルトの貼床で、全体に硬化が顕著であった。中央付近には径60cm程の炉が検出され、上面に焼土が約5cm堆積していた。また、北側にも若干の焼土が確認された。ピットの埋土は黄褐色系の砂質土が主体である。なお、P1の底面には長さ30cmの円礫が偏平な面を上にして検出されたため、柱穴の根石の可能性も考えられる。

出土遺物の内訳は第10表の通りである。そのうち6点(149~154)を図示した。150は有稜高坏であり、口縁部外面に6条の沈線が施されている。152は宇田型甕である。器壁に煤が確認でき、その形状は体部内面下方はリング状、体部内面中程は1箇所ブロック状、体部外面中程~上方は帯状を呈する。153は鉢B4である。体部は丸みを帯びて立ち上がり、口縁端部を丸く仕上げてある。154は高坏B3である。口縁部直下のやや強いナデのために、口縁部がわずかに肥厚している。また、脚端部もナデにより若干突出している。なお、坏部内面と坏部外面下方の器面には凹凸がみられる。本住居からは欠山・元屋敷期~古墳時代後期の遺物が出土しており、焼土やピットからの出土遺物がないため、住居の時期は判断し難い。しかし、埋土上層において152~154がかたまって出土しており(図版9-右上)、本遺跡内における宇田期の食器のセット関係が明確に捉らえられる資料である。

SB50(第33図) 埋土は灰褐色シルトの単層であり、中央付近に厚さ 1 cm程の焼土・炭化物が2.5m程の範囲に広がる。炉は中央からやや西側に寄る位置で検出され、深さ11cmの掘り込みを有する。炉の北側には約50cmの範囲で灰白色を呈する灰が検出された。主柱穴と想定される各ピットの深さは P3

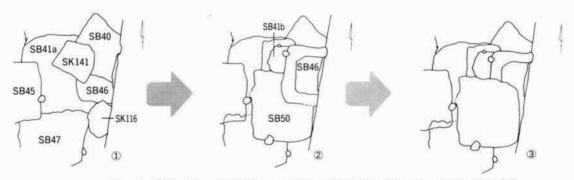
-14cm、P 5-41cm、P11-71cm、P15-39 cmを測る。埋土はいずれも黄褐色~褐色を呈する、やや粘性のある砂質シルトであり、P15から炭化した柱根が直立した状態で検出された。なお、ピット間の距離は北面4.46m、東面3.13mを測る。また、西面から南西角にかけて幅約80cm、深さ約15cmの溝状の掘り込みが検出された。埋土は褐色砂質シルトの単層である。溝状の掘り込みの中央には杭穴と想定されるピットが13個検出され、ほぼ一列に並んでいる。いずれも径約10cm、深さ10cm~20cmを測り、その埋土はにぶい黄褐色砂質土である。

出土遺物の内訳は第10~11表の通りである。そのうち4点(155~158)を図示した。155、156は有稜高坏である。脚部中程で屈曲し、坏部は器壁が厚く丸みを帯びて立ち上がる。155は坏部外面のミガキに比べ、内面のミガキの幅



第33図 SB50実測図 (L=19.2m)

が狭い。また、いずれも非常に精緻に仕上げられている。157はパレス壺と思われる。外面上方に沈線と波線文が施され、文様帯以外の箇所に赤彩が施されている。また、胴部が最も膨らむ箇所に1本の粘土帯を貼り付け突帯としている。なお、突帯直下に1箇所のみ直径3mmの穿孔が施されている。本



①下層面での最初の検出状況である。SB47床面においてSB50の南西角が検出されたため、SB47・SK116完掘 後、全体的に面を下げた。

②SK141直下よりSB46西側ラインが検出され、溝状の掘り込みを伴うことが判明した。また、SB41a掘削時に 別の住居の溝状の掘り込みが検出され、SB4lbとした。さらにSK116直下よりSB50東ラインが検出され、 SK141直下にてSB50北側ラインがSB4lbを切り、SB46に切られることが判明した。なお、SB41aの南壁は検 出されなかった。

③SB46南側を掘削中にSB50の北東角が検出された。そして、SB50を完掘した状態が付図1の全体図である。

32 第4章 遺構と遺物

住居にはわずかに須恵器が混入するが、大半は欠山期~元屋敷期にみられる遺物であり、また、ピットからも残りのよい有稜高坏が出土しており、S字甕の形態からその時期は1期と推定される。

SB51 (第24図) にぶい黄褐色シルトの貼床を有する住居である。北側はSD1 に切られ、西側と南側は調査区外に位置し、その全様は把握できない。埋土が褐色砂質土のピットが幾つか検出されたが、その性格は不明である。

出土遺物の内訳は第11表の通りである。そのうち 8 点(159~165、662)を図示した。163は土師器蓋と思われ、全面に赤彩が施されている。165はく字甕 4 であり、体部外面に右下がりの斜めハケが施されている。なお、162、165は同一個体の可能性がある。662は管玉であり、今回の調査で住居から出土した玉類は 1 点のみである。本住居からは欠山期~元屋敷期にみられる遺物が出土しており、S字甕は A 類が 1 点出土しているが、本住居に切られる SB36が 2 期と推定されることから、本住居も SB36とほぼ同時期の 2 期としたい。

SB52 (第29図) 北側をSB44に切られ、西側が調査区外に位置するため、南東角のみの検出である。 周囲の状況と形態から住居と判断した。埋土は単層で、灰黄褐色砂質土である。ピットは3基検出され、その埋土はいずれもにぶい黄褐色砂質土であるが、遺物は認められなかった。

出土遺物の内訳は第11表の通りである。そのうち1点(166)を図示した。本住居からは弥生時代~古代までの遺物が出土しており、その時期は判断し難い。

SB53 (第26図) D8区の住居を完掘した後検出された住居である。床面の依存状態がよく、壁の残存もよい。埋土は灰黄褐色シルトが主で、にぶい黄褐色砂質土を多く含んでいる。溝状の掘り込みは幅約0.5m~1.0mで東側のコーナーを除いて巡っており、南東側が深さ約0.3mと最も深い。主柱穴と推定されるピットは3基(P3~P5)確認され、床面より約30cm掘り込んでおり、いずれもにぶい黄褐色の砂質土で若干の炭化物が検出された。ピット間の距離はP3-P4が2.26m、P4-P5が1.81mを測る。また、南角に位置する土坑は、その位置と規模から貯蔵穴の可能性もある。床面中央付近には厚さ5cm程の焼土が確認された。そして、焼土を中心に約1mの範囲内にしまりのない赤褐色の砂質土がみられ、炭化物が幾つか検出された。

出土遺物の内訳は第11表の通りである。そのうち 3 点 (167~169) を図示した。167は口縁端部を強くつまみ出し、外反させている。また、混和材として底部中央付近に直径1.0cmのチャートがみられる。本住居からは欠山期~元屋敷期にみられる遺物が出土しており、S字甕の形態からその時期は 1 期と推定される。

SB54 (第9図) 床面は暗灰黄色シルトの貼床であり、炉付近は周辺の床面より若干硬化していた。 炉は中央からやや南側に寄る位置で検出され、プランは楕円形を呈し、深さは約50cmを測り、炉の中央側の埋土に焼土と炭化物の堆積が顕著にみられた。なお、住居の北側のプランは判然とせず、SB22との切り合い関係は不明である。

出土遺物の内訳は第11表の通りである。そのうち 3 点 (170~172)を図示した。170は赤褐色粒をわずかに含む宇田型甕であり、体部外面のハケが通常の宇田型甕と逆、すなわち、体部下方が右上がり、上方が右下がりに施されている。時期的には欠山・元屋敷期~古代の遺物が出土しているが、炉から焼土と炭化物とともに宇田型甕(170)が出土していることから、本住居の時期は 4 期と推定される。SB55(第19図) 床面は褐色シルトの貼床であり、壁の依存状態は良好であった。東壁付近に長さ

20~40cmの円礫が幾つか出土し、礫1と礫2は床面より15cm程高い位置にあり、その他の礫はいずれも貼床直上で検出された。礫1と礫2の距離は約70cmである。なお、礫付近には焼土・炭化物はみられず、礫自体の被熱も認められなかったため、その性格は不明である。

出土遺物の内訳は第11表の通りである。そのうち3点(173~175)を図示した。時期的には欠山期~9世紀前半の遺物が出土している。しかし、本住居に切られるSB27は2期、本住居を切るSB26も2期と推定されるため、本住居の時期はSB26・SB27とほぼ同時期の2期と推定される。

SB56(第20図) SB27と床面高が異なるため、別個の住居と認識した。埋土は灰黄褐色砂質土であり、他の住居の埋土と比べやや粘性がある。ピットの埋土はいずれも褐色砂質土である。なお、大半が他の遺構に切られているため、その全様は把握できない。

出土遺物の内訳は第11表の通りである。出土遺物点数が少なく、またいずれも細片であるため図示していない。本住居の時期は遺構の切り合い関係から1期~2期と推定される。

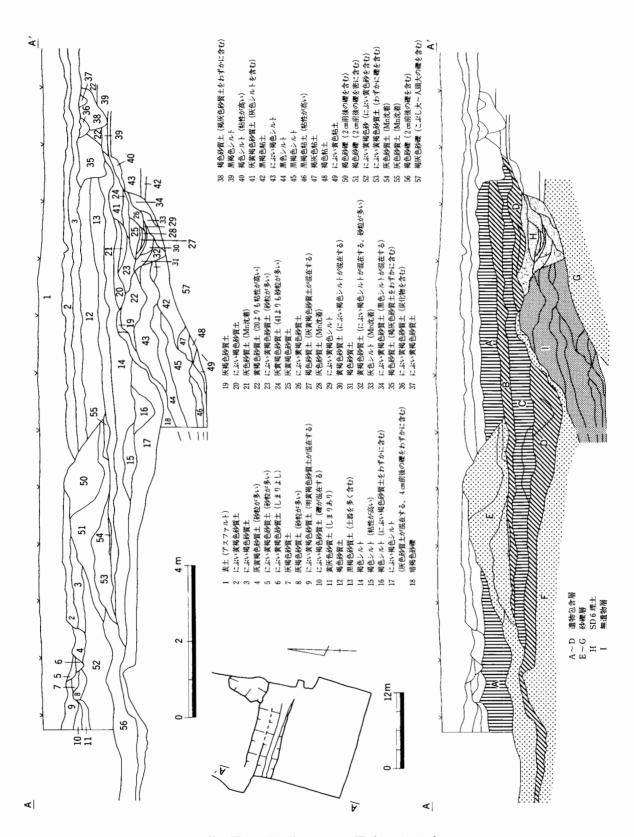
SB57 (第19図) 東面以外は竪穴住居とSD1に切られているため、その全様は把握できないが、壁の立ち上がりや床面の状態などから竪穴住居と判断した。

出土遺物の内訳は第11表の通りである。出土遺物点数が少なく、またいずれも細片であるため図示していない。本住居の時期は遺構の切り合い関係から1期~2期と推定される。

2 D区(第35図)

落ち込みの北端が検出され、遺物が多数出土した。基盤となる層は砂礫層Gであり、その上に無遺 物層Ⅰが堆積している。Ⅰはシルト〜粘土が主体であり黒色〜褐色を呈することから、静水中での長 期間の有機物の堆積が想定し得る。Iの上には砂礫層Fが堆積している。Fには遺物がわずかに包含 されており、古式土師器などがみられる。遺物包含層B・Cは最も遺物量が多く、その大半は灰釉陶 器とロクロ土師器皿である。遺物包含層DはB・Cほど遺物量がないが、古代の須恵器と土師器の出 土が目立つ。これらの遺物包含層の上に砂礫層Eが、その上に遺物包含層Aが堆積している。Aは遺 物量が多くはないが、灰釉陶器が主であり山茶碗がわずかにみられる。砂礫層E・Fとその上位の堆 積土壌との関係は、上方細粒化の傾向が強いことから複数の長良川の洪水を窺わせる。従って、D区 で検出されたこの落ち込みは、洪水によって扇状地が浸食されて形成されたと推定される。なお、遺 物包含層Dの下、無遺物層Iを基盤として掘り込まれるSD6を検出した。幅約2.9m、深さ約1.1mを 測り、落ち込みの北端に位置するが、東側は先述した洪水(砂礫層F)によるためか、溝の立ち上が りが判然としない。その方向はN-74°-Wである。SD 6 からは古墳時代前期~ 8 世紀代の遺物が出土し ているが、その量はわずかである。また、砂礫層Fからも古墳時代前期~8世紀代の遺物が出土して おり、灰釉陶器は含まれていない。そのため、SD6は遅くとも9世紀代には埋没していたと考えられ る。また、落ち込みの最北端で、包含層A上面において径5cm~20cmの円礫が幾つかまとまって検出 された。その中には被熱痕があるものもみられ、カマド等で使用した礫を落ち込みに廃棄した痕跡と 推定される。なお、これらの礫とともに灰釉陶器が出土している。D区の上層面における遺構検出面 は、B・C区のようなIIb層を基準としておらず、洪水堆積の砂質土である。そこから掘り込まれて いるSA13が近世と推定されるため、遅くともそれ以前にD区の落ち込みは埋没したと考えられる。

出土遺物は古墳時代前期~近世までのものがみられ、そのうち74点(270~343)を図示した。271は



第35図 D区西壁セクション図 (L=20.0m)

高坏A1aである。坏部の角度は54°、口稜比は35.4である。273は蓋Aである。D区落ち込み内の出土須恵器のうち、最も時期が古い。278は坏身Bである。口縁部に比べ、体部下方~底部の器壁が厚い。また、高台端部に茎状圧痕がみられる。285は長頸壺である。口縁端部は欠損しているが、上方に折り返されていたと思われる。また、頸部中程には1箇所粘土接合痕が確認され、2段構成であったと推定される。294は甕の底部である。底部外面は体部外面に比べ摩滅が激しく、平滑である。また、内面の当て具は底部と体部で原体の違うものを使用している。296は灰釉陶器の甕であり、美濃須衛産である。327、333は灰釉陶器の碗である。327は高台端部に明瞭に茎状圧痕が残り、333は底部外面に「来□」と墨書されている。329は山茶碗である。体部中程に厚みがあり、口縁端部はわずかに折り返され玉縁状となっている。334は土師器皿Bである。器形的には無台椀とすべきであろう。底部外面には回転糸切り痕と板目が明瞭に残り、底部内外面は灰褐色を呈する。343は焙烙である。口縁部は肥厚し、端部内面は凹む。体部外面はランダムな指圧を施した後、不定方向のへう削り調整がなされる。また、口縁部~体部外面は全面に煤が付着しており、口縁部と体部の境には粘土接合痕が残る。

3 その他の遺構

SK30(付図1) B区北端において検出された方形土坑である。当初は竪穴住居としていたが、深さが60cm以上あることから方形土坑とした。

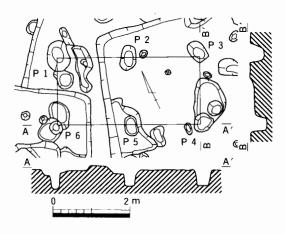
出土遺物は古式土師器が大部分で、わずかに須恵器、山茶碗が混入する。しかし、いずれも細片であり、図示していない。

SK139(第21図) 方形土坑であり、SK115底面においてその北端が確認された。

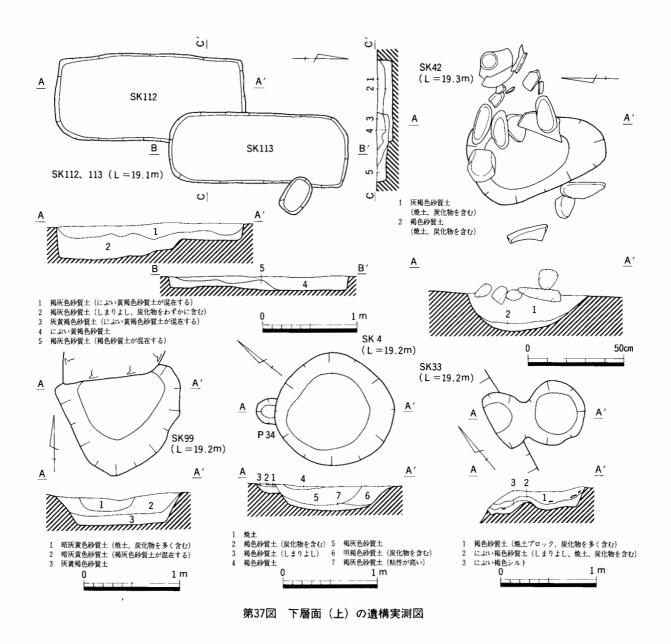
出土遺物は第11表の通りである。そのうち4点 (224~227) を図示した。いずれもS字甕Bであり、226は体部内面に横方向の板ナデが施される。遺構の時期はS字甕の形態から2期と推定される。なお、SK115、SK139上面の包含層中からはS字甕がまとまって出土している(観察表にG7グリッド北西角出土と記入、出土状況は図版13一左中上を参照)。その内訳はB類5点、C類1点、E類1点、合計8点である。これらに伴う遺構は検出されなかったが、SK139を含めこの付近からのS字甕の出土が目立つ。

第2節 下層面(上)の遺構と遺物

SH1(第36図) SB20・22・23の埋土上面から掘り込まれている桁行2間×梁行1間の東西掘立柱建物である。この建物を構成する柱穴群は楕円形を呈するものが多く、長軸50~70cm、短軸30~60cm、深さ50~60cmを測り、埋土はいずれも褐色砂質土である。また、柱間距離は1.85m前後でほぼ均等である。出土遺物はP1~20点、P2~25点、P3~37点、P4~14点、P5~無し、P6~8点であるが、いずれも土師器の細片であり時期は言及できない。掘立柱建物の時期はSB20が10期と推定されるため、10期以降と考えられ



第36図 SH1実測図(L=19.0m)



る。

SK33(第37図) 検出当初は2つの遺構が切り合っていると想定されたが、セクションから切り合い 関係は見出せなかった。埋土上層から焼土ブロックと炭化物が検出され、比較的残りのよい須恵器と 灰釉陶器が出土している。

出土遺物は須恵器、灰釉陶器などがあり、そのうち6点(192~197)を図示した。192は蓋Bであり、内面に焼土がこびり付いている。197は灰釉陶器の碗であり、体部の器壁が厚く、口縁部が大きく外反する。本遺構の時期は出土遺物から10期~11期と推定される。なお、今回の調査ではこのように須恵器と灰釉陶器が共伴する例はSK33、SK42、焼土6の3例認められる。

SK42 (第37図) 掘り込みの周囲に幾つかの円礫を配し、東側の礫は列状に並んでいる。礫はいずれも掘り込みの検出面に位置し、底面には位置しない。埋土中には多くの焼土と炭化物が検出され、礫にも被熱面が確認された。出土遺物のうち須恵器碗 (205) と灰釉陶器碗 (206) は、礫の東側から重

なって出土している。

出土遺物は頸部外反甕と須恵器、灰釉陶器が幾つかあり、そのうち、2点(205、206)を図示した。205は須恵器碗である。非常に軽量で、胎土中に砂粒を多く含む。底部外面はヘラ切り後未調整であり、体部内面の整形にはコテが使用されている。206は灰釉陶器といえるか否か判断できないが、とりあえず形態から灰釉陶器とした。軟質で全面灰白色を呈する。底部外面は回転ヘラ削り調整がなされ、中央の粘土が拭い取られておらず突出する。体部~底部内面にはコテナデが施されている。高台外面は中程に明確な稜を有し、高台内面は内彎する。なお、灰釉は認められない。また、その他の遺物として頸部外反甕の平底の底部破片がある。

SK98(付図2) 土坑内より宇田型甕(403)がまとまって出土している(図版10一右中下)。403は体部破片が約半分ないものの口縁部から底部まで復元できる資料である。体部外面下方に煤が付着しているが、台部外面、口縁部内外面、体部内面にはみられない。胎土は基本的に浅黄色であるが、体部と台部の接合部分は黄橙色の粘土が使用されている。なお、403以外の遺物は古式土師器が数点出土しているが、いずれも細片であり図示していない。

SK99(第37図) 土坑の中央付近において円礫が直立した状態で出土し、その周りに土師器甕脚台 B が 4 破片並んて出土した(図版10一下)。これらの破片はいずれも接合する。また、円礫の下からは焼土と炭化材を多く含む暗灰黄色砂質土が堆積している。

出土遺物は古式土師器が数点出土しているが、いずれも細片であり図示していない。

SK112、113(第37図) いずれも長方形を呈する土坑であり、SK113がSK112を切る。SK112の底面は北側がほぼ水平、南側は20cm程凹んでおり、ほぼ垂直に掘り込まれている。また、SK113の底面はほぼ水平であり、SK112と同様にほぼ垂直に掘り込まれている。

出土遺物はいずれも須恵器や灰釉陶器が混じるが、古墳時代の土師器が多い。しかし、いずれも細片であり図示していない。なお、本遺構面に伴う遺構のうちSK24・36・37・41・107・112・113・118・122・126などはいずれも平面形が長方形で、ほぼ垂直に掘り込まれており、さらに主軸がほぼ真北にあたることから、何等かの関連性があるかもしれない。

また、いずれの土坑も出土遺物はSK112、SK113と同様に細片ばかりのため図示しておらず、遺構の時期は判断し難い。

焼土(付図2) 6箇所で確認されたが、焼土に伴う遺構は検出されなかった。

焼土4は径約70cm、深さ15cmの掘り込みを有し、黒褐色土と黄褐色砂質土が混在する埋土で、埋土上層に幅30cm、深さ5cmの規模で焼土が検出された。遺物はいずれも下層からの出土であり、そのうち3点(176~178)を図示した。176は佐波理写碗である。高台は内彎するが歪みが大きく、口縁端部はわずかに肥厚する。

焼土6はSK4に切られる。焼土の堆積はSK4の南側と北東側で検出され、最も厚い箇所で10cmを測る。出土遺物はいずれも焼土に伴い、器面に焼土がこびり付いているものが多くみられる。また、2次的な被熱によるためか、器面が黒褐色、断面が灰赤色を呈し、非常に硬質な破片もある。出土遺物のうち6点(179~184)を図示した。179、180は須恵器の蓋Bである。179は天井部~体部外面に焼土がこびり付いている。181、182は須恵器の坏身Bである。181は体部外面の稜の間隔が狭く、内面には煤が付着している。183は灰釉陶器の碗である。角高台を有し、体部は丸みを帯びて立ち上がり、口縁

部はわずかに外反する。体部内外面の灰釉の有無は判断し難い。184は頸部外反甕B3である。体部外面は粗いハケで整形され、内面は縦方向のナデの痕跡がわずかにみられる。煤は体部内外面上方のみであり、使用時に付着したと考えられる。また、他の頸部外反甕に比べ、胎土内の砂粒の包含量が非常に多い。

第3節 上層面の遺構と遺物

上層面の遺構として、ピット、土坑、溝等が確認された。しかし、ピット、土坑はいずれも掘り方が浅く、その大半が上部が削平されていると思われる。また、遺構から出土した遺物は多いが、その主たるものは古墳時代の土師器であり、いずれも下層面に伴う遺物である。また、中世~近世にかけての遺物が出土した遺構もあるが、古代以前の遺物が混入している場合が多い。そのため、本遺構面

での遺構の時期決定は、出土遺物 の年代観を補うために検出時の埋 土の色調も考慮に入れた。

検出時の埋土の色調は大きく3 種類に分けられる。

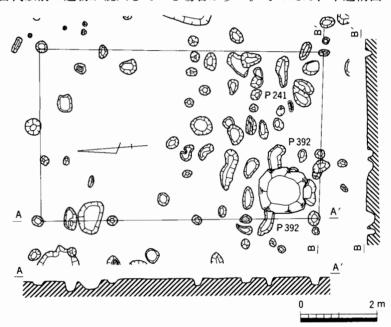
- ①にぶい橙色砂質土 (2.5YR6/3)
- ②赤灰色砂質土(2.5YR6/1)
- ③にぶい黄褐色砂質土 (10YR4/3)

このうち、①と②は厳密に両者を区別できなかった遺構もあり、 さらに夏場など埋土中の水分が少ない時期は判別が困難であった。 また、③の埋土を有する遺構は、

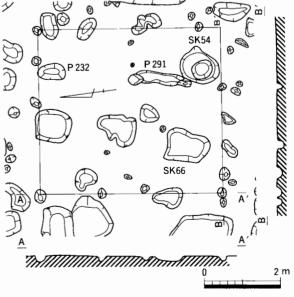
検出が①と②の埋土を有する遺構よりも容易であった。①、②の埋土を有する遺構の出土遺物の上限は中世前期であり、③の埋土を有する遺構は中世遺物も幾つかみられるが、18世紀~19世紀の遺物も散見でき、近世に埋没したと考えたい。

1 掘立柱建物

SH 2 (第38図) 桁行 4 間×梁行 2 間の南北掘立 柱建物である。この建物を構成する柱穴群は径30 cm~90cm、深さ10cm~30cmを測り、埋土はいずれ もにぶい橙色砂質土である。建物の規模は桁行7. 35m、梁行4.65mであり、西面の南北方向の柱間 距離は北から1.90m、2.25m、1.30m、1.90m、



第38図 SH2実測図 (L=19.5m)

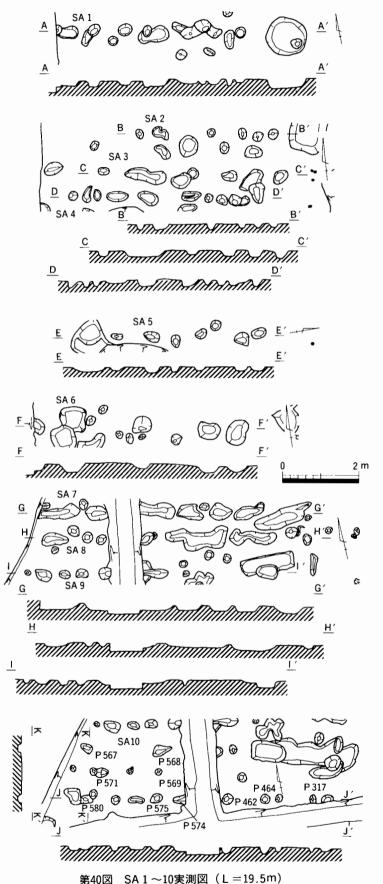


第39図 SH3実測図(L=19.5m)

南面の東西方向の柱間距離は東から 2.70m、1.95mを測る。 P241と P392 は浅い溝状遺構であり、深さ15cm前後 を測る。そして、埋土が掘立柱建物を構成するピット群と同様であることから、あるいは間仕切り的な用途も考えられる。また、掘立柱建物内外に多数のピットが存在するが、これらは埋土が違うため掘立柱建物に伴わない。 なお、建物の方位は N-5°-E である。

出土遺物はいずれも古墳時代の土師 器の細片であるため、出土遺物から建 物の時期決定はできないが、ピットの 埋土の色調がいずれも①であることか ら、本遺構は中世前期と推定される。 SH 3 (第39図) 桁行3間×梁行3間 の南北掘立柱建物である。この建物を 構成する柱穴群は径20cm~40cm、深さ 20cm前後を測り、埋土はいずれも灰白 色砂質土である。建物の規模は桁行 4.78m、梁行4.40mであり、西面の南 北方向の柱間距離は北から1.60m、 1.13m、2.05m、南面の東西方向の柱 間距離は東から1.60m、1.50m、1.30 mを測る。建物内にあるSK54、P291は 埋土がにぶい黄褐色砂質土であること から、少なくとも建物と同時期に埋没」 した遺構ではない。また、SK66、P232 の埋土はピット群と同様であるが、そ の性格は不明である。なお、建物の方 位はN-5°-Eである。

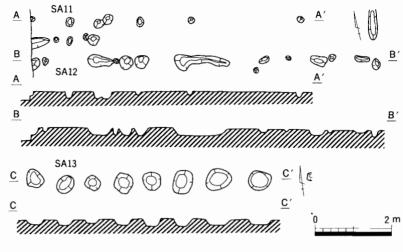
出土遺物はいずれも古墳時代の土師器の細片であるため、出土遺物から建物の時期決定はできないが、ピットの埋土の色調がいずれも③であることから、本遺構は近世と推定される。



2 杭列・柱列 (第40、41図)

杭列、柱列としてとりあげる 遺構は主にピットが一列に並ん だものを示す。そのため、本来 は畑の作物を植えた穴の列かも しれないが、今回はいずれもSA として報告したい。

埋土はSA10が①、SA5・6が ②、SA2~4・7~9・11~13 が③、SA1が①と③の両方であ る。SA5、6はSH2を囲むよう にあることからSH2との関連



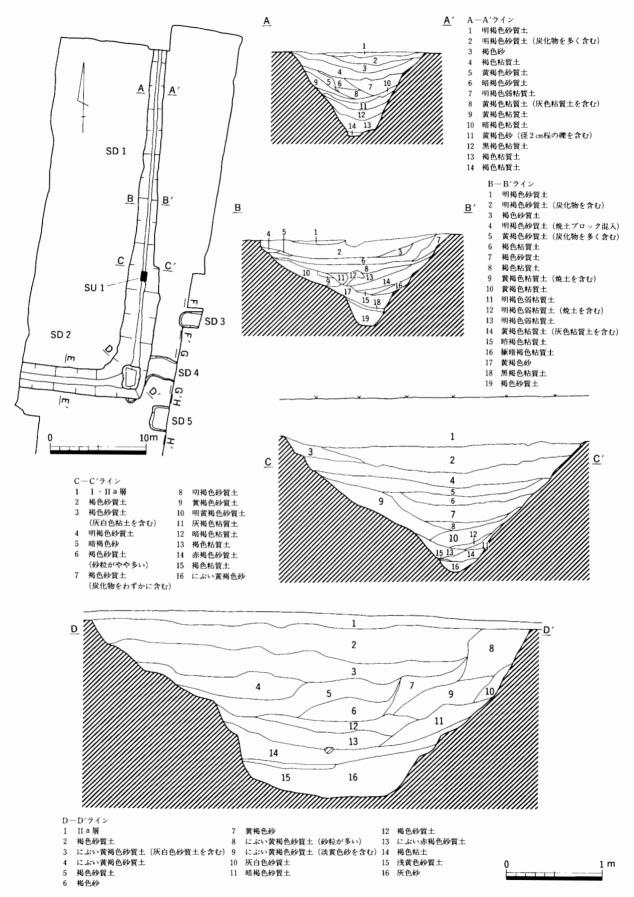
第41図 SA11~13実測図 (L=19.2m)

性が示唆できる(第88図参照)。SA 3、7、8、12などは細長い形状のピットが並び、畑の作物を植えた穴の可能性もある。さらにそれらを含むSA 2~4、SA 7~9、SA11、12は 2 条~3 条のピット列がほぼ平行していることから共通性が見出せる。SA10は P317・P462・P464・P575・P580からなる棚列で、P575・P580に付随して P567・P568・P569・P571の存在がある。他の棚列、柱穴列にはこのような付随するピットはみられないことや、四隅のピット(P567・P568・P575・P580)が中間のピット(P569・P571)より径が大きいことから、これらは門であった可能性も考えられる。また、SA13は径40~50㎝のピットが約 1 間間隔で規則的に並ぶ。さらに、いずれのSH、SAも調査区の東側に延びない点は共通している。なお、これらの方位はSA 1 が N-80°-W、SA 2~4・13が N-82°-W、SA 5 が N-8°-E、SA 6 が N-83°-W、SA 7~9 が N-79°-W、SA10が N-77°-W、SA11・12が N-76°-Wである。

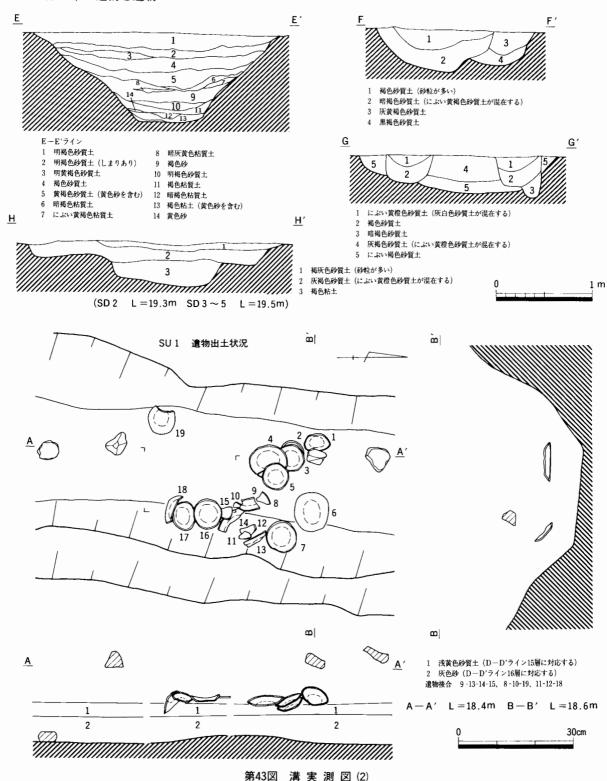
これらのSAを構成するピット出土の遺物は山茶碗や近世陶器がわずかにみられるが、大半が古墳時代の土師器と古代の須恵器、土師器である。そのうち、時期がある程度認定できるものはSA13を構成する P520出土の近世の灰釉丸碗の破片のみである。そのため、掘立柱建物と同様に、ピットの埋土からSA5、6、10が中世前期、SA2~4、7~9、11~13が近世と考えたい。

3 溝

SD1・2(第42、43図) 調査区北端から南に延び、中央付近で西にほぼ直角に曲り調査区外に延びる。そのため、南北方向をSD1、東西方向をSD2とした。その規模はSD1の最北端で幅1.85m、深さ1.27m、底面レベル18.14m、SD1の南側で幅3.20m、深さ1.31m、底面レベル18.15m、SD2中央付近で幅2.60m、深さ0.95m、底面レベル18.27mを測る。断面形態はSD1の北側がV字状であり、壁の傾斜が急である。そして、底面の平坦面はわずかしかない。しかし、南側に移るにつれて溝の幅が広がり、壁の傾斜が緩やかとなり、底面付近のみV字状を呈する。そして、コーナー付近では、幅が最大となり、底面はほぼ丸い形態となる。SD2は、壁の傾斜が緩やかで、底面の平坦面の幅も広く、断面形態は逆台形を呈する。そして、溝の幅はSD1より広く、底面レベルはわずかに高い。埋土はどの地点においても中程に黄色を基本とした砂層が確認できた。また、SD1南側およびSD2の底面に



第42図 溝実測図(1) (L=19.3m)

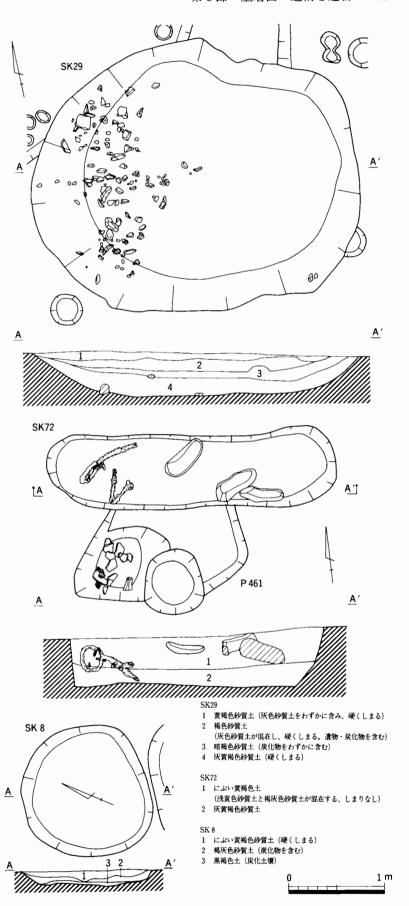


は、灰色~黄色を呈する砂層が確認され、SD1 北側ではみられなかった。同様に、SD1 北側の埋土上層では褐色を呈する砂層が確認されたが、SD1 南側およびSD2 ではみられなかった。なお、SD1の方位はN-4°-Eである。出土遺物のうち、土師器皿はまとまって12枚検出された(SU1)。SD1の幅が広がる箇所であり、底面直上に堆積する灰色砂上面からの出土である。これらは、内面を上にして検出された遺物が多く、いずれもほぼ完形に復元できる。さらに、長さ10cm~30cmの角礫が土師器皿

よりわずかに上位レベルで幾つか 出土し、明らかに被熱しているも のも確認された。

出土遺物は古墳時代~古代の土 師器、須恵器、灰釉陶器、土師器 皿、古瀬戸、大窯などがある。こ のうち25点(245~269)を図示し た。245~263は土師器皿である。 245~262はいずれも体部外面にラ ンダムな指圧痕がみられる。 245~253は直径 8 cm以下であり、 底部内面は不定方向ナデが施され るか平滑である。254~262は直径 9 cm以上であり、底部内面に一方 向ナデが施されるものが多い。247 は体部内面に粘土接合痕がみられ る。254、259は灯明皿として使用 されたと思われる。259は底部内面 に炭化物が残存している。263は直 径15.2cmと最も大きく、体部外面 のナデ幅が他の土師器皿より広 い。SU1の土師器皿は直径7.2cm ~8.0㎝が8枚、直径9.9㎝~10.4 cmが4枚であり、いずれも灯明皿 として使用されてはいない。268は SD1上層からの出土であり、瓷器 系陶器甕とした。口縁部内外面が 凹み、端部は丸く仕上げてられて いる。非常に軟質であり、内面と 断面が灰黄色~灰色、外面が明褐 灰色を呈する。269はSD1下層か らの出土であり、瀬戸美濃盤とし た。体部内外面に灰釉が施され、 体部外面下方には2条の沈線がみ られる。また、高台は内彎気味で、 畳付は平坦である。

なお、コーナー付近でSD1底面



第44図 SK8、29、72実測図 (L=19.2m)

44 第4章 遺構と遺物

より掘り込まれる長方形の土坑 (SK47) が検出された。その埋土は灰色砂が主体であることから、SD 1・2 とほぼ同時期に存在していた可能性が高い。SD 1 の検出面からSK47底面までは深さ1.91mを測り、底面レベルは17.59mである。出土遺物は古墳時代~古代の土師器が幾つかみられるが、いずれも SD 1 と同様に混入とみなすべきであろう。そのうち 2 点 (210~211) を図示した。210は土師器皿であり、底面直上で検出された。SD 1 出土の土師器皿と形態、調整、法量が類似する。211は染付皿であり、底部内面に十字花文が描かれている。なお、染付は今回の調査では 1 点のみの出土である。

SD4(第43図) 調査区東壁から約7m西に延び、南にほぼ直角に曲る。規模は幅約2m、深さ約40cmを測る。出土遺物は土師器と須恵器が大半で、山茶碗と土師器皿がわずかにみられる。そして、その上限は18~19期に比定されるため、本遺構の時期を大きく中世前期と捉らえたい。

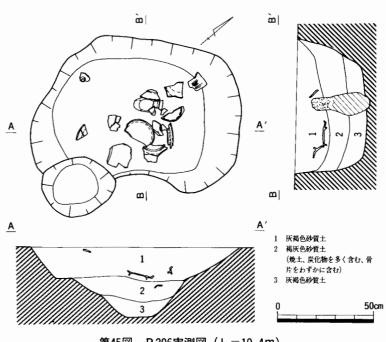
4 土坑・ピット

SK 8(第44図) ほぼ円形を呈し、壁は緩やかに立ち上がる。底面直上には炭化土壌が約6cmの厚さで堆積しており、一部炭化材も確認された。しかし、焼土および床面・壁の被熱痕はみられなかった。出土遺物は、炭化土壌の直上で幾つかの円礫とともに検出された。古墳時代~古代の土師器と須恵器、山茶碗、土師器皿などが出土しており、そのうち7点(185~191)を図示した。185、186は土師器皿である。185は体部外面上方に2段ナデが施されている。187は小皿、188~191は山茶碗であり、いずれも胎土は荒肌手である。また、図示しなかった遺物に小碗もある。なお、本遺構の時期は山茶碗の年代から16期~17期と推定される。

SK29 (第44図) 楕円形を呈し、壁は緩やかに立ち上がる。中層に土師器、須恵器、灰釉陶器などの遺物と炭化物を多く含むが、これらは流れ込みと考えられる。底面西側には径10㎝~20㎝の角礫が約120個検出された。そして、礫の間より古瀬戸後期の折縁深皿が出土している。なお、最下層直下には鉄分が帯状に沈着していた。

出土遺物は土師器、須恵器、灰釉陶器が多く、山茶碗等の中世遺物は少ない。そのうち7点(198~204)を図示した。200は須恵器坏身Aである。底部内面に同心円状の当て具痕がみられる。204は山茶碗Bである。口縁端部に面を有し、体部内面の整形の際にコテを使用している。本遺構の時期は古瀬戸や山茶碗の時期から23期~24期と推定される。

SK72 (第44図) 細長い楕円形を 呈し、南側で下層面の P 461を切 る。埋土中には長さ約25cmの円礫 があり、底面付近に明治時代の遺



第45図 P206実測図 (L=19.4m)

物と思われる電柱の付属品が出土した。埋土は付近の遺構面の基盤となる土と類似することから、遺物が廃棄された後、すぐに埋め戻されたと考えられる。

P206 (第45図) 楕円形を呈し、北側でP207に切られる。埋土中層には多数の焼土と炭化物が含まれ、骨片もわずかに確認された。出土遺物は上層ないしは中層から出土し、被熱が認められるものもある。中央付近には長さ30cmの円礫が縦位に据えられており、その先端部には被熱痕が確認された。なお、埋土下層の灰褐色砂質土は礫を据えるための土と考えられる。

出土遺物はわずかに古墳時代の土師器がみられるが、大半は頸部外反甕と須恵器である。そのうち7点(344~350)を図示した。いずれも須恵器であり、350以外には表面に煤が付着している。348の底部内面は平滑であり、灰色~暗灰色の有機物が染み込んでいるため、転用硯の可能性が高い。出土遺物には灰釉陶器がみられないが、須恵器の年代はいずれも9世紀前半に比定されることから、本遺構の時期は10期と推定される。

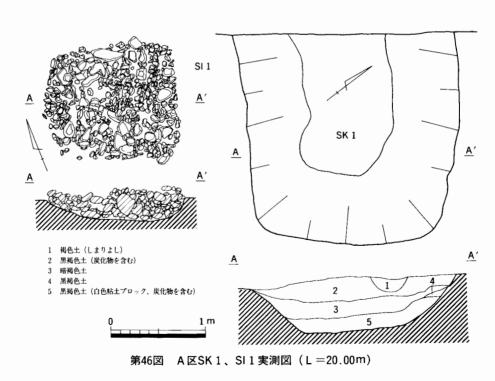
第4節 A区の遺構と遺物

SI1 (第46図) 長軸約1.3m、短軸約1.2mを測る、ほぼ正方形を呈する集石土坑である。礫はいずれも円礫を使用し、礫の法量は大きいもので30~40cm、小さいもので10cm前後を測る。土坑の中央付近には直径30cm前後の幅で礫の密度が低くなる箇所があり、また、大きい礫は底面および壁付近に、小さい礫は上面に多くみられる。壁の立ち上がりは緩く、擂鉢状を呈する。

出土遺物は山茶碗Bの口縁部破片が1点出土しているのみであり、図示していない。

SI2 (第47図) 検出時において約5 m×3.5mの範囲内に径10cm以下の小礫がまとまってみられ、その下より2 つの土坑が検出された。西側の土坑は長方形、東側の土坑は不定形を呈し、土坑の深さは16cmで同一である。埋土はにぶい黄褐色砂質土の単層であり、埋土中には礫が散在していた。

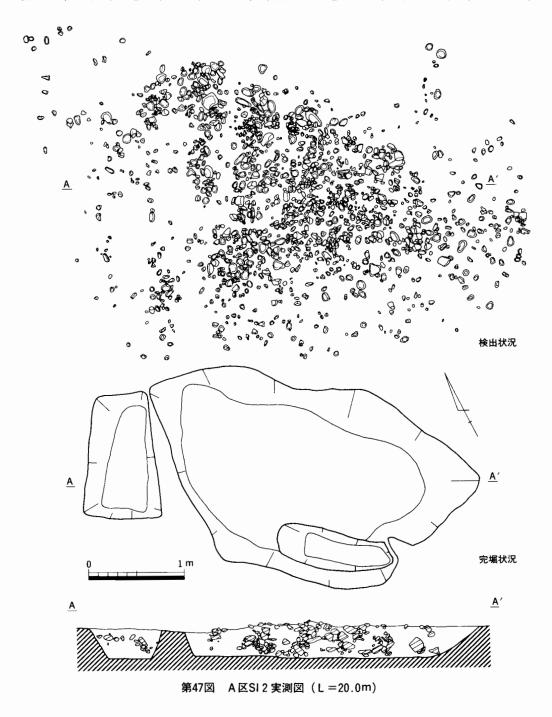
出土遺物は山茶碗、小皿、土師器皿、常滑、大窯などがあり、そのうち7点(233~239)を図示し



定される。

SI3~8(付図4) いずれも幅70~90cmの溝状遺構であり、ほぼ平行している。遺構の東端は直線状に位置するが、西側はばらつきがある。断面形態はいずれも逆台形を呈し、壁の傾斜は急で、底面は平坦である。深さは50~60cmで、SI8のみ15cmと浅く、上半が削平されていると考えられる。埋土は径1~10cm程度の礫を多く含む砂礫の単層である。

出土遺物は山茶碗、小皿、土師器皿、常滑などであり、大窯、灰釉陶器などは含まれない。そのうち5点(240~244)を図示した。240、241は山茶碗B、242~244は小皿Bである。242は口縁部内外面にそれぞれ別個体の破片が付着している。本遺構の時期は山茶碗の年代から20期~21期と推定される。 SK1(第46図) 長方形を呈する土坑である。東側はSI7を切り、西側は調査区外に延びる。埋土は



大きく3層に分かれ、上層から多くの遺物が出土し、下層から近世陶磁器と中世陶器がわずかに出土 した。

出土遺物は大半が近世陶磁器で、須恵器と山茶碗がわずかに混じる。そのうち 2 点(623、624)を 図示した。623は高台周辺を除き鉄釉が施され、高台は外反する。624の底部内面は体部との境に同心 円状に、さらにその上から不定方向に擂目が施されている。本遺構の時期は出土遺物から18世紀後半 ~19世紀前半と推定される。

SX1 (付図4) 平面形は不定で東西方向に細長く、ほぼ垂直に掘り込まれている。埋土は径1~10 cm程度の礫を多く含む砂礫の単層である。

出土遺物は古墳時代の土師器や須恵器、山茶碗などがあり、そのうち3点(230~232)を図示した。いずれも山茶碗Aであり、230は口縁部が外反する。本遺構の時期は山茶碗の年代から17期と推定される。

第5節 その他の遺構、包含層出土の遺物

その他の遺構、包含層出土の遺物を第63~79図に示した。個々の遺物に関しては遺物観察表に記し、 特徴的なもののみ以下に記す。

(1) 土師器(古墳時代~古代)

358は受口甕2 c である。頸部が直立気味に立ち上がり、口縁部上段は内傾する。口縁部外面には刺 突文が施され、口縁端部の面はわずかに凹む。今回の調査ではこのような形態の受口甕は他になく、 他地域からの搬入品と考えられる。363はく字甕4である。脚台端部は断面方形を呈し、体部は丸みを 帯びて立ち上がる。366~387はS字甕である。そのうち366は口縁部下段が長く厚いのに対し、中段と 上段は短く薄い。375は口縁部上段に相当する箇所がみられず、369、376は上段の屈曲がごくわずかし かみられない。381はD類、385、386はE類であり、いずれも今回の調査では出土数が極めて少ない。 388~405は宇田型甕であるが、388はS字甕D類とすべきかもしれない。宇田型甕は基本的に体部外面 に羽状ハケを施すが、397は逆であり、402は上段が放射状に施される。また、404は羽状ハケ後、横線 文が施されている。なお、宇田型甕の中には胎土中に赤褐色粒を含む個体(395~397、400、401など) が幾つかみられる。423は清郷型甕であり、今回の調査では1点のみの出土である。427は頸部外反甕 A 2 である。他の頸部外反甕とは異なり、口縁端部がわずかに肥厚する。433~435は有稜高坏の脚部 である。いずれも脚裾部外面に沈線と波線文ないしは刺突文、列点文を施すが、工具でクシを使用す るものは434のみであり、脚端部に刻みを有するものは433のみである。436は高坏A1bであり、坏部 角度は53°、口稜比は38.2である。439、440は高坏A4である。いずれも坏部外面の垂下稜は斜め下方 に大きく張り出す。また、坏部外面にはハケメが残り、内面は器面の凹凸が著しい。445は高坏Abで あり、坏部外面に文様が描かれている。446は高坏の脚柱部と考えられ、外面に横線文と列点文が施さ れている。453、454は土製円盤と考えられ、楕円形に加工してある。455の器種は不明であるが、とり あえず蓋とした。460はパレス壺とした。頸部は直立していたと考えられ、口縁部は大きく外折する。 口縁部内面中程には5mm程の段があり、上段には沈線4条と2段の羽条文が施されている。口縁端部 にも 5 mm程の段があり、上面はほぼ水平に面取りされている。477は壺の体部破片であり、外面に直線 と弧線が描かれている。479は器種が認定できない。上面には口縁部に沿うように2本の沈線が描かれ、

48 第4章 遺構と遺物

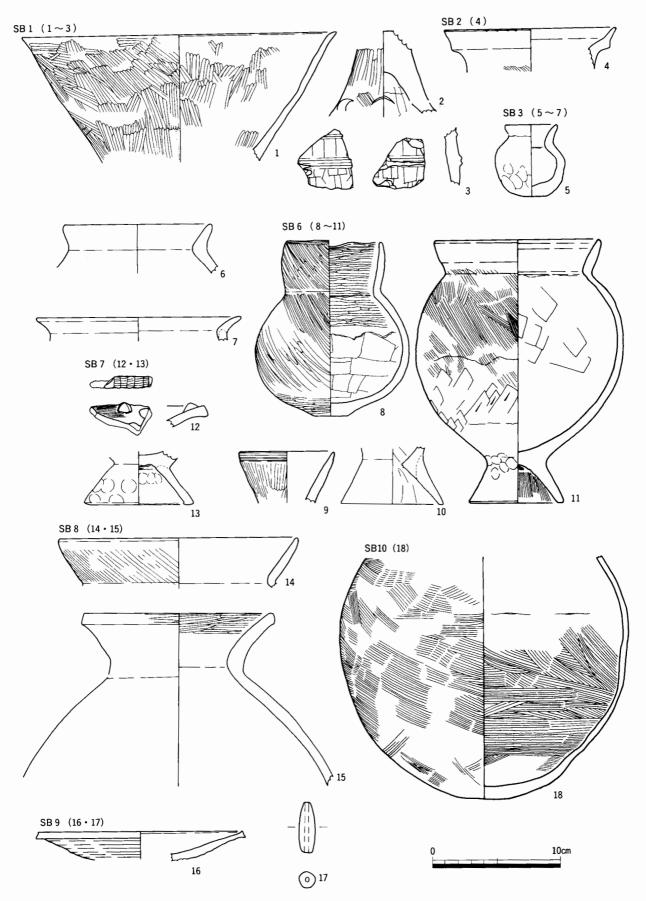
それに直交するように太い線と細い線が交互に描かれている。480は底部中央に穿孔がある壺である。 最大径は体部下方に位置し、外面上方にミガキがみられるが、本来は全面にミガキが施されていたと 考えられる。

(2) 須恵器

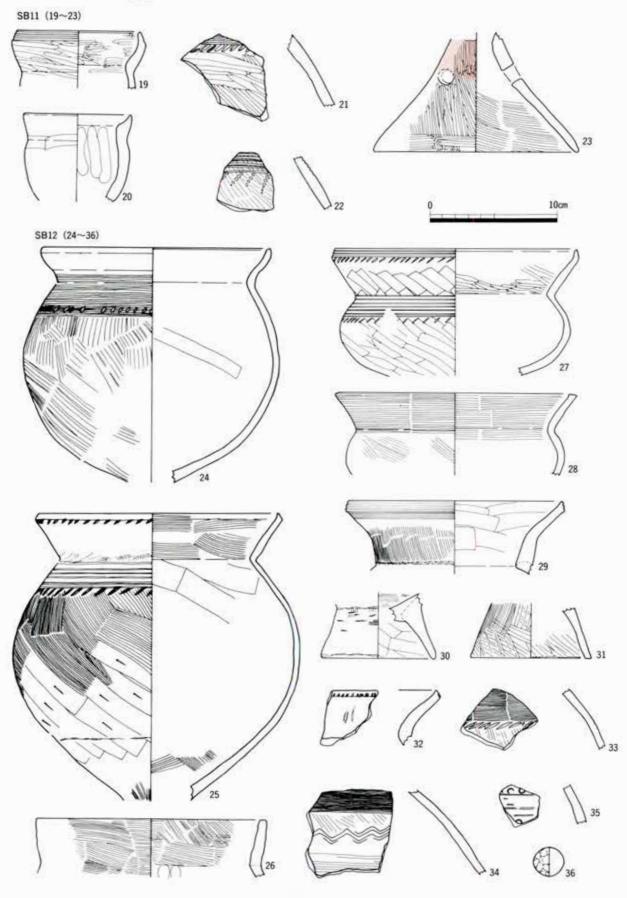
492~499は蓋Aである。492~497は畿内系であり、天上部は丸みを帯びるものと平坦なものがある。口縁部はいずれもわずかに外反しており、端部形態はCないしはDである。498、499は尾張系である。500~510は坏身Aであり、500~505は古い段階のもので、いずれも畿内系である。511~515は高坏蓋であり、511は天上部外面中程に 1 条の突帯を有し、内面中央付近には指圧痕がみられる。516~522は高坏である。516~518は脚端部上方で凹線状の凹みを有し、先端を丸く仕上げる。透かしはいずれも三角形を呈し、2 方向に施されている。519~521は脚部外面にカキ目調整が施され、519は四角形の透かしが 3 方向に、520は円形の透かしが 3 方向に施されている。523~538は蓋Bである。534は天上部外面に「十九」と墨書されている。535は天上部外面に回転糸切り痕が残る。537は佐波理写蓋であり、つまみ内面をヘラ状工具で成形している。539~559は坏身Bである。543は口縁部内面にタールが、551は体部内外面に油煙が付着しており、いずれも灯明皿として使用されたと考えられる。581は短頸壺の蓋と考えられる。天井部外面には自然釉が降灰しており、内面は灰赤色を呈する。583はヘラで「三年」という刻文が施されている。内面は暗灰色、外面は灰色と呈し、このような色調を呈する須恵器は今回の調査では他にSB1出土の器台?(3)がある。584は甑である。突き出し部は断面方形で、端部がわずかに凹む。底部には5箇所に穿孔があったと考えられ、内面には指圧痕が残る。

(3) その他

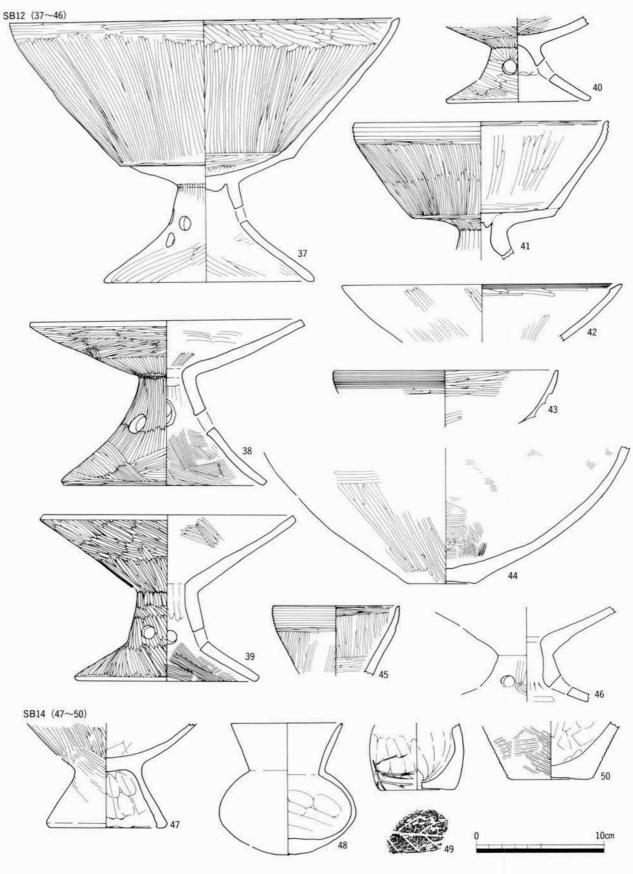
592は灰釉陶器碗である。口縁部内外面に灰釉が漬け掛けされ、口縁端部は外側に折り返し玉縁状となっている。597は小皿である。口縁部内外面に灰釉が施され、体部外面の成形にはコテが使用されている。底部外面には回転糸切りなどの調整がみえず、底部の断面にはほぼ水平に粘土接合痕らしきものが確認できる。胎土はやや粗く、あるいは美濃須衛産の可能性もある。599は山茶碗B、600は山茶碗Aである。いずれも底部外面に墨書され、599は文字か記号か判別できないが、600は「石丸□」ないしは「石刃□」と判読できる。616は土師器皿である。体部外面には1段ナデと2段ナデが施されている箇所があり、「の」の字状に抜き取られる。また、底部外面には粘土接合痕が残り、粘土接合痕がみえなくなる箇所は器壁が厚く、外面の上段のナデが抜き取られる箇所でもある。680~686は砥石であり、形状から偏平タイプ、角柱タイプ、ブロックタイプの3つに分類できる。そのうち683はすべての砥面が砥石の長軸に対し斜めになっている。また、681、683は石材が他の石器類と異なっている。なお、土錘中に網材が残る資料が1点出土し、ジャスコエンジニアリング株式会社による分析の結果、網材は分解が進み原形を留めておらず、トウジュロとの比較では無機成分より同一視しがたいという見解を得た。



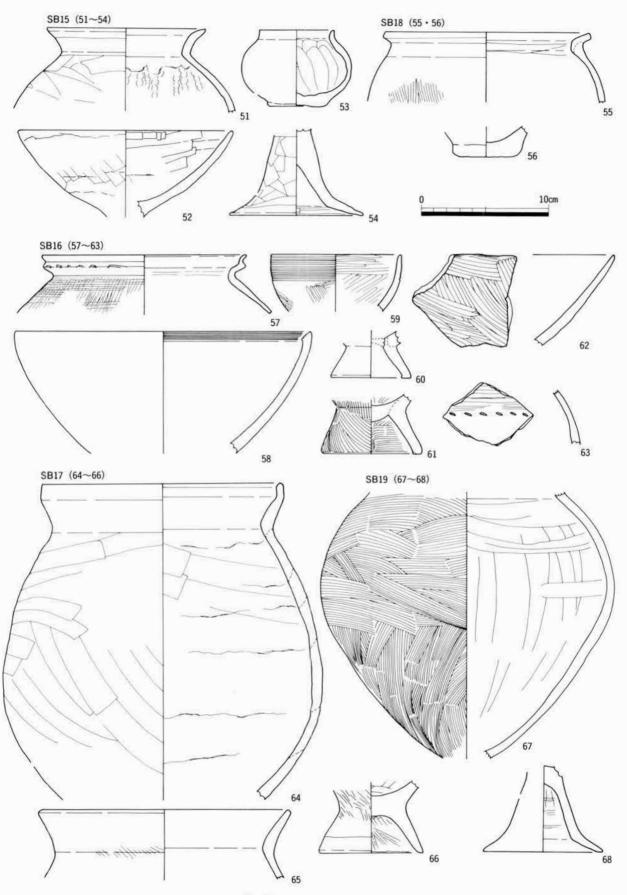
第48図 遺物実測図(1)



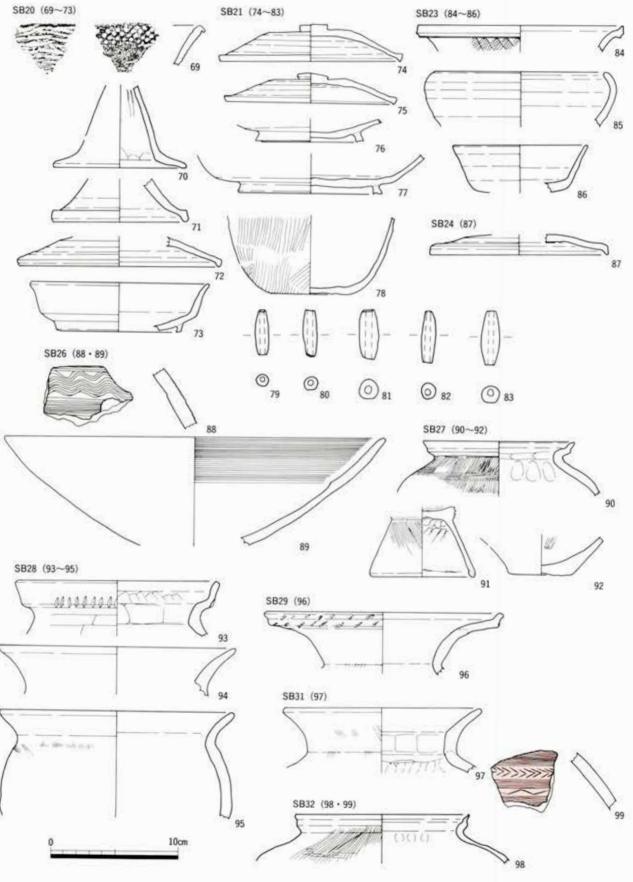
第49図 遺物実測図(2)



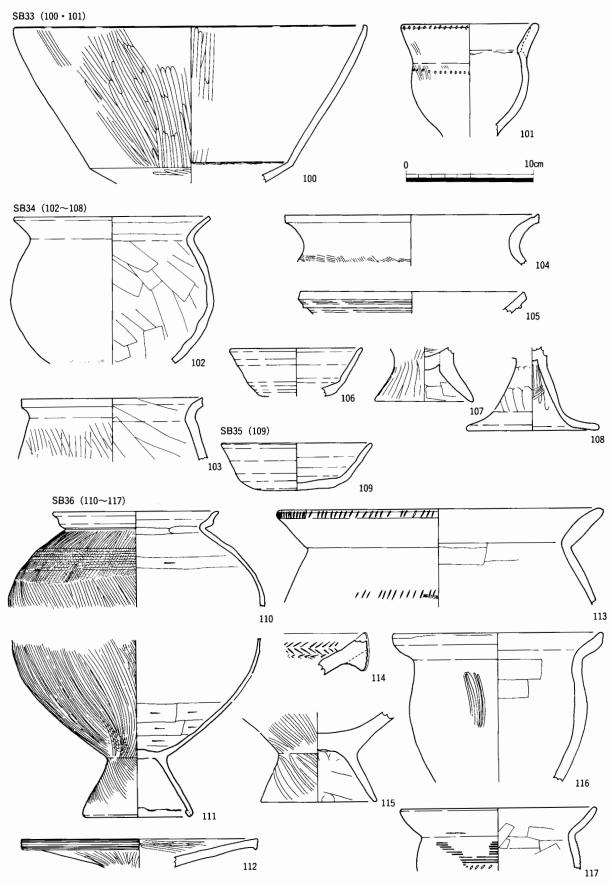
第50図 遺物実測図(3)



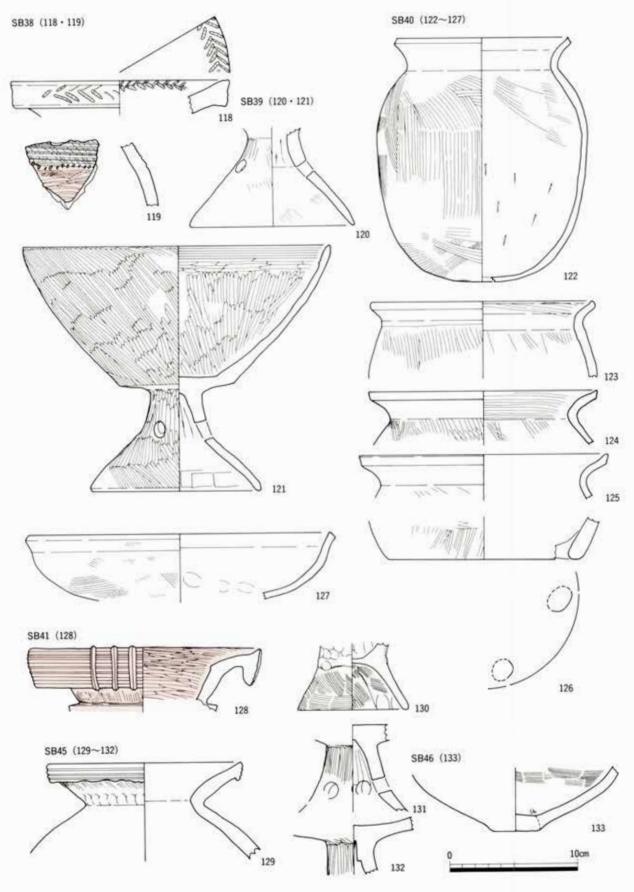
第51図 遺物実測図(4)



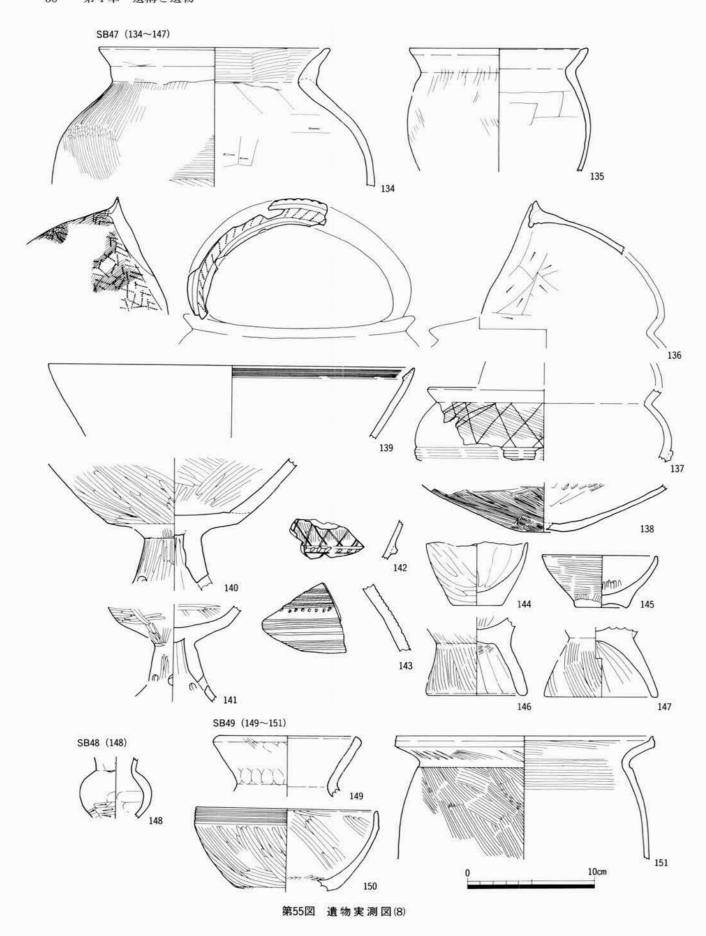
第52図 遺物実測図(5)

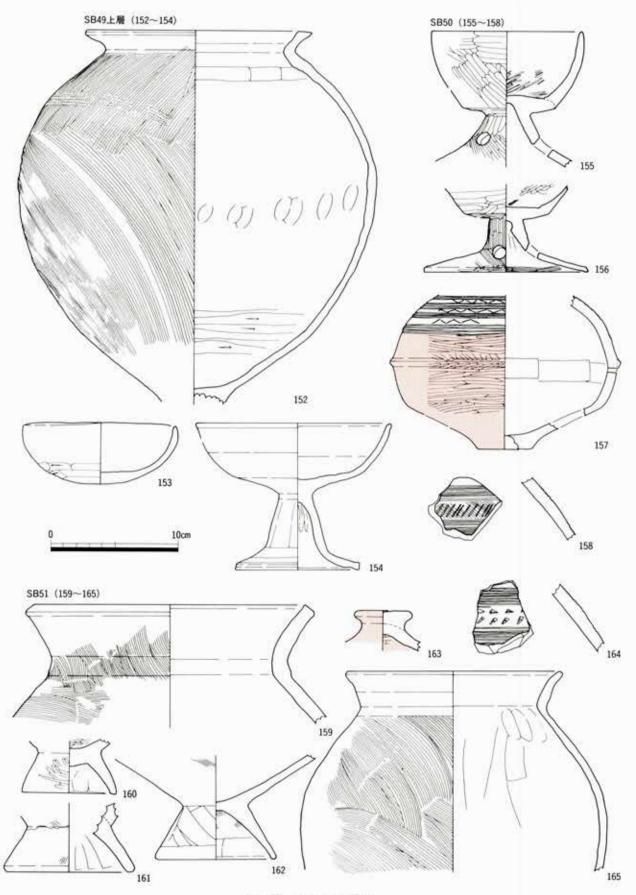


第53図 遺物実測図(6)

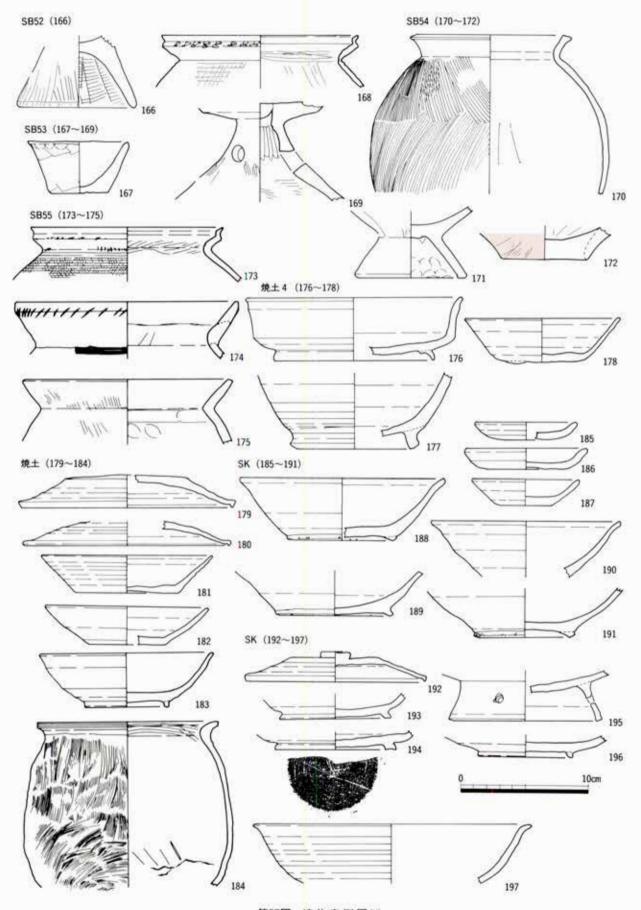


第54図 遺物実測図(7)

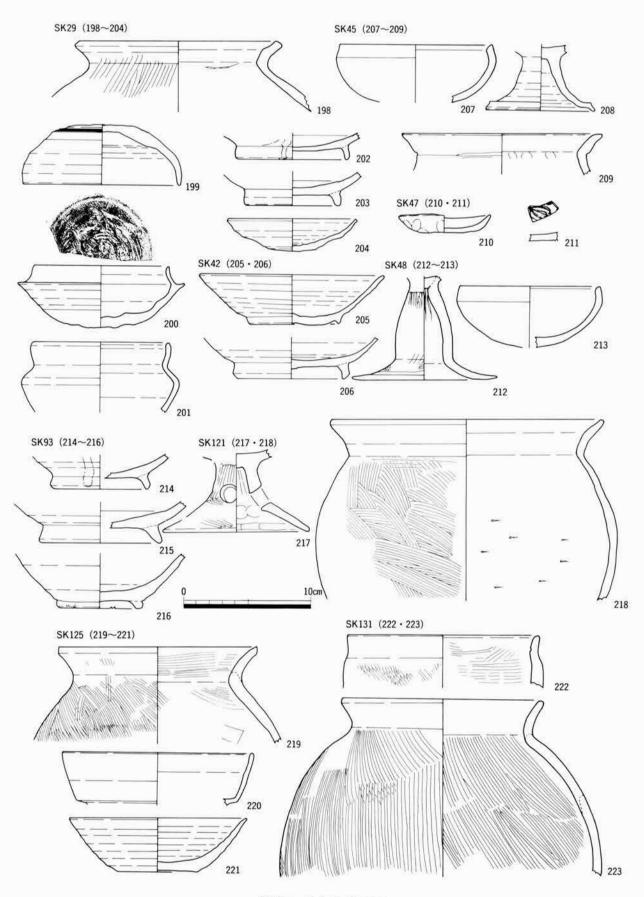




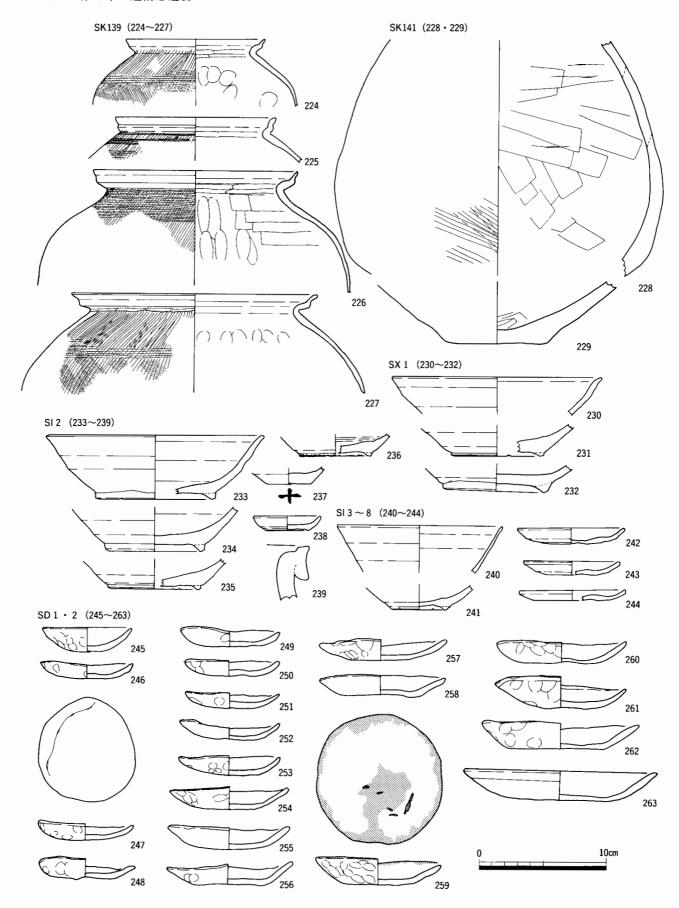
第56図 遺物実測図(9)



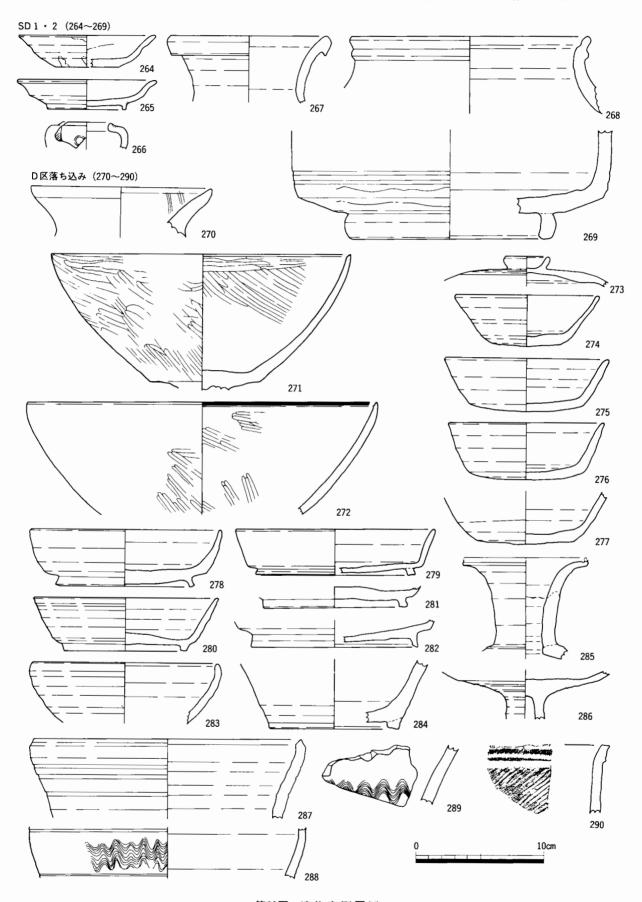
第57図 遺物実測図(10)



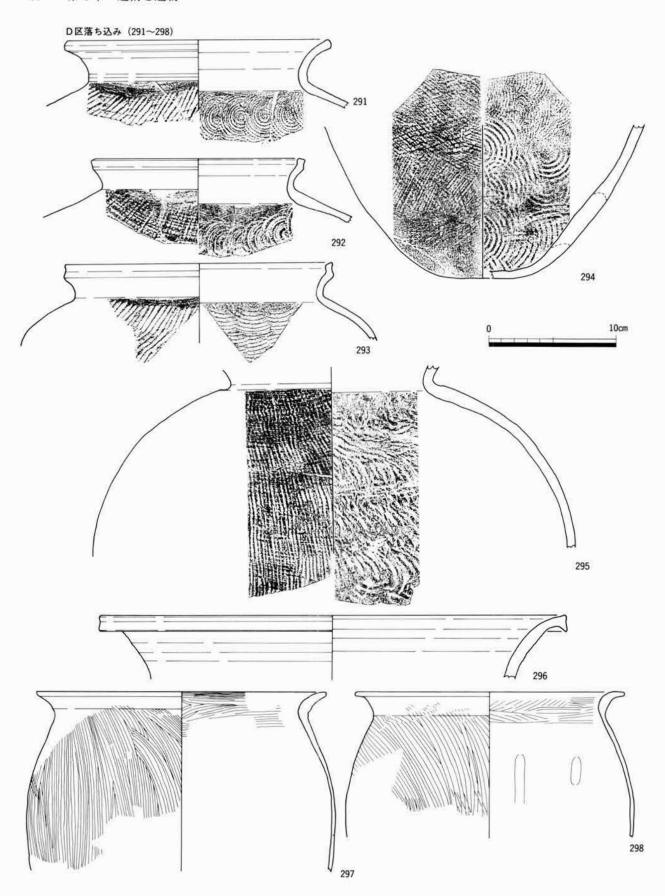
第58図 遺物実測図(11)



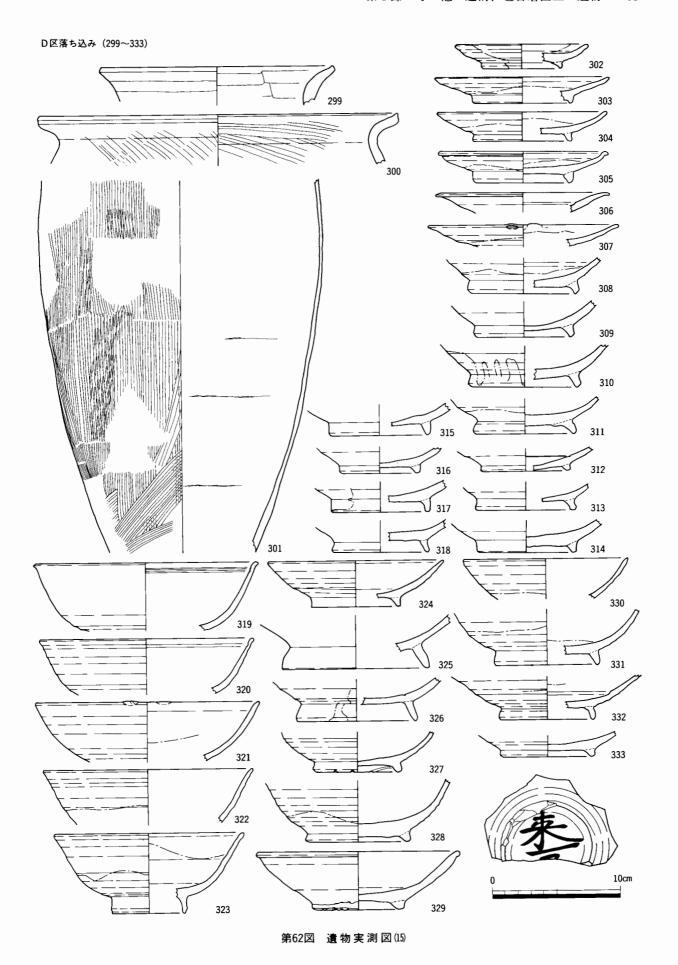
第59図 遺物実測図(12)

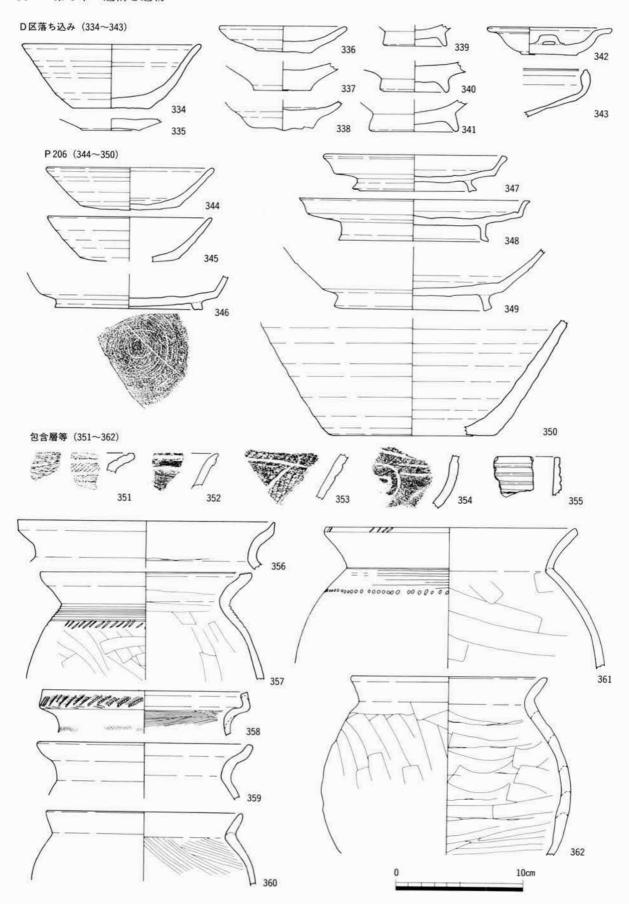


第60図 遺物実測図(13)

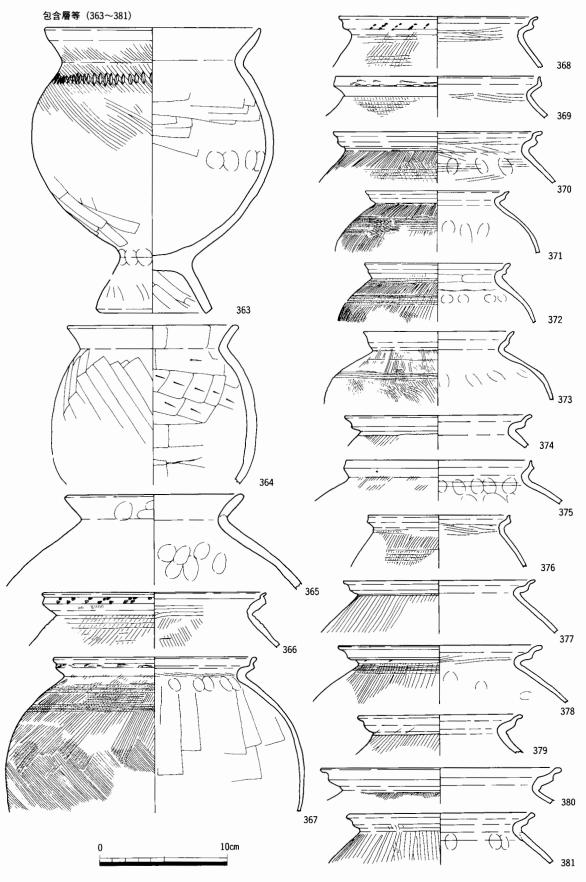


第61図 遺物実測図(14)

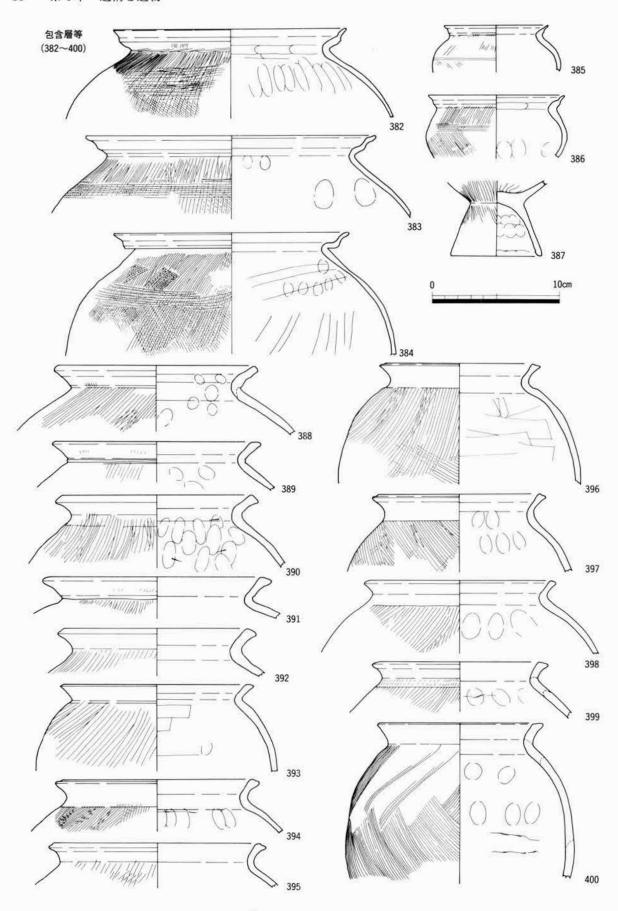




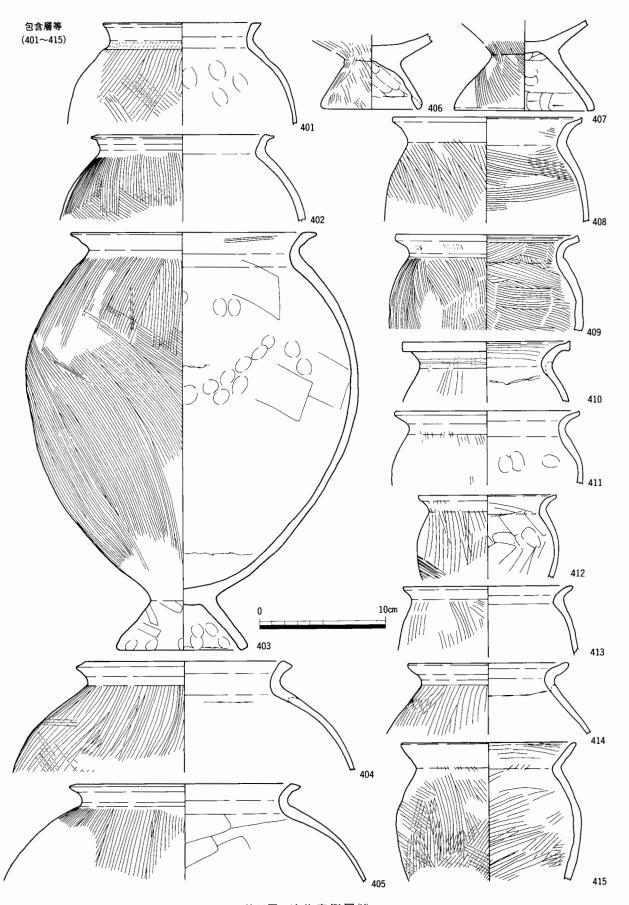
第63図 遺物実測図(16)



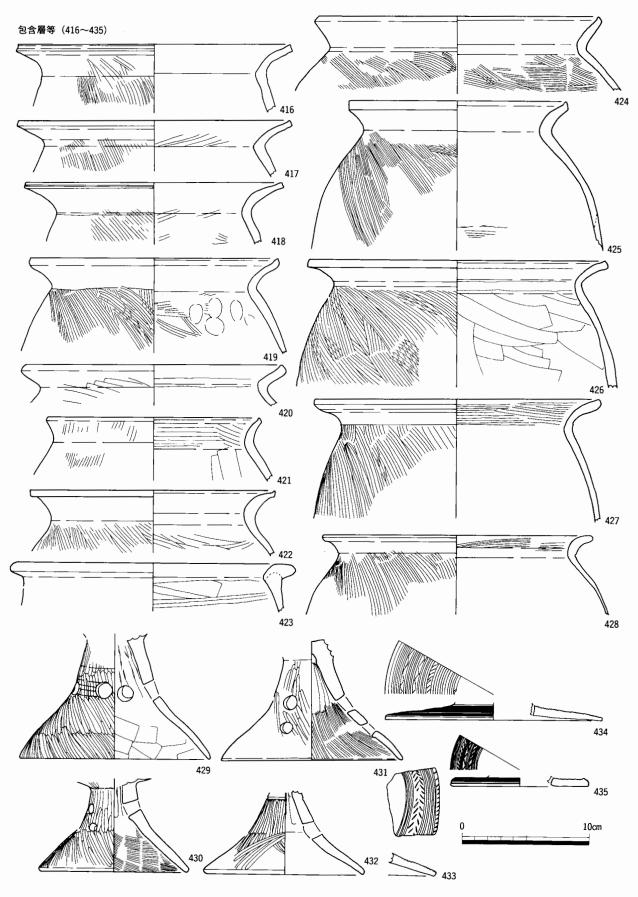
第64図 遺物実測図(17)



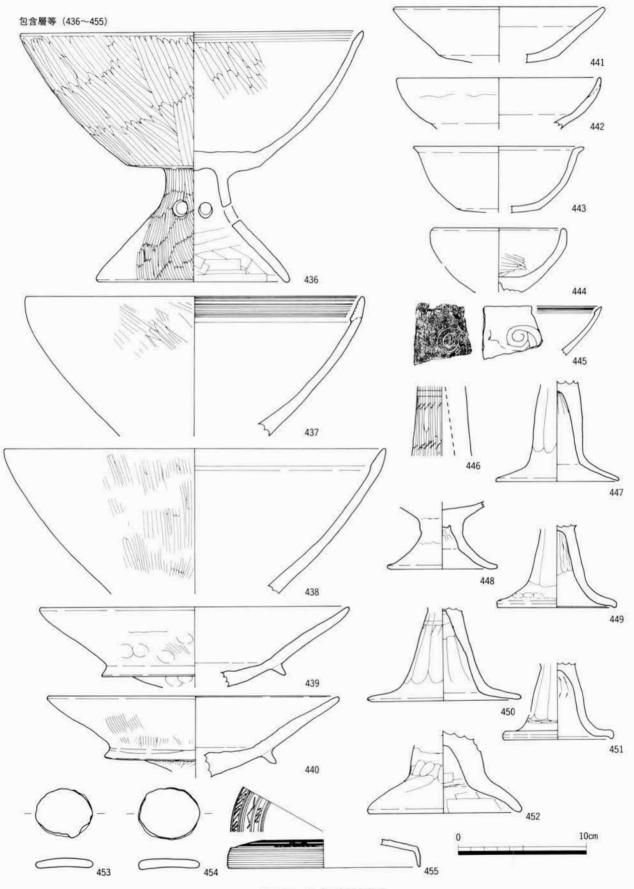
第65図 遺物実測図(18)



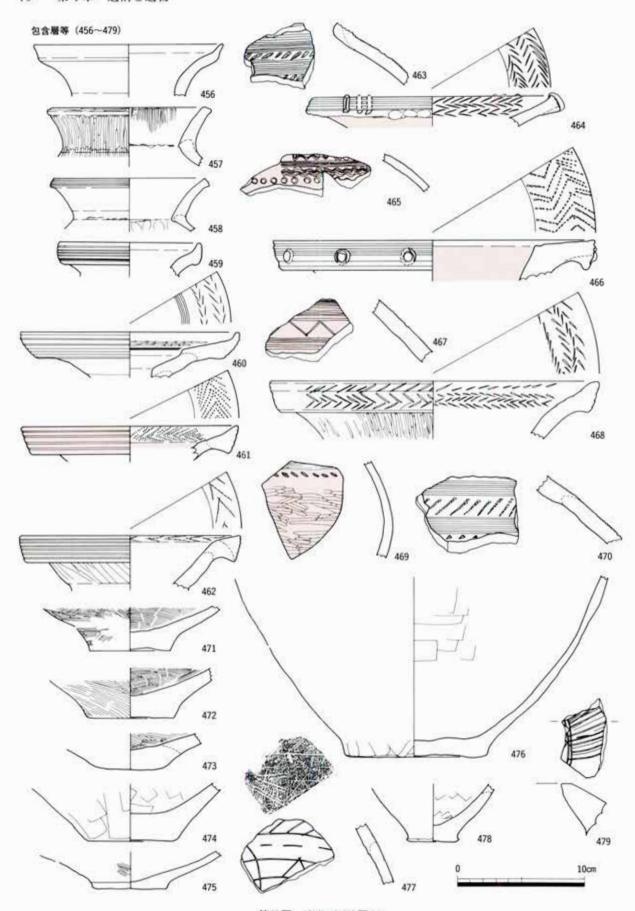
第66図 遺物実測図(19)



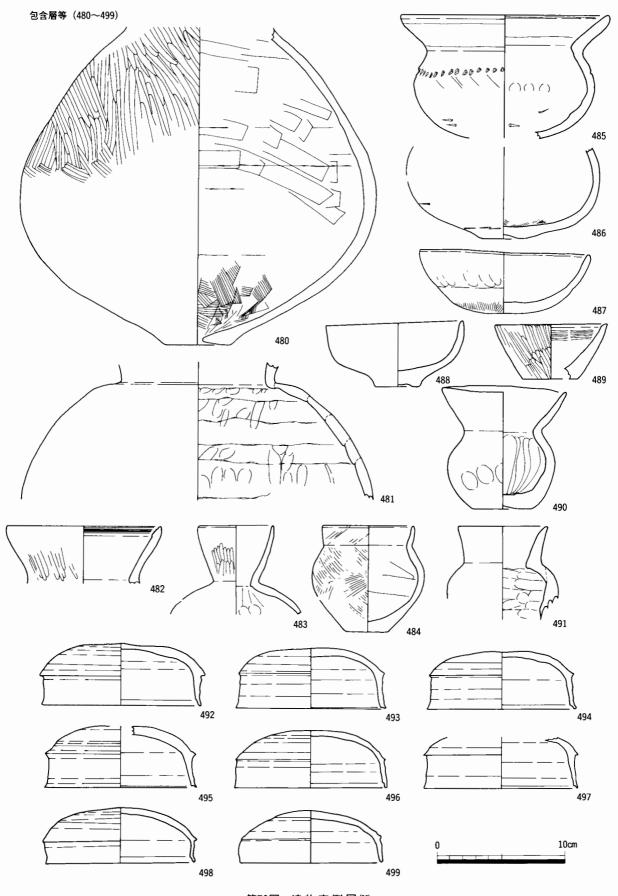
第67図 遺物実測図(20)



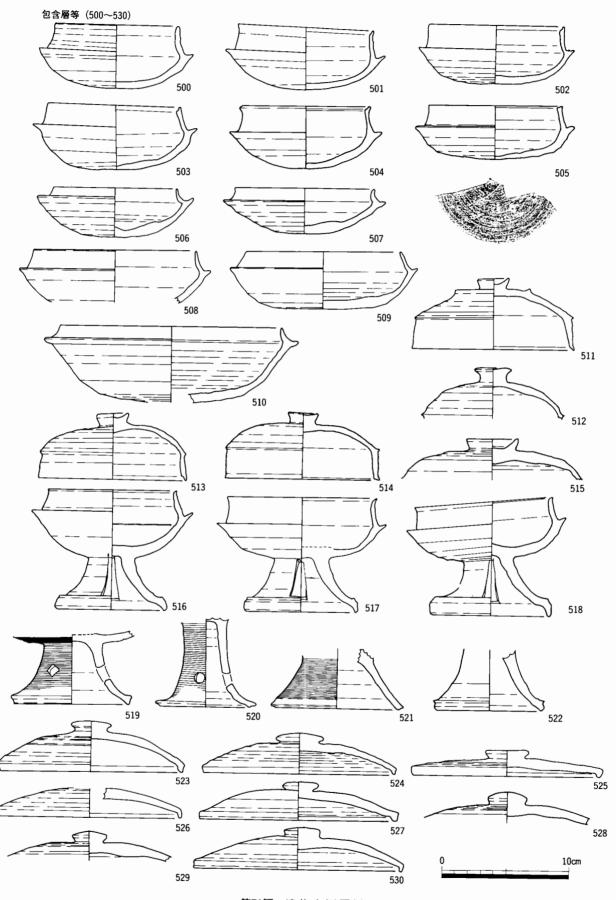
第68図 遺物実測図(21)



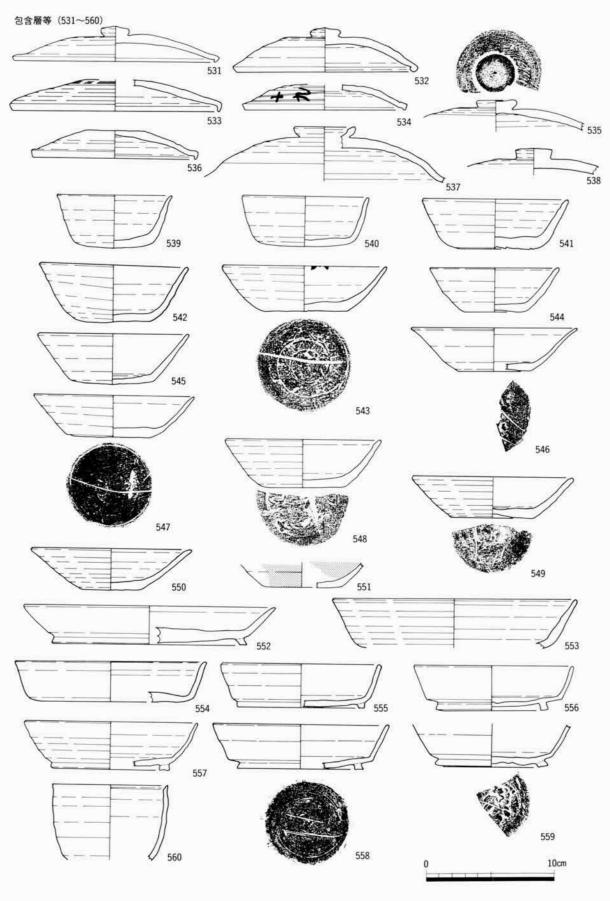
第69図 遺物実測図22



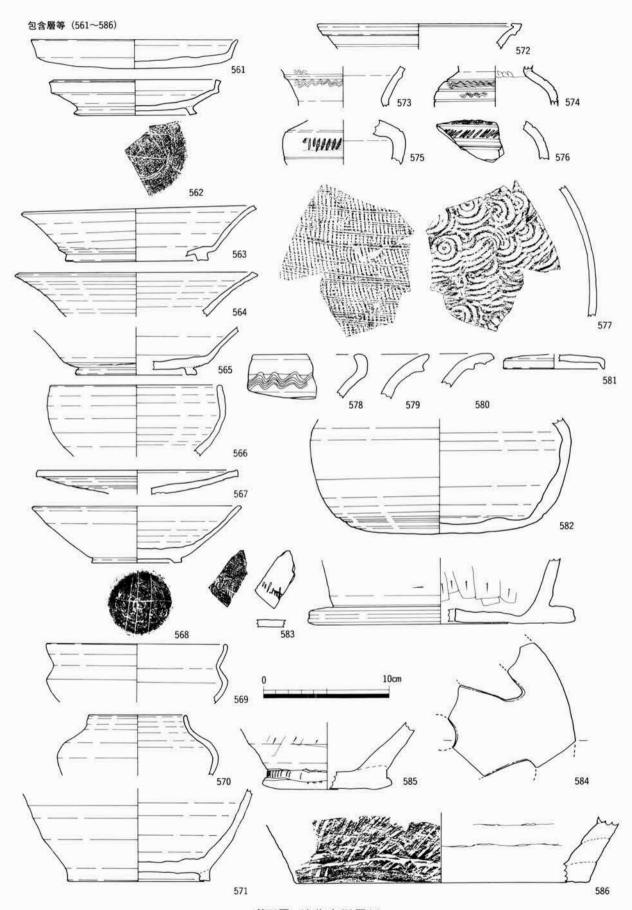
第70回 遺物実測図(23)



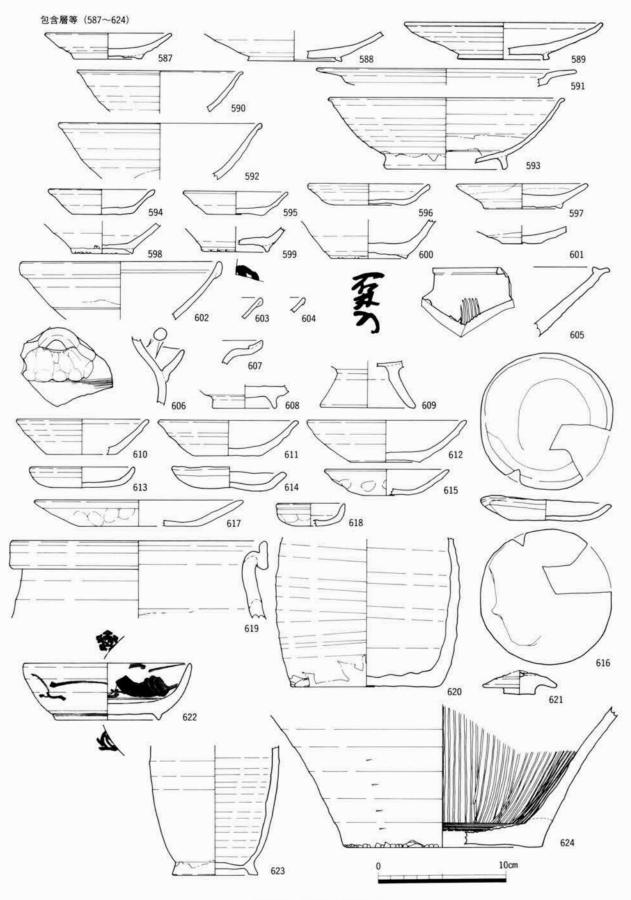
第71図 遺物実測図(24)



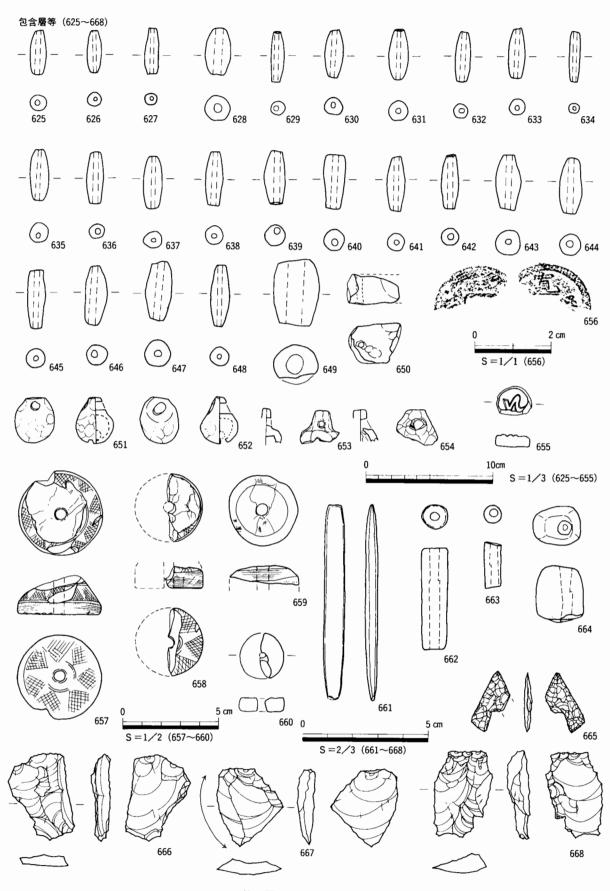
第72図 遺物実測図(25)



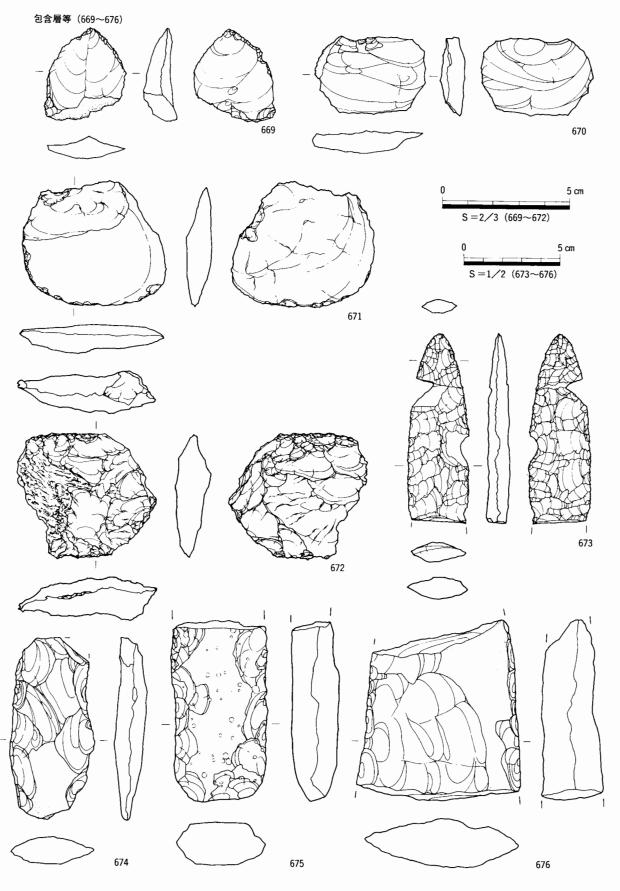
第73図 遺物実測図(26)



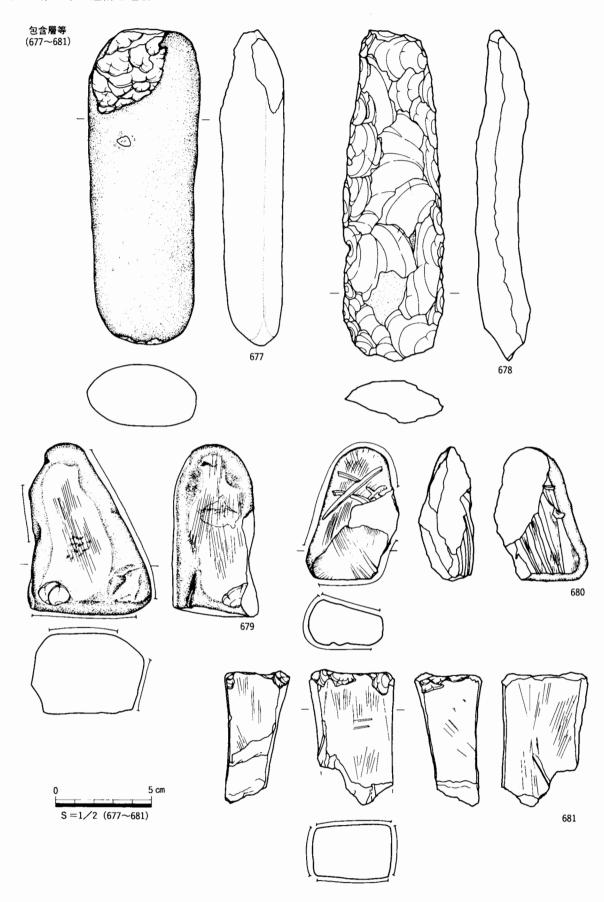
第74図 遺物実測図(27)



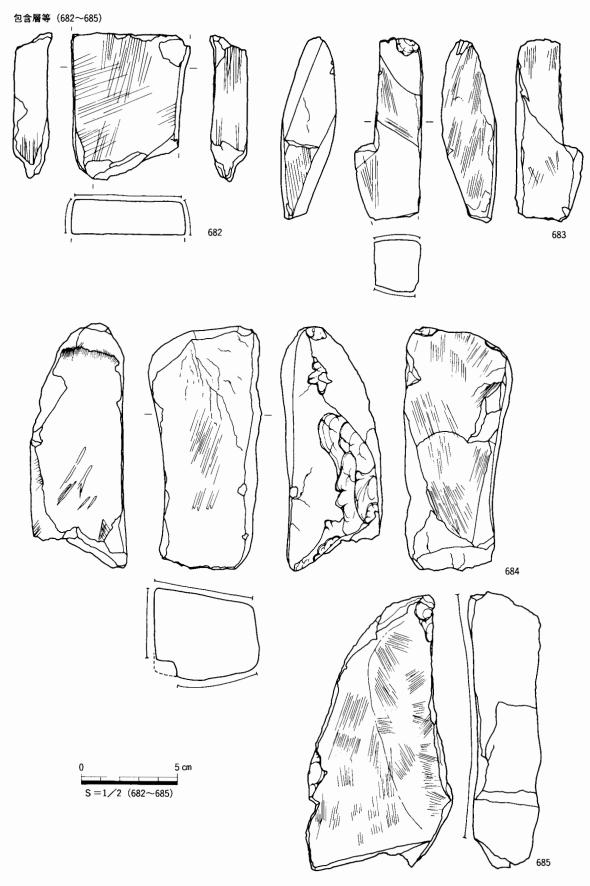
第75図 遺物実測図(28)



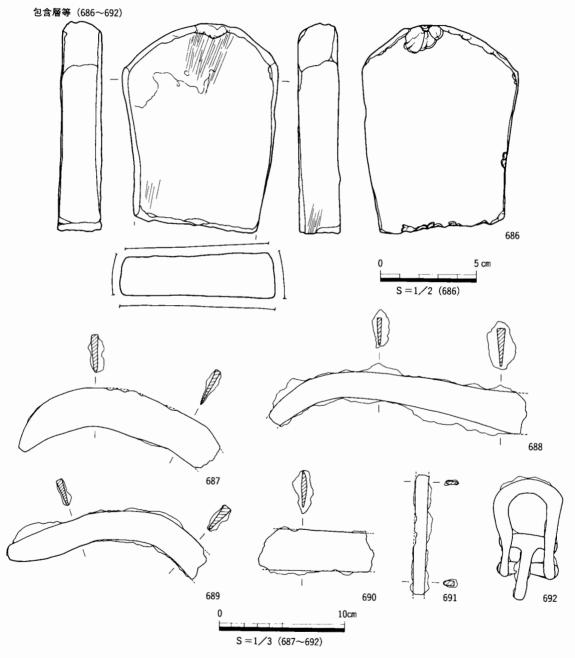
第76図 遺物実測図(29)



第77図 遺物実測図(30)



第78図 遺物実測図(31)



第79図 遺物実測図(32)

遺構一覧表•遺物観察表

遺構一覧表

- 1、切り合い関係で、A>BはAがBを切る、A<BはAがBに切られることを示す。
- 2、土坑一覧表の埋土の欄で、A→BはBの上にAが堆積していることを示す。
- 3、土坑一覧表の規模は現存値を示す。
- 4、土坑一覧表の出土遺物の欄で、◎は30片以上、○は10~29片、△は 1~9 片出土していることを示す。

遺物一覧表

- 1、法量で()があるものは推定値を示す。
- 2、色調の対象とした部位は断面であり、個体が完形の場合は内面である。
- 3、胎土中の混和材の識別は、肉眼観察による。
- 4、灰釉陶器のうち明らかに美濃産といえる個体は、産地、時期の欄に(美濃)と記入した。
- 5、須恵器の法量のうち、口高は口縁部高、受径は受部径、た高はたちあがり高、つ径はつまみ径を示す。

第2表 竪穴住居一覧表

第2表	竪ヶ	で住居ー	- 寛表									
No.	グリット	形態	長軸×短軸×深さ (m)	床面 積(m²)	主軸方位	周講	溝状の 掘り込み	貼床	炉・カマド	切り合い関係	挿図 No.	図版 No.
SB1	G 3	方形	$- \times 3.80 \times 0.20$	_	N-19°-E					>SB2·19·SK45	7	3
SB2	G 3	方形	$- \times 3.40 \times 0.15$	_	N-28°-W					>SB3·19 <sb1< td=""><td>7</td><td>3</td></sb1<>	7	3
SB3	G 3	方形	$-\times-\times0.15$	_	N-26°- E					<sb2.5< td=""><td>7</td><td>3</td></sb2.5<>	7	3
SB4	欠番	_		_	_						_	_
SB5	G 4	方形	$-\times-\times0.20$		N-26°-E					>SB3	7	3
SB6	G 5	方形	$- \times 3.15 \times 0.15$	_	N-21°- E				有?		8	3
SB7	D 7	方形	$-\times-\times0.25$	_	N-24°-E					>SB26·54 <sb17·25< td=""><td>9</td><td>1</td></sb17·25<>	9	1
SB8	F 5	方形	$- \times 4.20 \times 0.10$	_	N-19°-E				有?(北壁寄)		10	3
SB9	E 5	_	カマドのみ検出	-	N-36°-E				有		11	3
SB10	E 2	方形	$-\times-\times0.15$		N-43°-W			有	有(南壁)	>SB11 <sk30< td=""><td>12</td><td>4</td></sk30<>	12	4
SB11	F 2	方形	$-\times-\times0.20$	_	N-19°-W				有(中央)	<sb10< td=""><td>12</td><td>4</td></sb10<>	12	4
SB12	D 3	方形	$- \times 6.70 \times 0.15$	_	N-10°-W					<sk29·30< td=""><td>13</td><td>4</td></sk29·30<>	13	4
SB13	欠番	_		_	_				-	>SB22·23		
SB14	E 3	正方形	$2.80 \times 2.70 \times 0.15$	6.5	N-26°- E			有		>SB15	15	5
SB15	E 3	長方形	$4.00 \times 3.20 \times 0.25$	_	N-2°-E			有		<sb14·sk29< td=""><td>15</td><td>5</td></sb14·sk29<>	15	5
SB16	D 4	長方形	$3.85 \times 3.35 \times 0.35$	_	N-28°-E			有		<sk34< td=""><td>16</td><td>5</td></sk34<>	16	5
SB17	C 7	方形	$-\times-\times0.30$	_	N-20°-E					>SB7·24·25	9	1
SB18	E 5	正方形	$4.00 \times 3.80 \times 0.20$	_	N-29°-E				有(中央北東寄)		11	5
SB19	F 3	長方形	$4.35 \times 3.20 \times 0.15$	_	N-25°-W			有	有(北東壁寄)	>SK45 <sb1·2< td=""><td>7</td><td>3</td></sb1·2<>	7	3
SB20	D 6	長方形	$5.50 \times 4.60 \times 0.15$	_	N-30°-E					>SB22•24•25	17	5
SB21	F 3		炉のみ検出	_	_				有(東壁)	<sb13·20·23< td=""><td>7</td><td>5</td></sb13·20·23<>	7	5
SB22	E 6	方形	$-\times-\times0.15$		N-32°- E				有(北壁)	>SB22·54 <sb23< td=""><td>18</td><td>1</td></sb23<>	18	1
SB23	E 6	方形	$- \times 4.15 \times 0.15$	_	N-16°-E					>SB25 <sb17·20< td=""><td>18</td><td>1</td></sb17·20<>	18	1
SB24	D 7	方形	$-\times-\times0.20$	_	N-30°-E					>SB7·54 <sb17·20·24< td=""><td>17</td><td>1</td></sb17·20·24<>	17	1
SB25	D 7	長方形	$- \times 3.20 \times 0.30$	_	N-31°-E					>SB55 <sb7·28·54< td=""><td>9</td><td>1</td></sb7·28·54<>	9	1
SB26	D 8	不明	$-\times-\times0.30$	_	_			有	有(東壁)	>SB7·54 <sb17·20·24< td=""><td>19</td><td>6</td></sb17·20·24<>	19	6
SB27	E 7	方形	$- \times 5.65 \times 0.10$	_	N-14°-E		有		有(中央)	>SB56 <sb54.55< td=""><td>20</td><td>1</td></sb54.55<>	20	1
SB28	D 8	方形	$-\times-\times0.20$	-	N-28°-E			有		>SB26·55·57	19	1
SB29	F 7	方形	$- \times 4.15 \times 0.15$	_	N-15°-E					>SB30·SK139	21	1
SB30	F 7	不明	$-\times-\times0.15$	_				有		>SB31·32 <sb29·sk139< td=""><td>21</td><td>1</td></sb29·sk139<>	21	1
SB31	F 8	方形	$- \times 5.30 \times 0.15$		N-15°-E					<sb29·30·32< td=""><td>21</td><td>6</td></sb29·30·32<>	21	6
SB32	F 8	方形	$-\times-\times0.15$	_	N-9°-E	有?			有(中央南寄)	>SB31·33 <sb30< td=""><td>21</td><td>6</td></sb30<>	21	6
SB33	F 9	台形?	$-\times-\times0.30$		_			有	,	>SB49 <sb32< td=""><td>22</td><td>6</td></sb32<>	22	6
SB34	E 9	方形	$-\times6.55\times0.15$	_	N-21°-E			有?	有?(中央北寄)	<sb35·37·49< td=""><td>23</td><td>6</td></sb35·37·49<>	23	6
SB35	D 9	方形	$-\times-\times0.15$	-	N-8°-E					>SB34·37 <sb36< td=""><td>23</td><td>6</td></sb36<>	23	6
SB36	D 9	方形?	$-\times-\times0.15$	_	N-15°-E			有	有(中央)	>SB35·37 <sb51·sk121< td=""><td>24</td><td>6</td></sb51·sk121<>	24	6
SB37	D10	長方形	$5.10 \times 4.10 \times 0.10$	_	N-17°-E					>SB34 <sb35·36·38< td=""><td>23</td><td>7</td></sb35·36·38<>	23	7
SB38	D11	方形	$-\times-\times0.15$	_	N-2°- E				有(中央北寄)	>SB37·41a <sb44·45< td=""><td>25</td><td>7</td></sb44·45<>	25	7
SB39	D 7	正方形	$- \times 4.50 \times 0.20$		N-17°-W					<sb53·sk98< td=""><td>26</td><td>7</td></sb53·sk98<>	26	7
SB40	F10	台形?	$-\times5.10\times0.20$	_	N-36°-E			有	有(北壁)	<sb41a 43="" sk141="" ·=""> SB41b · 46 · 50</sb41a>	27	1
SB41a	D11	不明	$-\times-\times0.10$	_	N-0°					>SB41a·40·46 <sb38·45< td=""><td>28</td><td>7</td></sb38·45<>	28	7
SB41b	E11	方形	$- \times - \times -$	_	N-0°		有		有(中央西寄)	<41a·46·50	28	7
SB42	欠番	_		_							_	_
SB43	F11	_	未掘	_	_					>SB40·46	30	_
SB44	C 12	方形	$- \times 5.40 \times 0.20$	_	N-14°-E					>SB38·52·SK129 <sb45< td=""><td>29</td><td>8</td></sb45<>	29	8
SB45	D12	長方形	$6.20 \times 4.65 \times 0.15$	25.0	N-4°-W				有?(中央北寄)	<sb38·41a·44·47·sk129< td=""><td>29</td><td>8</td></sb38·41a·44·47·sk129<>	29	8
SB46	F11	方形	$- \times 6.15 \times 0.10$		N-3°-E		有		有(中央西寄)	<sb40-41a-43-sk116-141>SB41b-50</sb40-41a-43-sk116-141>	30	8
SB47	E 13	長方形	$7.00 \times 5.05 \times 0.25$	35.0	N-3°-W			有		<sb45.sk116>SB48.50</sb45.sk116>	31	8
SB48	D13	正方形	$6.40 \times 6.05 \times 0.20$	34.1	N-0°			有	有(中央北寄)	<sb47-52-sk111-112-113-131-132< td=""><td>32</td><td>2</td></sb47-52-sk111-112-113-131-132<>	32	2
SB49	F 9	台形	$-\times-\times0.30$					有 _	有(中央)	>SB34 <sb33< td=""><td>22</td><td>6</td></sb33<>	22	6
SB50	E 12	長方形	$6.30 \times 7.25 \times 0.25$	40.9	N-0°		有		有(中央西寄)	<\$B46.47.\$K116.141 >\$B41b	33	9
SB51	C 9	不明	$-\times-\times0.20$	_	N-28°-E			有		>SB36	24	9
SB52	C 13	方形?	$-\times-\times0.25$	_	_					>SB48 <sb44·sk129< td=""><td>29</td><td>2</td></sb44·sk129<>	29	2
SB53	D 7	正方形	$4.40 \times 4.40 \times 0.15$	18.0	N-36°-W		有		有(中央)	<sk98>SB39</sk98>	26	7
0200	~ .				N-24°-E			有	有(中央南寄)	>SB26·27·55 <sb7·20·23·< td=""><td>9</td><td>6</td></sb7·20·23·<>	9	6
SB54	D 7	方形	$-\times-\times0.20$		14 24 15					25		
$\overline{}$		方形	- ×5.00×0.30	_	N-22°-E			有		>SB27·56·57 <sb26·28·54< td=""><td>19</td><td>6</td></sb26·28·54<>	19	6
SB54	D 7			_				有			19 20 19	6 1

第3表 土坑一覧表(1)

第3表	土坑一	·覧表(1)						
.,	グリ	777.15	Im 1	ŧ)	IN A . HE /	ile I Nasti.
No.	ッド	形状	埋土	長軸	短軸	深さ	切り合い関係	出土遺物
SK1	G 3	円形	茶褐色土→灰茶褐色土	73.0			>SB1	○土師器 △須恵器
SK2	欠番							
SK3	G 4	円形	茶褐色土→灰茶褐色土	110.0	100.0	33.0		○土師器 △須恵器 △山 茶碗 △常滑
SK4	G 5	円形	褐灰色砂質土→明褐色 砂質土→褐灰色砂質土	125.0	118.0	24.0	>P34	○土師器 ○須恵器 △山 茶碗
SK5	G 5	円形	灰茶褐色土→褐色土	65.0		12.0	-	△土師器
SK6	G 6	円形	茶褐色土→褐色土	110.0	103.0	11.0		○土師器 △須恵器 △山 茶碗
SK7	G 6	円形	茶褐色土	85.0				△土師器
SK8	G 6	円形	にぶい黄褐色砂質土→ 褐灰色差質土→黒褐色 土	140.0	135.0	16.0		○土師器 △須恵器 △灰 釉陶器 ○山茶碗 ○土師 器皿
SK9	G 6	円形	明茶褐色土→茶褐色土 灰茶褐色土	155.0	130.0	30.0		○土師器 △須恵器 ○山 茶碗
SK10	F 4	楕円形	茶褐色土→灰茶褐色土	95.0	90.0	15.0	<sd1< td=""><td>△土師器 △山茶碗</td></sd1<>	△土師器 △山茶碗
SK11	E 3	不定形	灰茶褐色土	150.0		37.0		
SK12	E 2	不定形	灰黄褐色砂質土→褐色 砂質土	80.0	73.0	17.0	<sb12•p68< td=""><td></td></sb12•p68<>	
SK13	E 4	隅丸長方形	灰茶褐色土→茶褐色土	95.0			1-24	○土師器
SK14	E 4	円形	茶褐色砂質土→茶褐色土	110.0	105.0	11.0	-	○土師器 △須恵器
SK15	欠番	巨士亚	17 Ht 18 / 1	115.0		10.0		
SK16	E 4	長方形	灰茶褐色土	115.0		10.0		○土師器 △灰釉陶器
SK17 SK18	D 4	円形 円形	灰茶褐色砂質土	68.0	105.0	4.0	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	○土師器 △山茶碗
SK18	D 4	円形	明茶褐色土→茶褐色土 黒褐色土 			10.0	>SK24 • P84	○土師器 △須恵器 △灰 釉陶器
SK19 SK20	D 4	格円形	灰茶褐色土→茶褐色土	77.0	67.0 100.0		>SR24.P84 >SB16	○土師器 △山茶碗 ○土師器 △須恵器
SK20	E 4	情円形 精円形	明茶褐色土→暗茶褐色土 灰茶褐色土	95.0		8.0		○土師器 △灰釉陶器
SK21	E 4	117 (7)/2	八条何已工	95.0	00.0	0.0	\SK24	△山茶碗
SK22	E 5	楕円形	灰茶褐色土	90.0	65.0	6.0		○土師器
SK23	E 5	楕円形	黄褐色土→灰茶褐色土 暗褐色土	80.0				
SK24	E 5	長方形	黄褐色土→灰茶褐色土	180.0	105.0	17.0	<sk19>SK21</sk19>	
SK25	F 6	円形	灰茶褐色土	85.0	65.0	13.0		○土師器
SK26	欠番							
SK27	D 4	円形	灰色土	100.0			<p96< td=""><td>◎土師器 ○須恵器</td></p96<>	◎土師器 ○須恵器
SK28	G 1	不定形	褐色土		100.0			○土師器 △須恵器 △灰 釉陶器
SK29	E 3	楕円形	黄褐色砂質土→褐色砂 質土→暗褐色砂質土→ 灰黄褐色砂質土					◎土師器 ○須恵器 ○灰 釉陶器 ○山茶碗 ○古瀬 戸 ○土師器皿
SK30	D 2	長方形	茶褐色土→暗茶褐色土	330.0	220.0	34.0	<sb12< td=""><td>◎土師器 △須恵器</td></sb12<>	◎土師器 △須恵器
SK31	欠番							
SK32	欠番							
SK33	F 3	不定形	褐色砂質土→にぶい褐 色砂質土	105.0		25.0		○土師器 ○須恵器
SK34	D 4	権円 増ま 巨土形	DD-₩-₩-₽-!	130.0		16.6		A LATER CONTRACTOR
SK35	E 6	隅丸長方形			55.0	7.0		◎土師器 △須恵器
SK36 SK37	E 7 D 8	長方形 長方形	明茶褐色土一类褐色土		102.0	13.0		◎土師器
SK37 SK38	E 8	展力形 隅丸長方形	明茶褐色土→黄褐色土 明茶褐色土		107.0 110.0	4.0 15.0		○土師器 △須恵器 △須恵器 △須恵器
SK39	D 8	円形	黄褐色土→灰褐色土		$\frac{110.0}{113.0}$	20.0		○土師器 △灰釉陶器 △山茶碗
SK40	D 8	隅丸長方形	黄褐色土→茶褐色土	110.0	57.0	8.0		○土師器
SK41	D 8	隅丸長方形		116.0		19.0	-	○土師器 △須恵器
SK42	D 8	楕円	灰褐色砂質土→褐色砂 質土	62.0		20.0		◎土師器 ○須惠器
SK43	C 7	円形	茶褐色土→灰褐色土	78.0	73.0	不明		◎土師器
SK44	D15	不定形	暗褐色砂質土			10.0		
SK45	G 2	不定形	褐色土	150.0	105.0	10.0	>SB1·2·19	

第4表 土坑一覧表(2)

77 T 1X		見(人)						
No	グリ	IIV TE	TH -T-		見模(cm)	切れ人、間ぼ	11.1.1.144.4.
No.	ッド	形状	埋土	長軸	短軸	深さ	切り合い関係	出土遺物
SK46	D 6	不定形			150.0	12.5		
SK47	E 9	長方形	暗褐色砂質土	120.0		70.0		○土師器 △須恵器 △灰
OILTI		L J //	相传已矽其工	120.0	05.0	10.0		租陶器 △山茶碗 △土師
				ļ				器皿 △中国磁器
SK48	F 8	不定形	暗褐色砂質土	70.0	55.0	70.0		◎土師器 △須恵器
SK49	E 9	長方形	暗褐色砂質土	60.0		29.0		◎土師器 △須恵器
SK50	F10	長方形	黄褐色土	55.0		14.0		○土師器 △近世陶磁器
SK51	E10	円形	黄褐色土	50.0	50.0	7.0	<p184< td=""><td>○土師器 △須恵器</td></p184<>	○土師器 △須恵器
SK52	F11	楕円形	黄褐色土	160.0		23.0	1101	○土師器 △須恵器
SK53	E11	長方形	暗褐色砂質土	65.0	45.0	11.0		○土師器 △須恵器
SK54	D14	不整円形	黄褐色土	55.0	55.0	19.0	< P293	○土師器 △須恵器
SK55	D14	不定形	暗褐色砂質土	40.0	25.0	15.0	<p296< td=""><td> △土師器 △ 土師器</td></p296<>	△土師器 △ 土師器
SK56	D14	不定形	暗褐色砂質土	40.0	20.0	10.0	1 290	△土師器
SK57	D14	不定形	暗褐色砂質土		25.0	8.0		△土師器
SK58	E14	長方形	暗褐色砂質土	100.0			<p587< td=""><td>○土師器</td></p587<>	○土師器
SK59				55.0		5.0	< P387	
SK59 SK60	F13	長方形	暗褐色砂質土	35.0	30.0	9.0	> Dc00	○土師器 △須恵器
SK60	D15	不定形	暗褐色砂質土	110.0	70.0	22.0	>P620	△土師器 △須恵器 △灰
CIZCI	C14	不告形	压力各心新工	F0 0	15.0	10.0		釉陶器 △山茶碗
SK61	C14	不定形	灰白色砂質土	50.0	15.0	12.0		△土師器 △近世陶磁器
SK62	E11	円形	暗褐色砂質土	40.0				
SK63	D10	楕円形	暗褐色砂質土	32.0	30.0	22.0		○土師器
SK64	C 13	不定形	暗褐色砂質土	35.0	20.0	10.0		○土師器
SK65	C 13	長方形	暗褐色砂質土	30.0	30.0	13.0		○土師器
SK66	D14	不定形	灰白色砂質土	55.0	40.0	18.0		○土師器
SK67	C14	長方形	暗褐色砂質土	85.5	50.0	9.0	<p423< td=""><td>○土師器</td></p423<>	○土師器
SK68	C 14	不定形	灰白色砂質土	45.0	20.0	14.0	<u> </u>	△土師器 △山茶碗
SK69	C14	不定形	灰白色砂質土	75.0	25.0	13.0		△土師器
SK70	C14	不定形	灰白色砂質土	60.0		10.0		△土師器 △須恵器
SK71		隅丸長方形	灰白色砂質土	65.0		21.0		7776
SK72	D14	楕円形	にぶい黄褐色土→灰黄	70.0	25.0	11.0	<p461< td=""><td>○土師器</td></p461<>	○土師器
01112	DII	187 3/12	褐色砂質土	70.0	20.0	11.0	1 101	
SK73	C 14	楕円形	灰白色砂質土	40.0	25.0	13.0		7
SK74	C14	不定形	灰白色砂質土	55.0	30.0	9.0	< P458	
SK75	F 20	長方形	暗褐色砂質土	50.0	15.0	20.0	<sk76< td=""><td>△須恵器</td></sk76<>	△須恵器
SK76	F19	正方形	灰白色砂質土	60.0	60.0	13.0	<p476>SK75·77</p476>	△近世陶磁器
SK77	F19	不定形	暗褐色砂質土	35.0	25.0	18.0	<sk76< td=""><td></td></sk76<>	
SK78	E 19	楕円形	灰白色砂質土	75.0		65.0	VOIC10	△土師器 △山茶碗 △近世陶磁器
SK79	E13	長方形	灰白色砂質土	60.0	40.0	28.0		乙二即品 乙山宋州 乙戊巴阿城市
SK80	E17	不定形	灰白色砂質土	75.0	40.0	11.0		^ I 07 85 ^ I 61 7/2 85
SK81	E 17	不定形	灰白色砂質土	110.0		9.0		△土師器 △灰釉陶器
SK82	D17	不定形	灰白色砂質土	50.0	30.0	8.0		△土師器 △山茶碗
SK83	D16	不定形	灰白色砂質土	50.0		9.0		A CONTRACT OF THE CONTRACT OF
SK84	D16	不定形	灰白色砂質土		20.0			△土師器 △灰釉陶器 △土師器皿
SK85	E 15	不定形	暗褐色砂質土		45.0			△土師器 △近世陶磁器
SK86	B 15	円形	灰白色砂質土	35.0				○土師器 △須恵器
SK87	B15	不定形	暗褐色砂質土	150.0	110.0	105.0	< SK86	○土師器 △須恵器 △灰釉陶器
SK88	B16	不定形	灰白色砂質土	120.0				△土師器
SK89	C16	不定形	灰白色砂質土	75.0	20.0	14.0		△土師器 △山茶碗 △近
			2 21					世陶磁器
SK90	C 15	不定形	暗褐色砂質土	100.0	70.0	21.0		○土師器 △須恵器
SK91	D15	楕円形	暗褐色砂質土	35.0		15.0		△土師器
SK92	D17	不定形	灰白色砂質土	50.0		8.0		,
SK93	B18	不定形	灰白色砂質土		170.0	50.0	>P525	△須恵器 △灰釉陶器 ○
Ç1130	1010	1 AEAD	// I I I I I I I I I I I I I I I I I I	110.0	1.0.0	00.0	- 1020	山茶碗 ○常滑 △古瀬戸
								△中国磁器 ○土師器皿
SK94	E 16	不定形	暗褐色砂質土	75.0	45.0	21.0		○土師器 △須恵器 △山茶碗
SK95	B17	不定形	暗褐色砂質土	100.0		7.0		
SK96	C10	不定形	灰白色砂質土	50.0			>P371	
SK97	E11	不定形	暗褐色砂質土		45.0			
SK98	D13	円形	灰黄褐色砂質土		100.0	11.0	>SB39·53	◎土師器
SK99	C 13	円形		131.0		30.0	> 0D09-00	◎土師器
SK99	C 13	1370	喧灰東色砂質工→灰東 褐色砂質土	131.0	121.0	30.0		○ Thh tit
SK100	B15	円形	1910万月上			65.0	<p586< td=""><td>○土師器 △須恵器 △山茶碗</td></p586<>	○土師器 △須恵器 △山茶碗
217100	D 19	17/2_				00.0	\ I 000	OTHER TOWNS THE THE

第5表 土坑一覧表(3)

弗 5 表	エルー	夏表(3)			_			
	グリ	T/11	Im I	力	規模(cm)	1= 10 A BB /*	all a settled
No.	ッド	形状	埋土	長軸	短軸	深さ	切り合い関係	出土遺物
SK101	B15	楕円形	-	90.0				
SK101	C15	→ 福円形 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	灰白色砂質土	90.0				
SK102	欠番	作门ルシー		90.0	33.0	20.3		
SK103	欠番			 				
SK104	B14	椿円形	黄褐色土	60.0		10.0		
SK105	B14		黄褐色土	95.0		50.0		△土師器
SK100	C14		暗褐色砂質土	140.0		6.0	>P606	○土師器 △山茶碗
SK107	欠番	区分形	相同已沙貝工	140.0	00.0	0.0	>1000	○工師## △田茶が
SK108	欠番	 	·					
SK109	C14	楕円形	暗褐色砂質土	110.0	60.0	8.6	<p641< td=""><td></td></p641<>	
SK110	D14	円形	灰白色砂質土	95.0		59.0	VI 041	○土師器
SK111	C14	長方形	褐灰色砂質土	198.0		70.0	<sk113< td=""><td>○土師器 △須恵器 △山</td></sk113<>	○土師器 △須恵器 △山
SK112	C 14	区方形	褐灰色砂真工	190.0	90.0	70.0	\SK113	茶碗
SK113	C14	長方形	灰黄褐色砂質土→にぶ い黄褐色砂質土→褐灰 色砂質土	188.0	73.0	30.0	>SK112 < P651	○土師器 △須恵器
SK114	D13	楕円形	灰黄褐色砂質土	90.0	66.0	40.0		○土師器
SK115	F 6	正方形		90.0				◎土師器 ○須恵器
SK116	欠番			1	- 3.0			◎土師器
SK117	G 7	長方形		114.0	34.0	13.0		
SK118	G 7	長方形		132.0				△土師器 △須恵器
SK119	F 9	不定形	にぶい黄褐色砂質土→ 褐灰色土	114.0		22.0		○土師器
SK120	F10	不定形			104.0	19.0		◎土師器
SK121	D 9	長方形		220.0		17.0		○土師器
SK122	D 9	長方形		144.0				◎土師器
SK123	D11	正方形		94.0				○土師器 △須恵器
SK124	F10	円形		70.0		20.0		○土師器
SK125	F11	不定形	にぶい黄褐色砂質土→ 褐灰色砂質土→灰褐色 砂質土	188.0	92.0	16.0		◎土師器 △須恵器
SK126	D12	長方形		124.0	62.0	17.0	< P747	○土師器
SK127	$\overline{D12}$	円形	にぶい黄褐色砂質土	110.0		28.0		○土師器
SK128	欠番							
SK129	D12		灰黄褐色砂質土	180.0	100.0	15.0		
SK130	D12		にぶい黄褐色砂質土	100.0		20.0		
SK131	C 13		褐灰色砂質土	98.0	86.0	20.0		△土師器
SK132	D13		にぶい黄褐色砂質土	90.0	64.0	5.0		○土師器
SK133	D12		にぶい黄褐色砂質土	76.0		28.0		○土師器
SK134	D12	楕円形	にぶい黄褐色砂質土	104.0	76.0	20.0		
SK135	E 13			90.0	50.0	40.0		
SK136	F13			112.0		9.0	<p786< td=""><td>△土師器</td></p786<>	△土師器
SK137	F13		_		70.0			△土師器
SK138	E 14			178.0	106.0	18.0	<p680>P681</p680>	△土師器
SK139	F 7	正方形			115.0			○土師器
SK140	D 8	正方形			190.0			◎土師器 △須恵器 △灰釉陶器
SK141	F10	不定形		J385.0	345.0	10.0		
AX	T	1	I min by	T				
SK1		方形	黒褐色土→暗褐色土→ 黒褐色土		220.0	28.0		△山茶碗 ◎近世陶磁器
SI 1		方形	砂礫		120.0	20.0		△山茶碗
SI 2		不定形	にぶい黄褐色砂質土		172.0			△土師器 ○山茶碗 △古 瀬戸 ○常滑 △土師器皿
SI 3		不定形	砂礫	400.0		41.0		△山茶碗
SI 4		不定形	砂礫	550.0		42.0	_	○山茶碗 △常滑 △土師 器皿
SI 5		不定形	砂礫	590.0				○山茶碗 △土師器皿
SI 6		不定形	砂礫	500.0				△山茶碗 △常滑
SI 7		不定形	砂礫	630.0		42.0		△土師器 △山茶碗 △土 師器皿
SI 8		不定形	砂礫	560.0	40.0	14.0		△山茶碗 △常滑 △土師 器皿
SX1	<u></u>	不定形	砂礫			30.0		○土師器 ○山茶碗

第6表 主な遺構出土遺物集計表(1) [A 口縁残存率(X/12)、B 口縁破片数(接合後)、C 破片数合計(接合前)]

	器種	A	В	C
SB 1		1 -2		
土師器	受口甕 2 a	1.4	1	
	受口甕 2 b	2.0	2	
	字田型甕	1.0	1	
	頸部外反甕B	2.0	2	
	高坏A a	3.9	1	
	高坏A b	5.0	5	
	高坏A c	1.0	1	
	合計	16.3	13	589
須恵器	坏身A	2.6	3	
	坏身B	0.5	1	
	合計	3.1	4	13
SB 2				
上師器	高坏A a	2.4	2	
	広口壺 6	3.2	2	
	鉢B	12.0	1	
	合計	17.6	5	65
SB 3		1,00,707		
土師器	受口甕 3 a	1.0	1	
	く字甕 2	1.0	1	
	く字甕4	3.3	2	
	宇田型甕	1.0	1	
	頸部外反甕B	2.0	1	
	高坏A b	3.0	3	
	高坏B2	1.0	1	
	パレス壺1	1.0	1	
	広口壺1	1.3	1	
	合計	14.6	12	299
須恵器	盖A	0.4	1	200
Or res tur	合計	0.4	1	5
SB 4	欠番	0.4	I	- 0
SB 5	У СЩ			
土師器	S字甕B	1.2	1	
	高坏Ab	1.0	1	
	合計	2.2	2	82
須恵器	蓋A	0.6	1	02
A CONTRACT	合計	0.6	1	2
連房	合計	0.0	1	1
理房 SB 6	[PD 01			- 1
土師器	受口甕 2 a	1.2	1	
	く字甕4	12.0	1	
	高坏Ab	1.0	1	
	高小A D 広口壺 1	1.0	1	_
			1	
	中小型壺1	2.8	-	
	中小型壺 2	12.0	1	100
. I Mr vals A	合計	30.0	6	196
山茶碗A	合計	0.4	1	1
SB 7	点口罐 9 b	2.0	2	
土師器	受口甕2b	2.0	105,1	
	宇田型甕	2.0	2	
	高坏Ab	1.0	1	ore
Zac ste no	合計	5.0	5	257
須恵器	蓋A	0.5	1	- 2
an :	合計	0.5	_ 1	2
SB 8	- Laborate :	1.0		
土師器	く字甕 4 S字甕 B	1.8	1	
		1 1 0		

	器種	A	В	С
	S字甕C	1.0	1	
	宇田型甕	1.0	1	
	高坏Aa	1.0	1	
	高坏A b	4.0	1	
	広口壺1	12.0	4	
	合計	21.8	10	333
須恵器	合計	21.0	2.0	2
SB 9	12.01			
上師器	受口甕2b	1.0	1	
	S字甕0?	1.0	1	
	高坏A b	1.0	1	
	合計	3.0	3	6
須恵器	蓋A	1.2	2	1.50
A JOS HIL	坏身B	7.1	10	
	蓋B	3.9	3	
	盤?	1.6	1	
	合計	13.8	16	21
E-801-F3		13.0	10	
上製品	土錘			1
SB10	ு பண்டி	1.0	1	
上師器	受口甕2a 受口甕2b	1.0	1	
		1.0	1	
	〈字甕4	1.0		
	S字甕B	1.0	1	
	高坏Ab	4.0	4	
	広口壺1	1.2	1	7723
	合計	9.2	9	493
SB11	of make o	1 1 0 1	- 1	
土師器	受口甕 2 a	1.0	1	
	受口甕 2 b	1.0	1	
	受口甕 3 a	4.0	4	
	く字甕1	1.3	1	
	〈字甕 2	2.0	2	
	く字甕 4	10.1	10	
	S字甕A	2.0	2	
	S字甕B	1.0	1	
	高坏Ab	7.0	7	
	高坏Ac	9.0	9	
	高坏B2	1.0	1	
	器台A1	1.0	1	
	器台A2	2.0	2	
	器台B1	1.0	1	
	パレス壺?	1.0	1	
	パレス壺 4	1.0	1	
	パレス壺 6	1.2	1	
	広口壺1	2.2	1	
	中小型壺 2	1.4	1	
	Company of the Compan	-	1	
	鉢B3	1.5		846
Cost of the Hill	合計	51.7	49	040
須恵器	坏身B	0.5	1	
. La-ble rate A	合計	0.5	1	2
山茶碗A	合計			- 2
SB12 上面 92	受口甕1	1.3	1	
土師器		12.0	6	
	受口甕2a			
	受口甕2b	5.0	5	
	受口甕2 c	1.0	1	
	受口甕 3 a	5.1	4	

第7表 主な遺構出土遺物集計表(2) [A 口縁残存率(X/12)、B 口縁破片数(接合後)、C 破片数合計(接合前)]

			0.210	
	器 種	A	В	С
	く字甕1	6.5	2	
	〈字甕3	1.5	1	
	〈字甕 4	2.0	2	
	高坏Aa	13.3	4	
	高坏A b	38.4	37	
	高坏A d	9.6	1	
	高坏B2	13.5	11	
	器台A1	1.0	1	
	器台A2	23.4	2	
	広口壺 3	5.3	1	
	中小型壺 2	2.9	2	
	鉢A1	12.9	4	
	土玉	12.0	1	
	不明	1.0	1	
	合計	167.7	87	1441
須恵器	坏身B	1.2	1	1991
ACASA THE	合計	1.2	1	2
灰釉陶器	合計	0.4	1	
山茶碗A		0.4	1	1
土師器皿	合計	0.0	- 10	1
工。中市农务加工	合計	0.8	1	
SB13		0.8	1	2
SB14	欠番			
弥生土器	- 2 2	-		1
土師器	受口甕 2 a	1.0	1	- 1
	受口甕 2 e	1.0	1	
	受口甕 3 a	1.0	1	
	〈字甕4	4.0	4	
	S字甕A	1.0	1	
	S字甕B			
	字田型甕	4.0	4	
	高坏A b	2.0	2	
	The state of the s	5.0	5	
	パレス壺4	1.0	1	
	中小型壺1	12.0	1	000
Apri also mar	合計	32.0	21	888
須恵器	蓋A	1.7	2	
	坏身B	1.2	2	
TY SI BA- DD	合計	2.9	4	15
灰釉陶器	合計	0.4	1	1
石器·石製品	合計	1 1		1
SB15	2 Heads 4	1.0 -		
土師器	〈字甕4	10.5	7	
	S字甕A	2.0	2	
	S字甕B	2.0	2	
	宇田型甕	4.5	4	
	高坏A 3	5.3	1	
	高坏A 4	1.2	1	
	高坏Aa	1.0	1	
	高坏A b	3.0	3	
	鉢B2	2.5	1	
Cat she pro	合計	32.0	22	436
須恵器 CD16	合計			2
SB16	ஃப ஷ் 0 c			
土師器	受口甕 2 a	7.5	5	
	受口甕 2 b	3.0	3	
	受口甕 3 a	2.3	2	
	受口甕3b	1.0	1	

	器種	A	В	C
	く字甕1	1.0	1	
	く字甕2	1.0	1	
	く字甕 4	3.0	2	
	S字甕A	5.0	2	
	S字甕B	4.0	4	
	頸部外反甕A	1.3	1	
	頸部外反甕B	7.2	7	-
	高坏Aa	3.0	3	
	高坏Ab	22.5	22	
	高坏Ac	10.0	10	
	高坏B2	2.6	2	
	広口壺1	1.0	1	
	中小型壺 2	1.2	1	
	合計	76.6	68	1528
須恵器	坏身B			1528
2月芯 福	and the second s	3.0	2	
	蓋B	0.9	1	-
wearn weakers	合計			17
石器·石製品	合計	1		2
SB17	of mate of 1	1		
土師器	受口甕 2 b	1.3	1	
	〈字甕4	4.0	2	
	S字甕A	1.0	1	
	高坏Aa	2.0	2	
	高坏A b	3.0	3	
	不明	1.0	1	
	合計	12.3	10	344
須恵器	魏	0.8	1	
	合計	0.8	1	4
山茶碗B	合計	0.3	1	1
SB18	+			
土師器	受口甕2 c	1.0	1	
	受口甕3 a	2.0	2	
	く字甕 4	3.0	3	
	S字甕B	5.0	5	
	頸部外反甕A	2.6	2	
	頸部外反甕B	5.0	3	
	高坏A a	1.2	1	
	高坏A b	5.0	5	
	高坏Ac	1.0	1	
	中小型壺 2	1.0	1	
	不明	1.0	1	
	合計	27.8	25	1015
須恵器	蓋A	2.6	4	-010
	蓋B	1.1	1	
	合計	3.7	5	34
山茶碗B	24 111	0.4	1	34
100 A 4 A 100 A 100 A	合計	0.4	1	4
石器·石製品	合計	0.4	1	1
SB19	1			1
上師器	S字甕B	3.0	3	
	高坏A b	5.0	5	
	有陵高坏	1.0	1	
	合計	9.0	9	330
須恵器	合計	0.0	3	2
SB20				4
	菱	1.0	1	
		7.50		

第8表 主な遺構出土遺物集計表(3) [A 口縁残存率(X/12)、B 口縁破片数(接合後)、C 破片数合計(接合前)]

ALLES ACTIVES - PORTER CO	器種	A	В	С
	受口甕2a	1.0	1	- 0
	〈字甕4	1.0	1	
	S字甕 0	3.2	3	
	S字號A	-	4	
	Security and the second control of the secon	4.0	-	
	S字甕B	5.4	4	
	S字甕C	1.0	1	
	S字甕D	1.0	1	
	宇田型甕	4.0	4	
	頸部外反甕A	6.2	6	
	頸部外反甕B	5.0	4	
	高坏A b	3.0	3	
	高坏B3	3.3	3	
	柳ケ坪型壺1	1.0	1	
	不明	1.0	1	
	合計	41.1	38	1996
須恵器	坏身A	2.0	6	
or at Marketina	蓋A	0.7	2	
	坏身B	9.4	11	
	蓋B	4.4	5	
	鉢		3	
		2.3	27	110
FT: SLPET ILD	合計	18.8	21	113
灰釉陶器 SB21	一一一一一			1
土師器	頸部外反甕B	1.0	1	
	合計	1.0	1	79
須恵器	蓋B	12.0	3	
77.65 1111	合計	12.0	U	62
土製品	土錘			5
SB22	_L.FE		A A S S S S S S S S S S S S S S S S S S	· ·
土師器	受口甕 2 b	1.0	1	
	〈字甕 4	3.0	3	
	頸部外反甕A	1.0	1	
	高坏A3	1.0	1	
	高坏A b	2.0	2	
	高坏B3	1.0	1	
		_		904
रख सर प्राप	合計	9.0	9	284
須恵器 SB23	合計			- 6
土師器	く字甕 2	2.0	2	
	〈字甕 4	1.0	1	
	S字甕B	3.8	2	
	S字甕C	3.0	3	
		_		
	宇田型甕	4.0	4	
	頸部外反甕B	2.0	2	
	高坏Aa	1.0	1	
	高坏A b	5.0	5	
	高坏B3	1.0	1	
	有稜高坏	1.2	1	
	広口壺3	1.3	1	
	柳ケ坪型壺1	1.0	1	
	不明	1.0	1	
	合計	27.3	25	1183
須恵器	坏身A	0.9	1	
	蓋A	2.6	5	
		0.5	2	
	坏身B	0.0		
	遊B	0.3	1	

	器種	A	В	C
	鉢	1.6	1	
	合計	6.0	11	45
SB24				
土師器	S字甕B	1.0	1	
	中小型壺1	1.0	1	
	合計	2.0	2	18
須恵器	坏身B	2.9	4	
	蓋B	2.0	1	
	鉢	0.6	1	
	合計	5.5	6	15
SB25				
土師器	受口甕1	2.0	2	
	受口甕 2 a	1.0	1	
	頸部外反甕A	1.0	1	
	高坏Ab	5.0	5	
	広口壺1	1.0	1	
	合計	10.0	10	29
須恵器	坏身B	0.6	1	
	合計	0.6	1	
SB26				
土師器	受口甕 2 b	1.0	1	
	受口甕 3 a	2.0	2	
	受口甕3b	1.0	1	
	く字甕 4	2.0	2	
	S字甕B	2.0	1	
	高坏A a	4.0	4	
	高坏A c	3.5	3	
	高坏B3	1.0	1	
	広口壺 5	1.0	1	
	広口壺 6	1.0	1	
	合計	17.5	17	263
須恵器	合計			
灰釉陶器		1.2	1	
	合計	1.2	1	
SB27				
土師器	受口甕1	1.0	1	
	S字甕B	2.0	1	
	頸部外反甕A	1.0	1	
	高坏A a	2.0	2	
	高坏A b	4.0	4	
	高坏Ac	2.0	2	
	広口壺1	1.5	1	
	Jan		12	283
	수計	13.5		200
須重畏	合計 坏身B	13.5		
須恵器	坏身B	0.9	2	
須恵器	坏身B 蓋B	0.9	2 3	
須恵器	坏身B蓋B壺?	0.9 2.3 1.0	2 3 1	2
	坏身B 蓋B 壺? 合計	0.9 2.3 1.0 4.2	2 3 1 6	
山茶碗A	坏身B蓋B壺?	0.9 2.3 1.0	2 3 1	
山茶碗A SB28	坏身B 蓋B 壺? 合計 合計	0.9 2.3 1.0 4.2 0.3	2 3 1 6 1	
山茶碗A	坏身B 蓋B 壺? 合計 合計 受口斃1	0.9 2.3 1.0 4.2 0.3	2 3 1 6 1	
山茶碗A SB28	坏身B 蓋B 壺? 合計 合計 受口甕1 受口甕2 a	0.9 2.3 1.0 4.2 0.3	2 3 1 6 1	
山茶碗A SB28	坏身B 蓋B 壺? 合計 合計 受口甕1 受口甕2 a 受口甕2 c	0.9 2.3 1.0 4.2 0.3 2.0 1.0	2 3 1 6 1	
山茶碗A SB28	坏身B 蓋B 壺? 合計 合計 受口甕1 受口甕2 a 受口甕2 c 〈字甕2	0.9 2.3 1.0 4.2 0.3 2.0 1.0 1.4	2 3 1 6 1 2 1 1	
山茶碗A SB28	坏身B 蓋B 壺? 合計 合計 受口甕1 受口甕2 a 受口甕2 c 〈字甕2 〈字甕4	0.9 2.3 1.0 4.2 0.3 2.0 1.0 1.4 1.0 4.6	2 3 1 6 1 1 2 1 1 1 4	27
山茶碗A SB28	坏身B 蓋B 壺? 合計 合計 受口甕1 受口甕2 a 受口甕2 c 〈字甕2	0.9 2.3 1.0 4.2 0.3 2.0 1.0 1.4	2 3 1 6 1 2 1 1	

第9表 主な遺構出土遺物集計表(4) [A 口縁残存率(X/12)、B 口縁破片数(接合後)、C 破片数合計(接合前)]

SB29	器種	A	В	С
土師器	高坏A b	2.0	2	
T bih 494	高坏A D 広口壺 5	3.6	1	
	and the first of the contract		-	
	鉢B	1.0	1	101
Cat who ma	合計	6.6	4	101
須恵器	合計			1
山茶碗B	合計			1
SB30	D. Sharete /s			
上師器	〈字甕4	1.0	1	
	S字甕B	1.0	1	
	高坏A b	1.0	1	
	高坏B1	1.0	1	
	高坏B3	2.3	2	
	広口壺1	1.7	1	
	合計	8.0	7	76
須恵器	坏身B	0.6	1	
	合計	0.6	1	5
SB31				
土師器	受口甕 2 b	1.2	1	
	〈字甕 2	1.0	1	
	〈字甕 4	1.0	1	
	S字甕A	1.0	1	
	頸部外反甕A	1.7	1	
	高坏A b	2.0	2	
	高坏A c	1.0	1	
	広口壺1	1.0	1	
	合計	9.9	9	126
須恵器	合計			1
SB32	1.0.01			-
土師器	受口甕1	1.0	1	
- A-P-P-III	受口甕 3 b	1.0	1	
	〈字甕 4	5.0	5	
	S字甕A	2.0	2	
	S字甕B	3.7	3	
	宇田型甕	1.0	1	
	高坏Ab	3.0	3	
	The Control of the Co		_	
	高坏Ac	4.0	4	
	高坏B3	2.0	2	
	パレス壺 4	1.0	1	
	中小型壺 2	1.0	1	100
Cur - L- mm	合計	24.7	24	422
須恵器	蓋A	1.2	2	
	合計	1.2	2	6
土製品	土錘			1
SB33				
土師器	〈字甕1	10.5	2	
	高坏Aa	3.4	2	
	高坏A b	1.0	1	
	器台A1	1.3	1	
	パレス壺 6	1.0	1	
	合計	17.2	7	102
SB34				
土師器	受口甕 2 a	1.0	1	
	受口甕3a	1.0	1	
	く字甕 4	2.0	2	
	S字甕B	2.0	2	
		15.0	7	

	器種	A	В	С
	高坏Ac	1.0	1	
	合計	21.0	13	737
須恵器	蓋A	1.6	2	- 1.01
24.70.1111	坏身B	9.1	6	
	蓋B	3.4	3	
	はそう	0.8	2	
	鉢	1.1	1	
	新E	1.2	1	
	合計	17.2	15	39
SB35	1 13 11	11.6	10	J
土師器	受口甕3a	1.0	1	
T. hip thr	S字甕B	1.0	1	
	S字甕D	1.0	1	
	頸部外反甕A	3.2	2	
		_	2	
	高坏A b	2.0		201
Zac yłe uni	合計	8.2	7	361
須恵器	坏身B	9.4	2	
CDoc	合計	9.4	2	(
SB36 土師器	of the stern	1 1 0	1	
二.604元	受口甕 1 受口甕 3 a	1.0	1	
		3.7		_
	〈字甕1	5.5	1	
	く字甕 2	5.2	5	
	〈字甕4	1.0	1	
	S字甕B	8.0	1	
	S字甕C	1.0	1.	
	高坏B1	1.6	1.	
	器台A1	1.4	1	
	パレス壺 2	3.4	2	
	広口壺 2	1.0	1	
	鉢A1	2.0	1	
	合計	34.8	17	380
須恵器	坏身B	0.8	1	
	合計	0.8	1	2
SB37				
土師器	S字甕A	1.0	1	
	S字甕B	1.0	1	
	頸部外反甕A	4.0	4	
	高坏A a	1.0	1	
	合計	7.0	7	324
須恵器	坏身B	0.3	1	
	蓋B	0.5	1	
	合計	0.8	2	8
SB38				
土師器	受口甕 2 b	1.0	1	
	受口甕3 a	2.0	2	
	〈字甕1	1.0	1	
	S字甕B	1.0	1	
	頸部外反甕A	2.6	2	
	高坏A b	3.0	3	
	高坏Ac	1.0	1	
	器台A2	2.4	2	
	柳ケ坪型壺	1.2	1	
	合計	15.2	14	318
須恵器	合計	20.0		1
SB39	1 - 1			
土師器	受口甕 2 c	1.0	1	

第10表 主な遺構出土遺物集計表(5) [A 口縁残存率(X/12)、B 口縁破片数(接合後)、C 破片数合計(接合前)]

	器種	A	В	C
	受口甕3a	1.2	1	
	高坏Aa	1.0	1	
	高坏A b	1.0	1	
	高坏Ac	1.0	1	
	合計	1.0	.1	136
SB40	1 12 01			190
土師器	受口甕 2 a	1.0	1	
1. pip fur	受口甕 2 b	1.0	1	
		The State of	2	
	受口甕3 a	2.0	1,100	
	〈字甕 2	2.0	2	
	S字甕B	2.0	2	
	宇田型甕	3.8	1	
	頸部外反甕A	30.6	9	
	高坏A b	3.0	3	
	高坏B3	1.2	1	
	パレス壺 2	1.2	1	
	広口壺1	2.0	2	
	広口壺 2	1.0	1	
	鉢	1.2	1	
	合計	52.0	27	692
須恵器	蓋B	0.3	1	
	合計	0.3	1	
SB41				
土師器	受口甕3a	1.0	1	
	〈字甕4	1.0	1	
	S字甕B	4.7	3	
	高坏Aa	2.0	2	
	高坏A b	2.2	2	
	パレス壺1	12.0	1	
	合計	22.9	10	158
須恵器	合計	66.5	10	150
SB42	欠番			
SB43	未掘			
SB44	луш			
土師器	受口甕 2 b	2.2	2	
T- hih pit	受口甕3a	2.6	2	
		2.0	2	_
	高坏A b			_
	高坏A c	1.0	1	
	器台A1	1.5	1	
	合計	9.3	8	149
石器·石製品	合計			1
SB45	I a patro i	1		
土師器	受口甕 2 b	4.0	4	_
	受口甕3 a	1.0	1	
	く字甕1	1.0	1	
			1	
	く字甕 2	1.0		
	く字甕4	2.0	2	
	く字甕 4 S字甕 A	2.0 1.0		
	く字甕4	2.0	2	
	く字甕 4 S字甕 A	2.0 1.0	2	
	〈字甕 4 S字甕 A S字甕 B	2.0 1.0 1.0	2 1 1	
	〈字甕 4 S字甕 A S字甕 B 高坏 A a	2.0 1.0 1.0 2.0	2 1 1 2	
	〈字甕 4 S字甕 A S字甕 B 高坏 A a 高坏 A b	2.0 1.0 1.0 2.0 4.2 1.0	2 1 1 2 4	
	〈字甕 4 S字甕 A S字甕 B 高坏 A a 高坏 A b 高坏 A c 器台 A 1	2.0 1.0 1.0 2.0 4.2 1.0	2 1 1 2 4 1	
	〈字甕 4 S字甕 A S字甕 B 高坏 A a 高坏 A b 高坏 A c 器台 A 1 パレス壺 3	2.0 1.0 2.0 4.2 1.0 1.0 4.2	2 1 1 2 4 1 1	
	〈字甕 4 S字甕 A S字甕 B 高坏 A a 高坏 A b 高坏 A c 器台 A 1	2.0 1.0 1.0 2.0 4.2 1.0	2 1 1 2 4 1	

, D High	破斤致(接合後)、C	110000000000000000000000000000000000000	TOMBOOK PERSON TRANSPORTATION OF THE P.					
Zac ata un	器種	A	В	C				
須恵器	坏身A	0.5	1	1				
山茶碗A	合計	0.3	1	1				
SB46	- Province as							
土師器	高坏A b	1.0	_ 1					
	有稜高坏	1.0	1					
	器台A1	1.0	1	300.000				
	合計	3.0	3	219				
SB47	l me andre a livi	144.01	-					
土師器	受口甕 2 a	11.3	1					
	受口甕 2 b	2.5	2					
	受口甕 3 a	3.0	3					
	〈字甕4	6.5	5					
	S字甕 0	5.9	5					
	高坏Ab	26.5	24					
	高坏Ac	1.0	1					
	高坏B1	1.0	1					
	高坏B2	2.0	2					
	鉢B1	11.2	2					
	手焙り形土器	1.3	1	0.0				
CDIO	合計	72.2	47	819				
SB48	Ø → WE O 1	100	0					
土師器	受口甕 2 b	2.0	2					
	受口甕2 d	3.0	3					
	受口甕3a	4.0	4					
	高坏Ab	7.0	7	_				
	高坏B2	2.0	2					
	器台A1 中小型壺1	1.0	1					
	合計	20.2	20	321				
SB49	[11,0]	20.2	20	321				
土師器	受口甕1	1.0	1					
-1-1-P III	受口甕3 a	3.2	3					
	宇田型甕3	12.0	1					
	頸部外反甕A	4.4	1					
	高坏A b	3.0	3					
	高坏B3	8.0	1					
	有稜高坏	6.0	1					
	広口壺 3	2.0	1					
	鉢B 4	12.0	1					
	合計	51.6	13	356				
SB50								
土師器	受口甕1	1.0	1					
	受口甕 2 a	4.3	4					
	受口甕 2 b	1.2	1					
	受口甕 3 a	1.0	1					
	受口甕 3 b	1.0	1					
	く字甕3	11.3	1					
	く字甕 4	2.0	2					
	S字甕A	4.0	4					
	高坏A a	1.0	1					
	高坏A b	8.0	8					
	高坏A c	4.3	4					
	有稜高坏	2.0	2					
	有稜高坏	1.0	1					
	器台A1	2.5	2					
	パレス壺1	1.0	1					
	パレス壺3	1.2	1					

第11表 主な遺構出土遺物集計表(6) [A 口縁残存率(X/12)、B 口縁破片数(接合後)、C 破片数合計(接合前)]

	器種	A	В	С
	中小型壺1	4.0	2	
22.1.11	合計			706
須恵器	合計			5
石器·石製品	合計			2
SB51	of mate o	100	0.1	
土師器	受口甕 3 a	2.0	2	
	〈字甕 2	1.0	1	
	〈字甕4	4.7	1	
	〈字甕5	1.5	1	
	S字甕A	1.0	1	
	高坏Aa	1.6	1	
	高坏Ab	5.2	5	_
	パレス壺 2	1.0	1	
	中小型壺 2	4.3	4	
	鉢B	2.4	1	
	蓋?	12.0	1	100
子 與 子 動口	合計	41.0	19	199
石器·石製品	合計]
SB52 弥生土器	合計	1 1		-
土師器	受口甕 2 b	1.0	1	
工,即中省等	く字甕 4		1000	
	S字甕D	1.0	1	
	字田型甕	1.1	1	
		2.0	2	
	高坏Ab	1.0	1	70
देश चीर प्रथ	合計	6.1	6	72
須恵器	坏身B	0.8	1	
	蓋B	1.4	1	_
7* BB 7* #d Cl	合計	2.2	2	- 5
石器·石製品 SB53	合計]
土師器	く字甕 4	1.0	1	
T- եսի դոբ	S字甕A	2.5	1	
		-		
	高坏Ab	3.0	3	_
	中小型壺1	1.0	1	
	鉢B	1.0	1	_
	鉢B1	5.1	1	110
CD#4	合計	13.6	8	140
SB54 土師器	7 == NE 0	1 2 0 1	0.1	
工,即中在社	く字甕 2 く字甕 4	2.0	2	
	宇田型甕	2.0		_
	子田至號 器台A1	1.0	1	
	器台B4	3.0	3	
	広口壺1			_
	中小型壺 2	1.0	1	
		1.0	1	210
海市県	合計	12.4	11	310
須恵器	坏身A	0.8	1	
	坏身B	0.5	1	
	碗	0.3	1	-
SB55	合計	1.6	3	6
0000	夢口練り で	1411	11	
	受口甕 2 c	4.1	1	_
	受口甕 3 a	1.0	1	
	〈字甕 2	3.2	2	
	S字甕A	4.3	1	
	宇田型甕	1.0	1	

器種	A	В	С	
頸部外反甕B	1.0	1		
高坏A b	1.2	1		
高坏Ac	7.4	7		
合計	23.2	15	122	
坏身B	4.7	2		
蓋C	5.6	1		
合計	10.3	3	7	
器台A2	1.0	1		
合計	1.0	1	9	
高坏A b	3.0	3		
合計	3.0	3	22	
S字甕B	18.9	5		
高坏A b	1.0	1		
合計	19.9	6	44	
	 頸部外反甕B 高坏A b 高坏A c 合計 本身B 蓋C 合計 器台A 2 合計 高坏A b 合計 S字甕B 高坏A b 	類部外反甕B 1.0 高坏A b 1.2 高坏A c 7.4 合計 23.2 坏身B 4.7 蓋C 5.6 合計 10.3 器台A 2 1.0 合計 1.0 高坏A b 3.0 合計 3.0 S字甕B 18.9 高坏A b 1.0	顕部外反甕B 1.0 1 高坏A b 1.2 1 高坏A c 7.4 7 合計 23.2 15 坏身B 4.7 2 蓋C 5.6 1 合計 10.3 3 器台A 2 1.0 1 合計 1.0 1 高坏A b 3.0 3 合計 3.0 3 S字甕B 18.9 5 高坏A b 1.0 1	

第12表 遺物観察表(1)

挿図	整理	遺構	器種	ì	去量(cm)	整形、調整	胎土	色 調	残存率	その他	attin mtwo
番号	番号	退件	66年里	口径	底径	器高	寒ル、神栓	т Т	色調	(X/12)	その他	産地、時期
1	215	SB1	土師器 高坏A1a	(24.8)			内外面斜めミガキ	密、径 1 m以下のチャートをわずかに含む	灰白色~灰色	口縁 3.9		
2	178	SB1	土師器 高坏脚部				脚部外面縦ミガキ	密、径1m以下のチャートをわずかに含む	浅黄橙色		2孔2組4穿孔	
3	613	SB 1	須恵器器台?				外面回転へラ削り	やや粗、径1m以下 の長石をわずかに含む	オリーブ黒色		2条の突帯の間に線 刻	
4	239	SB 2	土師器 広口壺 6	(12.4)			頸部内外面横ナデ	やや粗、径 2 m以下 の石英、チャートを 多く含む	にぶい黄橙色	口縁 2.2	頸部外面煤付着、口 縁端部に刻み	北陸系?
5	280	SB 2	土師器 鉢B	(4.0)	1.8	5.6	体部外面指圧、底部 外面ケズリ	やや粗、径1m以下 の長石、チャートを 幾つか含む	にぶい黄橙色~ 黒色	口縁 1.2 底部12.0		
6	237	SB 3	土師器 く字甕 4	(11.6)				やや粗い、径1mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く	にぶい黄橙色	口縁 2.3		
7	299	SB 3	土師器 頸部外反甕 B3?	(16.0)			頸部内外面横ナデ	密、径3 m以下の長 石、チャートを幾つ か含む	にぶい褐色	口縁 2.0	頸部内外面煤付着	
8	371	SB 6	土師器 中小型壺1	7.5	2.6	14.7	頸部~体部内面上方 横ミガキ、体部内面 下方横ナデ、頸部 ~体部外面斜めミガ キ	やや粗、径1m以下 のチャートをわずか に含む	浅黄橙色~黑褐色	口縁12.0 底部12.0	体部外面下方煤付着	
9	284	SB 6	土師器 中小型壺 2	(7.6)			頸部外面縦ミガキ、 頸部内外面下方横ナ デ	密、径1mm以下の微 砂粒をわずかに含む	灰色	口縁 2.8	口縁部外面沈線 5 条	
10	209	SB 6	土師器 甕脚台A		(8.0)		台部内面横ナデ	密、径1㎜以下のチャートをわずかに含む	暗灰色	底部 1.9		
11	378	SB 6	土師器 く字甕 4	13.0	7.4	20.4	口縁部内外面横ナデ 体部内面斜めナデ、 体部外面上方針めハ ケ、下方斜めケズリ 台部内面縦ハケ	密、径3㎜以下の長石、チャート粒を幾つか含む	浅黄橙色~黑色	口縁12.0 底部12.0	体部外面煤付着	
12	287	SB 7	土師器壺				口縁部内面横ハケ	密、径1㎜以下の石 英、チャート、赤褐 色粒を幾つか含む	にぶい橙色		口縁部内面に瘤状突 起、口縁端部ハケに よる連続圧痕	
13	210	SB7	土師器 甕脚台 A		(7.8)		台部内外面指圧	やや粗、径2m以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む	暗灰色~暗褐色	底部 5.1		
14	254	SB 8	土師器 〈字甕 4	(18.8)			口縁部外面上方~内 面横ナデ、口縁部外 面斜めハケ	密、径2mm以下の長石、チャート、雲母を幾つか含む	にぶい橙色	口縁 1.8	口縁部内外面煤付着	
15	288	SB 8	土師器 広口壺 1	15.1			口縁部内面および口 縁部横ミガキ	やや粗、径3mm以下 の長石、石英、チャ ート、雲母を幾つか 含む	浅黄橙色~灰色	口縁12.0		
16	510	SB9 カマド	須恵器 盤	(16.4)				密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰色	口縁 1.6	体部内面に煤付着	美濃須律9世紀前半
17	58	SB 9	土錘				端部丸い	密、径 1 m以下の長 石、チャートをわず かに含む	灰白色		長さ4.0cm、幅1.3cm、 重量5.8g、完形	
18	379	SB10	土師器 養				体部内面斜めおよび 横ハケ(原体7本、幅 1.2cm)、体部外面斜 めハケ	密、径1mm以下の長石、チャートをわずかに含む	にぶい黄橙色~ 灰色	底部12.0	体部内面下方および 外面中程に煤付着最 大径22.6cm	
19	252	SB11	土師器 中小型壺 2	(9.6)			頸部内外面斜めミガ キ	密、径2m以下、チャート、雲母を幾つか含む	灰色	口縁 1.4	口縁部外面沈線 5 条 口縁部~体部外面煤 付着	
20	283	SB11	土師器 鉢	(8.4)			体部内面ナデ上げ、 体部外面横ナデ	やや粗、径3mm以下 の長石、チャートを 幾つか含む	浅黄橙色~褐灰 色	口縁 1.5		

第13表 遺物観察表(2)

挿図	整理	遺構	器種	È	去量(cm)	整形、調整	胎土	色 調	残存率 (X/12)	その他	 産地、時期
番号	番号	JB.149	九矿工里	口径	底径	器高	エルノ、 四五年	nn _L		(X/12)	-C V) 10E	庄地、时
21	240	SB11	土師器 壺				内面横ナデ、外面斜 めミガキ	密、径1㎜以下の微 砂粒、雲母をわずか に含む	浅黄橙色~灰色		外面多条沈線文、列 点文(ヘラ)	_
22	244	SB11	土師器 甕				外面斜めハケ	密、径1mm以下のチャート、雲母をわずかに含む	灰白色		外面多条沈線文(6 条)、刺突文(クシ)外 面煤付着	
23	271	SB11	土師器 器台脚部A		(16.0)		脚部内面横ハケ、脚 部外面縦ミガキ、外 面下方横ミガキ	密、径1㎜以下のチャート、雲母をわず かに含む	灰白色~灰色	底部 3.4	2孔2組4穿孔、脚部外面上方赤彩	
24	385	SB12	土師器 受口甕2b	(19.1)			体部内面斜めナデ、 体部外面斜めハケ	密、径3 mm以下の石 英、チャートを幾つ か含む	にぶい橙色~暗 灰色	口縁 1.0	体部外面横線文およ び列点文(ヘラ)	
25	382	SB12	土師器 受口甕1	(19.4)			口縁部内面横ハケ、 体部内面上方斜めナ デ、下方斜めハケ、 下方斜めケズリ	密、径1mm以下の石 英、チャートを幾つ か含む	灰白色	口縁 5.1	口縁端部刻み、体部 外面上方横線文およ び列点文(ハケ)、体 部外面煤付着	
26	261	SB12	土師器 〈字甕3	(18.1)			口縁部内外面斜めハ ケ (原体7本、幅1.6 cm)	密、径2m以下の石 英、チャートを幾つ か含む	浅黄橙色~暗灰 色	口縁 1.5	口縁部外面煤付着	
27	346	SB12	土師器 鉢A1	19.0			類部~体部外面斜め ナデ、類部内面斜め ミガキ	密、径2m以下のチャート、雲母を幾つか含む	にぶい橙色	口縁 8.5	口縁端部沈線2条お よび刻み、体部外面 横線文および列点文 (へラ)、体部外面煤 付着	
28	354	SB12	土師器 鉢 A 1	(19.0)			口縁部内外面横ナデ 体部外面斜めハケ	密、径2㎜以下の長 石、石英、チャート 雲母をわずかに含む	にぶい黄橙色~ 黒褐色	口縁 5.8	体部内面煤付着	
29	163	SB12	土師器 広口壺 1	(17.2)			口縁部内面横ナデ、 口縁部外面縦ハケ (原体7本、幅1.3cm)	密、径1m以下の長 石、チャートをわず かに含む	灰色	口縁 5.3	口縁端部沈線3条	
30	206	SB12	土師器 甕脚台A		(9.0)		台部内面斜めナデ、 台部外面上方縦ハケ	密、径3㎜以下の石 英、チャートを幾つ か含む	浅黄橙色~黑色	底部 3.0	台部外面煤付着	
31	169	SB12	土師器 脚台A		9.4		台部内面斜めハケ、 台部外面羽状ハケ (原体7本、幅1.4cm)	密、径1m以下の長 石、チャートを幾つ か含む	にぶい黄橙色~ 褐灰色	底部 6.7		
32	295	SB12	土師器 〈字甕 l				口縁部内外面横ナデ	密、径2m以下の長 石、チャートを含む	にぶい黄橙色	-	口縁部刻み	
33	238	SB12	土師器 壺				内面斜めハケ、外面 縦ハケ	密、径1mm以下のチャートを含む	灰白色		外面横線文、列点文 (ヘラ)	
34	233	SB12	土師器				体部外面斜めハケ、 体部内面横ハケ	密、径1m以下のチャートをわずかに含む	にぶい黄橙色		体部外面上方幅広い 横線文、山形文	
35	245	SB12	土師器 パレス壺				内面斜めハケ	やや粗、径1mm以下 のチャートをわずか に含む	灰白色		外面竹管文、多条沈 線文、一部赤彩残存	
36	425	SB12	土玉					密、径1㎜以下の長 石、雲母をわずかに 含む	灰白色		長さ2.3cm、幅2.5cm、 重量11.0g、わずか に煤付着	
37	383	SB12	土師器 高坏A1a	30.8	(16.5)	20.4	口縁部内面斜めミガキ、口縁部内面斜め馬が キ、口縁部外面横直 ガキ、环部部内外部内外 ミガキ、脚裾部内外 面斜めミガキ	密、径5m以下のチャートを幾つか含む	灰色	口縁10.5 底部 3.4	坏部〜脚部内外面煤 付着、3孔2組6穿 孔、坏部内面煤付着 坏部内面下方圏線状 に凹む	
38	336	SB12	土師器 器台A2	21.2	15.6	12.9	坏部内外面横ミガキ 脚部内面斜めハケ、 脚柱部外面縦ミガキ	密、径1 mm以下のチャート、雲母をわずかに含む	淡赤橙色~淡橙 色	口縁10.0 底部12.0	1孔1組3穿孔、坏 部内面煤付着	
39	345	SB12	土師器 器台A2	20.0	(14.4)	13.1	坏部内外面斜めミガ キ、脚部内面斜めハ ケ、脚部外面斜めミ ガキ	やや粗、径2mm以下の 長石、チャート、赤 褐色粒、雲母をわず かに含む	浅黄橙色~黑褐色	口縁12.0 底部 5.8	坏部内外面および脚 部外面煤付着	
40	274	SB12	土師器 高坏脚部 B		(11.2)		坏部内面不定方向ミガキ、坏部外面斜め まガキ、脚部外面横 ナデ、脚部外面斜め ミガキ	密、径1㎜以下の石 英、チャート、雲母 をわずかに含む	浅黄橙色	底部 4.6	1孔1組3穿孔	

第14表 遺物観察表(3)

		17初 民务		1 &	大量 (cm	`				TD-d-vate		
挿図 番号	整理 番号	遺構	器種	口径	底径	器高	整形、調整	胎 土	色 調	残存率 (X/12)	その他	産地、時期
41	360	SB12	土師器 高坏A1d	19.9		HH 1-3	坏部内外面縦ミガキ	密、径1m以下の微砂粒、雲母をわずかに含む	にぶい橙色~褐 灰色	口級 9.0	口縁部外面沈線3条 2孔2組4穿孔、坏 部内外面煤付着	
42	189	SB12	土師器 高坏A2b	(22.0)			口縁部内外面斜めミガキ	密、径1㎜以下の長 石、石英、チャート をわずかに含む	浅黄橙色	口縁 2.0	口縁端部沈線 5 条	
43	398	SB12	土師器 高坏B2	(17.6)			坏部内外面横ミガキ	密、径1㎜以下の長 石、チャートをわず かに含む	にぶい黄橙色	口縁 2.8	口縁部外面沈線7条	
44	358	SB12	土師器		5.4		体部内面横ハケ(原体9本、幅1.5cm)体部 外面横ハケ後縦ミガ キ、底部外面ミガキ	密、径3 mm以下の長 石、チャートをわず かに含む	灰白色	底部12.0	体部外面煤付着	
45	286	SB12	土師器 中小型壺 2	(9.8)		_	頸部内外面斜めミガ キ、口縁部内面横ミ ガキ	密、径1m以下の微砂 粒、雲母をわずかに 含む	にぶい橙色~黒 褐色	口縁 1.3	口縁部外面多条沈線 8条	
46	217	SB12	土師器 器台				脚部外面斜めミガキ	密、径2mm以下の石 英、チャートを含む	灰白色	-	1孔3組3穿孔	
47	192	SB14	土師器 甕脚台 B		9.5		体部内面不定方向ナデ、台部外面縦ナデ体部〜台部外面斜めハケ(原体5本、幅1.0cm)	やや粗、径1mm以下 の長石、石英、雲母 を多く含む	にぶい褐色	底部12.0	体部内外面煤付着	
48	130	SB14	土師器 中小型壺 1	8.8		10.4	頸部内外面横ナデ、 体部内面斜めナデ、 体部外面下方わずか に斜めケズリ	密、径1㎜以下の長 石、雲母をわずかに 含む	橙色	口縁12.0	最大径10.8cm	
49	224	SB14	土師器 鉢		(5.6)	-	体部内外面縦方向指 ナデ	やや粗、径1mm以下 の長石、石英、赤褐 色をわずかに含む	灰白色~灰色	底部 5.0	体部外面~底部外面 に木葉痕	
50	223	SB14	弥生土器 甕		(5.8)		体部内面斜めナデ、 体部外面斜め条痕	密、径 6 m以下の長 石、石英、チャート 雲母を多く含む	暗灰色	底部 4.0	体部内面煤付着、上げ底	
51	229	SB15	土師器 く字甕 4	(12.4)			体部内面指圧、体部 外面横〜斜めナデ	粗、径1m以下の長 石、チャートを多く 含む	灰白色	口縁 3.6		
52	340	SB15	土師器 高坏A3	(16.8)			坏部内面横ナデ、坏 部外面斜めナデ	密、径5m以下の長 石、チャートをわず かに含む	浅黄橙色	口縁 5.3		
53	281	SB15	土師器 鉢B2	(6.0)	4.7	6.1	体部内面ナデ上げ	やや粗、径1m以下 の長石、チャート雲 母を多く含む	淡黄色	口縁 2.5 底部12.0	上げ底	
54	277	SB15	土師器 高坏脚部C		(10.6)		脚部内面横ナデ、脚 部外面不定方向ナデ	やや粗、径1mm以下 の長石、チャート、 雲母を多く含む	にぶい黄橙色~ 褐灰色	底部 3.1		
55	171	SB18	土師器 頸部外反甕 B3	(16.0)			体部内面横ナデ、体 部外面縦ハケ(原体8 本、幅1.3cm)	粗、径3mm以下の長 石、石英、チャート を多く含む	にぶい黄橙色	口縁 3.0	体部外面煤付着	
56	225	SB18	土師器 鉢		5.3			密、径3 mm以下の長 石、チャートをわず かに含む	浅黄橙色	底部10.0		
57	303	SB16	土師器 S字甕A	(16.0)			頸部内面横ハケ、体 部外面斜めハケ後横 ハケ	やや粗、径1m以下 の長石、チャート、 雲母を幾つか含む	浅黄橙色~灰色	口縁 4.0		
58	187	SB16	土師器 高坏A1b	(23.2)				密、径1mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む	灰色	口縁 1.5	口縁端部沈線3条	
59	- 285	SB16	土師器 有稜高坏	(10.4)			頸部内外面斜めミガ キ、口縁部内面横ミ ガキ	密、径1mm以下の微 砂粒をわずかに含む	にぶい黄橙色~ 灰色	口縁 1.6	口縁部外面多状沈線 14条	
60	207	SB16	土師器 甕脚台B		(6.4)			やや粗、径5 m以下 の石英、チャートを 幾つか含む	淡赤褐色	底部 3.8		

第15表 遺物観察表(4)

挿図	整理	遺構	器種		法量(c	n)	#女 II ⟨ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □	B/4 1	/* ====	残存率		T
番号	番号	退件	新悝	口径	底径	器高	整形、調整	胎 土	色調	(X/12)	その他	産地、時期
61	195	SB16	土師器 褒脚台 A		7.8		体部内面斜めナデ、 台部内面横ハケ、台 部外面斜めハケ(原 体9本、幅1.8cm)		にぶい橙色〜黒 褐色	底部11.0		
62	186	SB16	土師器 高坏A2a				坏部外面斜めミガキ 内面縦ミガキ	密、径1m以下の長 石、チャート、雲母 を幾つか含む	浅黄橙色	口縁 0.8		
63	235	SB16	土師器パレス壺				内面横ナア、外面斜 めミガキ	密、径1mm以下の長石、チャート、微砂粒、雲母をわずかに含む	明褐灰色~黒色		外面横線文、列点文 (貝殼)、部分的に赤 彩残存	
64	391	SB17	土師器 受口甕2b	(19.0)			口縁部内外面横ナデ 体部内外面斜めナデ	やや粗、径5m以下 の長石、チャート、 を幾つか含む	にぶい黄橙色	口縁 1.3	体部外面煤付着	
65	230	SB17	土師器 〈字甕 4	(19.8)			口縁部内外面横ナデ	やや粗、径3m以下 の長石、石英、チャートを多く含む	にぶい橙色	口縁 3.0		
66	196	SB17	土師器 甕脚台 A		8.3		体部内面不定方向ナ デ、台部内面斜めハ ケ後横ナデ、体部外 面斜めハケ	密、径1m以下の長 石、チャートを幾つ か含む		底部12.0	体部内外面煤付着	
67	342	SB19	土師器養				体部内面縦ナデ後横 ナデ、体部外面上方 横ハケ、下方縦ハケ (原体7本、幅1.6cm)	やや粗、径3m以下 の石英、チャート、 を幾つか含む	にぶい褐色		体部外面および体部 外面下方煤付着	
68	273	SB19	土師器 高坏脚部C		(9.4)		坏部内面横ナデ	粗、径1mm以下の石 英、チャート、赤褐 色を幾つか含む	浅黄橙色	底部 0.5		
69	429	SB20	弥生土器 甕				外面橫位条痕	密、径1㎜以下の長 石、石英、チャート 雲母をわずかに含む	灰褐色		口縁部内面刺突文	
70	179	SB20	土師器 高坏脚部 C		(10.5)		脚部内面横ナデ	密、径1mm以下の石 英をわずかに含む	橙色	底部 3.0		
71	586	SB20	須恵器 高坏		(11.0)			密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色	底部 1.8		畿内系 1 型式
72	563	SB20	須恵器 坏蓋B	(15.4)			天井部外面回転へラ 削り	密、径5m以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 1.9		美 美 世 紀 七 明 紀 七 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明
73	551	SB20 -P2	須恵器 坏身B	(14.0)	(9.6)	3.7	体部外面下方〜底部 外面回転へラ削り	密、径1m以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 2.2 底部 2.9		美濃須衛 9世紀前 半
74	437	SB21	須恵器 坏蓋B	14.4		2.9	天井部外面指圧およ び回転へラ削り1/2 天井部内面一方向ナ	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰色	口縁 9.8	つ径2.2cm	美濃須衛9世紀前半
75	436	SB21 カマド	須恵器 坏蓋B	13.2		2.4	天井部外面回転へラ 削り1/2、天井部 内面中央一方向ナデ	密、径1m以下の長 石をわずかに含む	灰色	口縁 8.0	つ径2.5cm	美濃須衛 9世紀前 半
76	468	SB21 カマド	須恵器 坏身B		8.6		底部内面周縁指圧、 底部外面回転へラ削 り	密、径1m以下の長 石をわずかに含む	灰色	底部 7.2	内面に煤付着	美濃須衛 9世紀前 半
77	548	SB21 カマド	須恵器 鉢		11.2		底部内面周縁回転へ ラ削り、底部外面回 転へラ削り	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰色	底部 9.3	体部外面に煤付着、 SK33と接合	美濃須衛 9世紀前 半
78	327	SB27 カマド	土師器 頸部外反甕 B3		6.8		体部内面横ナデ、体 部外面縦ハケ	やや粗、径2m以下 の長石、石英、チャートを幾つか含む	灰色	底部 7.0	体部~底部内外面煤 付着	
79	34	SB21	土錘				端部面取り	密、径1m以下の長 石をわずかに含む	淡黄色	-	長さ3.6cm、幅1.1cm、 重量3.1g、一部欠損	
80	35	SB21	土錘				端部面取り	密、径 1 mm以下の長 石、チャー トをわずかに含む	浅黄橙色	_	長さ3.7cm、幅1.1cm、 重量3.9g、一部欠損	
81	37	SB21	土錘				端部面取り	密、径1m以下の長石、チャートをわずかに含む	黄橙色		長さ3.7cm、幅1.5cm、 重量8.2g、一部欠損	

第16表 遺物観察表(5)

挿図	整理	海堆	92.50	Ì	去量(cm))	敷形 調軟	胎土	色 調	残存率 (X/12)	その他	産地、時期
番号	番号	遺構	器種	口径	底径	器高	整形、調整	/III II	四神	(X/12)	-(V) 1U.	庄地、时期
82	36	SB21	土錘				端部面取り	密、径1mm以下の長 石、チャートをわず かに含む	浅黄橙色		長さ4.1cm、幅1.1cm、 重量4.7g、一部欠損	
83	33	SB21	土鍾				端部面取り	密、径1㎜以下の長 石、チャートを幾つ か含む	橙色		長さ4.2cm、幅1.4cm、 重量6.7g、完形	
84	591	SB23	須恵器 壺?	(16.0)				密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰褐色	口縁 1.1	頸部外面に波状文	5世紀末 ~6世紀 初頭
85	606	SB23	須恵器 鉢	(13.6)				密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰色	口縁 1.6		
86	595	SB23	須恵器 坏身C	(10.6)		3.4		密、径1mm以下の長 石少し含む	灰白色	口縁 0.2		美 濃 系10 型式
87	614	SB24	須恵器 坏蓋B	(14.0)			天井部外面回転へう 削り	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰色	口縁 2.0		美濃須衛
88	241	SB26	土師器 柳ケ坪型壺 -				内面横ナデ、外面ミ ガキ?	密、径1㎜以下の長 石、石英、赤褐色粒 を幾つか含む	浅黄橙色~褐灰 色		外面橫線文、波状文	
89	400	SB26	土師器 高坏A2c	(30.0)				やや粗、径1m以下 の石英、チャートを 幾つか含む	灰白色~黒色	口縁 1.5	口縁部内面沈線約30 条	
90	255	SB27	土師器 S字甕B	(13.8)			頸部内面ヘラナデ、 体部内面指圧、体部 外面羽状ハケ後横ハ ケ(原体8本、幅1.5 cm)	やや粗、径1㎜以下 の長石、石英、チャ ート、雲母をわずか に含む	浅黄橙色~灰色	口縁 2.0		
91	212	SB27	土師器 S字甕脚台 B		(8.2)		台部外面斜めハケ、 体部内面不定方向ナ デ	やや粗、径1mm以下 の長石、石英、チャ ート、 雲母を幾つか含む	灰白色~黒褐色	底部 0.9		
92	399	SB27	土師器		5.0		体部内外面縦ミガキ	密、径1mm以下の長石、雲母をわずかに含む	にぶい黄橙色~ 灰色	底部 9.0		
93	170	SB28	土師器 受口獲2c	(16.0)			口縁部内外面横ナデ	密、径2m以下の石 英、チャートを幾つ か含む	暗灰色	口縁 1.4	口縁部外面に刻み (ヘラ)、口縁部外面 煤付着	近江系?
94	208	SB28	土師器 〈字甕 4	(18.6)			口縁部内外面横ナデ	やや粗、径1m以下 の長石、チャート、 を幾つか含む	灰白色	口縁 1.6	口縁部内面煤付着	
95	308	SB28	土師器 〈字甕 4	(18.0)			口縁部内外面横ナデ 体部外面斜めハケ	やや粗、径2m以下 の長石、石英、チャ ートを多く含む	にぶい橙色	口縁 0.6	体部外面煤付着	
96	162	SB29	土師器 広口壺 5	(18.8)			口縁部内外面横ナデ 体部外面ハケ(原体7 本、幅1.5cm)	密、径1mm以下の長 石、チャートを幾つ か含む	灰色~黒色	口縁 3.6	口縁部外面に列点文 (貝殻)	
97	175	SB31	土師器 広口壺 1	(15.5)			頸部内面横ナデ、体 部内面縦ナデ、頸部 ~体部外面斜めハケ	密、径3 mm以下の石 英、チャートを幾つ か含む	黄橙色~黑色	口縁 1.0		
98	263	SB32	土師器 S字甕B	(13.4)			体部内面指圧、体部 外面斜めハケ後横ハ ケ (原体7本、幅1.2 cm)	粗、径1mm以下の長 石、石英、チャート を多く含む	灰白色	口縁 1.7		
99	117	SB32	土師器 パレス壺				内面縦ナデ、外面横ハケ	密、径1m以下の長 石、雲母をわずかに 含む	灰白色~黒色		外面羽状文、波線文 (貝殼)、赤彩	
100	338	SB33	土師器 高坏A1a	(28.0)		-	坏部内外面縦ミガキ	密、径1m以下の長 石、チャートをわず かに含む	浅黄橙色~暗灰 色	口縁 2.4	坏部内面下方圏線状 に凹む	
101	307	SB33	土師器 〈字甕 1	10.4			口縁部内外面横ナデ	やや粗、径4mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む	にぶい褐色	口縁 9.5	口縁部外面刻み、体 部外面列点文(ハケ) 体部内外面煤付着、 台が付く可能性あり	
102	306	SB34 -P13	土師器 頸部外反甕 A2?	(15.4)			体部内面斜めナデ	密、径1 m以下の微 砂粒、雲母をわずか に含む	淡橙色~黒褐色	口縁 5.5	体部内面屈曲部以外 全面煤付着	
103	294	SB34	土師器 頸部外反甕 A 2	(14.2)			体部内面斜めナデ、 体部外面縦ハケ(原 体4本、幅1.4cm)	粗、径1m以下のチャート、雲母をわずかに含む		口縁 3.4	体部内面煤付着	

第17表 遺物観察表(6)

挿図	整理	744年版	40 ££	7	去量(cn	1)	*** 11/			残存率	T	
番号	番号	遺構	器種	口径	底径	器高	整形、調整	胎土	色 調	(X/12)	その他	産地、時期
104	313	SB34	土師器頸 部外反甕 A1	(10.1)			口縁部内外面横ナデ 体部外面斜めハケ	密、径3mm以下の石 英、チャートを幾つ か含む		口縁 1.8		
105	587	SB34 -P11	須恵器 甕	(18.0)				やや粗、径1mm以下 の石英をわずかに含む		口縁 1.2	口縁直下外面に 1 条 の突帯	5世紀~ 6世紀初 頭
106	608	SB34 -P17	須恵器 坏身C	(10.6)			底部外面へラ切り後 ナア調整	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 4.7		美 濃 系10 型式
107	194	SB34	土師器 甕脚台A		(7.7)		体部内面不定方向ハ ケ、台部内面横ナデ 台部外面縦ハケ(原 体5本、幅1.7cm)	やや粗、径2m以下 の長石、チャート、 赤褐色粒、雲母を幾 つか含む		底部 4.5	体部内面煤付着	
108	182	SB34	土師器 高坏脚部C		(10.4)		脚部外面縦ナア	やや粗、径2.5mm 以下の石英、チャー ト、赤褐色粒を幾つ か含む	橙色	底部 2.6		
109	498	SB35 -P5	須恵器 坏身C	(12.0)	5.0	3.5	底部内面指圧、底部 外面へラ切り後ナデ 調整	密、径1mm以下の長 石、石英をわずかに 含む	灰色	口縁 7.8 底部12.0		美 濃 系10 型式
110	389	SB36	土師器 S字甕B	13.0			屈曲部内面へラナデ 体部内面一部横った線 り、屈曲部外面で が が が が が が が が が が が が が が が が が が が	密、径1㎜以下の長 石、チャート、雲母 をわずかに含む	灰白色	口禄 8.0	体部外面下方煤付着	
111	388	SB36	土師器 S字甕脚台 B		8.6		体部内面下方横ケズ リ、体部外面〜台部 外面斜めハケ(原体9 本、幅1.7cm)	密、径1mm以下の長 石、チャート、雲母 をわずかに含む	灰白色	底部10.5	体部内面に部分的に 煤付着、体部外面下 方煤付着	
112	188	SB36	土師器 器台A1	(18.6)			坏部内面斜めミガキ 坏部外面縦ミガキ	密、径 2 mu以下のチャート、雲母をわずかに含む	暗灰色	口縁 1.4	口縁端部擬凹線 4 条	-
113	292	SB36	土師器 く字甕 1	(25.8)			口縁部〜体部内外面 横ナデ	密、径3 m以下の石 英、チャートを幾つ か含む	浅黄橙色~暗灰色	口縁 5.5	口縁端部刻み、体部 外面列点文(ヘラ)	
114	268	SB36	土師器 パレス壺 2				類部外反斜めハケ	密、径1mm以下のチャート、赤褐色粒、をわずかに含む	灰白色~灰色		口縁部内面羽状文 (貝殼)、口縁部外面 擬凹線4条、棒筑部内 面および口縁部外面 赤彩一部残存	
115	199	SB36	土師器 甕脚台A		(9.2)		体部外面〜台部外面 斜めハケ	密、径3mm以下の石 英、チャートを幾つ か含む	灰色	底部 2.1	体部内面煤付着	
116	341	SB36	土師器 受口甕3 a	(16.5)			体部内面横ナデ、体 部外面縦ハケ	やや粗、径3mm以下 の長石、石英、チャ ート、赤褐色粒を多 く含む	黄灰色	口縁 3.7		
117	243	SB36	土師器 鉢A1	(15.8)			口縁部内外面および 体部内面横ナデ	密、径1mm以下の長 石、チャートをわず かに含む	にぶい橙色	口縁 2.0	体部外面横線文、列点文(ヘラ)	
118	269	SB38	土師器 柳ケ坪型壺	(17.2)			口縁部内外面横ナデ	密、径3mm以下の長石、チャート、雲母を幾つか含む	黄灰色	口縁 1.2	口縁部内面および外 面羽状文(ハケ)	
119	251	SB38	土師器 パレス壺				外面上方斜めミガキ	密、径1mm以下の長石、チャートを幾つか含む	浅黄橙色~黑色		外面多条沈線文、列 点文(ヘラ)、刺突文 より下赤彩	
120	176	SB39	土師器 高坏脚部 A		12.8		脚部内面斜めハケ、 脚部外面ミガキ	密、径1mm以下の長石、石英、チャートを幾つか含む	明褐灰色~灰色	底部 8.3	2 孔 2 組 4 穿孔	
121	384	SB39	土師器 高坏A1b	24.2	13.3		坏部内面上方横ミガキ、坏部内外面斜めミガキ、脚柱部外面 総ミガキ、脚根部外面 縦ミガキ、脚根部外面 がきがき、脚根部外面	密、径1㎜以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む	橙色	口縁 9.2 底部12.0	口縁部内面沈線5条 お部内面下方圏線状 に凹む、1孔3組3 穿孔、SB26と接合	

第18表 遺物観察表(7)

挿図	整理	\d= 646	BB 445	È	去量 (cm)	MATE STATE	E/- 1	dr dest	残存率	7. D. W.	A, PP 14: 40
番号	番号	遺構	器種	口径	底径	器高	整形、調整	胎土	色調	(X/12)	その他	産地、時期
122	380	SB40 カマド	土師器 頸部外反甕 A 1	13.8		19.0	体部内面上方斜めハケ、下方縦ケズリ、 体部外面上方斜めハケ、下方縦ケズリ	やや粗、径 4 mm以下 の長石、石英、チャ ートを幾つか含む	橙色	口縁 7.5	体部外面下方煤付着	
123	312	SB40	土師器 頸部外反甕 A2	(27.2)			体部内外面斜めハケ (原体7本、幅2.0cm)	粗、径3 mm以下の長 石、チャートを幾つ か含む	浅黄橙色	口縁 2.3		
124	79	SB40 カマド	土師器 頸部外反變 A2	(17.8)			体部内外面斜めハケ (原体10本、幅2.7cm)類 部内面横ハケ	密、径1m以下の長 石、チャートを多く 含む	黄橙色~暗灰色	口縁 2.8		
125	309	SB40	土師器 頸部外反甕 A2	(19.4)			体部外面斜めハケ	密、径3mm以下の石 英、雲母をわずかに 含む	灰白色	口縁 2.2		
126	146	SB40	土師器		(15.3)		体部外面斜めハケ	密、径1m以下の長 石、チャートをわず かに含む	浅黄橙色~灰色	底部 2.2	底部に穿孔あり	
127	216	SB40	土師器	(23.8)			体部外面不定方向ハケ	密、径3mm以下の長 石、石英、 雲母を幾つか含む	浅黄橙色	口縁 1.2	口縁端部面取り	
128	226	SB41	土師器 パレス壺 1	18.4			口縁部〜頸部内面横 ミガキ、頸部外面縦 ハケ	密、径6mm以下の長石、チャート、雲母を幾つか含む	暗灰色	口縁12.0	口縁部外面擬凹線 8 条、棒状浮文 4 本 3 方向、全面赤彩	
129	165	SB45	土師器 パレス壺3	(15.0)			類部外面斜めハケ	やや粗、径1m以下 の長石、石英を幾つ か含む	にぶい黄橙色~ 灰色	口縁 4.0	口縁端部擬凹線3条 口縁部内面羽状文ら しき文様がみられる が摩滅の為判別でき ない	
130	203	SB45	土師器 甕脚台A		9.8		体部内面不定方向ナ デ、台部内外面斜め ハケ	密、径3 m以下の長 石、チャートをわず かに含む	淡橙色~暗灰色	底部 6.5		
131	181	SB45	土師器高坏				脚部外面縦ミガキ	密、径1mm以下の長 石、石英を幾つか含 む	橙色		2孔2組4穿孔	
132	183	SB45 -P14	土師器 高坏				脚部外面縦ミガキ	密、径3 mm以下の石 英、チャートをわず かに含む	浅黄橙色		体部外面煤付着	
133	279	SB46	土師器		(3.6)		体部内面横ハケ	密、径3 m以下の石 英、チャートを幾つ か含む	浅黄橙色	底部 5.0		
134	333	SB47	土師器 く字甕 4	(18.3)			体部内面横ケズリ、 口縁部内面横ハケ、 体部外面斜めハケ	密、径3mm以下の石 英、チャート、赤褐 色粒を幾つか含む	暗灰色	口縁 2.5	体部外面煤付着	
135	289	SB47	土師器 、受口獲2b	13.9			体部内面横ナデ、体 部外面縦ハケ	やや粗、径 2 mm以下 の石英、チャートを 多く含む	浅黄橙色	口縁11.3		
136	374	SB47	土師器 手焙り形土 器				覆部内面縦ケズリ、 覆部外面横ハケ	密、径1 mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む	灰黄色~黑褐色		覆端部列点および刻 み、覆部外面波線文 および羽状文(クシ) SB48と接合	
137	376	SB47	土師器 手焙り形土 器	(18.4)			鉢部内面横ナデ、鉢 部外面斜めハケ	密、径1mm以下の長 石、チャート、雲母 をわずかに含む	灰白色~黑色	口縁 1.0	鉢部外面斜格子、 SB48に混入	
138	375	SB47	土師器 手焙り形土 器		3.4		体部内面斜めナデ、 体部外面斜めハケ	密、径3m以下の長 石、石英、チャート 雲母をわずかに含む	暗灰色	底部 6.4	SB48に混入	
139	185	SB47	土師器 高坏A1b	(29.0)				粗、径1mm以下の石 英をわずかに含む	浅黄橙色	口縁 3.1	口縁端部沈線 4 条	
140	369	SB47	土師器 高坏A1				坏部内外面斜めミガ キ、脚柱部外面縦ミ ガキ	密、径2㎜以下の長 石、雲母をわずかに 含む	浅黄橙色~灰色		坏部内面下方圏線状 に凹む、2孔2組4 穿孔、体部外面煤付 着	
141	180	SB47	土師器高坏				「小部内外面横ミガキ」 「小部外面不定方向ミガキ、脚部外面縦ミガキ」	密、径1m以下の長石、チャートをわずかに含む	暗灰色		2孔2組4穿孔、体 部外面煤付着	

第19表 遺物観察表(8)

挿図	整理	遺構	器種	ì	去量(cm)	整形、調整	胎土	色 調	残存率	Z 0 4h	XX Hr mt wo
番号	番号	退押	如产生	口径	底径	器高	至70、祠堂	711 II.	色 調 ———————————————————————————————————	(X/12)	その他	産地、時期
142	372	SB47	土師器 手焙り形土 器				体部内面横ケズリ、 体部外面縦ハケ	密、径1m以下の長石、チャート、雲母を幾つか含む	にぶい黄橙色~ 黒色		外面斜格子、突帯上 に刻み	
143	258	SB47	土師器 パレス壺				内面指圧	密、径1 mm以下の石 英、チャートを幾つ か含む	灰白色~灰色		外面多条沈線文、列 点文(ヘラ)、刺突文 より上赤彩	
144	347	SB47	土師器 鉢B1	7.9	4.0	5.0	体部内外面斜めナデ	やや粗、径 4 mm以下 の長石、チャートを 幾つか含む	にぶい橙色~灰 色	口縁 9.0 底部 7.0		
145	222	SB47	土師器 鉢B1	(9.0)	4.2	4.1	体部内面縦ミガキ、 体部外面横ハケ	密、径3 mm以下の長 石、チャートを含む	浅黄橙色~黑色	口縁 2.0 底部12.0	上げ底	
146	197	SB47	土師器 甕脚台A		(7.8)		台部内面不定方向ナ デ、台部外面斜めナ デ、	やや粗、径3mm以下 の長石、石英、チャ ートを幾つか含む	橙色	底部 3.5		
147	198	SB47	土師器 甕脚台A		(8.9)		台部内面横ナデ、体 部外面斜めナデ	密、径2 mm以下の石 英、チャートを幾つ か含む	淡赤橙色	底部 5.3		
148	282	SB48	土師器				体部内面横ナデ、体 部外面上方指圧、下 方横ケズリ	密、径1mm以下の長 石、石英、チャート を幾つか含む	灰色			
149	164	SB49	土師器 広口壺3	(11.8)				粗、径3 mm以下の長 石、チャートを多く 含む	浅黄橙色~黒色	口縁 2.0		
150	213	SB49	土師器 有稜高坏	14.6			口縁部内面横ミガキ 坏部内外面斜めミガ キ	密、径1mm以下の長 石、石英、雲母をわ ずかに含む	浅黄橙色	口縁 6.0	口縁部外面沈線 6 条 坏部内面下方圏線状 にわずかに凹む	
151	191	SB49	土師器 頸部外反變 A 2	(20.4)			頸部~体部内面上方 横ハケ、頸部~体部 外面斜めハケ(原体9 本、幅1.8cm)	密、径1mm以下の長 石、石英、チャート を幾つか含む	浅黄橙色	口縁 4.4		-
152	387	SB49 上層	土師器 宇田型甕	17.6			体部内面上方横ナデ 下方横ケズリ、体部 外面羽状ハケ後一部 横ハケ(原体12本,幅 3.0cm)	密、径8 m以下の長石、チャート、赤褐色粒、雲母をわずかに含む	浅黄橙色~褐灰 色	口縁12.0	体部内面部分的に煤 付着、体部外面中程 煤付着	
153	348	SB49 上層	土師器 鉢B4	12.1	3.0	4.8	体部内外面横ナデ、 体部外面下方横ケズ リ	密、径1mm以下の長 石、石英を幾つか含 む	橙色	口縁12.0 底部12.0		
154	351	SB49 上層	土師器 高坏B3	15.4	9.7	11.5	坏部内外面横ナデ、 脚柱部外面縦ケズリ 後横ナデ	密、径2m以下の長 石、チャート、雲母 を幾つか含む	にぶい赤褐色	口縁 8.0 底部12.0	坏部内面と坏部外面 下方に凹凸がみられ る	-
155	314	SB50 -P1	土師器 有稜高坏	(11.8)			坏部内外面斜めミガ キ、脚部外面斜めミ ガキ	密、径 1 mm以下の、 チャート、雲母をわ ずかに含む	灰白色~灰色	口縁 1.0	1孔3組3穿孔、坏 部内面下方圏線状に 凹む	
156	272	SB50-P6	土師器 有稜高坏		12.8		坏部内面斜めナデ、 坏部外面横ミガキ、 脚部内面横バケ、脚 部外面斜めミガキ	密、径1mm以下の石 英、チャート、雲母 をわずかに含む	にぶい黄橙色~ 灰色	底部12.0	1孔3組3穿孔、坏部内面下方圏線状に 四む、坏部〜脚部外 面煤付着、SB47と接合	
157	344	SB50	土師器 パレス壺		2.3		体部内面横ナデ、体 部外面横ミガキ	密、径2mm以下の石 英、チャートをわず かに含む	浅黄色~灰色	底部 6.0	SB47と接合、外面上 方沈線文と波状文 (ハケ)、穿孔あり、 外面赤彩	
158	236	SB50	土師器		_		内面指圧、外面斜めハケ	密、径1m以下の微砂粒、雲母をわずか に含む	灰白色~黒褐色		外面多条沈線文7条 と沈線文(ヘラ)	
159	527	SB51	土師器 〈字甕 2	(22.6)			体部外面斜めハケ	密、径2 m以下の長 石、チャートをわず かに含む	にぶい黄橙色~ 黒色	口線 0.9		-
160	200	SB51	土師器 甕脚台A		(7.4)		体部内面〜台部外面 ミガキ、台部内面横 ナデ	密、径3 m以下の長 石、雲母を幾つか含 む	にぶい橙色	底部 4.5		
161	211	SB51	土師器 甕脚台A		(10.2)		台部内面横ナデ	密、径3mk以下の石 英、チャートを多く 含む	明褐灰色~黒色	底部 3.0		

第20表 遺物観察表(9)

第20	₹ i	貴物観	祭表(9)									
挿図	整理 番号	遺構	器種	\vdash	去量(cm	_	整形、調整	胎土	色 調	残存率	その他	産地、時期
番号 162	396	SB51	土師器	口径	底径 (9.4)	器髙	体部外面斜めハケ、	密、径3mm以下の長	にぶい黄橙色~	(X/12) 底部 4.5	体部外面煤付着	
			甕脚台 B	_			台部内面横ナデ、台部外面斜めナデ	石、チャートをわず かに含む	灰色			
163	305	SB51	土師器蓋				天井部内面横ナデ	やや粗、径1mm以下 の長石、チャートを 多く含む	灰白色~黒色		つ径4.6cm、全面赤彩	
164	234	SB51	土師器 パレス壺				外面斜めハケ	密、径3m以下の長 石、チャートを幾つ か含む	にぶい赤橙色~ 浅黄橙色		外面横線文、列点文 (ヘラ)、刺突文(ハ ケ)、一部赤彩残存	
165	395	SB51	土師器 〈字甕 4	(17.0)			体部内面縦ナデ、体 部外面斜めハケ	密、径1m以下の長石、チャートをわずかに含む	灰白色~褐灰色	口縁 4.7	体部外面煤付着	
166	205	SB52	土師器 甕脚台 A		(9.3)		台部内面横ナデ、台 部外面縦ハケ	やや粗、径2mm以下 の長石、石英、チャ ートを多く含む	浅黄橙色~灰色	底部 5.2		
167	221	SB53	土師器 鉢B1	(8.0)	4.6	4.1	口縁部端部強い指圧 体部外面斜めナデ	密、径1m以下のチャートをわずかに含む	オリーブ黒色	口縁 5.1 底部12.0	底部中央に長さ 1 cm のチャートあり	
168	267	SB53	土師器 S字甕A	(15.6)			頸部内面ヘラナデ、 体部内面縦ナデ、体 部外面斜めハケ後横 ハケ	密、径1mm以下の長 石、石英、チャート 雲母を多く含む	灰色	口縁 2.5		
169	275	SB53	土師器 高坏脚部				坏部内面横ハケ	密、径1㎜以下のチャート、雲母をわずかに含む	浅黄橙色~黑色		2 孔 2 組 4 穿孔、 SB57と接合	
170	332	SB54 -P2	土師器 宇田型甕	(12.6)			体部外面羽状ハケ (原体8本、幅1.9cm) 羽状ハケが逆	密、径3 m以下の長 石、石英、赤褐色粒 雲母を幾つか含む	浅黄橙色~橙色	口縁 2.4	体部内面煤付着	
171	204	SB54	土師器 甕脚台B		8.4		体部外面縦ナデ、台 部内面横ナデ	やや粗、径1mm以下 の長石、石英、チャ ート、雲母を幾つか 含む	明褐灰色	底部 9.5	体部外面煤付着	
172	266	SB54	土師器 パレス壺		(6.6)		体部外面縦ナデ、台 部内面横ナデ	やや粗、径3m以下 の長石、石英、チャ ートを含む	灰白色~黒色	底部 3.0	体部外面赤彩	
173	161	SB55	土師器 S字甕A	(15.0)			屈曲部内面斜めハケ 体部外面斜めハケ後 横ハケ(原体6本、幅 1.4cm)	やや粗、径2mm以下 の長石、石英、雲母 を幾つか含む	にぶい 黄橙色~ 黒褐色	口縁 4.3	SB26と接合	
174	247	SB55	土師器 受口甕2 c	(17.6)			口縁部内外面横ナデ	密、径1㎜以下の石 英、チャート、雲母 を幾つか含む	灰褐色~暗灰色	口縁 4.1	口縁部外面刻み(へ ラ)、体部外面横線文	
175	298	SB55	土師器 〈字甕2	(16.4)			体部外面斜めハケ	やや粗、径1mm以下 の長石、石英、チャ ート、雲母を幾つか 含む	明褐灰色	口縁 1.9		
176	473	焼土4	須惠器 佐波理写碗	(17.2)	(12.4)	4.9	体部外面下方〜底部 外面回転へラ削り	やや粗、径3m以下 の長石を幾つか含む	灰色	口縁 1.4 底部 2.5		尾張系 8世~9 紀初頭
177	542	焼土4	須恵器 長頸壺		(10.2)		底部外面回転ナデ、 底部外面回転へラ削 り	やや粗、径1mm以下 の長石をわずかに含む	灰色	底部 4.0		美濃須行8世紀代
178	494	焼土4	須恵器 坏身C	(12.2)	5.4	3.2	底部内面一方向ナデ 底部外面へラ切り未 調整	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰色	口縁 5.5 底部12.0		美濃須
179	576	焼土6	須恵器 坏蓋B	(16.5)			天井部内面一方向ナ デ、天井部外面回転 ヘラ削り1/3	やや粗、径1mm以下 の長石をわずかに含む	灰色	口縁 1.4		美濃須行 9世紀 1
180	562	焼土6	須恵器 坏蓋B	(16.4)			天井部外面回転へラ 削り1/2	やや粗、径 1 m以下 のチャートをわずか に含む	灰色	口縁 2.3		美濃須 8世紀 半初頭
181	565	焼土6	須恵器 坏身C	(13.4)	(8.0)	2.9	底部外面回転へラ切り後ナデ調整	やや粗、径1㎜以下 の微砂粒をわずかに 含む	灰色	口縁 2.6 底部 1.8	内面煤付着	美濃須行 9世紀 1

第21表 遺物観察表(10)

挿図	整理	遺構	器種	ž	去量(cm)	整形、調整	胎土	色調	残存率	その他	産地、時期
番号	番号	JEL 149	1001里	口径	底径	器高	金//、两至	ль <u>т</u>	C phd	(X/12)	- C 07 IE	建地、 阿朔
182	545	焼土6	須恵器 坏身C	(12.8)	(6.0)		底部内面一方向ナデ 底部外面へラ切り未 調整	やや粗、径 1 ㎜以下 の長石を多く含む	青灰色	口縁 1.8 底部 5.8		美濃須衛 9世紀前 半
183	658	焼土6	灰釉陶器碗	(13.7)	(6.6)	4.3	体部外面下方~底部 外面回転へラ削り	やや粗、径1mm以下の長石をわずかに含む	灰色	口縁 0.5 底部 1.6	灰釉不明	K14
184	329	焼土6	土師器 頸部外反甕 B3	(14.2)			口縁部内面横ハケ、 体部内面下方斜めナ デ、体部外面上方縦 ハケ、体部外面下方 横ハケ	粗、径1m以下の長石、チャートを多く含む	にぶい黄橙色~ 灰褐色	口縁 1.6	体部内外面上方煤付 着	
185	453	SK 8	土師器 皿C	(8.0)		1.2	体部内面横ナデ、体 部外面2段ナデ	密、径1mm以下の石 英をわずかに含む	浅黄橙色	口縁 1.9		
186	445	SK 8	土師器 皿C	(9.8)		1.4	体部内外面横ナデ、 体部内外面指圧	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 3.5		
187	414	SK 8	小皿A	8.5	4.1	2.0	底部外面回転糸切り 板目、底部内面静止 指ナデ調整	やや粗、径2m以下の長石をわずかに含む	灰色	口縁10.3 底部12.0		6型式
188	621	SK 8	山茶碗A	(16.4)	8.0	4.7	底部外面回転糸切り 高台端部籾殻痕	粗、径3 mm以下の長 石を幾つか含む	灰色	口縁 0.2 底部 6.2		5型式
189	625	SK 8	山茶碗A		9.3		底部外面回転糸切り 高台端部籾殻痕	粗、径3 mm以下の長 石を幾つか含む	灰色	底部12.0		5型式
190	627	SK 8	山茶碗A	(14.8)				粗、径2mmの長石を 幾つか含む	灰白色	口縁 3.8		5型式
191	620	SK 8	山茶碗A		(7.0)		底部外面回転糸切り 砂粒圧痕	やや粗、径2mm以下 の長石を幾つか含む	灰黄色~灰色	底部 5.0		5型式
192	559	SK33	須恵器 坏蓋B	14.0		2.2	天井部内面一方向ナ デ、天井部外面回転 へう削り1/2	密、径1mm以下の微 砂粒をわずかに含む	灰白色	口縁 6.6	つ径2.4cm、内面煤付 着	美濃須衛 9世紀前 半
193	470	SK33	須恵器 坏身B		(8.8)		底部内面中央一方向 ナデ、底部外面回転 ヘラ削り	密、径1mm以下の長 石、チャートを含む	灰色	底部 4.6		美濃須衛 9世紀前 半
194	472	SK33	須恵器 坏身B		9.6		底部外面回転へラ削 り	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰色	底部 6.5	底部外面にへう記号	美濃須衛 9世紀前 半
195	568	SK33	須恵器 盤		(12.0)		底部内面不定方向ナ デ、底部外面回転へ ラ削り	やや粗、径1mm以下 の長石、チャートを わずかに含む	灰色	底部 2.3	円形三方透孔	美濃須衛 8世紀 半~9頭 紀初頭
196	672	SK33	灰釉陶器 碗A		(7.4)		体部外面下方〜底部 外面回転へラ削り、 トチン痕あり	やや粗、径1mm以下 の微砂粒をわずかに 含む	灰黄色	底部 1.1	-	K14
197	663	SK33	灰釉陶器 碗A	(22.0)			体部外面下方回転へ ラ削り	やや粗、径1mm以下 の微砂粒をわずかに 含む	灰黄色	口縁 1.3	SD1と接合	K90
198	293	SK29	土師器 宇田型甕	(16.2)			体部外面斜めハケ (原体 5 本、幅1.5 cm)	密、径2m以下の長 石、石英、チャート、 赤褐色粒を多く含む	灰色	口縁 1.9		
199	535	SK29	須恵器 坏蓋A	(12.4)			天井部外面回転へラ 削り1/2、底部外面へ ラ切り未調整	やや粗、径1 mm以下 の長石をわずかに含 む	灰色	口縁 0.8	外面に煤付着	美濃系 8型式
200	558	SK29	須恵器 环身A	(10.4)		4.8	底部内面同心円当て 具痕およびナデ調 整、底部外面へラ切 り未調整	密、径2mm以下の長 石、石英をわずかに 含む	青灰色	口縁 4.2	受径13.0cm、た高1. 4cm、口縁端部A受部 B	畿内系 4 ~5型式
201	665	SK29	須恵器 短頸壺	(10.7)				密、径1mm以下の微 砂粒をわずかに含む	灰黄色	口縁 3.3		美濃須衛 7世紀後 半
202	678	SK29	灰釉陶器 碗		(8.6)		体部外面下方~底部 外面回転へラ削り	密、径1m以下の微 砂粒をわずかに含む	灰黄色	底部 1.8	 灰釉刷毛塗り、二次 的に煤付着	O53
203	676	SK29	灰釉陶器 碗		(7.6)		底部外面回転糸切り 板目、回転ナデ	密、径1mm以下の微 砂粒をわずかに含む	灰黄色	底部 5.1		百代寺 (美濃)
204	636	SK29	山茶碗B	(10.0)	(4.0)	3.0	底部外面回転糸切り 体部内面コテ	密(混和材ナシ)	淡黄色	口縁 4.2 底部 8.3		11型式
205	475	SK42	須恵器	(14.6)	7.2	4.2	体部内面コテナデ、 底部内面一方向ナデ 底部外面回転へラ切 り未調整	やや粗、径1mm以下 の長石、チャートを わずかに含む	灰白色	口縁 7.8 底部12.0		美濃須衛 9世紀前 半

第22表 遺物観察表(11)

₩27	בל א	夏物 觀 勢	₹ ₹ (11)									
挿図	整理 番号	遺構	器種		去量(cm		整形、調整	胎 土	色調	残存率 (X/12)	その他	産地、時期
番号 206	番号 645	SK42	灰釉陶器	口径	底径 8.4	器高	体部外面下方~底部	やや粗、径1㎜以下	灰白色	底部12.0	やや軟質	K90
			碗				外面回転へラ削り、 内面コテ	の長石をわずかに含む				
207	262	SK45	土師器 鉢B4	(11.0)			口縁部内外面横ナデ	密、径1㎜以下の長 石、赤褐色粒を幾つ か含む	黄橙色	口縁 2.6		
208	578	SK45	須恵器 高坏		(8.5)			やや粗、径1 m以下 の長石をわずかに含 む	灰色	底部 3.2		尾張系 7 ~8型式
209	242	SK45	土師器 〈字甕 4	(15.6)			口縁部内外面横ナデ	密、径2 mm以下の長 石、チャート、雲母 を多く含む	にぶい褐色~灰 色	口縁 2.4	口縁部外面煤付着	
210	455	SK47	土師器皿C	7.2		1.4	体部内面および不定 方向ナデ、体部外面 指圧	密、径1mm以下の石 英をわずかに含む	浅黄橙色	口縁 9.3		
211	736	SK47	染付皿				, 	密、径1mm以下の微 砂粒をわずかに含む	灰白色		見込みに十字花文	B1群
212	276	SK48	土師器 高坏脚部C		(11.4)		脚部内面横ナデ、脚 部外面縦ミガキ後上 方横ナデ	やや粗、径1m以下 の長石、チャート、 雲母を幾つか含む	灰白色~黒色	底部 2.0	脚部外面煤付着	
213	264	SK48	土師器 鉢B4	(12.0)			口縁部内外面横ナ デ、体部外面下方斜 めナデ	やや粗、径2㎜以下 の長石、チャート、 赤褐色粒を幾つか含 む	橙色~灰色	口縁 2.2		
214	670	SK93	灰釉陶器 碗		(7.4)		底部外面回転糸切り 回転ナデ	密、径1mm以下の微 砂粒を含む	灰色	底部 4.1		H72 (美 濃)
215	656	SK93	灰釉陶器		(9.1)		回転ナデ、体部外面 下方回転へラ削り	やや粗、径1m以下 の長石をわずかに含 む	灰白色	底部 2.6		百代寺
216	624	SK93	山茶碗A		5.8		底部外面回転糸切り、底部内面静止指 り、底部内面静止指 ナデ調整、高台端部 ุ 複級痕	粗、径 6 mm以下の長 石を多く含む	灰白色	底部 6.9		6 型式
217	177	SK121	土師器 高坏脚部 B		(11.5)		脚部内面横ナデ、脚 部外面上方縦ミガ キ、下方斜めミガキ	密、径1m以下のチャート、雲母をわずかに含む	淡橙色	底部 3.0	1孔3組3穿孔	
218	173	SK121	土師器 〈字甕 2	(21.6)			体部内面横ケズリ、 体部外面斜めハケ (原体8本、幅1.6cm)	やや粗、径1mm以下 の石英、チャートを 多く含む	にぶい黄橙色	口縁 1.8	体部外面、口縁部内 面、体部内面下方煤 付着	
219	291	SK121	土師器 頸部外反甕 A2	(15.5)			口縁部内面横ハケ、 体部内面斜めハケ後 斜めナデ、体部外面 斜めハケ (原体11本 幅2.0cm)	密、径1mm以下の石 英、雲母をわずかに 含む	灰白色	口縁 1.9	体部内面煤付着	
220	585	SK125	須恵器 坏身C	(15.0)				密、径2mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 1.2		美濃須衛
221	564	SK125	須恵器 坏身C	(13.8)	6.2	4.3	底部外面回転糸切り 後茎状圧痕?	やや粗、径1m以下 の長石を幾つか含む	灰色	口縁 5.3 底部 6.3		尾張系 9 世紀前半
222	297	SK131	土師器飯	(15.0)			口縁部内外面横ナデ 体部内面斜めハケ、 体部外面斜めハケ	密、径1mm以下のチャートをわずかに含む	灰白色~黒色	口縁 2.0	体部外面煤付着	
223	337	SK131	土師器 〈字甕 4	15.9			体部内面斜めハケ後 一部横ナデ、体部外 面斜めハケ	密、径3㎜以下の長 石、石英、チャート を幾つか含む	灰白色~灰色	口縁12.0	体部外面煤付着、体 部中程と上方で混和 材の量が違う	
224	361	SK139	土師器 S字甕B	(10.8)			屈曲部内面へラナデ 体部内面指圧、体部 外面羽状ハケ後横ハ ケ	やや粗、径2mm以下 の長石、チャートを 幾つか含む	浅黄橙色~灰色	口縁 3.6		
225	364	SK139	土師器 S字甕B	(11.2)			屈曲部内面へラナデ 屈曲部外面沈線、体 部外面斜めハケ後横 ハケ	密、径1mm以下の長 石、雲母をわずかに 含む	灰黄色~灰色	口縁 2.5	体部外面煤付着	
226	393	SK139	土師器 S字甕B	16.0			頸部内面ヘラナデ、 体部内面指圧後一部 横ナデ、体部外面羽 状ハケ後横ハケ	密、径2mm以下の長石、チャート、赤褐色粒、雲母を幾つか	灰白色	口縁 7.0	体部外面煤付着	

第23表 遺物観察表(12)

挿図	整理	.ter 1:44	即至	i	去量(cm	1)	date TC SEP date	11/.	/r ==m	残存率	7 - M	
番号	番号	遺構	器種	口径	底径	器高	整形、調整	胎 土	色 	残存率 (X/12)	その他	産地、時期
227	353	SK139	土師器 S字甕B	(19.4)			体部内面指圧、体部 外面羽状ハケ後横ハ ケ(原体8本、幅1.8 cm)	密、径3mm以下の長石、石英、チャート 雲母を幾つか含む	暗灰色	口縁 4.8	SB29と接合、体部内 面煤付着	
228	310	SK141	土師器				体部内面斜めナデ、 体部外面斜めハケ	密、径3㎜以下の長 石、チャートを幾つ か含む	浅黄橙色~灰色			
229	324	SK141	土師器 壺 		8.0		体部内面一方向ナデ	密、径3mm以下の長 石、チャートを幾つ か含む	浅黄橙色~灰色	底部 7.0		
230	411	SX 1	山茶碗A	(16.5)				やや粗、径2mm以下 の長石を幾つか含む 黒色の吹出しがみら れる	灰色	口縁 0.8		3~4型式
231	410	SX 1	山茶碗A		(7.2)			やや粗、径5mm以下 の長石を幾つか含む	灰白色	底部 3.6	底部内面平滑	5 型式
232	619	SX 1	山茶碗A		8.2		砂粒圧痕	密、径3m以下の長 石をわずかに含む	灰色	底部 9.4	底部内面平滑	5型式
233	622	SI 2	山茶碗A	(17.2)	(9.4)	5.1	底部外面回転糸切り	粗、径1m以下の長 石、石英を多く含む	灰色	口縁 0.2 底部 3.6	内面自然釉	5 型式
234	402	SI 2	山茶碗A		(7.2)		底部外面回転糸切り	やや粗、径3 m以下 の長石をわずかに含 む	灰白色	底部 2.8	底部内面平滑	4~5型式
235	403	SI 2	山茶碗A		(7.3)		底部外面回転糸切り、高台端部複競痕	やや粗、径3mm以下 の長石を幾つか含む	灰白色	底部 5.8		5型式
236	406	SI 2	山茶碗B		(5.7)		底部外面回転糸切り 板目、高台端部籾殻 痕、底部内面静止指 ナデ調整	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰白色	底部 5.4		6~7型式
237	623	SI 2	小皿A		3.4		底部外面回転糸切り、底部内面静止指 ナデ調整	やや粗、径1mm以下 の長石を幾つか含む 黒色の吹出しが幾つ かみられる	灰色	底部12.0	底部外面に墨書	6~7型式
238	440	SI 2	大窯 丸皿	(5.4)	3.4	1.1	体部下方〜底部外面 回転へラ削り	やや粗、径1mm以下 の長石をわずかに含 む	にぶい黄橙色	口縁 2.8 底部 6.8	全面灰釉	
239	734	SI 2	常滑					密、径1m以下の長 石をわずかに含む	灰黄色			6 b型式
240	409	SI 4	山茶碗B	(13.0)			体部内面コテ	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 1.4		7~8型 式
241	404	SI 8	山茶碗B		(4.2)		底部外面回転糸切り と板目、高台端部籾 殻痕、底部内面静止 指ナデ調整	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰白色~灰色	底部 4.4		9 ~10型 式
242	641	SI 3	小皿B	(8.4)	(4.7)	1.2	底部外面回転糸切り 板目、静止指ナデ調 整	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰色	口縁 3.6 底部 4.5		
243	408	SI 3	小皿B	(7.6)	(3.8)	1.1	底部外面回転糸切り、底部内面静止指 ナデ調整	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 1.8 底部 1.8		
244	407	SI 8	小皿B	(8.4)	(4.1)	0.8	底部外面回転糸切り、底部内面静止指 ナデ調整	密、径1m以下の長 石を含む、黒色の吹 出しがわずかにみら れる	灰色	口縁 2.4 底部 2.3		
245	452	SD 2	土師器 ⅢC	(7.0)		1.8	体部内面はば平滑、 体部外面指圧	密、径1 mm以下の石 英、雲母をわずかに 含む	灰白色	口縁 3.9		
246	8	SD1	土師器 皿C	7.2		1.3	内面不定方向ナデと 平滑、外面指圧	密、径1㎜以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む	橙色~黄白色	口縁12.0	SU 1 – 2	
247	2	SD1	土師器 皿C	7.5		1.4	内面不定方向ナデと 平滑、外面指圧	密、径4 m以下の長石、雲母をわずかに含む	黄白色	口縁12.0	SU1 – 7 、内面に粘 土接合痕あり	_
248	9	SD 1	土師器 皿C	7.6		1.3	内面不定方向ナデと 平滑、外面指圧	密、径1m以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む	橙色~黄白色	口縁12.0	SU 1 – 3	

第24表 遺物観察表(13)

弗24	22 14	1 物飲系	K 1X(13)	1 5	LH / N							
挿図 番号	整理 番号	遺構	器種	口径	送量(cm) 底径	器高	整形、調整	胎 土	色	週 残存率 (X/12)	その他	産地、時期
249	12	SD 1	土師器皿で	7.8		1.4	内面不定方向ナデと 平滑、外面指圧	密、径1mm以下の雲 母をわずかに含む	黄白色	口縁12.0	SU 1 - 8 、 10 、 19	
250	3	SD 1	土師器 皿C	7.9		1.3	内面不定方向ナデと 平滑、外面指圧	密、径1㎜以下の長 石、チャート、雲母 をわずかに含む	黄白色	口縁12.0	SU 1 – 5	
251	10	SD 1	土師器 皿C	7.9		1.2	内面平滑、外面指圧	密、径1mm以下の長 石、チャート、雲母 をわずかに含む	黄白色	口縁12.0	SU 1 -17	
252	11	SD1	土師器 皿C	7.9		1.3	内面平滑、外面指圧	密、径1mm以下の長 石、雲母をわずかに 含む	黄白色	口縁12.0	SU 1 -16	
253	7	SD 1	土師器 皿C	8.0		1.4	外面指圧	密、径 1 m以下のチャート、雲母をわずかに含む	黄白色	口縁12.0	SU 1 – 1	
254	466	SD 1	土師器 皿 C	9.4		1.7	体部内面横ナデ、底 部内面一方向ナデ、 底部外面指圧	密、径 1 m以下のチャート、雲母をわずかに含む	橙色	口縁10.8	口縁全周に煤付着、 表面剝離が激しい	
255	13	SD 2	土師器 皿C	9.6		1.7	口縁部内外面と体部 内面横ナデ、体部外 面指圧、底部内面一 方向ナデ	密、径1㎜以下の雲 母をわずかに含む	黄白色	口縁12.0	横ナデは「の」の字 状に抜き取る	
256	4	SD 1	土師器 皿 C	9.9		1.5	口縁部内外面と体部 内面横ナデ、体部外 面指圧、底部内面一 方向ナデ	密、径1㎜以下の長 石、雲母をわずかに 含む	黄白色	口縁 8.7	SU1-10、11、12、 18、横ナデは「の」 の字状に抜き取る	
257	5	SD1	土師器 皿C	10.0		1.5	内面不定方向のナデ と平滑、外面指圧	密、径3 m以下の長 石、チャート、雲母 をわずかに含む	黄白色	口縁12.0	SU 1 - 9 , 13, 14, 15	
258	6	SD1	土師器 皿C	10.0		1.8	口縁部内外面と体部 内面横ナデ、体部外 面指圧、底部内面一 方向ナデ(無調整?)	密、径1㎜以下のチャート、雲母をわずかに含む	黄白色	口練11.0	SU 1 – 4	
259	463	SD 1	土師器 皿C	10.0		1.6	体部内面~口縁部外 面横ナデ、体部外面 下方~底部指圧	密、径 1 mm以下の微 砂粒をわずかに含む	浅黄橙色	口縁12.0	口縁部全周に煤付 着、体部内面に炭化 物付着、表面剝離が 激しい	
260	14	SD1	土師器 皿 C	10.1		1.6	口縁部内外面と体部 内面横ナデ、体部外 面指圧、底部内面無 調整	密、径1 m以下の長 石、雲母を幾つか含 む	黄白色	口縁12.0	横ナデは「の」の字 状に抜き取る	
261	1	SD 1	土師器 皿 C	10.4		2.0	口縁部内外面と体部 内面横ナデ、体部外 面指圧、底部内面一 方向ナデ	密、径2 m以下の長 石、雲母を幾つか含 む	黄白色	口縁12.0	SU1-6、横ナデは 「の」の字状に抜き 取る	
262	16	SD 1	土師器 皿C	12.4		1.9	口縁部内外面と体部 内面横ナデ、体部外 面指圧、底部内面無 調整	密、径1mm以下の長 石、雲母をわずかに 含む	黄白色	口縁11.3	横ナデは「の」の字 状に抜き取る	
263	15	SD 2	土師器 皿C	15.2		2.2	口縁部内外面と体部 内面横ナデ、体部外 面指圧、底部内面一 方向ナデ	密、混和材がみられ ない	黄白色	口縁 8.8	横ナデは水平に施され最後に口縁部まで引き上げる	
264	689	SD1	古瀬戸緑釉小皿	(10.8)	5.0	2.5		やや粗、径1m以下 の石英をわずかに含 む		口縁 1.3 底部 6.9	口縁部内外面に鉄釉	後III~IV 期
265	441	SD 1	大窯端反皿	(11.0)	6.1	2.3	底部外面回転へラ削 り	やや粗、径1m以下 のチャートをわずか に含む	にぶい黄橙色	口縁 4.7 底部12.0	全面灰釉、底部外面 に輪ドチ痕	
266	684	SD1	古瀬戸合子	(3.8)				やや粗、径1mm以下 の石英をわずかに含む	灰黄色	口綾 1.7	外面に粘土紐を縦に 貼り付けその上に刺 突文、粘土紐の間に 径1cmの豆状の粘土 を張り付ける、全面 灰釉	後 III ~ IV 期
267	439	SD1	古瀬戸 有耳壺	(12.9)				やや粗、径1m以下 の長石をわずかに含	灰白色	口縁 2.3	口縁部内外面灰釉	

第25表 遺物観察表(14)

第25		夏物觀勢	X 1X (14)		+ = 7	_					T	
挿図 番号	整理番号	遺構	器種	口径	去量(cm 底径	器高	整形、調整	胎 土	色 調	残存率 (X/12)	その他	産地、時期
268	693	SD1	瓷器系陶器 甕	(18.9)				やや粗、径2m以下 の長石、チャートを 幾つか含む	灰黄色~灰色	口縁 1.4	全面露胎	
269	690	SD 1	瀬戸美濃盤		(16.0)			密、径1mm以下の長 石、チャートを幾つ か含む	灰色	底部 1.1	体部外面に 2 条の沈 線、体部内外面灰釉 高台周辺露胎	18世紀?
270	168	D区F 層	土師器 広口壺 2	(14.2)			口縁部内面横ナデ後 斜めミガキ	やや粗、径1mm以下 の石英、チャートを 多く含む	浅黄橙色~暗灰	口縁 3.4		
271	370	D区C ~D層	土師器 高坏A1a	(24.0)			口縁部内面横ミガキ 坏部内外面斜めミガ キ	密、径 2 mm以下の長 石、石英、雲母を幾 つか含む	浅黄橙色~灰色	口縁 4.0	坏部内面下方圏線状 に凹む	
272	227	D区C ~D屑	土師器 高坏A1b	(27.6)			坏部内外面斜めミガ キ	密、径2mm以下の長 石、チャート、雲母 を含む	灰白色~黒色	口縁 3.0	口縁端部沈線 2 条	
273	508	D区C ~D層	須恵器 坏蓋B				天井部外面上方回転 ヘラ削り、天井部内 面中央一方向ナデ	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	青灰色		つ径3.6cm	畿内系 6 世紀代
274	496	D区B ~C層	須恵器 坏身C	(11.4)	5.3	3.6	底部内面一方向ナデ 底部外面板目、ヘラ 切り未調整	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む、 黒色の吹出しが幾つ かみられる	灰色	口縁 2.7 底部12.0		美 濃 系10 世紀代
275	540	D区B ~C層	須恵器 坏身C	(12.8)	(8.8)	4.2	底部外面へラ削り	やや粗、径1㎜以下 の長石をわずかに含 む黒色の吹出しがわ ずかにみられる	灰色	口縁 3.4 底部 4.4		美濃系10世紀代
276	495	D区C ~D層	須恵器 坏身C	(12.2)	(9.0)	4.4	底部外面へう削り	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む、 黒色の吹出しが幾つ かみられる	灰白色	口縁 4.3 底部 4.9		美濃系10世紀代
277	502	D区C ~D層	須恵器 坏身C	-	7.7		底部内面一方向ナデ 底部外面板目、ヘラ 切り後一部ナデ消し	密、径1m以下の長 石をわずかに含む	灰色	底部12.0		美濃 系10世紀
278	476	D区C ~D層	須恵器 坏身B	(15.0)	(10.1)	4.3	底部外面回転へラ削 り、高台端部茎状圧 痕	密、径3mm以下の長 石を幾つか含む	灰色	口縁 4.6 底部 5.6	底部内面平滑	美 濃 系10 世紀
279	487	D区B ~C層	須恵器 坏身B	(15.8) (12.7)	3.6		底部内面中央コテナ デおよび一方向ナデ 底部外面回転へラ削 り	密、径1 mm以下の長 石をわずかに含む	灰色	口縁 3.7 底部 5.7		美濃須衛 8世紀後 半
280	474	D区B ~D層	須恵器 坏身B	(14.6)	9.6	4.2	底部外面回転へラ削 り	密、径3 m以下の長 石、チャートをわず かに含む	灰色	口縁 5.5 底部12.0		美濃須衛 9世紀前 半
281	481	D区B 層	須恵器 坏身B		11.4		底部内面一方向ナデ 底部外面回転へラ削 り	密、径1m以下の長 石をわずかに含む	灰白色	底部 9.8	底部歪みあり	美濃須衛 8世紀初 頭?
282	469	D区B ~C層	須恵器 盤		(13.1)		底部内面周縁指圧、 底部外面回転へラ削 り	密、径5 mm以下の長 石をわずかに含む	灰色	底部 2.7		美濃須衛 8世紀後 半
283	569	D区H 層 (SD6)	須恵器 鉢	(14.4)				やや粗、径1㎜以下 の長石、チャートを 幾つか含む	灰白色~灰色	口縁 3.2		美濃須衛
284	572	D区C ~D層	須恵器 壺		(10.1)		体部内面不定方向ナ デ、体部外面~底部 外面回転へラ削り	やや粗、径1mm以下 の長石、石英をわず かに含む	灰色	底部 2.3		美濃須衛 8世紀代
285	657	D区B ~C層	須恵器 長頸壺					やや粗、径1m以下 の長石を幾つか含む	灰色		頸部2段構成、肩部 有段	美濃須衛 8世紀後 半
286	575	D区F 層	須恵器 高坏				体部外面下方回転へ う削り	やや粗、径1m以下 の長石をわずかに含 む	灰色			尾張系 7 ~8型式
287	528	D区B 層	須恵器 甕	(21.0)			体部外面板状工具に よる横ナデ	やや粗、径1mm以下 の長石を幾つか含む	灰白色~灰色	口縁 1.7		美濃須衛 7世紀後 半
288	531	D区B ~D層	須恵器 変				外面板状工具による 横ナデ	密、径1㎜以下の長 石、チャートをわず かに含む	灰黄色		外面 2 条沈線の間に 波状文	美濃須衛 7世紀後 半
289	530	D区B 層	須恵器 甕					密、径1mm以下の長 石を幾つか含む	褐灰色		外面に波状文	5 世紀末 ~ 6 世紀 初頭

第26表 遺物観察表(15)

第26	衣 1.	良物観察	₹ 3₹(13)									
挿図 番号	整理 番号	遺構	器種	口径	定量(cm) 器高	整形、調整	胎 土	色 調	残存率 (X/12)	その他	産地、時期
290	533	D区A 層	須恵器 鍋	口住	底径	帝向	外面平行叩目文	やや粗、径1mm以下 の長石、チャートを わずかに含む	灰白色	口縁 0.6		
291	534	D区D 層	須恵器 獲	(21.1)			体部外面擬格子叩目 文、体部内面同心円 当て具	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 0.7		美濃須衛8世紀後半
292	532	SD 6	須恵器 甕	(16.8)			体部外面擬格子叩目 文、体部内面同心円 当て具	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 4.8		美濃須衛 8世紀後 半
293	526	D区C ~D層	須恵器 甕	(21.0)			体部外面擬格子叩目 文、体部内面同心円 当て具	やや粗、径1mm以下 の長石をわずかに含 む	灰色	口縁 2.5		美濃須衞 8世紀後 半
294	700	D区C ~D層	須恵器 甕				内面同心円当て具お よび一部ナデ、外面 擬格子叩目文	やや粗、径2mm以下 の長石を幾つか含む	灰色			
295	521	D区F 層	須恵器 養				体部外面擬格子叩目 文、体内面同心円当 て具	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰白色			美濃須衛
296	525	D区B 層	灰釉陶器 甕	(37.0)				密、径1m以下の長 石、石英をわずかに 含む	灰色	口縁 1.7		美濃須衛
297	334	D区C ~D層	土師器 頸部外反甕 B 3	(22.9)			口縁部内面横ハケ、 体部外面縦ハケ(原 体8本、幅1.3cm)	密、径3㎜以下の長 石、雲母を幾つか含 む	にぶい黄橙色~ 暗灰色	口縁 0.8	体部外面煤付着	
298	335	D区C ~D層	土師器 頸部外反甕 B3	21.0			ロ縁部内面斜めナデ 体部外面斜めナデ、 体部内面指圧	密、径1m以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む	浅黄橙色	口縁 6.0	体部外面煤付着	
299	232	D区C ~D層	土師器 頸部外反獲 A1?	(18.5)			口縁部内外面横ナデ	密、径2m以下の石 英、チャートをわず かに含む	にぶい橙色	口縁 2.0	口縁部内面煤付着	
300	296	D区F 層	土師器 頸部外反甕 A 2	(28.2)			体部内外面斜めハケ (原体5本、幅1.8cm)	密、径1㎜以下の長 石、チャートをわず かに含む	にぶい黄橙色~ 灰黄褐色	口縁 1.6		
301	390	D区C ~D層	土師器 頸部外反變 B3				体部外面縦ハケ、下 方斜めハケ	密、径1㎜以下の長 石わずかに含む	浅黄橙色		体部外面煤付着	
302	632	D区B 層	灰釉陶器 Ⅲ	(10.4)	(5.8)	1.9	体部内面コテ	やや粗、径1㎜以下 の長石をわずかに含 む	灰色	口縁 2.3 底部 1.8		H72
303	681	D区B 層	灰釉陶器 皿	(13.6)	(7.4)	2.1		密、径1mm以下の微 砂粒をわずかに含む	灰色	口縁 2.4 底部 0.8		H72
304	631	D区A ~B層	灰釉陶器 III	(13.2)	(7.5)	2.3	底部外面回転ナデ	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰色	口縁 1.7 底部 2.4		H72 (美濃)
305	416	D区B ~C層		(13.2)	(7.2)	2.45	底部外面回転へラ削 り	密、径2m以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 1.6 底部 3.6		H72 (美濃)
306	662	D区B ~C層	灰釉陶器 段皿	(13.6)				密、径1mm以下の微 砂粒をわずかに含む	灰色	口縁 1.8	灰釉不明	H72 (美濃)
307	643	D区B 層	灰釉陶器 輪花皿	(14.8)		_		密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰色	口縁 1.7		H72 (美濃)
308	659	D区B層	灰釉陶器		(8.0)		体部外面下方〜底部 外面回転へラ削り、 内面コテ	やや粗、径1m以下 の長石をわずかに含 む	灰色	底部 5.0		K90
309	674	D区B 層	灰釉陶器		(7.0)		体部外面下方~底部 外面回転へラ削り	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰色	底部 3.3		O53
310	677	D区C ~D屑	灰釉陶器 碗		(8.0)		体部外面下方~底部 外面回転へラ削り	やや粗、径1m以下 の長石を幾つか含む	灰黄色	底部 3.4		O53
311	660	D区C ~D層	灰釉陶器 碗		7.6		底部外面回転糸切り 後、周縁回転ナデ	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰色	底部 6.8		O53 (美濃)
312	673	D区A 層	灰釉陶器 碗		(7.0)		底部外面回転糸切り	密、径1m以下の長 石をわずかに含む	灰色	底部 5.3		H72 (美濃)
313	642	D区B 層	灰釉陶器 碗		(7.8)		底部外面回転へラ削 り	密、径1m以下の長 石をわずかに含む	灰白色	底部 4.3	やや軟質	H72 (美濃)
314	679	D区B ~D層	山茶碗B		7.3		底部外面回転糸切り	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色	庭部12.0	内面自然釉	百代寺 (美濃)
315	649	D区B 層	灰釉陶器 碗		(7.6)		回転ナデ、静止指ナ デ調整	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰黄色	底部 4.7		H72 (美濃)

第27表 遺物観察表(16)

挿図	整理	遺構	器種	ì	去量(cm)	整形、調整	胎土	色 調	残存率	Z 0 44	産地、時期
番号	番号			口径		器高		//n	PG pq	(X/12)	その他	. 胜地、时期
316	647	D区A 層	灰釉陶器 碗		(5.8)		底部外面回転糸切り	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色	底部 6.6		H72 (美濃)
317	675	D区B ~C層	灰釉陶器 碗		(7.8)		回転ナデ	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰色	底部 2.6		H72
318	650	D区C ~D層	灰釉陶器 碗		7.4		回転ナデ、茎状圧痕	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色	底部 7.8		H72 (美濃)
319	664	D区A ~B層	灰釉陶器 碗	(17.6)			体部外面下方回転へ ラ削り	やや粗、径1mm以下 の長石をわずかに含 む	灰黄色	口縁 1.5	口縁部内面に沈線	O53 (美濃)
320	671	D区B ~C層	灰釉陶器 碗	(16.8)			体部外面下方回転へ ラ削り	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 1.4	口縁部内面に1条の 沈線	H72
321	661	D区B ~D層	灰釉陶器 輪花碗	(17.6)			体部内外面コテ	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 2.6		H72 (美濃)
322	655	D区A ~B層	灰釉陶器 碗	(16.4)				密、径1mm以下の微 砂粒をわずかに含む	灰白色	口縁 2.3		H72
323	417	D区B ~C層	灰釉陶器 碗	(14.8)	(5.7)	6.4	体部下方回転へラ削 り	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 3.5 底部 3.4		H72 (美濃)
324	667	D区B 層	灰釉陶器 碗	(14.0)	(7.0)	3.6	体部外面下方~底部 外面回転へラ削り	密、(混和材ナシ)	灰白色	口縁 0.4 底部 1.8	灰釉不明、やや軟質	H72 (美濃)
325	669	D区C ~D層	灰釉陶器 碗		(11.6)		体部外面下方回転へ ラ削り	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰色	底部 3.0	二次的に煤付着	H72 (美濃)
326	666	D区B 層	灰釉陶器 碗		(9.6)		体部外面下方〜底部 外面回転へラ削り	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色	底部 3.9		H72
327	646	D区B ~C層	灰釉陶器 碗		6.4		底部外面回転糸切り、茎状圧痕	密、径1m以下の長 石をわずかに含む	灰白色	底部12.0		H72 (美濃)
328	644	D区A ~B層	灰釉陶器 碗		7.6		底部外面回転糸切り	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰色	底部 9.5		百代寺 (美濃)
329	412	D区B 層	山茶碗A	(16.0)	7.3	4.6	高台端部籾殻痕、砂 粒圧痕	やや密、径 2 ~ 3 mm 以下の長石を幾つか 含む	灰色	口縁 2.2 底部 7.7	口縁部外面に小さい 玉縁	4型式
330	668	D区C ~D層	灰釉陶器 碗	(12.8)				密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 1.1		H72 (美濃)
331	653	D区A ~B層	灰釉陶器 碗		(8.0)		底部外面回転糸切り	密、径1mm以下の微 砂粒をわずかに含む	灰色	底部 3.7		H72 (美濃)
332	680	D区B ~C層	灰釉陶器 段皿?		(7.0)		本部外面下方~底部 外面回転へラ削り	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰色	底部 4.6		O53
333	654	D区C ~D層	灰釉陶器碗		6.8		底部外面回転糸切り	やや粗、径1mm以下 の長石をわずかに含 む	灰色	底部 7.4	底部外面に墨書	百代寺
334	17	D区B 層	土師器 皿B	(14.0)	(6.0)	5.0	体部内外面回転ナ デ、底部外面回転糸 切りと板目	密、径1mm以下の長 石を幾つか含む	黄橙色~黑色	口縁 3.4		
335	451	D区A 層	土師器 皿B		4.4		底部外面回転糸切り	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	浅黄橙色~黒褐 色	底部12.0		
336	467	D区A ~B層	土師器 皿B	10.2	4.4	2.1	底部外面回転糸切り	密、径1mm以下の長 石、雲母をわずかに 含む	浅黄橙色	口縁10.2 底部12.0		
337	447	D区C ~D層	土師器 皿 B		4.6		体部内外面横ナデ、 底部外面回転糸切り	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	浅黄橙色	底部12.0		
338	448	D区C ~D層	土師器皿B		5.0		底部外面回転糸切り	密、径1㎜以下の長 石、石英、雲母をわ ずかに含む	浅黄橙色~褐灰 色	底部12.0		
339	462	D区C ~D層	土師器 皿 A		5.0	-	底部外面爪状圧痕	密、径1m以下の長 石をわずかに含む	浅黄橙色	底部12.0		
340	456	D区C ~D層	土師器 皿A		4.8		体部内外面回転ナデ 底部外面爪状圧痕、 体部内面静止指ナデ 調整	密、径1mm以下の長 石、雲母を含む	浅黄橙色	底部12.0		
341	457	D区C ~D層	土師器 皿A		7.0		体部外面コテナデ、 底部外面爪状圧痕	密、径1m以下の長石、石英、雲母をわずかに含む	にぶい黄橙色~ 褐灰色	底部12.0		
342	688	D区A ~B層	瀬戸美濃	(9.7)	4.2	2.1		やや粗、径1㎜以下 の長石をわずかに含 む	灰白色	口縁 5.8 底部12.0	天井部外面灰釉、 三ヶ所にピン痕	18世紀後半
343	694	D区A ~B層	近世土師器 焙烙		_		体部外面回転へラ削 り	やや粗、径1m以下 の長石、石英、雲母 を幾つか含む	明赤褐色	口縁 0.6	外面に煤付着	

第28表 遺物観察表(17)

挿図	整理	遺構	器種	ì	去量(cm)	整形、調整	胎土	色 調	残存率	その他	産地、時期
番号	番号	481件	加門生	口径	底径	器高	正月7、阿奎	7K1	U 1979	(X/12)	, IE	压心、时别
344	413	P206	須恵器 坏身C	13.2	7.9	3.3	体部内面コテナデ、 底部外面へラ切り未 調整	やや粗、径1mm以下 の微砂粒を幾つか含 む	灰白色	口縁 6.8 底部 6.8	体部内外面に部分的 に煤付着	美濃須衛 9世紀前 半
345	539	P206	須恵器 坏身B	(12.8)	(7.8)		体部内面コテナデ、 底部外面へラ切り未 調整	やや粗、径1mm以下 の長石をわずかに含 む	灰色	口縁 2.7 底部 3.1	体部内外面に煤付着	美濃須衛9世紀前半
346	552	P 206	須恵器 坏身B		(11.6)		本部内面一方向ナデ 〜底部外面回転へラ 削り	密、径1m以下の長 石、チャートをわず かに含む	灰白色	底部 2.5	底部内外面に黒色有 機物が薄く付着、底 部外面にへう記号	美濃須衛 9世紀前 半
347	415	P 206	須恵器 盤	(14.4)	9.7	2.8	底部外面回転へラ削 り、底部指圧	密、径1㎜以下の微 砂粒を幾つか含む	灰白色	口縁 4.8 底部 6.8	体部内外面に部分的 に煤付着	美濃須衛 9世紀前 半
348	477	P 206	須惠器 盤	(18.2)	11.8	3.2	体部〜底部外面下方 回転へラ削り、底部 内面一方向ナデ	密、径1㎜以下の長 石、石英をわずかに 含む	灰白色	口縁 5.9 底部 7.0	底部内面平滑、体部 内面に黒色有機物付 着	美濃須衛 9世紀前 半
349	488	P 206	須恵器 鉢		(12.4)		体部外面下方〜底部 外面回転へラ削り	密、径 1 m以下の長 石、チャートをわず かに含む	灰色	底部 4.4	底部内面平滑、体部 内外面にうすく煤付 着	美濃須衛 9世紀前 半
350	479	P206	須恵器 瓶類		(13.2)		体部内面コテナデ、 体部外面回転へラ削 り	やや粗、径2㎜以下 の長石を幾つか含む	灰色	底部 2.9		
351	424	SK90	縄文土器 深鉢				内外面ナデ	やや粗、径1mm以下の長石、石英、チャート、雲母を多く含む	にぶい黄橙色		LR縄文	一条寺式 か元住吉 山式併行
352	428	包含層	縄文土器 深鉢				内外面ナデ	やや粗、径1m以下 の長石、石英、雲母 を幾つか含む	にぶい黄橙色~ 暗灰色		口縁部外面に素文突 帯	
353	430	包含層	縄文土器				内外面ナデ	粗、径1㎜以下の長 石、チャートを多く 含む	灰色		LR縄文	福田KII 式併行
354	318	SD 4	縄文土器 深鉢				内外面ナデ	やや粗、径1m以下 の長石、石英、雲母 を多く含む	にぶい黄橙色		LR縄文	北白川上 層3式併 行
355	167	包含層	弥生土器 甕					密、径1㎜以下の長 石、石英、チャート を含む	黒色		外面凹線 4 条	
356	253	包含層	土師器 受口獲1	(20.2)			口縁部内外面横ナデ	密、径2m以下のチャート、雲母を幾つか含む	灰白色~黒色	口縁 2.3	口縁部外面煤付着	
357	246	SK99 焼土層	土師器 受口甕2 a	(16.4)			口縁部内外面横ナデ 体部内面縦ナデ、体 部外面斜めナデ	密、径 3 mm以下の石 英、チャート、雲母 を多く含む	淡橙色~黒色	口縁 3.0	口縁端部沈線4条、 頸部屈曲部外面横線 文(へラ)、体部外面 列点文(へラ)、口縁 部~体部外面集付着 SK40と接合	
358	155	包含層	土師器 受口甕2 c	(16.0)			体部外面斜めハケ (原体 9 本、幅1.5 cm)体部内面横ハケ	やや粗、径 2 mm以下 の長石、石英、チャ ートを幾つか含む	明褐色~暗灰色	口縁 3.0	口縁部外面に刺突文 (クシ)	近江系?
359	111	包含層	土師器 受口甕2b	(16.2)				粗、径3mm以下の長 石、石英、チャート を多く含む	にぶい黄橙色	口縁 2.8		
360	158	包含層	土師器 く字甕 4	(15.2)			口縁部内外面~体部 外面横ナデ、体部内 面斜めハケ(原体9本 幅1.8cm)	やや粗、径2㎜以下 の長石、石英を幾つ か含む	にぶい橙色	口縁 3.0	体部内外面に煤付着	
361	107	包含層	土師器 く字甕1	(20.0)			体部内面横ナデ	やや粗、径1mm以下 の石英、チャートを 幾つか含む	灰色	口縁 2.3	口縁端部に刻み、体 部外面上方に列点文 と横線文(へラ)	
362	359	包含層	土師器 く字甕 4	15.3			体部内面横ナデ、体 部外面縦ナデ	粗、径3mm以下の長 石、石英、チャート 雲母を多く含む	浅黄橙色~褐灰 色	口縁11.2	体部内面中程煤付着	
363	386	包含層	土師器 く字甕 4	16.6	(8.2)		口縁部内外面および 体部内面横ナデ、体 部外面上方斜めハケ 下方斜めナデ、台部 内面斜めナデ	やや粗、径2㎜以下 の長石、石英、チャ ート、雲母を多く含む	灰褐色	口縁12.0 底部 5.7	体部外面に列点文 (ヘラ)、体部内面お よび体部外面煤付着	

第29表 遺物観察表(18)

第29	表 i	貴物観察	そ表(18)									
挿図	整理	遺構	器種	_	去量 (cm		整形、調整	胎土	色調	残存率	その他	産地、時期
番号 364	番号 352	包含層	土師器	口径 13.4	底径	器高	体部内面斜めケズリ	密、径5 mm以下の石	浅黄橙色	(X/12) 口縁 8.5	体部内面煤付着	庄45、叶初
			く字甕 4				体部外面斜めナデ	英を幾つか含む				
365	133	包含層	土師器 く字甕 4	(14.1)			外面上方横ナデ、中 程縦ナデ	やや粗、径3mm以下 の石英、チャートを 多く含む	浅黄橙色	口縁 1.4		
366	265	SK140	土師器 S字甕A	(17.5)			頸部内面へラナデ、 体部外面縦ハケ、体 部外面斜めハケ後横 ハケ	やや粗、径1mm以下 の石英、チャート、 雲母を幾つか含む	黄橙色~黑色	口縁 2.0	体部外面煤付着	
367	394	包含層	土師器 S字甕A	(16.0)			屈曲部内面横ハケ、 指圧、体部内面縦ナ デ、体部外面羽状ハ ケ後横ナデ(原体6本 幅1.2cm)	密、径1㎜以下の長石、チャート、雲母を多く含む	浅黄橙色~灰色	口縁 2.5	体部外面煤付着	
368	256	包含層	土師器 S字甕A	(15.6)			頸部内面横ハケ、体 部外面斜めハケ後横 ハケ	やや粗、径1mm以下 の長石、チャート、 雲母を多く含む	明褐灰色~黒色	口縁 2.5	口縁部内外面~体部 外面煤付着	
369	749	包含層	土師器 S字甕A	(16.0)			類部内面横ハケ、体 部外面斜めハケ後横 ハケ	やや粗、径1mm以下 の長石、チャート、 雲母を幾つか含む	にぶい黄橙色~ 褐灰色	口縁 1.8	口級部内外面~体部外面煤付着	
370	78	包含層	土師器 S字甕B	(15.4)			体部外面斜めハケ (原体7本、幅2cm)、 横ハケ(斜めハケ り原体が粗い)、気部 内面~体部内面横ハケ	やや粗、径1mm以下 の長石、石英、雲母 を多く含む	灰黄褐色	口縁 3.5		
371	362	包含層	土師器 S字甕B	(11.2)			体部内面指圧、体部 外面羽状ハケ後横ハ ケ	密、径1mm以下の黒 褐色粒、チャートを 含む	浅黄橙色~暗灰 色	口縁 1.4	G 7 グリット北西角 より出土、体部外面 煤付着	
372	366	包含層	土師器 S字甕B	(11.4)			屈曲部内面へラナデ 体部内面指圧、屈曲 部外面沈線、体部外 面羽状ハケ後横ハケ (原体7本、幅1.1cm)	密、径1mm以下の石 英、チャート、雲母 を幾つか含む	浅黄橙色~暗灰 色	口縁 4.5	G 7 グリット北西角 より出土、体部外面 煤付着	
373	363	包含層	土師器 S字甕B	(11.6)			体部内面指圧、体部 外面羽状ハケ後横ハ ケ	やや粗、径1mm以下 の長石、チャート、 雲母を多く含む	灰白色~褐灰色	口縁 2.9	G 7 グリット北西角 より出土、体部外面 煤付着	
374	257	包含層	土師器 S字甕B	(14.6)			屈曲部外面沈線、体 部外面斜めハケ	密、径1mm以下の石 英、チャート、雲母 を幾つか含む	暗灰色	口縁 2.8	体部外面煤付着、 SB23に混入	
375	143	包含層	土師器 S字甕B	(14.8)			体部外面斜めハケ、 屈曲部内面横ハケ	やや粗、径1mm以下 の長石、石英、雲母 を幾つか含む	浅黄橙色~黑色	口縁 3.0		
376	750	包含層	土師器 S字甕B	(11.0)			頸部内面横ハケ、体 部外面斜めハケ後横 ハケ	やや粗、径2m以下 のチャート、雲母を 幾つか含む	灰黄褐色	口縁 2.3	口縁部~体部外面に 煤付着	
377	86	包含層	土師器 S字甕C	(15.0)			体部外面斜めハケ (原体6本、幅1.7 cm)屈曲部外面沈線	やや粗、径3mm以下の長石、石英、チャート、雲母を幾つか含む	暗灰色	口縁 3.0		
378	87	包含層	土師器 S字甕C	(16.0)			体部外面斜めハケ後 横ハケ (原体8本、幅3.0cm)、外面屈曲 部沈線、頸部内面横 ハケ、口縁端部凹面	やや粗、径3mm以下 の長石、石英、チャート、雲母を幾つか 含む	暗灰色	口縁 2.5	口縁部内外面~体部内面媒付着	
379	323	包含層	土師器 S字甕C	(12.9)			屈曲部外面沈線、体 部外面斜めハケ	密、径2mm以下の長 石、チャート、雲母 を幾つか含む	浅黄橙色	口縁 1.7	SD1に混入	_
380	81	包含層	土師器 S字甕C	(18.8)			体部外面斜めハケ、 屈曲部外面沈線	密、径1㎜以下の長 石、雲母を幾つか含 む	にぶい橙色~暗 灰色	口縁 1.5	G 7 グリット北西角 より出土、体部内面 煤が多く付着	
381	89	包含層	土師器 S字甕D	(14.8)			体部外面縦ハケ (原 体7本、幅1.7cm)	密、径1㎜以下の長 石、チャート、雲母 をわずかに含む	灰白色	口縁 3.0		

第30表 遺物観察表(19)

挿図	整理	遺構	器種	È	夫量(cm)	整形、調整	胎土	色 調	残存率	その他	 産地、時期
番号	番号	退傳	荷俚	口径	底径 器高	2010、調金	/п		(X/12)	IE	庄地、时界
382	367	包含層	土師器 S字甕B	18.5		屈曲部内面へラナデ 体部内面指圧、体部 外面羽状ハケ後横ハ ケ(原 体6本、幅1.2 cm)	やや粗、径1mm以下の石英、チャート、 雲母を幾つか含む	にぶい褐色〜暗 灰色	口縁 9.6	G 7 グリット北西角 より出土	
383	355	包含層	土師器 S字甕C	(23.0)		体部内面指圧、体部 外面斜めハケ後横ハ ケ (原体 7 本、幅1. 7cm)	密、径2m以下の長石、チャート、雲母を多く含む	暗灰色	口縁 4.0	G7グリット北西角 より出土	
384	356	包含層	土師器 S字甕C	(19.0)		体部内面指圧、斜め ナデ、体部外面羽状 ハケ後横ハケ (原体 10本、幅1.8cm)、	やや粗、径 2 mm以下の長石、チャート、 雲母を多く含む	にぶい黄橙色~ 黒色	口縁 1.0	G7グリット北西角 より出土	
385	145	包含層	土師器 S字甕E	(8.0)		体部外面斜めハケ後 横ハケ、屈曲部内面 横ハケ	やや粗、径2mm以下 の長石、石英、チャ ートを幾つか含む	浅黄橙色~灰色	口縁 2.0		
386	365	包含層	土師器 S字甕E	(10.6)		屈曲部内面へラナデ 体部外面羽状ハケ後 横ハケ	密、径1mm以下の長 石、チャート、雲母 を幾つか含む	灰色	口縁 2.3	G 7 グリット北西角 より出土	
387	83	包含層	土師器 S字甕脚台 B		7.2	外面斜めハケ(原体5 本、幅0.7cm)、体部 内面ケズリ?脚部内 面指圧	やや粗、径1m以下 のチャート、雲母を 多く含む	にぶい橙色〜暗 灰色	底部12.0	体部外面に煤付着	
388	84	包含層	土師器 S字甕D	(16.0)		体部内面斜めハケ (原体10本、幅3.2cm)	やや粗、径3mm以下 の長石、石英、雲母 をわずかに含む	にぶい橙色	口縁 1.5	頸部中程に稜、口縁 端部平坦	
389	160	包含層	土師器 宇田型甕	(16.0)		屈曲部外面沈線、体 部外面斜めハケ	やや粗、径 2 mm以下 の長石、石英、雲母 を幾つか含む	にぶい灰黄褐色 〜灰色	口縁 3.5		
390	85	包含層	土師器 字田型甕	(14.8)		体部外面斜めハケ (原体 8 本、幅1.5 cm)内面指圧後横ケ ズリ	やや粗、径2m以下 の長石、石英、雲母 をわずかに含む	浅黄橙色	口縁 2.0	口練端部平坦	
391	304	包含層	土師器 宇田型甕	(18.0)		屈曲部外面沈線、体 部外面斜めハケ (原 体8本、幅1.9cm)	密、径3 m以下の長 石、石英、雲母を幾 つか含む	にぶい黄橙色	口縁 3.8	口縁部内外面煤付着 SB40に混入	
392	174	包含層	土師器 宇田型甕	(15.6)		体部外面斜めハケ (原体 8 本、幅2.5 cm)	やや粗、径1mm以下 の長石、石英、雲母 を多く含む	にぶい黄橙色	口縁 2.0		
393	154	包含層	土師器 宇田型甕	(15.2)		体部外面斜めハケ (原体 9 本、幅3.4 cm)体部内面横ナデ	やや粗、径 4 mm以下 の長石、石英を幾つ か含む	浅黄橙色	口縁 1.6	体部内外面煤付着	
394	156	包含層	土師器 宇田型甕	(16.0)		体部外面斜めハケ (原体9本、幅1.9 cm)体部内面指圧後 横ナデ		淡黄橙色	口縁 3.0	口縁端部凹む	
395	172	P 555	土師器 宇田型甕	(16.2)		体部外面斜めハケ	密、径2㎜以下の長 石、石英、赤褐色粒、 チャートを幾つか含 む	にぶい橙色	口縁 2.3		
396	152	包含層	土師器 宇田型 甕	(12.6)		体部外面斜めハケ (原体13本、幅2.8 cm)体部内面横ナデ	密、径2m以下の長 石、石英、赤褐色粒 をわずかに含む	淡黄橙色	口縁 4.7	口縁端部凹む	
397	140	包含層	土師器 宇田型甕	(13.6)		体部外面斜めハケ (原体12本、幅2.5 cm)	密、径 4 m以下の長石、石英、赤褐色粒、チャートをわずかに含む	浅黄橙色~灰色	口縁 3.2	口縁端部わずかに凹 む、右下がりの斜め ハケ	
398	137	包含層	土師器 字田型甕	(14.4)		体部外面縦ハケ	やや粗、径2 m以下 の長石、石英を幾つ か含む	浅黄橙色~暗灰 色	口縁 1.8	口縁部上面、体部外面に煤付着	
399	139	包含層	土師器 宇田型甕	(12.4)		体部外面斜めハケ (原体8本、幅1.9 cm)	密、径1 m以下の長 石、石英をわずかに 含む	褐灰色	口縁 2.8	口縁端部わずかに凹む、体部外面と口縁 部内外面煤付着、頸 部内面に彎曲なし	
400	349	包含層	土師器 宇田型甕	(13.0)		体部内面指圧、体部 外面羽状ハケ後一部 横ナデ(原体 9 本、 幅2.2cm)	密、径3m以下の長 石、石英、赤褐色粒、 雲母を幾つか含む	灰白色	口縁 4.0	体部内面煤付着	

第31表 遺物観察表(20)

挿図	整理	786-848	0.0 Tak] ;	去量(cn	1)	46 T/ 20 46			残存率		
番号	番号	遺構	器種	口径	底径	器高	整形、調整	胎 土	色 調	$(\widehat{X}/12)$	その他	産地、時期
401	142	包含層	土師器 宇田型養	(12.2)			体部外面羽状ハケ (原体10本、幅2.7 cm)内面横ナデ	やや粗、径 4 mm以下 の長石、赤褐色粒を 幾つか含む	にぶい橙色	口縁 1.7		
402	80	包含層	土師器 字田型 獲	(13.4)			体部外面羽状ハケ (原体 9 本、幅1.6 cm)体部内面縦ナデ 後横ナデ	やや粗、径3 mm以下 の長石、石英、雲母 を幾つか含む		口縁 3.0	口縁端部凹む、口縁 部内外面と体部外面 煤付着	
403	377	SK98	土師器 宇田型甕	18.9	9.5	30.8	体部内面指圧および 斜めナデ、体部外面 羽状ハケ(原体23本 幅4.4cm)、台部内外 面指圧	密、径5mm以下の長石、石英、チャート、 雲母を幾つか含む	灰白色~褐灰色	口縁 9.6 底部12.0	体部外面煤付着、体 部と台部の接合面の 粘土が他と違う	
404	149	包含層	土師器 宇田型甕	(17.0)			体部外面羽状ハ((原 体 9 本、幅2.5cm)横 ハケ(原体4本、幅1. 2cm)	やや粗、径5mm以下の長石、石英、チャート、雲母を幾つか含む	浅黄橙色	口級 3.0	端部わずかに凹む、 体部外面煤付着	
405	91	包含層	土師器 宇田型甕	(18.2)			体部外面斜めハケ (原体16本、幅3.9 cm)体部内面斜めナデ	密、径3mm以下の長石、石英、チャート、 雲母をわずかに含む	浅黄橙色	口縁 2.3	口縁端部平坦	
406	328	包含層	土師器 甕脚台 B		7.9		体部〜台部外面斜め ハケ、台部内面斜め ナデ	やや粗、径3 mm以下 の長石、石英、雲母 を多く含む		底部 8.3		
407	92	包含層	土師器 甕脚台 A		6.0		体部〜台部外面斜め ハケ、台部内面横ケ ズリ	密、径 3 mm以下の長 石、石英、チャート、 雲母をわずかに含む	浅黄橙色	底部12.0	体部外面煤付着	_
408	357	包含層	土師器 頸部外反甕 A1	14.6		·	類部~体部外面横ハ ケ、体部外面斜めハ ケ	密、径1mm以下の石 英、赤褐色粒をわず かに含む	橙色	口縁 6.3		
409	135	包含層	土師器 頸部外反甕 A 2	14.2			体部外面縦ハケ (原 体 8 本、幅1.7cm)、 体部内面横ハケ	やや粗、径2㎜以下 の長石、石英、チャ ートを幾つか含む	明褐色~暗灰色	口縁 5.8	体部内外面部分的に 煤付着	
410	315	包含層	土師器 頸部外反甕 A2	(13.0)			頸部内外面横ハケ、 体部外面斜めハケ	やや粗、径 1 mm以下 のチャート、雲母を わずかに含む	にぶい橙色	口縁 1.8	口縁部内面煤付着、 SD2に混入	
411	136	包含層	土師器 頸部外反甕 A2	(14.4)		-	体部外面縦ハケ	やや粗、径2mm以下 の長石、チャートを 幾つか含む	浅黄橙色~暗灰	口縁 1.8	口縁部上面、体部外面に煤付着	
412	88	包含層	土師器 頸部外反獲 A2	(10.8)			体部外面縦ハケ、斜 めハケ(原体7本、 幅1.8cm)、内面下方 斜めナデ	密、径1m以下のチャート、雲母をわずかに含む	浅黄橙色	口縁 1.7		
413	326	包含層	土師器 頸部外反甕 B3	(13.2)			口縁部〜体部内面横 ナデ、体部外面縦ハ ケ	密、径1㎜以下のチャート、雲母をわずかに含む	灰黄褐色	口縁 1.9	屈曲部内面以外全面 に媒付着、SD1に混 入	
414	141	包含層	土師器	(12.6)			体部外面粗い縦ハケ	やや粗、径 4 mm以下 の長石、石英、チャ ート、雲母を幾つか 含む	灰色	口縁 2.6	口縁端部ナデの為わ ずかに凹む	
415	157	包含層	土師器 く字甕 4	(13.7)			体部外面縦と斜めハケ、頸部〜体部内面 対めハケ、頸部外面 横ナデ	やや粗、径3m以下 のチャート、雲母を 幾つか含む	にぶい橙色	口縁 2.0		
416	300	包含層	土師器 類部外反甕 A 2	(21.4)			体部内面横ナデ、体 部外面斜めハケ	密、径 2 mm以下の石 英、チャートをわず かに含む	暗灰色	口縁 1.1	SB38に混入	
417	151	包含層	土師器 頸部外反甕 AI?	(21.6)			体部外面斜めハケ (原体9本、幅1.9 cm)顕部内面横ハケ がわずかに残存	密、径 5 mm以下の長 石、チャートをわず かに含む	にぶい黄橙色~ 灰色	口縁 1.6		
418	301	包含層	土師器 類部外反獲 A 2	(20.2)			体部内外面斜めハケ	粗、径1m以下の長 石、チャートをわず かに含む	浅黄橙色~灰白色	口線 1.5	SB38に混入	
419	90	包含層	土師器 頸部外反甕 A 2	(19.6)			体部外面斜めハケ (原体7本、幅1.4 cm)体部内面横ハケ	密、径1mm以下の長 石、チャート、雲母 をわずかに含む	灰白色	口縁 4.4	二次的に煤?付着	_

第32表 遺物観察表(21)

第32章	× 1	直物観 第	₹ 3 ₹(£1)									
挿図 番号	整理 番号	遺構	器種	_	法量(cm 底径) 器高	整形、調整	胎土	色 調	残存率 (X/12)	その他	産地、時期
420	260	包含層	土師器 頸部外反甕 A2	(20.0)	展任	師可	口縁部~体部内面横 ナデ、体部外面斜め ハケ	やや粗、径1mm以下 の長石、チャート、 赤褐色粒、雲母をわ ずかに含む	浅黄橙色~黑色	口縁 1.7	□縁部~体部外面煤 付着、SB31に混入	
421	138	包含層	土師器 頸部外反甕 A2	(12.4)			体部内面縦ハケ、頸 部内面横ハケ、体部 内面縦ナデ	密、径1mm以下の長 石、赤褐色粒、チャ ートをわずかに含む	暗灰色	口縁 2.0		
422	150	包含層	土師器 頸部外反甕 A1	(19.4)			体部外面斜めハケ (原体8本、幅1.6 cm)体部内面横ハケ	やや粗、径1㎜以下 の長石、石英、チャ ート、赤褐色粒を幾 つか含む	にぶい橙色	口縁 2.8		
423	319	包含層	土師器 清郷型鍋	(21.8)			体部内面横ナデ	やや粗、径5mm以下 の長石、石英、雲母 を幾つか含む	にぶい橙色	口縁 3.6	口縁部~体部外面煤 付着、SD1に混入	
424	148	包含層	土師器 頸部外反甕 A1	(22.4)			体部外面斜めハケ、 内面横ハケ	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	浅黄橙色	口縁 2.3	外面に若干煤付着	
425	339	包含層	土師器 頸部外反斃 A I	12.0			口縁部〜体部内面横 ハケ、体部外面斜め ハケ(原体12本、幅 1.5cm)	密、径2㎜以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む	にぶい黄橙色	口縁 8.5	体部内外面煤付着	
426	76	包含層	土師器 頸部外反甕 A2	(23.2)			体部外面斜めハケ (原体 8 本、幅1.8 cm)体部内面横ナデ	やや粗、径1m以下 の長石、チャート、 雲母をわずかに含む	にぶい黄橙色	口縁 2.5		
427	159	包含層	土師器 頸部外反甕 A 2	(22.6)			口縁部内面横ハケ、 体部外面斜めハケ (原体8本、幅2.3 cm)体部内面斜めナ	密、径1㎜以下の長石、石英、チャートを幾つか含む	浅黄橙色	口縁 2.6		
428	153	包含層	土師器 頸部外反甕 B3	(21.3)			体部外面斜めハケ (原体8本、幅1.6 cm)頸部内面横ハケ	やや粗、径 2 m以下 の長石、石英、チャ ート、雲母をわずか に含む	浅黄橙色	口縁 4.2	体部外面煤付着	
429	65	包含層	土師器 高坏脚部A		15.0		脚部外面斜めミガ キ、脚部内面横ナデ	密、径2m以下の長 石、石英、チャート を多く含む	浅黄橙色	底部 7.7	2孔2組4穿孔、脚 部中程に横線文	
430	69	包含層	土師器 高坏脚部 B		(11.7)		脚部外面斜めミガキ 脚部内面横ハケ (原 体10本、幅1.8cm)	密、径 1 m以下のチャートをわずかに含む	灰褐色	底部 3.1	3孔2組6穿孔	
431	62	包含層	土師器 高坏脚部A		14.4		脚部外面斜めミガキ 脚部内面斜めハケ (原体8本、幅1.2 cm)	密、径1㎜以下の石 英、チャート、雲母 をわずかに含む	褐灰色	底部 6.8	2孔3組6穿孔	
432	190	包含層	土師器 高坏脚部 A		(12.8)		脚部内面斜めナ、脚 部外面上方縦ミガ キ、下方斜めミガキ	密、径1m以下の長 石、チャートをわず かに含む	灰白色	底部 3.8	穿孔あり、SB23に混 入	
433	124	包含層	土師器 有稜高坏				内面不定方向ハケ	密、径1mm以下の赤 褐色粒、雲母をわず かに含む	灰色	底部 1.0	外羽状文と刻み(へ ラ)、沈線	
434	123	包含層	土師器 有稜高坏		(17.0)		内面不定方向ハケ	密、径 1 m以下のチャートをわずかに含む	浅黄橙色	底部 1.8	外面波線文と刺突文 (クシ)、沈線(ヘラ) 穿孔あり	
435	127	包含層	土師器 有稜高坏		(10.8)		外面縦ミガキ	密、径1㎜以下の長 石、チャートをわず かに含む	にぶい橙色	底部 2.1	外面列点文と波線文 沈線(ヘラ)、穿孔あり	
436	381	包含層	土師器 高坏A1b	27.2	15.0	20.5	坏部内外面斜めミガ キ、脚部内面斜めナ デ、脚部外面縦ミガ キ	密、径 3 mm以下のチャート、雲母をわずかに含む	灰白色~灰色	口縁12.0 底部10.0	口縁部内面沈線 4 条 2 孔 2 組 4 穿孔、坏 部内面下方が圏線状 に凹む	
437	131	包含層	土師器 高坏A1c	(26.6)			坏部外面斜めミガキ	やや粗、径2mm以下 の長石、チャートを 幾つか含む	灰白色~褐灰色	口縁 4.9	口縁部内面沈線 7 条	
438	343	包含層	土師器 高坏A1c	(30.0)			坏部外面縦ミガキ	密、径 3 mm以下の長 石、チャートをわず かに含む	淡赤橙色~灰色	口縁 1.5		
439	500	包含層	土師器 高坏A 4	(24.2)			坏部外面指圧	やや粗、径1㎜以下 の長石、石英、チャ ートを幾つか含む	にぶい黄橙色~ 灰色	口縁 2.0	内面に凹凸がみられる る	

第33表 遺物観察表(22)

第33	表 i	貴物観響	祭表 (22)									
挿図 番号	整理番号	遺構	器種	口径	去量(cm 底径		整形、調整	胎土	色 調	残存率 (X/12)	その他	産地、時期
440	392	包含層	土師器 高坏A4	(23.0)	展任	the leaf	「 「お部外面縦ハケ後横 ナデ	密、径 5 mm以下の長 石、チャートを幾つ か含む	淡橙色~灰褐色	口縁 3.5	内面に凹凸がみられる	
441	106	包含層	土師器 高坏A3	(12.1)			坏部内外面横ナデ	やや粗、径1mm以下 の石英、チャートを 幾つか含む	灰白色	口縁 3.4		
442	316	SD 5	土師器 高坏?	(16.0)			体部内外面横ナデ	密、径 7 mm以下の長 石、石英、チャート 赤褐色粒、雲母を幾 つか含む	にぶい橙色	口縁 3.0		
443	94	包含層	土師器 高坏B1	(13.4)			口縁端部を外方につ まみ出す	やや粗、径2mm以下 の長石、チャート、 赤褐色粒を幾つか含 む	浅黄橙色	口縁 2.5		
444	93	包含層	土師器 有稜高坏	(10.2)			坏部内面ミガキ	密、径1mm以下の長 石、雲母をわずかに 含む	浅黄橙色	口縁 2.8	坏部外面に煤付着	_
445	433	包含層	土師器 高坏Ab				体部内外面ミガキ	密、径1m以下のチャート、雲母をわずかに含む	灰白色		外面に明瞭な線刻、 口縁部内面沈線 3 条 SD 1 に混入	
446	99	包含層	土師器 高坏脚部				脚部外面縦ミガキ	密、径1mm以下のチャート、雲母をわずかに含む	にぶい黄橙色~ 灰色		脚部外面列点文、横 線文(ヘラ)、SD1に 混入	
447	63	包含層	土師器 高坏脚部C		9.7		脚部外面縦ケズリ	やや粗、径 2 m以下 の長石、石英、チャ ート、赤褐色粒を多 く含む	浅黄橙色	底部10.0		
448	278	SK67	土師器 高坏脚部 B		(8.0)			やや粗、径2mm以下 の長石、石英、チャ ートを幾つか含む	灰白色	底部 5.1		
449	75	包含層	土師器 高坏脚部 C		9.3		脚部外面縦ケズリ、 脚端部内面横ナデ	密、径1mm以下のチャート、赤褐色粒、 雲母を幾つか含む	橙色	底部12.0	脚端部がつまみ出さ れる	
450	64	包含層	土師器 高坏脚部C		12.0		脚部外面縦ケズリ	密、径2mm以下の石 英、チャート、赤褐 色粒を多く含む	浅黄橙色	底部12.0		
451	71	包含層	土師器 高坏脚部C		(8.7)		脚部外面縦ケズリ、 脚端部内面強い横ナ デ	密、径1㎜以下のチャート、雲母を幾つか含む	明赤褐色	底部 2.7	脚端部がつまみ出さ れる	
452	105	包含層	土師器 高坏脚部 C		(12.1)	_	脚端部内面横ナデ	やや粗、径2mm以下 の長石、石英、雲母 を幾つか含む	浅黄橙色	底部 5.3		
453	72	包含層	土師器 土製円盤			_		やや粗、径1m以下 のチャートをわずか に含む	浅黄橙色~黑色		長さ3.9cm、重量11. 5g	
454	73	包含層	土師器 土製円盤					やや粗、径1mm以下 のチャートをわずか に含む	にぶい黄橙色		長さ4.7cm、重量14. 5g	
455	119	包含層	土師器 蓋?	(15.2)			内面横ナデ、外面ミ ガキ	密、径1mm以下の石 英、チャートをわず かに含む	浅黄橙色	口縁 1.2	天井部上面刺突文、 波線文、沈線(クシ) 受部外面沈線 9 条	
456	320	包含層	土魳器 広口壺 5	(14.8)			口縁部内外面横ナデ	やや粗、径1㎜以下 の石英、チャートを 幾つか含む	灰色	口縁 0.6	SD1に混入	
457	113	包含層	土師器 広口壺 2	(12.8)			頸部内外面縦ミガキ、口縁端部上面横 ミガキ	密、径1㎜以下のチャートをわずかに含む	淡黄色~黒色	口縁 5.5	口縁端部面取り	
458	120	包含層	土師器 広口壺 2	(6.4)			頸部内外面横ナデ、 体部外面縦ナデ	密、径1m以下の長 石、チャート、赤褐 色粒をわずかに含む	橙色~暗灰色	口縁 2.8	口縁端部に沈線2条	
459	112	包含層	土師器 パレス壺 6	11.4			頸部外面横ハケ	密、径1㎜以下の長石、雲母をわずかに含む	淡黄色~灰色	口縁12.0	頸部外面に擬凹線 6 条、口縁部内面に赤 彩一部残存	

第34表 遺物観察表(23)

#34₹	ע א	動物観察	₹ 3 ₹(23)					r		_		
挿図 番号	整理 番号	遺構	器種	口径	E量(cm) 底径 ₹	語	整形、調整	胎 土	色 調	残存率 (X/12)	その他	産地、時期
460	125	包含層	土魳器 パレス壺4	(17.3)	24,12	H 12-3	類部内外面横ナデ	密、径1㎜以下の長 石、チャートをわず かに含む	暗灰色	口縁 1.8	口縁部内面に 2 段羽 状文(ヘラ)、沈線 4 条(クシ)、外面擬凹 線 6 条、頸部外面赤 彩一部残存	
461	259	包含層	土師器 パレス壺2	(16.8)			口縁部内外面横ナデ	密、径3 mm以下の長石、チャートをわずかに含む	にぶい黄橙色	口縁 1.2	口縁部内面羽状文 (クシ)、口縁部外面 擬凹線4条、口縁部 外面および頸部内面 赤彩、SB40に混入	
462	110	包含層	土師器 パレス壺 2	(17.4)			頸部外面斜めハケ	やや粗、径2mm以下 の長石、石英、チャ ートを幾つか含む	浅黄橙色~灰色	口縁 2.2	口縁部内面に羽状文 (貝殻)、口縁部外面 擬凹線 6 条	
463	231	包含層	土師器 パレス壺				体部内面横ナデ	やや粗、径1mm以下 の微砂粒、雲母をわ ずかに含む	褐灰色~灰褐色		体部外面多条沈線文 (ハケ10本)、列点文 (ハケ)	
464	121	包含層	土師器 パレス壺 5	(20.0)			口縁部外面指圧	密、径1m以下のチャート、雲母をわずかに含む	にぶい黄橙色~ 暗灰色	口縁 1.5	口縁部内面に2段羽 状文(へラ)、口縁部 外面擬凹線3条、棒 状浮文、頸部外面赤 彩	
465	249	包含層	土師器 パレス壺				内面斜めハケ、外面 ミガキ	密、径1mm以下のチャート、雲母をわずかに含む	浅黄橙色		外面横線文、波状文 (クシ6本)、竹管文 全面赤彩	
466	115	包含層	土師器 パレス壺 1	(25.7)			頸部内面横ナデ	密、径1mm以下の石 英、チャート、雲母 をわずかに含む	浅黄橙色~灰色	口縁 2.7	ロ縁部内面に羽状文 (貝殼)、口縁部外面 擬凹線 4 条、円形浮 文、頸部内面赤彩	
467	122	包含層	土師器				外面斜めナデ	密、径1mm以下のチャート、赤褐色粒を わずかに含む	にぶい橙色~灰 色		外面山形文、沈線(へ ラ)、外面赤彩	
468	108	包含層	土師器 柳ヶ坪型壺 1	(25.6)			頸部外面ミガキ	やや粗、径1mm以下 の長石、石英、チャ ート、赤褐色粒、雲 母を幾つか含む	にぶい橙色	口縁 1.7	口縁部内外面に 2 段 の羽状文	
469	250	SK27	土師器 パレス壺				内面横ナデ、外面横ミガキ	密、径1mm以下のチャートをわずかに含む	浅黄橙色		外面横線文、列点文 (貝殻)、刺突文より 下赤彩、SK18、28と 接合	
470	74	包含層	土師器 パレス壺				内面横ナデ	やや粗、径8mm以下の長石、石英、チャートを幾つか含む	淡橙色		外面多条沈線文と刺 突文(ハケ)、列点文 (ヘラ)、(いずれも原 体8本、幅2.0cm)ー 部赤彩残存	
471	219	P 197	土師器		6.4		体部内面横ハケ(原体16本、幅1.6cm)、 体部外面横ミガキ、 体部外面をガキ	やや粗、径1mm以下 幾つか含む	にぶい橙色~褐 灰色	底部12.0	上げ底	
472	220	包含層	土師器 壺		(6.6)		体部内面不定方向ハ ケ (原体16本、幅1. 7cm)、体部外面斜め ハケ	粗、径3mm以下の長 石、チャートを多く 含む	にぶい黄橙色~ 黒褐色	底部 5.6		
473	114	包含層	土師器		6.4		内面不定方向ハケ (原体 5 本、幅1.1 cm)		にぶい黄橙色~ 灰色	底部12.0	体部外面煤付着	
474	116	包含層	土師器		6.6		内面不定方向ナデ、 外面縦ナデ	やや粗、径9 mm以下 の長石、石英を幾つ か含む	灰色	底部12.0		
475	331	包含層	土師器 壺		6.0		体部外面斜めミガキ	密、径3mm以下の長石、チャート、赤褐色粒を幾つか含む	橙色	底部 9.0		
476	368	包含層	土師器		11.3		体部内面横ナデ、体 部外面縦ケズリ	やや粗、径5mm以下 の石英、チャートを 多く含む	浅黄橙色~灰色	底部12.0		
477	126	包含層	土師器				内面斜めナデ	密、径1mm以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む	浅黄橙色~暗灰 色		外面線刻	

第35表 遺物観察表(24)

挿図	整理	遺構	器種	ž	去量(cm)	整形、調整	胎土	色調	残存率	その他	産地、時期
番号	番号	A2.117	10-1±	口径	底径	器高	並ル、阿正	M11	C 1941	(X/12)	7 V) 1E	性地、時期
478	109	包含層	土師器 鉢		4.0		体部外面斜めナデ、 底部わずかに上げ底	密、径1mm以下の長 石、雲母をわずかに 含む	灰白色~暗灰色	底部 8.2	体部外面煤付着	
479	401	包含層	土師器 器種不明					粗、径1mm以下の長 石、石英、チャート を多く含む	浅黄橙色~灰色		SI2に混入、口縁部 上面に線刻	
480	302	包含層	土師器		5.2		体部外面中程斜めナデ、下方不定方向ハケ(原体15本、幅1. 9cm)、体部外面上方縦〜斜めミガキ	密、径3m以下の長石、チャート、雲母をわずかに含む	にぶい黄橙色~ 暗灰色	底部 6.3	底部穿孔	
481	132	包含層	土師器				頸部内外面横ナデ、 体部外面ナデ	粗、径3 m以下の長 石、石英、チャート を多く含む	灰白色~黒色		内面輪積み痕と指圧 痕が明瞭に残る	
482	101	包含層	土師器 中小型壺 2	(12.2)			頸部外面ミガキ	密、径1㎜以下の長 石、石英をわずかに 含む	淡橙色~浅黄橙 色	口縁 2.0	口縁部内面沈線 4 条	
483	397	SD 4	土師器 中小型壺1	(6.0)			頸部内面横ナデ、体 部内面縦ナデ、頸部 外面縦ミガキ	密、径1㎜以下の長 石、チャートを幾つ か含む	灰白色	口縁 4.5	SD 2 と接合	
484	82	包含層	土師器 鉢B2	(7.1)	3.4	8.4	口縁部と体部外面斜 めハケ (原体6本、 幅1.5cm)、体部内面 横ナデ	密、径1mm以下の長 石、チャートをわず かに含む	橙色	口縁 5.0 底部12.0	最大径8.8cm、SD 1 に混入	
485	228	包含層	土師器 鉢A1	(16.2)		_	口縁部内外面横ナ デ、体部外面斜めナ デ、体部内外面下方 横ケズリ	やや粗、径5m以下 の石英、チャートを 多く含む	灰黄褐色	口縁 1.7	体部外面上方に列点 文(ヘラ)、体部外面 煤付着	
486	134	包含層	土師器		3.6		外面下方横ケズリ、 内面下方不定方向ハ ケ	やや粗、径3m以下 の長石、石英、チャ ートを多く含む	にぶい黄橙色~ 灰色	底部12.0	上げ底	
487	350	包含層	土師器 鉢B4	13.4		4.8	体部外面下方縦ハケ	密、径1㎜以下の長石、雲母をわずかに含む	橙色	口縁 8.0		
488	248	P 798	土師器 鉢A4	10.8	3.6	5.2	体部内面横ナデ、体 部外面横ミガキ?	密、径2 m以下のチャート、雲母をわずかに含む	灰白色~灰色	口縁 7.4 底部12.0	底部が円盤状に突出 し、上げ底	
489	128	包含層	土師器 鉢B1	(8.9)	(4.4)	4.3	体部外面斜めミガ キ、体部内面上方横 ハケ、底部外面ミガ キ	密、径1 mm以下の長石、石英、チャートをわずかに含む	浅黄橙色~灰色	口縁 2.9 底部 3.0	口縁端部内傾面取り	
490	129	包含層	土師器 中小型壺 1	9.6	4.6	9.5	頸部内外面横ナデ、 体部内面縦ナデ	密、径1mm以下の石 英、チャートをわず かに含む	にぶい橙色~灰 色	口縁10.9 底部12.0	上げ底	
491	325	包含層	土師器	(6.8)			体部内面横ナデ	密、径1mm以下の長 石、石英、チャート を幾つか含む	褐灰色	口禄 0.7	SD1に混入	,
492	22	包含層	須恵器 坏蓋A	(12.5)		4.8	天井部外面回転へラ 削り2/3	密、径1mm以下の長 石、チャートを幾つ か含む	灰色	口縁 2.6	口高2.3cm、口縁端部 C、	畿内系 1 型式
493	434	包含層	須恵器 坏蓋A	(11.8)		4.7	天井部外面回転へラ 削り3/4、天井部内面 にわずかに砂粒の動 きがみられる	密、径1mm以下の長 石、チャートをわず かに含む	灰白色	口縁 4.6	口高2.7cm、口縁端部 C	畿内系 1型式
494	27	包含層	須恵器 坏蓋A	11.6		4.5	天井部外面回転へラ 前り2/3、天井部内面 一方向ナデ	やや粗、径1㎜以下 の長石をわずかに含 む、黒色の吹出しが わずかにみられる	灰色	口縁11.2	口高2.6cm、口縁端部 C	畿内系 1型式
495	743	包含層	須恵器 坏蓋A	(11.9)			天井部内面一方向ナ デ、天井部外面回転 ヘラ削り3/4	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰色	口禄 1.5	口高2.6cm、口縁端部 C	畿内系 1 型式
496	435	包含層	須恵器 坏蓋A	12.0		4.4	天井部外面回転へラ 削り3/4、天井部内面 中央一方向ナデ	密、径1mm以下の長 石、雲母をわずかに 含む、黒色の吹出し が多くみられる	灰白色~灰色	口縁 8.0	口高 2.2cm、口縁端 部D	畿内系 1 型式
497	561	包含層	須恵器 坏蓋A	(12.0)		-	天井部外面回転へラ 削り	やや粗、径1m以下 の長石、チャートを わずかに含む	灰白色	口縁 1.7	口高2.6cm、口縁端部 D	畿内系 1 型式

第36表 遺物観察表(25)

第36	ec 1	直物觀勞	₹ 3 ₹(23)									
挿図 番号	整理番号	遺構	器種	口径	(cm) 底径 岩	高器	整形、調整	胎土	色 誹	残存率 (X/12)	その他	産地、時期
498	23	包含層	須恵器 坏蓋A	11.6		4.4	天井部外面回転へラ 削り2/3、天井部内面 中央一方向ナデ	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む黒 色の吹出しが幾つか ある	灰色	口縁10.2	口高1.7cm、口縁端部 C	尾張系 1 ~ 2型式
499	30	包含層	須恵器 坏蓋A	11.3		4.1	天井部外面回転へラ 削り1/3、天井部内面 中央指圧	やや粗、径1mm以下 の長石をわずかに含む	灰色	口縁 8.8	口高1.8cm、口縁端部 B	尾張系 5 ~6型式
500	21	包含層	須惠器 坏身A	(9.7)		5.0	底体部外面回転へラ 削り2/3、底体部内面 指圧と一方向ナデ	密、径1m以下の長 石、チャートをわず かに含む	灰白色	口縁 2.8	受径12.0cm、た高2. 0cm、口縁端部A受部 B、底体部内面に煤 付着	畿内系 1型式
501	31	包含層	須恵器 坏身A	10.7		4.9	底体部外面回転へラ 削り3/4	密、径3㎜以下の長 石を幾つか含む	青灰色	口縁11.0	受径12.6cm、た高2. 0cm、口縁端部C	畿内系 1 型式
502	738	包含層	須恵器 坏身A	(10.6)		4.6	底部外面回転へラ削 り2/3	密、径1 m以下の長 石をわずかに含む	灰白色~灰色	口縁 4.5	受径12.1cm、た高1. 9cm、口縁端部D受部 B	畿内系 1 型式
503	26	包含層	須恵器 「坏身A	(10.3)		5.1	底体部外面回転へラ 削り2/3	やや粗、径6mm以下 の長石を幾つか含む 黒色の吹出しが多く みられる	灰色	口縁 2.8	受径12.8cm、た高1. 7cm、口縁端部D受部 A	畿内系 1型式
504	24	包含層	須恵器 坏身A	10.4		4.9	底体部外面回転へラ 削り2/3、底体部内面 中央部板状工具によ る一方向ナデ	密、径3㎜以下の長石、チャートを多く 含む	青灰色	口縁12.0	受径12.0cm、た高2. 0cm、口縁端部D受部 B、底体部外面が摩 滅している	畿内系 1型式
505	556	包含層	須恵器 坏身A	(10.4)		4.2	底部内面中央指圧、 底体部外面回転へラ 削り2/3	密、径1m以下の長 石、石英を幾つか含 む	青灰色	口縁 2.2	受径12.4cm、た高1. 6cm、口縁端部E受部 A	畿内系1型式
506	553	包含層	須恵器 坏身A	(9.3)		3.9	底部外面回転へラ切 り後ナデ調整	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	青灰色	口縁 4.9	受径12.2cm、た高1. 0cm	畿内系 5 ~6型式
507	554	包含層	須恵器 坏身A	(11.0)		3.5	底体部外面回転へラ 削り1/3	やや粗、径3㎜以下 の長石をわずかに含 む	灰色	口縁 2.4	受径12.8cm、た高1. 0cm	美濃系6~7型式
508	560	包含層	須恵器 坏身A	(12.4)				密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	赤灰色	口縁 2.7	受径15.0cm、た高3. 5cm	畿内系 3 型式
509	555	包含層	須恵器 坏身A	(12.1)		4.4	底体部外面回転へラ 削り1/2	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	赤灰色	口緑 4.3	受径14.8cm、た高1. 3cm	畿内系 3 型式
510	536	包含層	須恵器 坏身A	(17.4)			底部外面回転へラ削 り1/2、底部外面一部 指圧	やや粗、径1 m以下 の長石をわずかに含 む	灰色	口練 2.7	受径20.0cm、た高1. 0cm	尾張系 7 ~8型式
511	739	包含層	須恵器 高坏蓋	12.7	(5.7)		天井部内面中央指圧 天井部外面回転へう 削り3/4	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰色	口線 7.0	口高2.4cm、つ径2.5 cm、天井部外面に1 条の突帯、口縁端部 C	畿内系 1 型式
512	506	包含層	須恵器 高坏蓋				天井部外面受部直上 まで回転へラ削り	密、径1m以下の長 石をわずかに含む	灰白色		つ径2.8cm	畿内系 1 ~ 2 型式
513	438	包含層	須恵器 高坏蓋	11.6		5.2	天井部外面回転へラ 削り3/4	やや粗、径 6 mm以下 の長石、石英を幾つ か含む	青灰色	口練 8.2	口高2.1cm、つ径2.5 cm、口縁端部C	畿内系 1型式
514	28	包含層	須恵器 高坏蓋	12.2		5.2	天井部外面回転へラ 削り3/4	密、径2m以下の長 石をわずかに含む	赤灰色	口縁12.0	口高2.4cm、つ径2.2 cm、口縁端部E	尾張系 1型式
515	505	包含層	須恵器 高坏蓋				天井部外面上方回転 ヘラ削り、天井部内 面中央指圧	密、径3 mm以下の長 石、チャートをわず かに含む	赤灰色		つ径4.0cm	畿内系 6 世紀代
516	698	包含層	須恵器 高坏	(10.0)	8.8	9.4	坏部内面一方向ナデ 坏部外面回転へラ削 り3/4	やや粗、径2m以下 の長石を幾つか含む	青灰色	口縁 3.0 底部 9.7	三角形 2 方透孔、受 径12.6cm、た高1.7cm 口縁端部 E、受部A	畿内系 1型式
517	742	包含層	須恵器 高坏	(11.9)	8.6	9.0	坏部外面下方回転へ ラ削り2/3	密、径1mm以下の長 石を幾つか含む	赤灰色	口縁 2.8 底部12.0	三角形 2 方透孔、受 径13.4cm、た高2.1cm 口縁端部E、受部A	畿内系 1型式
518	699	包含層	須恵器 高坏	10.8	(9.5)	8.9	坏部外面回転へラ削 り3/4	密、径2mm以下の長 石をわずかに含む	灰色	口縁12.0 底部 5.6	三角形 2 方透孔、受 径12.5cm、た高1.6cm 口縁端部 E、受部 A	
519	577	包含層	須恵器 高坏		9.0		体部外面下方〜脚部 外面カキ目(9本/cm)	密、径1mm以下の長 石、チャートをわず かに含む	灰赤色	底部10.3	四角形 3 方透孔	畿内系 1型式
520	579	包含層	須恵器 高坏		7.9		脚部外面カキ目(8 本/cm)	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰赤色	底部11.1	円形3方透孔	畿内系 1型式

第37表 遺物観察表(26)

操 版2	\$67W			1 2	去量(cm)	Γ			vb-tt		
挿図 番号	整理 番号	遺構	器種	口径		器高	整形、調整	胎土	色	調 残存率 (X/12)	その他	産地、時期
521	598	包含層	須恵器 高坏		(10.5)		脚部外面カキ目 (10本/cm)	密、径2mm以下の長 石をわずかに含む	青灰色~灰赤	族色 底部 0.5		畿内系 1型式
522	594	包含層	須恵器 高坏		(8.2)			密、径3 m以下の長 石、チャートをわず かに含む	灰色	底部 3.1	透孔あり、SD1に混 入	畿内系 1 型式
523	503	包含層	須恵器 蓋B	(14.0)		4.0	天井部外面回転へラ 削り2/3	密、径1mm以下の微砂粒をわずかに含む、黒色の吹出しがわずかにみられる	灰色	口緑 1.3	つ径3.1cm	美 濃 系1(型式
524	519	包含層	須恵器 蓋B	(15.4)			天井部外面回転へラ 削り1/2、天井部内面 中央一方向ナデ	密、径 4 mm以下の長 石を幾つか含む	青灰色	口禄 4.8	つ径3.8cm	10型式(産 地不詳)
525	509	包含層	須恵器 蓋B	(14.6)		2.1	天井部外面回転へラ 削り2/3	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰色	口縁 0.4	つ径3.4cm	美 濃 系10 型式
526	513	包含層	須恵器 蓋B	(14.4)			天井部外面回転へラ 削り2/3、天井部内面 不定方向ナデ	密、径4mm以下の長 石をわずかに含む	灰黄色	口縁 2.7		美 濃 系10 型式
527	32	包含層	須恵器 蓋B	(15.6)		3.6	天井部外面回転へラ 削り1/2、天井部内面 中央不定方向ナデ	やや粗、径1mm以下 の長石をわずかに含 む	灰色	口縁 5.0	つ径2.8cm	美濃須衛 8世紀後 半
528	514	包含層	須恵器 蓋B				天井部外面上方回転 へラ削り、天井部内 面中央一方向ナデ	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色		つ径3.0cm	美濃須衛 8世紀代
529	515	包含層	須恵器 蓋B				天井部外面回転へラ 削り	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰色		つ径2.6cm	美濃須衛 8世紀代
530	418	包含層	須恵器 蓋B	16.8		3.3	天井部外面回転へラ 削り1/2	密、径1mm以下の長 石、石英を幾つか含 む	灰白色	口縁12.0	つ径2.8cm、SD1に 混入	美濃須衛 8世 20 20 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30 30
531	520	包含層	須恵器 蓋B	(15.3)		3.3	天井部外面回転へラ 削り1/2	密、径1mm以下の微 砂粒をわずかに含む	灰白色	口縁 5.4	つ径2.2cm、	美濃須衛 9世紀前 半
532	504	SK28	須惠器 蓋B	(14.0)		3.5	天井部外面回転へラ 削り1/2、天井部内面 不定方向ナデ	密、径1㎜以下の微砂粒をわずかに含む、黒色の吹出しがわずかにみられる	灰白色	口緑 4.1	つ径2.4cm、天井部内 外面に煤付着	美濃須衛 9世紀前 半
533	512	包含層	須恵器 蓋B	(16.2)			天井部外面回転へラ 削り1/2	密、径1㎜以下の長 石、チャートをわず かに含む	灰白色	口級 0.8		美8世 狼世9 第一年 第一年 第一年 第一年 第一年 第一十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二十二
534	746	包含層	須恵器 蓋B	(13.6)			天井部外面回転へラ 削り1/2、天井部内面 一方向ナデ	密、径2m以下の長 石をわずかに含む	青灰色	口縁 3.0	天井部外面に墨書あ り	美濃須衛 9世紀前 半
535	517	包含層	須恵器 蓋B				天井部外面上方回転 ヘラ削り、回転糸切 り	密、径1mm以下の長 石、黒褐色粒をわず かに含む	灰黄色		つ径3.2cm、SD1に 混入	尾張系? 8世紀後 半
536	557	P386	須恵器 蓋B	(12.8)		2.1	天井部内面不定方向 ナデ、天井部外面回 転へラ削り1/2	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰色	口縁 4.3		美濃須衛 9世紀前 半
537	518	包含層	須恵器 佐波理写蓋				天井部外面上方回転 へラ削り	やや粗、径 2 ㎜以下 の長石を幾つか含む	灰色		つ径4.9cm	尾 张 系 ? 8 世 紀 初 頭
538	516	包含層	須恵器 蓋B				天井部内面中央不定 方向ナデ、天井部外 面上方回転へラ削り	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰色		つ径2.8cm	美禮須紀 養世 第 第 紀 明 記 明 記 明 記 明 記 明 記 明 記 明 記 明 明 記 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明 明
539	571	包含層	須恵器 坏身C	(9.1)	(6.2)	4.2	底部外面へラ切り後 ナデ調整	密、径3㎜以下の長 石をわずかに含む	灰黄色~灰色	日禄 4.8 底部 5.9		美 濃 系10 型式
540	499	包含層	須恵器 坏身C	(10.8)	(7.4)	3.5	底部内面指圧と一方 向ナデ、底部外面へ ラ切り未調整	密、径3mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 1.9 底部 3.3		美 濃 系10 型式
541	537	SK49	須恵器 坏身B	(11.4)	6.6	4.0	底部外面へラ切り未 調整	やや粗、径1m以下 の長石を幾つか含む	灰色	口縁 2.0 底部12.0		美 濃 系10 型式
542	25	包含層	須恵器 坏身C	11.6	5.3	4.4	底部外面へラ切り後 ナデ調整、底部内面 中央指圧と一方向ナ デ	やや粗、径 6 m以下 の長石をわずかに含 む	灰色	口練 9.5 底部10.8		美 濃 系10 型式
543	29	包含層	須恵器 坏身C	13.0	6.5	3.4	底部外面へラ切り未 調整、底部内面一方 向ナデ	やや粗、径 3 mm以下 の長石、チャートを わずかに含む	灰色	口縁12.0 底部12.0	焼成不良、口縁部の 一箇所にタール付着 底部外面にへう記号	美濃須衛 8世紀後 半

第38表 遺物観察表(27)

第38	表 i	貴物観祭	を表(2/)									
挿図 番号	整理番号	遺構	器種	口径	法量(cm 底径	器高	整形、調整	胎 土	色	残存率 (X/12)	その他	産地、時期
544	493	包含層	須恵器 坏身C	(10.2)	4.6	3.4	底部内面不定方向ナ デ、底部外面へラ切 り後一部ナデ調整	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む、 黒色の吹出しが幾つ もみられる	灰白色	口縁 0.4 底部 9.1		美濃須衛 9世紀前 半
545	501	包含層	須恵器 坏身C	(11.8)	(6.3)	4.1	底部内面一方向ナ デ、底部外面へラ切 り後一部ナデ調整	やや粗、径1m以下 の長石、チャート、 をわずかに含む	灰白色	口縁 0.4 底部 5.2	体部外面に煤付着	美濃須衛9世紀前半
546	491	包含層	須恵器 坏身C	(13.0)	(5.7)	3.4	底部内面一方向ナ デ、底部外面へラ切 り未調整	密、径1㎜以下の長 石、石英をわずかに 含む	灰白色	口練 2.7 底部 4.2	底部外面にへう記号	美濃須衛 9世紀前 半
547	490	包含層	須恵器 坏身C	(12.5)	6.6	3.3	底部内面一方向ナ デ、底部外面へラ切 り後ナデ調整	やや粗、径1mm以下 の長石をわずかに含 む	灰白色	口縁 4.4 底部12.0	底部外面にヘラ記号	美濃須衛 9世紀前 半
548	497	包含層	須恵器 坏身C	(12.4)	6.2	3.7	底部外面へラ切り後 ナデ調整	やや粗、径1mm以下 の長石、チャート、 を幾つか含む	灰白色	口縁 2.4 底部 6.8	底部外面にヘラ記 号?	美濃須衛 9世紀前 半
549	492	包含層	須恵器 坏身C	(12.6)	6.5	2.7	底部内面指圧、底部 外面へラ切り未調整	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰色	口縁 2.4 底部 8.7	底部外面にヘラ記号	美濃須衛 9世紀前 半、SB16 に混入
550	489	包含層	須恵器 坏身C	(12.6)	(4.4)	3.2	体部外面コテナデ、 底部内面一方向ナ デ、底部外面へラ切 り未調整	粗、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰色	口縁 4.3 底部 3.1	体部内外面に煤付 着、SB55に混入	美濃須衛第9世紀前半
551	747	包含層	須恵器 坏身C		(6.4)		底部外面へラ切り未 調整	やや粗、径1m以下 の長石、チャートを 幾つか含む	灰色	底部 2.2	体部内外面にタール 付着	
552	549	包含層	須恵器 坏身B	(19.6)	(15.2)	2.9	底部外面一方向ナ デ、底部外面回転へ ラ削り	密、径1 m以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 0.2 底部 1.7		美 濃 系10 型式
553	580	包含層	項恵器 坏身B	(19.2)				密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 1.4	体部外面にわずかに 含む	美濃須衛
554	590	包含層	須恵器 坏身B	(15.0)	(10.4)	3.0		密、径2m以下の長 石をわずかに含む	灰色	口縁 0.2 底部 1.8		美 濃 系10 型式
555	482	包含層	須恵器 坏身B	(12.6)	(10.0)	3.4	底部外面回転へラ削 り	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 5.1 底部 5.8		美濃須衛 8世紀代
556	484	包含層	須恵器 坏身B	(13.8)	10.0	3.6	体部内面コテナデ、 底部外面回転へラ削 り	密、径1 m以下の長 石をわずかに含む	青灰色	口縁 4.0 底部 6.5		美濃須衛 9世紀前 半
557	485	包含層	須恵器 坏身B	(13.8)	(9.2)	3.8	底部内面一方向ナ デ、底部外面回転へ ラ削り	密、径1 m以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 2.8 底部 3.8		美濃須衛 9世紀前 半
558	483	包含層	須恵器 坏身B	12.5	8.8	3.5	底部外面回転へラ削 り	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む、 黒色の吹出しが幾つ かみられる	灰色	口線 7.8 底部12.0	底部外面にヘラ記号	美濃須衛 9世紀前 半
559	547	包含層	須恵器 坏身B		(8.8)		底部内面中央指圧、 底部外面へラ切り未 調整	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色	底部 3.8	底部外面にヘラ記号	美濃須衛 9世紀前 半
560	604	包含層	須恵器 台付坏	(9.0)			体部外面下方回転へ ラ削り	やや粗、径2㎜以下の長石を幾つか含む、黒色の吹出しが幾つかみられる	灰色	口練 2.9		6世紀末 ~7世紀、 口縁端部 D
561	574	包含層	須恵器 Ⅲ	(16.2)		2.3	底部内面不定方向ナ デ、底部外面回転へ ラ削り	密、径1m以下の長 石をわずかに含む	灰色	口縁 2.5		美濃須衛 8世紀代
562	541	包含層	須恵器 盤	(13.4)	(9.6)	2.7	底部内面不定方向ナ デ、底部外面回転へ ラ削り	やや粗、径1mm以下 の長石をわずかに含 む	灰色	口縁 1.9 底部 3.6	底部外面にヘラ記号	美濃須衛 9世紀前 半
563	741	包含層	須恵器鉢	(19.0)	11.3	3.9	底部外面回転へラ削 り	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	にぶい黄橙色	口縁 4.6 底部 6.4		美濃須衛 9世紀前 半
564	581	包含層	須恵器 鉢	(19.6)			体部内面コテナデ	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰色	口縁 3.3	体部外面にわずかに 煤付着	美濃須衛9世紀前半
565	544	包含層	須恵器 鉢		(9.6)		底部内面不定方向ナ デ、底部外面回転へ ラ削り	やや粗、径1 m以下 の長石をわずかに含 む	灰色	底部 5.3	二次的に煤付着	美濃須衛 9世紀前 半

第39表 遺物観察表(28)

挿図	整理	遺構	器種	ì	去量(cm	_	整形、調整	胎土	色調	残存率	その他	産地、時期
番号	番号			口径	底径	器高				(X/12)	ての他	性地、時期
566	740	包含層	須惠器 鉢	(13.4)			体部外面下方回転へ ラ削り、体部内面不 定方向ナデ	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む、 黒色の吹出しが幾つ かみられる	灰白色~灰色	口縁 2.7		
567	511	包含層	須恵器 高坏	(15.6)			体部外面回転へラ削 り2/3	密、径1㎜以下の長 石、石英をわずかに 含む	灰白色	口縁 2.9	透孔あり	美濃須衞 9世紀前 半
568	480	包含層	須恵器 碗	(16.4)	7.0	4.4	体部外面回転へラ削 り	やや粗、径2mm以下 の長石を幾つか含む	灰色	口縁 0.3 底部12.0	底部外面にヘラ記 号、SB54に混入	美濃須衛 9世紀前 半
569	589	包含層	須恵器 短頸壺	(14.2)				密、径1㎜以下の微 砂粒をわずかに含む	浅黄橙色	口縁 1.2		美濃須衛 7世紀後 半
570	529	包含層	須恵器 短頸壺	(7.6)				密、径1m以下の長 石を幾つか含む	青灰色~灰赤色	口縁 2.0		5世紀末 ~6世紀 初頭
571	478	SK20	須惠器 長頸瓶		11.2		体部外面下方回転へ ラ削り、底部外面砂 粒圧痕	やや粗、径2m以下 の長石を幾つか含む	灰色	底部12.0	体部外面に自然釉が 厚く降灰	美濃須衛 8世紀代、 SB16と接 合
572	609	包含層	須恵器 建	(16.0)				密、径1m以下の長 石をわずかに含む	浅黄色	口縁 1.6		5世紀末 ~6世紀 初頭
573	583	包含層	須恵器 瓱					密、径1㎜以下の長 石、石英をわずかに 含む	灰白色		外面に 1 条の突帯、 その上下に波状文	5世紀末 ~6世紀 初頭
574	616	包含層	須恵器 瓱				内面ナデ上げおよび ヘラ状工具による圧 痕	密、径1㎜以下の長 石、石英をわずかに 含む	黄灰色		3条の沈線の間に波 状文	5世紀末 ~6世紀 初頭
575	617	包含層	須恵器 建					密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰黄褐色		2条の沈線の間に刺 突文(ハケ)	6世紀後 半~7世 紀初頭
576	612	包含層	須恵器 長頸瓶					密、径1mm以下の長 石を幾つか含む	灰色		外面の沈線の間に刺 突文(ハケ)	5世紀末 ~6世紀 初頭
577	607	包含層	須恵器 甕		·		体部内面同心円当て 具痕、体部外面擬格 子叩目文後2条の沈 線	密、径1m以下の長 石をわずかに含む	灰赤色			
578	602	包含層	須恵器 甕					密、径 4 ㎜以下の長 石をわずかに含む	灰色		外面に波状文	美濃須衛 7世紀後 半
579	597	包含層	須恵器 甕					やや粗、径2mm以下 の長石をわずかに含む	灰色	口級 0.8	口縁部外面直下に 1 条の沈線	5世紀末 ~6世紀 初頭
580	524	包含層	須恵器 甕					やや粗、径1mm以下 の長石、チャートを 幾つか含む	青灰色	口縁 0.7		5世紀末 ~6世紀 初頭
581	605	包含層	須恵器 蓋 B	(8.0)				密、径3㎜以下の長 石をわずかに含む	灰色	口禄 5.6	SB55に混入	猿投
582	696	包含層	須恵器 平瓶				体部外面下方回転へ ラ削り、底部内外面 指圧および不定方向 ナデ	密、径3㎜以下の長石、石英をわずかに 含む	灰白色	底部 7.3		美世 須 須 紀 紀 名 世 8 世 8 世 8 世 8 世 8 世 8 世 8 世 8 世 8 月 9 日 9 日 9 日 9 日 9 日 9 日 9 日 9 日 9 日 9
583	610	包含層	須恵器 坏身B?				_	やや粗、径1m以下 の長石を幾つか含む	灰色~暗灰色		線刻「三年」、SD1に 混入	
584	601	包含層	須恵器 甑		(21.0)			やや粗、径2m以下の長石、チャートを 幾つか含む	灰白色	底部 1.7	底部中央に径3cm程 の透孔あり、その周 囲に方形の透孔が 4ヵ所?みられる。 やや軟質	8世紀後半
585	567	包含層	須恵器 捏鉢?		(10.3)		体部外面横ナデ後上 方向へ板ケズリ、台 部外面にヘラ状圧 痕?底部外面砂粒圧 痕	やや粗、径1㎜以下の長石、石英、チャート、雲母を幾つか含む	灰色	底部 3.2	内面摩滅	
586	538	包含層	須恵器 甕?		(23.0)		体部外面粗い平行叩 目文	やや粗、径1mm以下 の長石をわずかに含 む	灰色	底部 2.1	底部外面が黒色を呈 する	美濃須衛 8世紀代
587	635	包含層	灰釉陶器 皿	(10.0)	(5.2)	2.0	底部外面回転糸切り	やや粗、径1m以下 の長石をわずかに含 む	灰色	口縁 1.1 底部 3.9	灰釉不明、SD1に混 入	H 72 (美 濃)
		包含層	灰釉陶器	_	(7.4)	_						

第40表 遺物観察表(29)

挿図	整理	遺構	器種	ì	去量 (cm)	整形、調整	胎土	色調	残存率	その他	産地、時期
番号	番号	25.177	10.17	口径	底径	-		//// 1.	- PH	(X/12)		胜地、时期
589	486	包含層	灰釉陶器 Ⅲ	(15.6)	(7.2)	(3.0)	底部外面回転へラ削 り、内面トチン痕	やや粗、径1 mm以下 の長石をわずかに含 む	灰色	口縁 0.8 底部 1.8		K14
590	637	包含層	灰釉陶器	(13.0)				やや粗、径2mm以下 の長石をわずかに含む	灰色	口縁 3.0		K90
591	648	SK 3	灰釉陶器 折縁皿	(20.4)			外面コテナデ、内面 ヘラ状工具による不 定方向のナデ	やや粗、空隙が幾つ かみられる	灰黄色	口縁 2.3	灰釉不明	K14
592	638	包含層	灰釉陶器 碗	(16.0)				やや粗、径 1 mm以下 の長石をわずかに含 む	灰白色	口縁 1.8	口縁端部を外方へ折 り返す(玉縁状)	百代寺
593	633	包含層	灰釉陶器碗	(18.6)	(9.0)	5.6	底部外面回転へラ削 り	やや粗、径 1 mm以下 の長石をわずかに含 む	灰白色	口縁 1.8 底部 2.7	灰釉刷毛塗り	K90
594	626	包含層	小皿A	(8.3)	4.6	2.0	底部外面回転糸切り 内面静止指ナデ調整	粗、径1mm以下の長 石を幾つか含む	灰色	口縁 3.1 底部12.0	SD2に混入	6 型式
595	634	包含層	小皿B	(8.2)	4.6	1.8	底部外面回転糸切り	密、径1㎜以下の黒 色の斑点がみられる	灰色	口縁 0.7 底部 6.0		6型式
596	639	包含層	小皿B	(9.6)	5.6	1.7	底部外面回転糸切り 板目、静止指ナデ調 整	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 2.1 底部 6.0		6型式
597	651	包含層	小皿A	(10.3)	6.0	1.9	体部外面コテ	粗、径1mm以下の長 石をわずかに含む空 隙が幾つかみられる	灰色	口縁 1.4 底部 7.0	SD1に混入	美濃須衛 4型式
598	405	包含層	山茶碗B		(4.7)		底部外面回転糸切り 高台端部楔殻痕、底 部内面静止指ナデ調 整	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰白色	底部 4.3		8~9型式
599	629	包含層	山茶碗B		(5.0)		底部外面回転糸切り 板目、高台端部類殻 痕、底部内面静止指 ナデ調整	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色	底部 4.0	底部外面墨書	8~9型式
600	628	包含層	山茶碗A		6.0		底部外面回転糸切り、高台端部材穀痕	やや粗、径3mm以下 の長石を幾つか含む	灰色	底部12.0	底部外面墨書	6~7型
601	640	包含層	白磁皿		3.1			密、径1mm以下の微砂 粒を幾つか含む	灰白色	底部 6.7	底部外面周辺露胎、 SD1に混入	太宰府 VI 類
602	735	包含層	白磁皿	(15.6)			体部外面下方回転へ ラ削り	密、径1㎜以下の微 砂粒をわずかに含む	灰白色	口縁 1.5	体部外面周辺露胎、 SD1に混入	太宰府 VI 類
603	737	包含層	白磁碗					やや粗、径1m以下 の微砂粒をわずかに 含む	灰白色	口縁 0.3	SD2に混入	太宰府 II 類
604	748	包含層	白磁碗					やや粗、径 I mm以下 の微砂粒をわずかに 含む	灰白色	口縁 0.3	SD1に混入	太宰府 II 類
605	692	包含層	古瀬戸 擂鉢				口縁部内面コテナデ	やや粗、径 1 mm以下 の長石、石英をわず かに含む	にぶい黄橙色	口縁 0.6	全面に錆釉	後IV期
606	683	包含層	古瀬戸 釜					やや粗、径 3 mm以下 の石英、チャートを わずかに含む	にぶい黄橙色		肩部に横耳と火覆い 全面に鉄釉	後 IV 期 (新)
607	464	包含層	土師器 伊勢型鍋				口縁部内外面横ナデ	やや粗、径1mm以下 の長石、石英、赤褐 色粒を幾つか含む	暗灰色	口縁 1.3	口縁部外面に煤付着	
608	460	包含層	上師器 Ⅲ A		5.0		体部外面コテナデ、 底部外面回転糸切り 後ナデ調整	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰白色~褐灰色	底部10.0		
609	459	包含層	土師器 ⅢA		7.4			密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰白色	底部 2.0		
610	449	包含層	土師器 ⅢB	(10.4)	(5.4)	2.8	体部内外面横ナデ、 口縁部回転ナデ、底 部外面回転糸切り	密、径1㎜以下の長石、石英、雲母をわずかに含む	浅黄橙色	口縁 2.3 底部 1.5		
611	461	包含層	土師器 皿B	(11.0)	5.2	2.7	底部外面回転糸切り	密、径1mm以下のチャート、雲母をわずかに含む	灰白色~黒褐色	口縁 1.1 底部 7.5		

第41表 遺物観察表(30)

挿図	整理	海柱	98.50	È	去量(cm)	東ケ耳く 利田東ケ	BA 1.		残存率	7 0 14	77 LL 01 40
番号	番号	遺構	器種	口径	底径	器高	整形、調整	胎土	色 調	(X/12)	その他	産地、時期
612	454	包含層	土師器 皿B	(12.2)	5.4	3.3	体部外面コテナデ、 底部外面回転糸切り と板目	密、径1mm以下のチャート、雲母をわずかに含む	灰白色~褐灰色	口縁 1.1 底部12.0		
613	443	包含層	土師器皿C	8.2		1.6	体部内外面横ナデ、 底部外面指圧、底部 内面無調整	密、径1mm以下の石 英、チャートをわず かに含む	浅黄橙色	口縁 7.5	横ナデは「の」の字 状に抜き取る、一部 2段ナデ	
614	18	包含層	土師器	9.0		1.8	体部内外面横ナデ、 底部内面 一方向ナ デ、底部外面指圧	密、径1m以下の雲 母をわずかに含む	黄白色	口縁12.0	底部外面に粘土接合 痕	
615	450	包含層	土師器皿C	(9.8)		1.9	体部内面~口縁部外 面横ナデ、体部外面 下方~底部外面指 圧、底部内面無調整	密、径 4 m以下の長 石、雲母をわずかに 含む	浅黄橙色	口縁 4.4		
616	442	包含層	土師器 皿C	10.2		1.5	体部内外面横ナデ、 底部外面指圧、底部 内面不定方向ナデ	密、径1 m以下のチャートをわずかに含む	にぶい黄橙色	口縁10.3	横ナデは「の」の字 状に抜き取る、粘土 接合痕あり	
617	444	包含層	土師器 皿C	(16.4)		1.9	体部内面~口縁部外 面横ナデ、体部外面 〜底部指圧、底部内 面一方向ナデ	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 2.9		
618	446	包含層	土師器 ⅢC	(5.4)		1.7	体部内外面横ナデ、 底部内外面指圧	密、径1mm以下の長石、赤褐色粒をわずかに含む(混和材が極めて少ない)	暗灰色	口縁 5.2		
619	543	包含層	常滑	(20.2)				やや粗、径1m以下 の長石を幾つか含む	青灰色	口縁 1.4	SD1に混入	6 型式
620	695	P215	瀬戸美濃 徳利		12.0		底部外面回転糸切り	やや粗、径1㎜以下 の長石をわずかに含 む	浅黄橙色	底部12.0	最大径12.6cm、外面 鉄釉うのふ釉、内面 および底部外面露胎	18世紀
621	691	包含層	瀬戸美濃	5.8	2.4		底部外面回転糸切り	やや粗、径1㎜以下 の長石をわずかに含 む	灰黄色	口縁 9.7 底部12.0	外面鉄釉とうのふ釉	18世紀
622	687	包含層	肥前磁器	(13.0)	8.0	4.5		密	灰白色	口縁 3.3 底部 7.4	体部内面草木工 在 中面草花工 并花 克以所面型 水木 在 克以所面图線、 以面三重图線 以面三重图線 外面一重图線 外面	18世紀
623	697	A区 SK1	瀬戸美濃 壺		6.6		底部外面回転へラ削 り	やや粗、径1m以下 の長石をわずかに含 む	にぶい黄橙色	底部12.0	全面鉄釉、高台周辺 露胎	
624	686	A区 SK1	瀬戸美濃 擂鉢		(15.6)			やや粗、径3m以下 の長石、石英を多く 含む	にぶい黄橙色	底部 2.6	擂目幅3.9cm、9本、 全面錆釉	18世紀
625	48	包含層	土錘				端部丸い	密、径 1 mm以下の長 かに含む	淡黄色~灰白色		長さ3.0cm、幅1.3cm 重量4.9g、一部欠損	
626	50	包含層	土錘				端部丸い	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	にぶい黄橙色		長さ3.2cm、幅1.1cm、 重量3.6g、完形	
627	44	包含層	土 錘				端部面取り	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	浅黄色		長さ3.6cm、幅1.1cm、 重量3.7g、完形	
628	38	包含層	土錘				端部丸い	密、径1mm以下の長 石、チャートを幾つ か含む	黄橙色		長さ3.7cm、幅2.0cm、 重量12.3g、完形	
629	420	包含層	土錘				端部面取り	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	浅黄橙色		長さ3.8cm、幅1.4cm、 重量3.7g、完形、SD 1に混入	
630	49	包含層	土錘				端部丸い	密、径1mm以下の長 石、チャートをわず かに含む	にぶい黄橙色~ 灰白色		長さ3.8cm、幅1.5cm、 重量6.8g、完形	-
631	54	包含層	土錘				端部丸い	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰白色		長さ3.9cm、幅1.5cm、 重量7.1g、完形	
632	55	包含層	土錘				端部丸い	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰白色		長さ3.9cm、幅1.1cm、 重量4.8g、完形	
633	45	包含層	土錘				端部面取り	密、径1mm以下の長 石をわずかに含む	にぶい黄橙色~ 灰色		長さ3.9cm、幅1.3cm、 重量6.0g、一部欠損	

第42表 遺物観察表(31)

挿図	整理	1 pla 2 44:	no ex	ž	去量(cm)	the Try Strate	11/.	h an	残存率	7 M.	*14
番号	番号	遺構	器種 		底径	_	整形、調整	胎 土	色調	残存率 (X/12)	その他	産地、時期
634	40	包含層	土錘				端部丸い	密、径1㎜以下の長 石、雲母をわずかに 含む	浅黄橙色		長さ4.0cm、幅0.9cm、 重量2.4g、完形	
635	51	包含層	土錘				端部丸い	やや粗、径 2 m以下 の長石を幾つか含む	黄灰色~灰白色		長さ4.0cm、幅1.5cm、 重量8.6g、完形	
636	59	SK53	土錘				端部丸い	密、径1m以下の長 石、チャートをわず かに含む	黄灰色~黄白色	_	長さ4.0cm、幅1.3cm、 重量5.0g、完形	
637	57	包含層	土錘				端部丸い	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰黄色~にぶい 橙色	_	長さ4.1cm、幅1.4cm、 重量7.4g、完形	
638	52	包含層	土錘				端部面取り	密、径 2 m以下の長 石、チャートをわず かに含む	黄橙色		長さ4.2cm、幅1.4cm、 重量8.6g、完形	
639	41	包含層	土錘				端部面取り	密、径 2 m以下の長 石、チャートをわず かに含む	色にぶい黄橙色	-	長さ4.2cm、幅1.6cm、 重量10.3g、完形	
640	60	P698	土錘				端部面取り	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	黒褐色		長さ4.2cm、幅1.6cm、 重量12.2g、完形	
641	42	包含層	土錘				端部丸い	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	にぶい黄橙色~ 淡黄色		長さ4.3cm、幅1.4cm、 重量7.4g、完形	
642	47	包含層	土錘				端部面取り	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰白色		長さ4.3cm、幅1.3cm、 重量7.3g、完形	
643	53	包含層	土錘				端部面取り	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	にぶい黄褐色~ 黒色		長さ4.3cm、幅1.9cm、 重量15.3g、完形	
644	56	包含層	土錘				端部面取り	密、径 1 ㎜以下の長 石をわずかに含む	灰黄色		長さ4.4cm、幅1.6cm、 重量12.2g、完形	
645	43	包含層	土錘				端部面取り	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	にぶい黄橙色~ 褐灰色		長さ4.6cm、幅1.4cm、 重量8.7g、完形	
646	46	包含層	土錘				端部丸い	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰白色		長さ4.7cm、幅1.7cm、 重量12.6g、完形	
647	39	包含層	土錘				端部面取り	密、径1m以下の長 石をわずかに含む	にぶい黄橙色	_	長さ4.7cm、幅2.0cm、 重量16.8g、完形	
648	61	SK100	土錘		_		端部丸い	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	黄橙色		長さ4.8cm、幅1.5cm、 重量8.5g、完形	
649	322	包含層	土錘				端部面取り	密、径 2 m以下の赤 褐色粒、チャートを わずかに含む	浅黄橙色		長さ5.2cm、幅3.6cm、 重量39.9g、一部欠 損	
650	426	P711	土錘				体部外面指圧	密、径1㎜以下のチャート、雲母をわず かに含む	浅黄橙色~黒色		穿孔あり	
651	19	包含層	土鈴			3.6	頂部板削り、体部外 面指圧	密、径1㎜以下の長 石を幾つか、雲母を 多く含む	黄白色		内部に円形の土玉あり、完形、最大径3. lcm、重量17.6g	
652	20	包含層	土鈴			3.6	頂部板削り、体部外 面指圧	密、径1㎜以下の長 石、雲母をわずかに 含む	黄白色		内部に楕円形の土玉 あり、完形、最大径 3.1cm、重量17.7g	
653	422	包含層	土鈴					密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	にぶい黄橙色~ 灰色		SD1に混入	
654	421	包含層	土鈴					やや粗、径2㎜以下 の長石をわずかに含 む	淡橙色			
655	423	包含層	泥面子					密、径 1 m以下の長 石、雲母をわずかに 含む	にぶい黄橙色		直径2.6cm、上面に記 号?	
656	431	包含層	銭貨					寛永通資				

第43表 石製品観察表(1)

挿図 番号	整理	遺構	種類	法量(cm)			質量	石材	整形、調整	その他				
番号	番号	AB 1PF	1至59	高さ	直径	孔径	(g)	g) 1143	速/// P門走	-(0)/65				
657	703	包含層	紡錘車	2.0 4.4 0.6			(47.7)	滑石		側面と底部に鋸歯文、側面傾斜角53°				
658	704	包含層	紡錘車	3.5 0.5		(12.3)	滑石		側面と底部に鋸歯文					
659	707	SB18	紡錘車		3.7	0.6	(18.1)	滑石		無文				
660	432	SB16	紡錘車	0.7	2.3	0.3	(2.2)	土製		摩滅が激しい				
662	701	SB51	管玉	4.0	1.0	0.3	8.8	滑石						

第44表 石製品観察表(2)

挿図 番号	整理	遺構	種類	法量(cm)			質量 石材	整形、調整	その他	
番号	番号	JB.17円		高さ	直径	孔径	(g)	10111	並ル、調整	その他
663	706	包含層	管玉		0.7	0.3	(1.3)	滑石		孔内面は螺旋状に穿かれる。
664	708	包含層	管玉		1.9	0.5	(12.8)	ヒスイ		孔は上下 2 方向から穿かれる。

第45表 石器・石製品観察表

挿図	整理			法量(cm)			質量			
番号	蕃号	遺構	種類	高さ 直径 孔径				石材	整形、調整	その他
661	705	SB44	棒状石製品	7.7	0.8	0.5	(6.4)	蛇紋岩	研磨による整形。研磨痕は不明瞭であるが、側面は縦方向の研磨痕が観察される。	両端面取りし、玉斧の形態をなさない。
665	711	SK72	石鏃	2.4		0.3	(0.7)	チャート	薄く深い調整剝離が施される。素材面は ほとんど残らない。	片脚部新欠
666	710	SB47	剝片	3.5	2.7	0.4	5.4	下呂石	裏面も1枚のネガティブな剝離面があ る。	頭部は潰れており、くさび形石核の列 存であると考えられる。下部右側縁は 折損し、折損面は風化している。
667	712	SB50	剝片	3.1	2.7	0.6	4.3	チャート	節理面を打面とし、端部にも節理面がみ 使用痕、2次調整はみられられる。頭部調整は密である。	
668	714	SB47	剝片	3.4	2.3	0.8	5.3	チャート	線状打面、ツインバルブ、頭部調整は密 である。	くさび形の石核から作られた剝片で、 節理発達するチャートを用いる。肉厚。
669	713	SD 1	U·F	3.6	3.3	0.8	9.7	チャート	点状打面の剝片の上部左側縁に背面から 細かな剝離を連続して施す。	端部に自然面残る。
670	715	SB52	剝片	3.0	4.4	0.9	11.3	下呂石	線状打面、ツインバルブ	くさび形の石核から作られた剝片で、 側縁部に自然面(円礫)が残る
671	719	SB50	U·F	4.8	5.7	1.1	33.4	安山岩	円礫面が正面に大きく残る。刃部は歯こ はれ状の小剥離が表裏にランダムにみら れる。	粗質の安山岩
672	718	SD 2	くさび形石 器	4.9	5.5	1.7	37.5	サヌカイ ト	正面に残る自然面に流状構造が観察できる。裏面左部にみえる横方向からの剝離面は主剝離面のバルヴァスカーである。 左上部は打面か。他はすべてネガ面である。。	上下端に潰れがあり、特に上端に顕著。
673	709	SD 4	石槍		3.2	1.1	(33.8)	サヌカイト	両面とも調整剝離が全面覆う。尖頭部付近は両面研磨されるが、剝離による凸部 を除去する程度で全面には及ばない。	被熱のため左面は白く変色する。基部 は欠損しているが、欠損面は風化して いる。
674	720	SK104	打製石斧	9.6	4.5	1.7	78.3	安山岩	剝片を横位に用い、階段状剝離の発達し た調整で整形している。	先端部から側縁部にかけて摩滅が著し い。
675	717	包含層	打製石斧		5.1	2.4	(181.5)	安山岩?	両面に調整を施し、短冊型に整形。調整 は浅く、表裏に素材面を残す。	ー端は折損、他一端には使用痕がみられない。
676	730	SD 5	打製石斧		8.6	2.5	(290.3)	花崗岩	深い剝離で調整。表裏は調整剝離で素材 面が残らない。側面はほぼ平行。	上下欠損。
677	729	包含層	叩石	16.5	5.7	2.8	504.7	デイサイ ト	上部に潰れ状の剝離が発達する。下部に も若干みられる。	
678	728	包含層	打製石斧	17.3	5.1	2.9	266.5	頁岩	短冊形。調整剝離が深く裏面は素材面を 残さない。	階段状の剝離が発達する。
679	726	包含層	磨石	9.0	6.5	4.3	389.3	安山岩	全面摩耗。左面と下面は摩耗が顕著であり、敵打痕もみられる。素材の凹部は滑らかに摩耗する。磨痕は不明瞭。	
680	725	包含層	砥石 (ブロック)	7.0	5.0	2.3	(86.5)	砂石	表裏に断面 V 字状の深い溝が刻まれる。 下面は滑らかに潰れている。	上部欠損
681	723	包含層	砥石 (角柱)		4.6	2.9	(120.9)	凝灰岩	砥面は4枚で、いずれも内彎し平滑。砥 痕は不明瞭だが、一部縦方向にみとめら れる。	
682	721	包含層	砥石 (偏平)	7.7	1.8	6.2	146.8	砂石	砥面は4枚で、いずれも内彎し平滑。砥 痕は不明瞭。	
683	724	包含層	砥石 (偏平)	9.4	3.5	2.7	(82.8)	凝灰岩	砥面は2枚で、いずれも上・下部に使用 単位が分かれ、断面凸レンズ状となる。 側面に深い溝状の擦痕あり。	手持ち使用の砥石。
684	727	SB16	砥石 (角柱)	13.0	6.0	4.8	516.4	砂石	砥面は4枚。左面は緩やかに内彎する。 他面は素材の凹凸を残す。砥痕は不明瞭。	砥面同士がなす稜は明瞭
685	731	包含層	砥石 (偏平)	14.4	7.7	3.8	425.4	砂石	砥面は1枚で、内彎し平滑。砥痕は不明 瞭。	裏面、周囲は割れ面であるが、使用面 との前後関係は不詳。
686	722	SB14	砥石 (偏平)	10.9	8.2	2.4	351.5	砂石	砥痕は砥面は4枚で、いずれも内彎し平 滑。砥痕は不明瞭	

第5章 自然科学分析

第1節 竪穴住居から出土した炭化材の樹種

植田弥生(パレオ・ラボ)

1 はじめに

当遺跡は岐阜市街の北西を流れる長良川の右岸の後背湿地に位置し、字堀田と字城之内に広がる。 弥生時代から中世の遺構が検出され、特に古墳時代の住居跡が多く検出された。ここでは出土した考 古遺物から古墳時代前期と考えられる3件の住居(SB12・SB6・SB50)から出土した炭化材の樹種 同定を報告する。当地域では住居建築材の樹種はほとんど知られておらず、当時の木材利用を理解す る上での資料蓄積を目的に樹種同定を行った。

2 方法

樹種同定は炭化材の3方向の破断面の組織を走査電子顕微鏡で観察し行った。横断面(木口)は炭化材を手で割り新鮮な面を出し、接線断面(板目)と放射断面(柾目)は片刃の剃刀を方向に沿って軽くあてて弾くように割り新鮮な面を出す。この3断面の試料を直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗る。試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡(日本電子(㈱製 JSM T-100型)で観察・写真撮影をした。

3 結果

同定結果を表1にまとめて示す。

試料のうち、SB12の炭2と11と14は風化不朽が進み脆く組織観察はできなかった。そのほかの試料も脆くまた材の外側の一部が炭化して残っていた状態であった。

SB12の炭1の試料は直径0.5mmのワラ状のものの集積である。状態がよく節部のある試料を観察した結果は、節部の外部形態と横断面の組織からタケ亜科以外のイネ科であることは判ったがそれ以上は分類群を絞ることはできなかった。この他の試料は材であり炭3はクリ、炭8・10・12はシイノキ属、その他の試料はもろくてかつひび割れが多く年輪界前後の道管配列が充分に観察できずクリまたはシイノキ属のいずれか区別ができなかった。

SB602試料は炭1はクリ、炭2はクリまたはシイノキ属であった。

SB5のPit15の炭化材はクリであった。 以下に同定の根拠を記す。

表46表 竪穴住居出土炭化材の樹種

No.	試料No.	樹 種
SB12	 炭 1	イネ科(タケ亜科を除く)
SB12	炭 3	クリ
SB12	炭 4	クリまたはシイノキ属
SB12	炭 5	クリまたはシイノキ属
SB12	炭 6	クリまたはシイノキ属
SB12	炭 7	クリまたはシイノキ属
SB12	炭8・10・12	シイノキ属
SB12	炭 9	クリまたはシイノキ属
SB12	炭13	クリまたはシイノキ属
SB 6	炭 1	クリ
SB 6	炭 2	クリまたはシイノキ属
SB50	Pit15	クリ

クリ Castanea crenata Sieb. et Zucc. ブナ科 図版1 a-1 c. (SB12炭3) 3 a. (SB12炭13) 年輪の始めに中型の管孔が密に配列し除々に径を減じてゆき晩材部では非常に小型の管孔が火炎状に配列し、接線状に配列する柔組織がある環孔材。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単一、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性である。

暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。果実は食用になり、材は加工はやや困難であるが狂いは少なく粘りがあり耐朽性にすぐれている。縄文時代から果実は食用に、材は柱材の使用例が有名である。

シイノキ属 Castanopsis ブナ科 図版 2 a-2 c. (SB12 炭13)

年輪の始めに小型~中型の管孔が間隔を空けて配列し、晩材では非常に小型の管孔が火炎状に配列、 柔組織が接線状に配列する環孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一である。放射組織は単列 同性である。

シイノキ属は暖帯に生育する常緑広葉樹で照葉樹林の主要素である。関東以西・四国・九州に分布 するツブラジイ (コジイ) と、本州の福島県と新潟県佐渡以南・四国・九州に分布するスダジイがある。

クリまたはシイノキ属 Castanea crenata Sieb. et Zucc. or Castanopsis ブナ科 試料が脆くまたひびわれが入っており年輪の始めの管孔配列の特徴がつかめず、クリかシイノキ属 の区別ができなかった試料である。

イネ科 (タケ亜科を除く) Gramineae 図版 4 a - 4 b. (SB12 炭 1)

直径5mmの草本の稈で稈の表面には密な縦筋があり、節部には葉鞘基部の盛り上がりがみられ葉に入る維管束の筋が残る。タケ・ササ類の節部にある1筋の溝は見られない。稈の横断面の観察では、厚壁細胞からなる維管束鞘に囲まれて左右2本の後生木部と原生木部と篩部からなる維管束が散在している不整中心柱である。原生木部と篩部は細胞がくずれて孔となっている状態がほとんどで、維管束鞘中には3から4個の空洞があることが多い。タケ類の維管束と比べ維管束鞘は薄く分布密度も少ない。横断面の外縁部には厚壁細胞層がほぼ連続して取り巻いており、その中の維管束は内部のものより径が小さい。稈の中心部は崩れておりもともと空洞であったかどうかは不明である。

稈の大きさと組織からススキ属とヨシ属の可能性が考えられるが、今回の保存状況からは区別する には至らなかった。

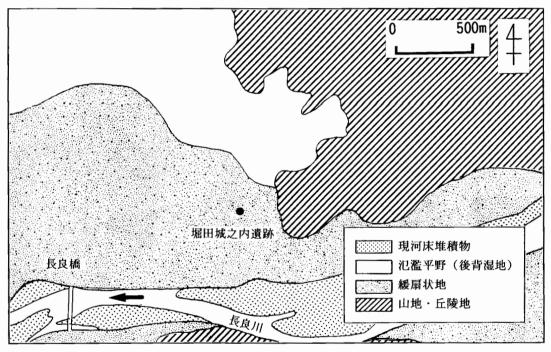
第2節 遺跡および周辺の地形・地質について

岐阜大学教育学部附属小学校 古田靖志

堀田城之内遺跡の所在する岐阜市長良周辺は、広大な濃尾平野の北端部に位置しており、地形を大別すると南方に広がる濃尾平野に続く平坦面と、河川の浸食などによって小さく分断された丘陵性の山地に区分される。

丘陵性の山地の地質は、おもに中生代三畳紀からジュラ紀にかけて形成された美濃帯の中生層からなり、岩相はチャート、砂岩、泥岩である。チャートは山地の大部分を占め、硬くて層理がよく発達しており、山腹が急斜面になっていることが多い。砂岩は遺跡の北東部の丘陵地などチャートの縁辺部に分布しており、岩体の規模も小さい。泥岩は局所的に小規模に分布している。

長良地区周辺に広がる平坦面は、新生代完新生に南方を東西に流下する長良川によって形成された 沖積底地であり、傾斜が極めて緩やかで大規模に広がる緩扇状地と、その北部に広がる氾濫平野(後 背湿地)に区分される(第80図)。遺跡はこの緩扇状地上に立地している。



第80図 調査地域周辺の地形

遺跡の立地する緩扇状地は、遺跡付近を扇頂として西~南西方向にのびており、長良川の両岸に広がる岐阜市の市街地をすっぽりと覆うほどの大規模なものとなっている。扇頂から扇端にむかっての傾斜は3%未満と極めて緩く、全体的にほぼ平坦面の様相を呈している。

遺跡の立地場所をトレンチ調査した結果、数10cm~数mのシルト層(中粒砂および礫質シルトの層を含む)に覆われた扇状地堆積物の砂礫層を認めることができた。この砂礫層は径数cm~10数cmの中礫~大礫が密集しており、その間隙をシルト質の砂や径数mmの細礫が充填している。礫形はすべて円礫である。礫質は多いものから流紋岩、安山岩、チャート、砂岩となっており、径10cm以上の大礫のほとんどが流紋岩か安山岩である。チャートや砂岩は径1cmぐらいの中礫がほとんどであるが、砂岩の数は非常に少ない。礫質や円磨度から、これらの扇状地堆積物は長良川によってもたらされたもの

だと考えられる。

この砂礫層(扇状地堆積物)には古流系を推定する手がかりとなるインブリケーションが認められ、それによりおおよそ東から西方向への古流系を確認することができた。また、砂礫層の各所から、堆積の進行する方向を反映するフォーセットラミナが認められ、遺跡付近の堆積物がおおよそ東から西方向に向かって堆積したことが明らかになった。さらに、この砂礫層は長良川によって開析されており、層上面が南に傾斜している。

以上のことにより、遺跡の立地する場所のでき方をまとめると、長良川のもたらした運搬物質(砂礫)が遺跡付近より西方へ向けて舌状に堆積を繰り返し、舌状の高まりを形成しながら緩やかな扇状地を広げていったと考えられる。成因的に考えると一種の自然堤防の形成ともいえる。その後長良川による緩やか開析が進行し、遺跡付近の土地が南側の長良川の河床面や北側の平坦地よりも相対的に高くなった。その後の何回かの長良川の大洪水によって、扇状地堆積物は砂やシルトや粘土などの細粒の堆積物によって被覆され、現在の地形を形成した。遺跡の北側に広がる平坦面は、北部の鳥羽川方面からの運搬物質の供給がほとんどなく、相対的な低地となったため氾濫原または後背湿地となり、泥質の細粒堆積物などの低湿地堆積物を厚く被覆した水はけの悪い土地が形成された。

地形的・地質的な面から人間生活の場として遺跡立地場所を概観すると、自然堤防的な舌状の緩扇 状地は、南側の河床面や北側の低湿地よりも相対的に土地が高く、洪水に対して比較的安定した場所 であったと考えられる。また、粗粒堆積物からなる緩扇状地は、土地がわずかに傾斜して高燥で水は けもよく、しかも近くに水源があることから住環境としての条件は整っているといえよう。しかし、 扇状地堆積物を被覆する長良川の氾濫による堆積物の各層から異なる時代の遺跡が出土することか ら、この場所において過去に幾度となく大洪水によって居住場所を放棄せざるを得ないような歴史的 イベントがあったことも事実である。

参考文献

財団法人日本地図センター 1995 地図で見る岐阜の変換 梶田澄雄 1985 表層地質図「岐阜」、岐阜県 脇田浩司ほか 1992 20万分の1地質図「岐阜」、地質調査所

第6章 参 考 資 料

本章では昭和63年度~平成元年度に岐阜県教育委員会により調査された城之内遺跡の遺物について報告する。本調査の報告は既になされているため遺構については言及せず、未報告の遺物のみ報告したい。なお、挿図番号1021の把手付中空円面硯のみ再実測した。

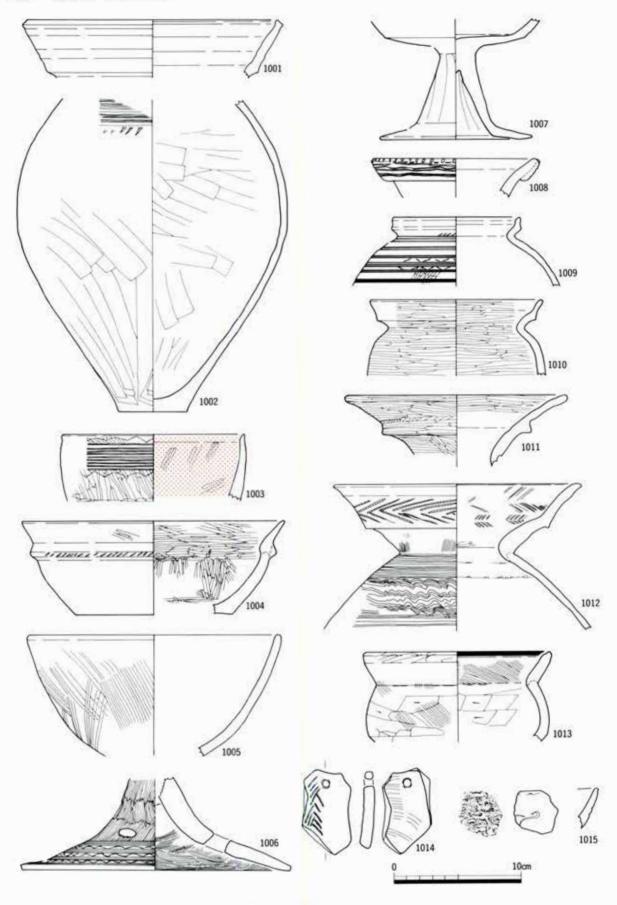
古墳時代の遺物 (1001~1015)

1001~1015はいずれも土師器である。1001は山陰系口縁甕である。口縁部は直線的に立ち上がり、 器表面には横ナデによる稜が明瞭に残る。口縁端部は面取りされ、内側にわずかに突出する。また、 胎土中には雲母が多く確認できる。1002は甕であり、無台平底で倒卵形を呈する。体部外面上方には 横線文と列点文が施され、胎土中の混和材は非常に多い。1003は中小型壺 2 である。坏部下方の器壁 は厚く、口縁部はわずかに外反し、口縁部内面に稜を有する。坏部外面上方には9条の多条沈線と沈 線の上下にクシによる波線文が描かれ、坏部内面には赤彩が施されている。1004は高坏とした。坏部 は下方に明確な稜を有し、上方で屈曲する。口縁部は外反し、端部を丸く収める。屈曲部外面には一 条の粘土紐を張り付け、突帯を作り出しており、突帯には貝による刻みが施されている。1005も高坏 と考えられる。坏部が深く、坏部外面にハケメ調整がみられる。1006は有稜高坏である。脚柱部の器 壁は厚く、脚裾部はわずかに内彎している。穿孔は、脚柱部中程に3箇所、脚裾部上方に3箇所それ ぞれ交互に施されている(図版19-左上参照)。脚裾部外面には7条の多条沈線が4段とヘラによる波 線文が3段それぞれ交互に施されている。1007は高坏A3である。1008は加飾壺であろうか。口縁部 は外側に大きく折り返され、端部に刻み、外面に若干歪んだ沈線が5条施されている。1009は壺であ る。体部上方は丸みを帯び、口縁部は受口状(S字状?)を呈する。体部外面には2~3状の沈線が 少なくとも6段施され、沈線の間にヘラによる波線文が2段描かれている。1010は広口壺6である。 口縁部は全体的に外反し、外面中程に明確な稜を有する。体部~口縁部にかけて残存している範囲は すべて横ミガキが施され、非常に精緻なつくりである。胎土は砂粒を多く含み、他の壺と比べるとや や粗雑な印象を与える。1011も壺とした。口縁部内外面に横ミガキが施され、外面中程に垂下稜が貼 り付けられている。1012は柳ヶ坪型壺 2 である。口縁部外面に単位の大きな羽状文が 1 段、内面に単 位の小さな羽状文が2段施されているが、内面の羽状文はその痕跡が残る程度である。体部外面には 2段の横線文が施され、その間に16条の波状文が描かれているが、波状文の波が歪んでいる箇所もあ る。また、胎土は赤褐色粒を多く含む。1013は鉢A4である。口縁部~体部にかけての器壁が厚く、 精緻なつくりである。1014は用途不明である。柳ヶ坪型壺の口縁部破片を転用しており、割れ面を研 磨している部分も確認できる。穿孔は焼成後によるもので、孔径 6 mmを測る。1015は壺か高坏の口縁 部破片と考えられる。口縁部はわずかに外側に折り返され、胎土中に赤褐色粒をわずかに含む。外面 にみられる線は絵画ないしは文様とも解釈できるが、あるいは偶発的なものかもしれない。

古代の遺物(1016~1028、1030、1032)

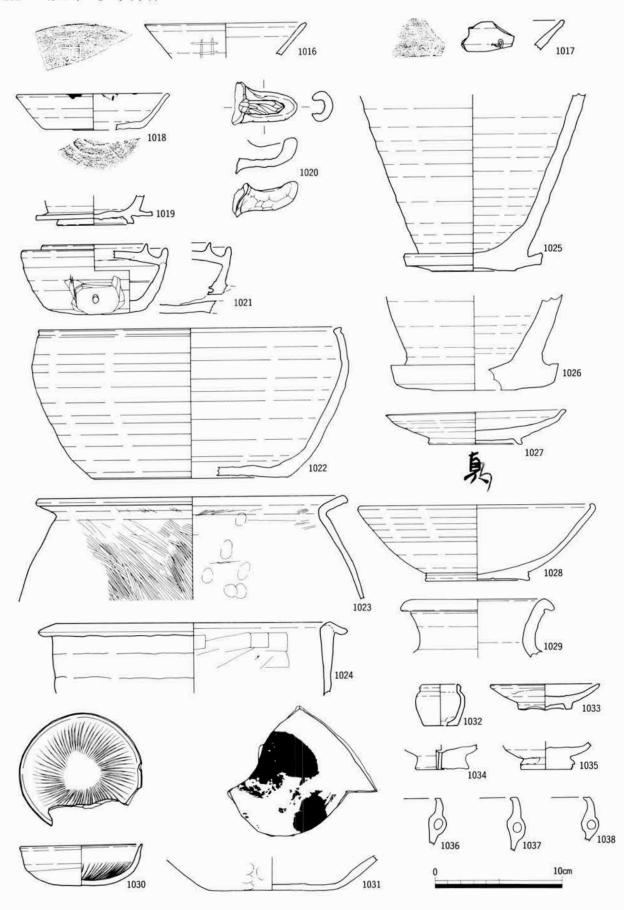
1016~1022、1025、1026は須恵器、1023、1024、1030は土師器、1027、1028は灰釉陶器、1032は緑釉陶器である。

1016~1018は坏身Bである。1016は体部外面に「井| 字状のへラ記号(文字?)が描かれている。



第81図 遺物実測図(33)

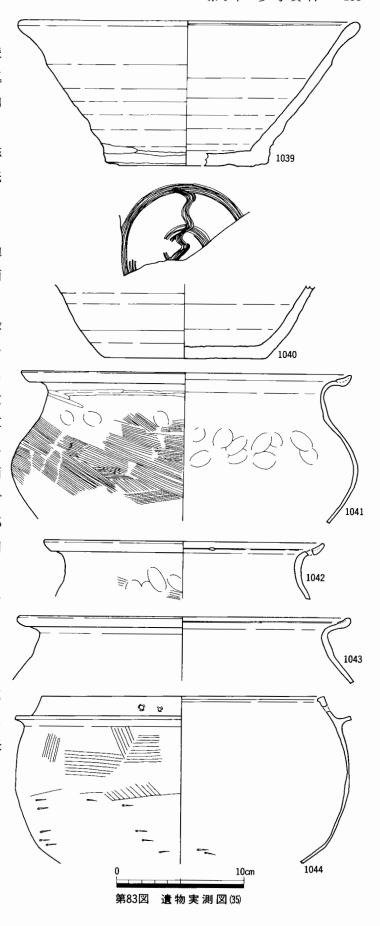
1017は体部外面に文様が施されており、描かれているのか押印されているのか識別し難い。なお、こ の文様と類似するものが昭和61年度の岐阜市教育委員会による調査で出土している(堀正人他1990「城 |之内遺跡-東長良中学校建設に伴う岐阜大学跡地の緊急発掘調査-」岐阜市教育委員会)。1018は口縁 部内外面の一部に煤が付着しており、灯明皿として使用されたと考えられる。1019は硯か。高台は比 較的丁寧につくられており、高台高は6mmを測る。 突き出し部外面は外傾し、 内面はほぼ水平である。 また、突き出し部先端はほば垂直に面取りされている。体部はわずかしか残存していないが、外方に 開き気味に立ち上がっている。また、胎土から美濃須衛産と考えられる。1020、1021は把手付中空円 面硯と考えられ、1020は把手部、1021は体部であるが、それぞれ別個体である。1020は断面U字形を 呈し、先端を丸く収める。内面は細い棒状工具で抉るように成形されており、その上から自然釉が降 灰している。1021の底部外面は回転へラ削り後不定方向ナデが施され、体部外面下方も回転へラ削り 調整がなされる。硯面の陸は非常に平滑で、墨が染み込んでいる。陸の集縁に位置する堤は断面三角 形を呈し、堤の先端は陸の面より 6 mm程高い。堤の直径は推定で8.1cmとなる。また、海は外傾してお り、陸と海の比高差は4mm程である。把手部は欠損しているが、わずかに残存している部分はヘラ状 工具で成形されており、その断面形は多角形を呈する。把手部から硯体内部に通じる穿孔は、硯体内 面から棒状工具を挿入した痕跡が残り、底部内面よりやや高い位置に未貫通の穿孔があり、その直下 に貫通した穿孔がある。なお、1021はその胎土から美濃須衛産と考えられる。1022は鉢である。体部 は緩やかに立ち上がり、上方で内彎する。口縁部は内傾して面取りされ、端部は上方につまみあげら れる。1023は頸部外反甕B3である。今回の調査で出土した頸部外反甕とは違い、胎土中に砂粒を多 く含むため図示した。1024は清郷型鍋である。体部は直線的に立ち上がり、口縁部内面に強い稜を有 する。口縁部は斜め下方に引き出され、指圧後横ナデが施されている。1025・1026は鉢である。1025 は上げ底であり、突き出し部は斜め上方に延び、端部はほぼ垂直に面取りされる。体部はロクロ目が 顕著に残り、外方へ直線的に立ち上がる。なお、胎土中に白色粘土が筋状に幾つか観察される。1026 は1025に比べ全体的に器壁が厚い。また、胎土中に白色粘土がみられない。1027は皿である。高台は 外方で接地し、断面方形を呈する。体部は直線的に立ち上がり、口縁部は外反し、端部は尖がる。体 部内面は灰釉が刷毛塗りされ、ピン痕が認められる。体部外面は露胎である。底部外面には「3」字 状のへラ記号が施され、さらに「真」の墨書がある。1028は碗であろう。高台は蛇ノ目高台に類似し、 高台幅は斜距離で2.7cmを測る。高台は付高台と考えられるが、断面では接合部が確認できない。体部 外面下方は板状工具によるナデ、上方および体部内面は指ナデによる成形である。体部は丸みを帯び て立ち上がり、口縁部は内彎し斜め上方へつまみ上げられている。また、底部内面にはピン痕と考え られる痕跡が残る。なお、灰釉の有無は判断し難い。1030はとりあえず鉢とした。体部は丸みを帯び て立ち上がり、口縁部はほぼ直立し、端部は外反気味である。また、口縁部内面はわずかに凹む。底 部内面~体部内面中程には中央付近から放射状に多条のヘラミガキが施され、その後体部内面上方に 横ナデが施されている。なお、胎土中には径1㎜程度の黒褐色粒が多くみられる。1032は壺である。 胎土は浅黄橙色を呈し、非常に軟質である。底部外面に板状圧痕が残り、体部上方に最大径を有する。 口縁部は短く直立し、端部は尖がる。緑釉は体部外面および体部内面下方まで施されている。なお、 緑釉陶器壺は平成3年度の調査でも出土している(各務光洋1992「城之内遺跡II」岐阜県教育委員会、 財団法人岐阜県文化財保護センター)。



第82図 遺物実測図(34)

中世の遺物 (1029, 1031, 1033~1044)

1029は瓷器系陶器壺である。頸部は緩 やかに外反し、口縁端部は外側に折り返 される。1031は土師器皿である。底部内 面に黒色有機物(漆か)が付着しており、 断面の一部にも認められる。1033は白磁 皿である。高台は弧状に抉り込まれ、底 部内面に重ね焼きの目跡が残る。1034、 1035は古瀬戸仏供である。1034は底部に 直径2mmの貫通した穿孔、1035は未貫通 の孔がみられる。なお、1035は体部内面 および高台外面に鉄釉がみられる。 1036~1038は土師器内耳鍋である。口縁 端部は面取りされ、浅く凹む。また、い ずれも外面に煤が付着している。1039は 鉢である。底部は平底であり、高台が欠 落した痕跡はみられない。口縁部は肥厚 し丸く調整され、内面に一条の凹みがみ られる。なお、体部内面下方~底部内面 は平滑である。1040は古瀬戸折縁深皿で ある。全面に灰釉が施されており、底部 内面にクシ (原体 4 条幅 8 mm) による同 心円2条と波状文が描かれている。 1041~1043は土師器伊勢型鍋である。い ずれも口縁形態は類似するが、1043は口 縁部に直径3mmの穿孔が1箇所施されて いる。1044は土師器羽釜である。体部は 丸みを帯び、口縁部は面取りされ、内側 に突出する。鍔は斜め上方に延び端部は 面取りされる。なお、口縁部中程に直径 3~4 mmの穿孔が1.5cmの間隔をおいて 2つ施されている。



第47表 遺物観察表(32)

挿図	整理			ž	去量 (cm)				残存率		
番号	番号	遺構	器種	口径	底径	器高	整形、調整	胎 土	色 調	(X/12)	その他	産地、時期
1001	802	包含層	土師器 山陰系口縁甕	(20.4)			口縁部内外面横ナデ	密、径 1 m以下の長 石、石英、雲母を幾つ か含む	浅黄橙色~灰色	口縁 3.1	口縁部外面煤付着	山陰系
1002	811	包含層	土師器		5.4		体部内外面斜めナデ	粗、径3m以下の長石、石英、チャートを多く含む	灰黄橙色	底部12.0	体部外面中程に帯状 に媒付着、体部内面 下方にブロック状に 媒付着、体部外面上 方に列点文と横線文	
1003	813	包含層	土師器 中小型壺 2	(14.4)			坏部内面ハケ状工具 による斜めナデ後斜 めミガキ、坏部外面 斜めミガキ	密、径1㎜以下の石 英、チャートをわず かに含む	橙色~灰色	口縁 1.5	坏部内面赤彩、坏部 外面多条沈線文(9 条)と波線文(クシ)	
1004	805	包含層	土師器 高坏?	(20.6)			坏部内面縦ミガキ、 口縁部内外面横〜斜 めミガキ	やや粗、径 2 mm以下 の長石、石英、チャー トを幾つか含む	橙色~にぶい赤 橙色	口縁 1.7	外面に 1 条の突帯を 貼り付け、その上に 貝による刻み	
1005	810	包含層	土師器 高坏?	(20.0)			坏部外面斜めハケ	粗、径2mm以下の長 石、石英、チャート を多く含む	黄橙色~橙色	口縁 4.6		
1006	810	包含層	土師器 有稜高坏		(20.9)		脚部内面横ハケ(原 体13本、幅1.6cm)脚 部外面縦ミガキ	密、径2mm以下の石 英、雲母をわずかに 含む	灰白色~褐灰色	底部 2.5	1孔3組2段6穿、 孔脚部外面多条沈線 文(クシ)4段と波線 文(ヘラ)3段	
1007	808	包含層	土師器 高坏A3		12.0		脚柱部内面横ケズ リ、脚柱部外面縦ケ ズリ	やや粗、径 4 mu以下 の長石、チャートを わずかに含む	橙色	底部 6.8		
1008	815	包含層	土師器 壺	(13.2)			口縁部内外面横ナデ	密、径3 mm以下のチャートをわずかに含む	にぶい橙色~灰 色	口縁 3.2	口縁部外面に刻み、 多条沈線 5 条	
1009	816	包含層	土師器 壺	(10.0)			体部外面斜めミガキ	密、径1mm以下の長 石、雲母をわずかに 含む	橙色~黑色	口縁 0.3	体部外面沈線文と波 線文(ヘラ)	
1010	801	包含層	土師器 広口壺 6	(13.6)			体部内外面横ミガキ	やや粗、径2m以下 の長石、チャートを 多く含む	黄灰色~灰色	口縁 1.6		
1011	809	包含層	土師器 壺?	16.4			口縁部内外面横ミガ キ	密、径 2 mm以下の長 石、チャートをわず かに含む	灰白色	口縁12.0	日縁部外面に 1 条の 突帯	
1012	807	SD 8	土師器 柳ケ坪型壺 2	(19.6)			頸部外面縦ハケ、頸 部内面横ミガキ	密、径3m以下の長 石、石英、赤褐色粒 を幾つか含む	橙色	口縁 1.9	口縁部内外面に羽状 文、体部外面に横線 文と波状文	·
1013	804	包含層	土師器 鉢A 4	(7.5)			頸部内面斜めハケ、 体部内面横ケズリ、 体部内面横削り後斜 めハケ	やや粗、径5mm以下 の石英、チャートを 幾つか含む	浅黄橙色~灰色	口縁 2.0	口縁部内面沈線 2 条	
1014	814	包含層	土師器				上面羽状文(貝)、下 面横ハケ	やや粗、径2mm以下 の長石、石英、赤褐 色粒を多く含む	橙色		焼成後穿孔(孔径6 mm)、柳ケ坪型壺の口 縁部を転用	
1015	832	包含層	土師器 高坏?					やや粗、径2m以下 の長石、チャート、 赤褐色粒を幾つか含 む	にぶい橙色~褐 灰色	口縁 0.3	坏部外面に文様?	
1016	834	包含層	須恵器 坏身B				体部内外面横ナデ	密、径3mm以下の石 英をわずかに含む	灰白色	口縁 2.3	体部外面にヘラ記号	
1017	833	包含層	須恵器 坏身B				体部内外面横ナデ	密、径3m以下の長 石、石英を幾つか含 む	灰白色	口縁 0.3	体部外面に押印?	
1018	827	包含層	須恵器 坏身B	(12.0)	(7.2)	2.8	体部内外面横ナデ、 底部外面へラ切り後 未調整	密、径1m以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 4.5	底部外面にへう記号 口縁部の一部分に煤 付着	_
1019	822	包含層	須恵器 硯?		6.0		底部外面回転へラ削 り	やや粗、径2m以下 の長石を幾つか含む	灰色	底部12.0		
1020	821	包含層	須恵器 把手付中空 円面硯				把手部内面棒状工具 による成形、把手部 外面指圧	密、径1mm以下の石 英をわずかに含む	暗灰色		上面自然釉降灰	
1021	820	包含層	須惠器 把手付中空 円面硯	(11.2)	7.4	5.5	体部大工具に よった はなる大様ないで、 はないで、 大大様の大学、 大大がラーリット では、 はいないでは、 とった。 とった。 とった。 とった。 とった。 とった。 とった。 とった。	密、径 6 m以下の長石、チャートをわずかに含む	灰白色~灰色	口縁 4.2 底部 6.4	把手部欠損	·

第48表 遺物観察表(33)

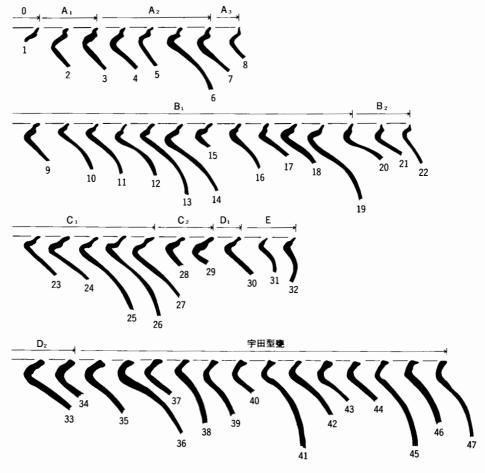
挿図	整理	hate Little	BB 46	法量(cm)			44 T/ 20144	- 44	. au	残存率		** # ## ##
番号	番号	遺構	器種	口径	底径	_	整形、調整	胎 土	色調	(X/12)	その他	産地、時期
1022	826	包含層	須恵器 鉢	(24.0)	(15.4)	11.7	体部内面および外面 上方回転へラ削り、 底部内面不定方向ナ デ、底部外面回転へ ラ削り、板目	密、径8 mm以下の長石、チャートをわずかに含む	灰白色~灰色	口縁 0.2 底部 2.4		尾張系 7 世紀後半
1023	803	包含層	土師器 頸部外反甕 B3	(24.2)			体部内面指圧、頸部 内外面~体部外面斜 めハケ	やや粗、径2m以下 の長石、石英、雲母 を多く含む	にぶい黄橙色	口縁 1.8		
1024	839	包含層	土師器 清郷型甕				体部内面横〜斜めナ デ	やや粗、径 2 mm以下 の石英、雲母を幾つ か含む	灰褐色	口縁 1.8	口縁部内外面煤付着	
1025	837	包含層	須恵器 鉢		(11.0)		体部内外面横ナデ、 底部外面無調整	やや粗、径 2 mm以下 の石英、チャートを 幾つか含む	灰白色	底部 5.5	胎土中に白色粘土が 多く混じる	
1026	825	包含層	須恵器 鉢		(12.4)		体部内外面横ナデ、 底部外面へラ切り後 未調整	やや粗、径1m以下 の長石、石英をわず かに含む	灰白色	底部 5.0	体部内面平滑	
1027	823	包含層	灰釉陶器 皿	14.1	7.4	2.5	体部内外面および底 部外面横ナデ	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 6.2 底部12.0	体部内面灰釉刷毛塗 り、底部外面にヘラ 記号と墨書	
1028	835	包含層	灰釉陶器碗	(18.6)	(8.1)	5.9	体部内面および外面 上方横ナデ、体部外 面下方回転へラ削り	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	灰白色	口縁 1.3 底部 2.5	灰釉の有無は判断で きない	
1029	824	包含層	瓷器系陶器 壺	(12.0)			頸部~口縁部内外面 横ナデ	やや粗、径1㎜以下 の長石を幾つか含む	灰白色	口縁 4.0	頸部~口縁部内外面 灰釉?	
1030	817	包含層	土師器 鉢	9.6		3.2	体部内面縦ミガキ後 横ナデ、口縁部外面 横ナデ、体部外面指 圧	密、径1㎜以下の長 石、黒褐色粒、雲母 を幾つか含む	橙色~赤灰色	口縁 8.5		
1031	836	包含層	土師器皿				体部~底部外面指 圧、体部内面横ナデ、 底部内面不定方向ナ デ	密、径1㎜以下の長 石をわずかに含む	褐灰色~黒色	底部 7.8	底部内面に黒色有機 物付着	
1032	818	包含層	緑釉陶器 壺	(3.0)	(2.6)	3.2	体部内外面横ナデ	密、径1㎜以下のチャートをわずかに含 む	浅黄橙色	口縁 2.0 底部 3.6	体部内外面緑釉、底 部外面板状圧痕	
1033	829	包含層	白磁皿	(8.6)	(4.2)	2.0	体部内外面横ナデ	密、わずかに空隙が みられる	灰白色	口縁 1.2 底部 3.1	口縁部内外面~体部 内面施釉	
1034	831	包含層	古瀬戸 仏供		4.2		体部内外面横ナデ、 底部外面回転糸切り	やや粗、径1mm以下 の長石をわずかに含 む	浅黄橙色	底部12.0	底部中央に径 2 mmの 穿孔あり	後Ⅲ期
1035	830	包含層	古瀬戸 仏供		4.2		体部内外面横ナデ、 底部外面回転糸切り 板目	やや粗、径1mm以下 の長石をわずかに含 む	浅黄橙色	底部12.0	底部中央に未貫通の 孔あり、体部内外面 に鉄釉	後Ⅲ期
1036	842	包含層	土師器 内耳鍋				体部内外面横ナデ	やや粗、径2㎜以下 の長石、雲母を幾つ か含む	浅黄橙色	口縁 1.0	体部外面に煤付着	
1037	844	包含層	土師器 内耳鍋				体部内外面横ナデ	やや粗、径2㎜以下 の長石、雲母を幾つ か含む	浅黄橙色	口縁 0.8	体部外面に煤付着	
1038	843	包含層	土師器 内耳鍋				体部内外面横ナデ	やや粗、径 2 mm以下 の長石、雲母を幾つ か含む	浅黄橙色	口縁 1.2	体部外面に煤付着	
1039	838	包含層	鉢	(26.8)	12.8	11.4	体部内外面横ナデ、 底部外面板状圧痕	やや粗、径 6 m以下 の長石、石英、チャー トを幾つか含む	灰色	口縁 1.8 底部 6.8	体部~底部内面平滑	_
1040	819	包含層	古瀬戸 折縁深皿		(12.8)		体部内面横ナデ、体 部外面上方横ナデ、 下方回転へラ削り、 底部外面不定方向の ヘラ削り	やや粗、径 1 mn以下 の長石をわずかに含 む	にぶい黄色	底部 3.2	全面に灰釉、底部内 面に 2 条の同心円と 波状文	中 I ~ II 期
1041	846	包含層	土師器 伊勢型鍋	(25.9)			体部内面横ナデと指 圧、体部外面指圧後 斜めハケ(原体14本 幅1.6cm)	やや粗、径1㎜以下 の長石、チャート、 雲母を幾つか含む	にぶい橙色~黒 色	口縁 2.5	体部内外面下方およ び口縁部外面媒付着	
1042	841	包含層	土師器 伊勢型鍋	(26.2)			体部内外面指圧	やや粗、径1m以下 の長石、チャート、 雲母を幾つか含む	浅黄橙色~灰色	口縁 1.7	口縁部~体部外面煤付着	
1043	840	包含層	土師器 伊勢型鍋	(22.0)			体部外面指圧および 斜めハケ	やや粗、径1㎜以下 の長石、チャート、 雲母を幾つか含む	浅黄橙色~黑色	口縁 1.5	口縁部に穿孔あり、 口縁部〜体部外面煤 付着	
1044	845	包含層	土師器 羽釜	(22.2)			体部内外面下方横ケ ズリ、体部外面上方 横〜斜めハケ	やや粗、径2m以下 の長石、チャート、 雲母を幾つか含む	黄灰色	口縁 5.8	体部外面煤付着、口 縁部に 2 ヶ所の穿孔 あり	

第7章 ま と め

今回の調査では古墳時代〜近世にいたる遺構が検出され、多数の遺物が出土した。そのため、本章では古墳時代前期、古墳時代後期〜古代、中近世の大きく3時期に区分して、それぞれ各時期毎に遺構の変遷と遺物の概要、および第6章で参考資料として取り上げた昭和63年度〜平成元年度に調査した地点(大熊1990)との比較を行いたい。

1 古墳時代前期

複数の住居が検出され、多数の土師器が出土した。これらのうち、まず住居の時期決定の基準としたS字甕の分類基準を図示した(第84図)。その分類要素は、大きく廻間分類(赤塚1990)に従い、O類・A類は口縁部外面に刺突文、ないしは押引刺突文があるものい、B類は口縁部第2段がほぼ垂直に立ち上がるもの、C類は口縁部が大きく外反するもの、D類は口縁端部に面をもつものである。このうちB類とC類は漸移的な形態変化がみられ、B類とC類のどちらに分類すべきか判断し難い破片も存在した。また、B類に分類したものには、破片が摩滅していることもあり、端部の面の有無の識別が明確にできなかった破片も少なくないため、端部の面の有無は分類基準から除外した。本来ならば器形全体のプロポーションと調整技法を加味した上で分類すべきであろうが、今回の調査のように全

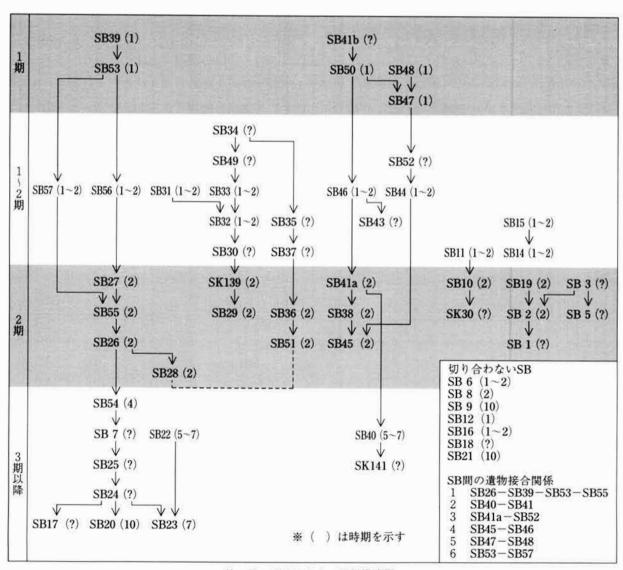


第84図 S字甕 宇田型甕口縁形態略図 (S=1/4)

形を知り得る個体が少ない場合は、口縁部形態に頼る以外に方法が考えられなかったので、今回の分類はあくまで口縁部形態のみの分類である。また調整については、〇類・A類のうち、A1 (2・3)の頸部内面は先端の丸いヘラ状工具でナデ調整されており、その他の破片はいずれもハケメ調整である。A3(8)は口縁部上段の屈曲が認められない形態であり、B2 (21・22) としたものも同様である。また、B類のうち、頸部内面にハケメ調整が施される破片は9、21、22の3点のみで、その他はヘラナデないしは摩滅のため判断し難いものである。頸部外面に一条の沈線が巡る破片は13、15、17~19であり、C類としたものにはいずれも認められる。

なお、宇田型甕のうち35と47は口縁部の外反角度が大きく違うが、40、41のように両者の中間的な 器形も存在するため、細分は行わなかった。

次に遺構と遺構出土遺物との関係について考えたい。今回の調査では住居が複雑に切り合って検出されている。その切り合い関係をまとめたのが第85図である。切り合い関係は①SB39を中心とする領



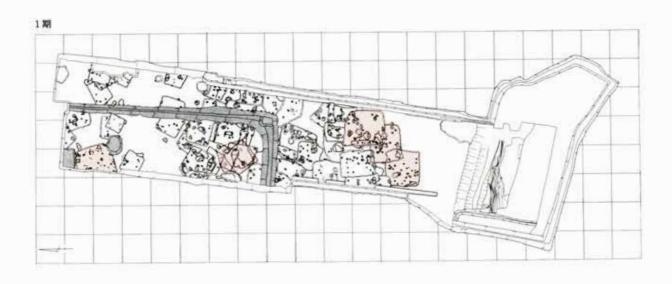
第85図 遺構切り合い関係模式図

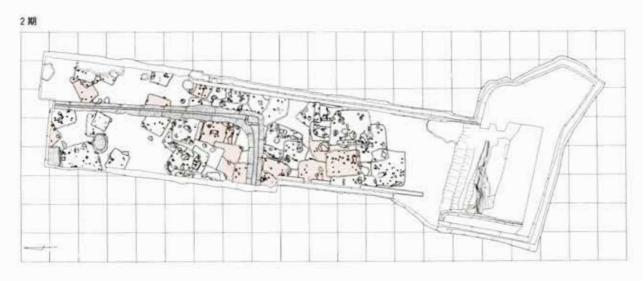
域、②SB34を中心とする領域、③SB41 bを中心とする領域の3つがある。①ではSB39、53が切り合いから最も古く位置付けられ、SB53からS字甕A類が1点出土している。②ではSB34、35、49が切り合いから最も古く位置付けられるが、新しい段階の遺物が幾つか混入している。③ではSB41 b、47、48、50が切り合いから最も古く位置付けられ、SB41 bは出土遺物がないが、SB47、50はそれぞれS字甕O類、A類が幾つか出土している。このように、①③の領域における1期の住居からはS字甕O類、A類が単独で出土している。また、1期の住居を切る1~2期の遺構群のなかにはS字甕が出土していないため1期か2期か判断できない遺構とSB11、14、15、32のようにS字甕A類とB類がほぼ同量出土している遺構、および混入遺物が多く時期が推定できない遺構がある。さらに、1~2期の住居を切る2期の遺構群からはS字甕B類が単独で出土することが多い。なかにはSB51、55のようにS字甕A類が単独で出土している遺構やSB45のようにS字甕A類とB類が出土している遺構もあるが、これらはいずれも埋土からの出土であり、焼土やピットなどの住居の時期決定に優先される場所からの出土ではない。そのため、これらは埋土中に古い遺物が混入したと解釈したい。

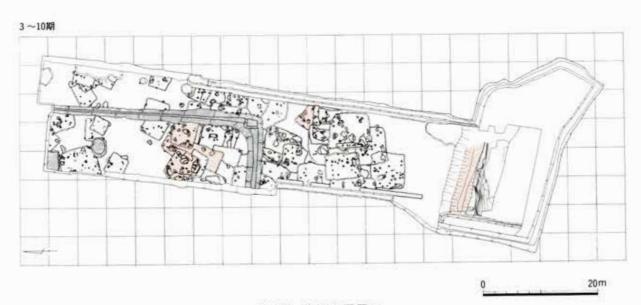
このような事実結果から1期→1~2期→2期という遺構群の新旧関係が切り合い関係から述べられ、遺構に伴う遺物からS字甕O・A類→A~B類→B類というS字甕の新旧関係が考えられる。

では、1期と2期の遺構配置はどうであろうか。第87図では1期ないしは2期と推定される遺構を図示している(1~2期は除外している)。1期の住居は20m~30mの間隔で散在しており、2期は1期より遺構間の距離が短い。また、その数も2期は1期の2倍以上認められる。これらは今後、S字甕以外の他器種の様相が整理できれば、今回1~2期とした遺構も細分でき、その様相が変わるかもしれないが、現段階では2期に住居の数が増えたと捉らえたい。なお、今回の調査に隣接する地点の



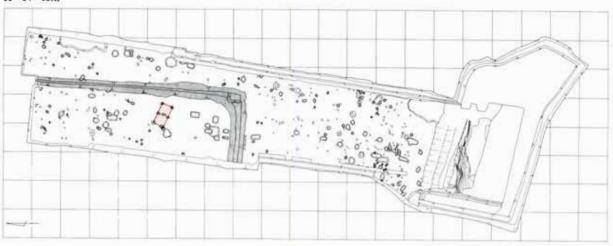




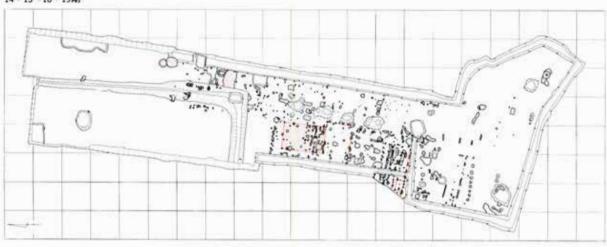


第87図 遺構変遷図(1)

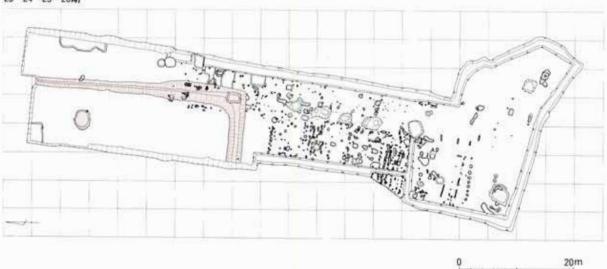
11~14・15期



14・15~18・19期



23・24~25・26期



第88図 遺構変遷図(2)



第89図 遺構変遷図(3)

調査を平成5~6年度に行った岐阜市遺跡調査会の報告(高木他1996)でも、今回の調査と遺構間の 距離の違いは同様であり、遺構数は欠山期2、元屋敷期22とあり、元屋敷期における遺構数の増大、 および遺物総数の増大が指摘されている。

また、個々の住居単位でみると、1期の住居は規模が大きいものが目立ち、そのプランは2期と比べると正方形に近いものが多い。また、幅 $0.5m\sim1.0m$ を測り、主柱穴の外側に位置する溝状の掘り込みは5軒(SB27、41b、46、50、53)の住居で確認され、他の住居と比べてその構造は特異といえる。なお、このような構造の住居は可見市宮之脇遺跡A地点でも検出されている 20 。

炉の構造は大きく2つに分けられる。1つは細長い礫の両端にピットを掘り込み、礫付近に焼土が広がるもの(SB27、32、41b、46)と、それに類似する形態で礫の両端にピットがないもの(SB38)、逆にピット2箇所と焼土が検出されているが礫がないもの(SB11、53)、もう1つは土坑の上面ないしは埋土内に焼土が検出されるもの(SB10、26、36、45、48、49、50)である。前者は礫とピットの配置、および焼土の広がりは類似しているが、それらの主軸方位は住居により様々であり、その位置はいずれも中央付近である。逆に後者は壁寄りに存在するものもある。また、前者のうち、礫が残る炉の礫の法量、ピットの深さ、および焼土の広がりを示したのが第49表である。このうち、礫の長さ、幅は検出時におけるプランから、また、高さAは検出時における礫の上端と下端の比高差、高さBは

炉に伴う土坑の底面(土坑がない炉は住居床面)と礫の上端の比高差を示している。高さ Bは「炉端の支柱石上に薪を置き煮炊きする」 (岩瀬1996)という考えと関連があろう。第 49表に示したように、礫の長さはSB38以外は 30cm強、幅は10cm前後とまとまっている。また、高さBは10cm~20cmの間に収まる。焼土 の広がりはSB41bは大きく丸いが、その他は

第49表 炉法量一覧表

	礫法量(cm)				ピット深さ(cm)		炒土(cm)	
	長さ	聯	高さA	高さB	東(北)	西(南)	長軸	短軸
SB27	32	9	12	12	不明	17.0	85	20-30
SB32	30	8	10	15	9.0	13.1	90	30~40
SB38	56	16	17	16	-	-	90	50
SB41b	36	12	16	16	1.8	18.1	70	30~40
SB46	30	11	16	17	17.5	27.8	85	70

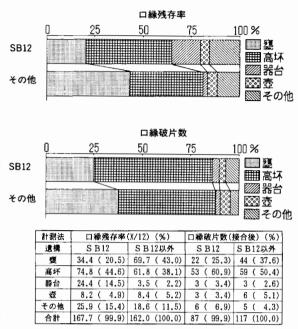
礫の長軸に沿うように細長く広がっている。礫の両端に位置するピットは炉に伴うのか否かは判断し 難いが、その埋土中に焼土が混入することはなく、いずれも褐色ないしは黄褐色を呈する砂質土の単 層である。また、その深さは浅いものが多い。

なお、今回の調査では住居全体が比熱している痕跡が残るものが 4 軒検出された。つまり、SB 6、SB12(いずれも焼失家屋)、SB33(床面全域にわたり焼土が確認できる)、SB50(炭化した柱根)であるが、SB12、50は 1 期、SB 6、33は 1~ 2 期に属し、確実に 2 期といえる住居には確認例がない。また、平成 5~ 6 年度の岐阜市遺跡調査会の報告でも欠山期の住居 2 軒のうち 1 軒(「SB71」)に焼土を多量に含む硬化面が確認されており、元屋敷期の住居22軒のなかには例がない。今後の調査で 2 期の住居から同様な例が検出されるかもしれないが、現段階では主に 1 期の住居にその痕跡がみられるといえよう。

次に主な遺構出土の遺物について、その組成比を中心に考えてみたい。本来ならば、全破片を計測 の対象とすべきであろうが、現段階で全器種の型式変化が美濃地方では捉らえられておらず、個々の 遺物のみからでは時期が言及できないと思われる。そのため、計測の対象としたものは時期が推定で きる住居出土遺物とSK139出土遺物に限定した。また、時期設定は1期と2期のみに限り、1~2期の 遺構出土遺物は混乱が生じるので対象としていない。計測方法は口縁部計測法と接合後の口縁部破片 のカウントである。口縁部計測法の手順は既存の方法(宇野1992)に従ったが、土師器の場合は小破 片であると口径の認定が曖昧になるため、残存率が1.0/12以下の破片はすべて1.0/12に切り上げてカ ウントした。なお、口縁部計測法と破片数計測法の両者を用いた理由として第90図の器台の比率を例 に挙げたい。ここでは口縁部計測法の結果ではSB12が14.5%、SB12以外が2.2%とあり、SB12とSB12 以外の住居では比率が大きく違う。しかし、破片数計測法の結果ではSB12が3.4%、SB12以外が2.6% とあり、その比率に大きな差はみられない。両者の差異はSB12出土のほぼ完形の2個の器台が要因で あり、この2個の器台は口縁残存率では合計22.0/12、口縁破片数では2とカウントされるため、数値 上では前者が高く、後者が低くなる。また、SB12以外の住居には完形に近い器台は出土していないた め、いずれの計測結果でも差異は生じない。そのため、SB12の口縁残存率のみ高い数値となり、結果 的にその比率のみが高くなるのである。この場合は口縁部計測法で算出したデータのみを示すとデー 夕を誤認する可能性が高くなる例を挙げたが、逆に接合後の口縁破片数の合計だけでは各個体の破損 率の違いや接合時における作業員の熟練度により計測結果が左右される。そのため、両計測法を相補 うためにデータを2つ図示した。

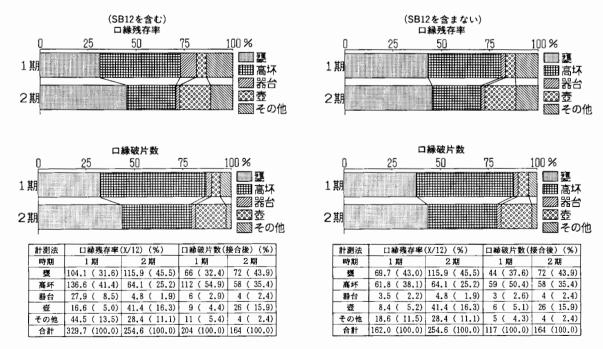
また、今回の時期別による組成比は、生活時に使用して廃棄された遺物を対象としているため、特別な儀礼行為などによる遺物は別個にしなければならない。今回の調査ではいわゆる焼失家屋が2軒(SB6、12)ある。SB6から検出した炭化材は散在しており、遺物は当時完形であった個体が潰れたような状態で炭化材の中から出土している。それに対し、SB12は炭化材が中央から放射状に倒れた状態で検出されており、多くの遺物は炭化材直上から器壁が被熱した状態で出土し、炭化材の中ないしは下からは出土していない。また、SB12内における遺物はやや離れた場所の破片が接合する例もある。このような遺物出土状況の違いが、いわゆる不慮廃屋と焼失廃屋(桐生1996)との識別につながるか否かは判断し難い。しかしSB12は、その遺物出土状況から、住居を崩壊した後に構造材の上に遺物を並べ火を放ったため、遺物が炭化材の直上から出土し、遺物が置かれた状態が不安定であったため、

やや離れた場所の破片が接合するという結果となった可能性も考えられる。また、「竪穴住居の焼却に際しては一定のセレモニーが行われていた」(石守1996)という考えは、SB12の遺物組成を考える上で重要な視点となろう。SB12の出土遺物の内訳は第6~7表に示した通りであり、その集計とSB12以外の1期の住居出土遺物の集計を比較したのが第90図でSB12ある。これによると、SB12の甕の比率が低く、高坏の比率がわずかに高いことが捉らえられよう。また、SB12には完形に近い器台と鉢がそれぞれ2個体が出土しており、土玉や甕の脚台に羽状のハケが施される器種も出土しており、他の住居と様相が異なっている。逆にSB6の組成は他の住居全体の組成と大きく違わない。このようにSB12は、他の住居と比べ遺物出土状況や組成比が異なるため、住居を廃棄す



第90図 1期器種組成グラフ

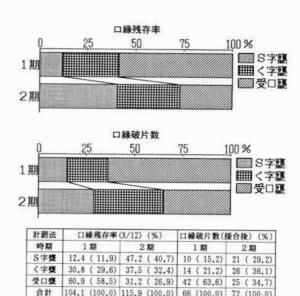
る際に特別な行為が行われていたと判断され、1期全体の組成を考える上で別個にすべきであろう。ところで、SB12と同じ1期のSB47は手焙り形土器1個体と小型の鉢2個体が出土している。また、同様に1期のSB50は炭化材が検出され、出土遺物も有稜高坏2個体と小型のパレス壺1個体が出土しており、個々の遺物のみをとりあげると特異な様相を示すといえる。また、同じ1期のSB39、53からは炭化材や特別な遺物が出土していない。これらから、SB12のみが特別ではなく、1期の大型住居だけが廃棄時に特定の行為を行っていた可能性も考えられる。しかし、SB47、50は出土遺物数が少ない



第91図 1・2期器種組成グラフ

ためか、組成比ではSB12のように際立った違いがみられない。また、2期では、SK139を含むG7グリッドからS字甕がまとまって出土した以外は、出土遺物に特別な様相が看取できない。そのため第91図では、1期をSB12を含めたグラフとSB12を含めないグラフを両方掲載し、2期との比較を行った3。

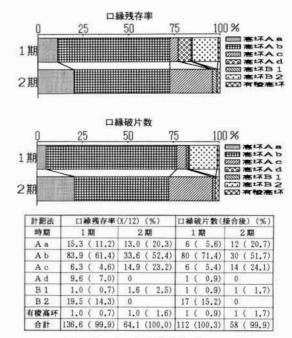
計測は1期と2期の各器種、甕、高坏の組成の違いを明らかにすることを目的として行った。各器種の組成(第91図)のうち、SB12を含む1期は高坏が最も多く、全体の40~55%を占める。次に多いのが甕であり、全体の30%強を占める。しかし、SB12を含まない場合は高坏、甕のいずれの比率が高いのかグラフから読み取れない。2期には、甕は全体の45%前後を占め、最も比率が高くなる。同様に、総量で



第92図 1・2期甕組成グラフ

は1期から2期にかけて高坏が減少、ないしは変化がなく、甕はわずかに増加している様子が読み取れる。また、壺はSB12を含む、含まないにかかわらず、1期から2期にかけて格段に比率と総量が高くなるという結果となった。甕の組成(第92図)では1期の受口甕の比率の高さが目立ち、全体の60%前後にもなる。以下、く字甕、S字甕の順に比率が低い。しかし、2期では各甕の比率は近似している。一方、総量でみると受口甕が減少し、S字甕が増大している結果が読み取れる。高坏の組成(第93図)では1期のAb類の比率の高さが目立ち、全体の60~70%強を占める。しかし、2期ではその比率が50%強まで低下し、逆にAa類とAc類の比率が高くなる。総量では破片数が少ないので断定はでき

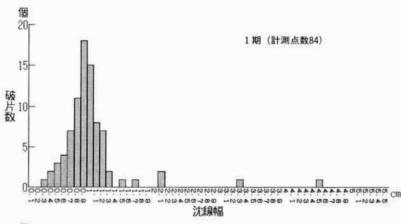
ないが、Ab類が減少し、Ac類が増加している結果が 読み取れる。また、高坏で注目できるのはB2類の 存在であり、1期で全体の15%前後を占めていなが ら、2期では皆無となる。なお、高坏は大垣市の今 宿遺跡で「有段高坏は坏部内面に多状沈線を施すも のが大半 | であると報告されており (中井1994a)、 「沈線は20条から30条に及ぶものから9条と少ない ものも含まれ」るとされている(中井1994b)。今回 の調査では沈線の数が比較的少ない破片が目立った ので、その幅を計測し、明確にするよう試みた(第 94図)。その結果、1期は沈線幅0.9cmにピークがあ り、0.7cm~1.2cmの間が最も多い。また、沈線の数 は3条~6条施されるものが目立つ。そして、沈線 幅1.5cm以上の破片は極わずかであった。2期は計測 可能な点数が少ないため詳細はわからないが、その 傾向は1期と類似しているようである。

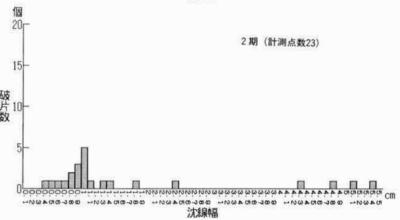


第93図 1・2期高坏組成グラフ

2 古墳時代中期~古代

当期は古墳時代前期と比べる と検出された遺構数が極端に減 少し、竪穴住居5軒、掘立柱建 物1棟、溝1条が主体となる。 このうち、SD6は調査区の南端 で検出され、平成5~6年度に 岐阜市遺跡調査会の調査で検出 されたSD23と埋没時期と主軸 方位が類似する。なお、両者は それぞれ堀田地区における微高 地の南端と北端に位置してい る。また、SH1の所属時期は、 遺構の切り合いからおそらく灰 釉陶器が使用されていた頃と推 定され、下層面(上)で幾つか 検出された、主軸を北に有する 長方形の土坑と関連がある可能 性も考えられる。

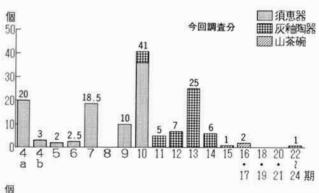


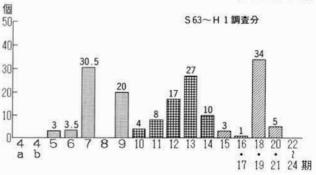


第94図 高坏口縁部内面の沈線幅

古墳時代中期の遺物はSB49上層において宇田型甕と高坏、鉢がセットで出土した以外はまとまった 良好な資料はない。また、古墳時代後期~古代の土師器甕については、頸部外反甕A2類が最も多く、 B1類、B2類はほとんど出土していない。

須恵器、灰釉陶器はその時期が確実に判別できる資料のみをカウントし、昭和63年~平成元年の調査で出土した遺物と比較した(第95図)が。今回の調査では須恵器は4a期(5世紀末~6世紀初頭)、7期(7世紀後半~8世紀初頭)、10期(9世紀前半)の3時期にピークがみられる。このうち4a期の遺物は、渡辺氏の分類で「畿内」系に相当するものが大半であり(渡辺1996)、主にB区から出土している。そして、昭和63年~平成元年の調査では当該期の遺物が出土していない。また、昭和61年度の調査で、その存在が明らかとなった長良廃寺の存続時期について「7世紀後半から8世紀代までというように大まかな線を想定した」(堀他1990)とあり、おおよそ今回





第95図 時期別出土遺物個体数

の時期区分の7~9期にあたる。今回の調査では寺院に関係する遺物としては瓦が戦国時代の溝から数点出土した程度であり、その他に転用硯の可能性がある遺物が1点出土したのみである。また、遺構も確実に寺院に関係するものは検出されていないため、長良廃寺の区域外にあたるのかもしれない。しかし、今回の調査と先の調査では、いずれも7期に遺物量にピークがみられる点で共通しているり。また、8期(8世紀前半~中頃)の遺物はほとんどみられず、9期の遺物が再び一定量みられることは、長良廃寺の存続期間を考える上で重要な視点となり得るであろうし、さらに、微高地の南端と北端に位置する溝の埋没原因と、長良廃寺の廃絶とは何等かの関連があるのかもしれない。なお、灰釉陶器は10期から14期まで一定量出土しており、いずれの調査でも13期(猿投編年東山72号窯式)に遺物量のピークがみられる。

3 中近世

中世の遺構は、主に掘立柱建物1棟、棚列、溝などが検出された。このうち、中世前期の遺構として掘立柱建物とそれに伴う棚列、および溝などがある。また、中世後期の遺構として土師器皿がまとまって出土した溝(SD1、2)がある。これは平成5~6年度の岐阜市遺跡調査会の調査におけるSD28の延長であり、今回のSD2の延長ラインは、字絵図に読み込むと美濃守護土岐氏の居館「枝広館」の南堀と一致する可能性が指摘されている(高木他1996)。溝以外に確実に中世後期と位置付けられる遺構は溝の内側に位置する土坑1基のみであり、不明な点が多い。一方、溝の外側については遺構がないことから、あるいは空白地であった可能性も考えられる。

近世の遺構は、主に掘立柱建物1棟、栅列9条などが検出された。このうち、栅列としたものは、 検出時は細長い土坑状のプランを呈し、その掘り方は垂直でなく、斜めに掘り込まれたものが多い。 これらから、畑の畝状遺構である可能性が高い。

出土遺物は細片が多く、完形に復元できるものはわずかである。そのなかで、SU1出土の土師器皿12枚は、直径8cm以下の個体8枚、直径10cm前後の個体4枚であり、その比が2:1となり、使用状況のセット関係を示す1例となろう。また、今回の調査では山茶碗がわずかしか出土していない。しかし、昭和63年度~平成元年度の調査では18・19期を中心に、非常に多くの山茶碗が出土している。また、入子や白磁皿(森田分類D群)、古瀬戸中期の卸皿、折縁深皿など、今回の調査ではみられない器種が幾つか出土しており、さらに体部外面に横ナデを施す土師器皿が幾つか出土している。これらから、城之内遺跡において、中世前期は遺跡の西側が集落の中心区域であった可能性が看取できる。

今回の調査では古墳時代以降の多数の遺構、遺物が出土し、広大な面積を有する城之内遺跡の一端を垣間見ることができた。しかし、今後の調査成果によって、さらに新たな事実が浮かび上がることであろう。なお、最後になりましたが、発掘調査から整理作業にいたるまで、諸作業に携わっていただいた多数の方々をはじめ、関係各位に深く感謝する次第です。

- 1) S字甕О類については赤塚次郎氏に御教示を得た。
- 2) 吉田正人氏の御教示による。
- 3) 2期においてG 7 グリッドでS字甕がまとまって出土している様相は「1、非日常、祭の道具の主体は I 式期後半での高杯からII式期になると甕、しかもS字甕に移行する」(赤塚1990)ということから考えると、

日常的な廃棄の形態を示していないのかもしれない。しかし、今回は包含層の出土遺物は計測の対象から外しており、遺構出土の遺物で2期は特異な様相がみられないと判断し、第91図を作成した。

- 4)須恵器は主に全形がわかる杯蓋を渡辺博人氏に、灰釉陶器は底部がある程度残存している破片を山内伸浩 氏に実見していただき時期を決定した。山茶碗は底部から口縁部まで残存している個体のみカウントし、小 皿は対象としていない。
- 5) 大熊1990では「8世紀の第一四半期を中心とした時期の須恵器がかなり集中的に出土した」とあり、今回の7期とわずかに時期差があるが、これは当時と現在の須恵器の年代観が若干違うためであると思われる。

参考文献

赤塚次郎 1990 「V 考察」『廻間遺跡』財団法人 愛知県埋蔵文化財センター

石守晃 1996 「住居の廃絶の一形態『焼却処分』について」『すまいの考古学―住居の廃絶をめぐって 資料 集』山梨県考古学協会

岩瀬彰利 1996 「縄文・弥生時代の煮炊き方法―大西貝塚・橋良遺跡例より推測した―例―」『第4回 東海 考古学フォーラム 鍋と甕そのデザイン』東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会

宇野隆夫 1992 「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集

大熊厚志 1989 『城之内遺跡 長良高等学校体育館建設に伴う岐阜大学跡地の緊急発掘調査報告書』岐阜県教育委員会

桐生直彦 1996 「遺物出土状態からみた竪穴住居の廃絶」『すまいの考古学―住居の廃絶をめぐって 資料 集』山梨県考古学協会

高木洋他 1996 『堀田・城之内―岐阜市堀田土地区画整理事業に伴う発掘調査―』岐阜市堀田土地区画整理組合、岐阜市遺跡調査会

中井正幸 1994 a 「2 今宿遺跡」『大垣市埋蔵文化財調査概要 平成 4 年度』 大垣市教育委員会

中井正幸 1994 b 「美濃における庄内式併行期の土器様相―西美濃を中心に―」『庄内式土器研究VI―庄内式 併行期の土器生産とその動き―』庄内式土器研究会

堀正人他 1990 『城之内遺跡―東長良中学校建設に伴う岐阜大学跡地の緊急発掘調査―』岐阜市教育委員会

渡辺博人 1996 「美濃の後期古墳出土須恵器の様相―蓋坏の型式設定とその編年試案―」『美濃の考古学 創刊号』「美濃の考古学」刊行会

図 版



B、C区完掘状況 (北から)



B、C区完掘状況(北西から)



B、C区完掘状況(南東から)



SB20付近完掘状況(西から)



SB23付近完掘状況 (北西から)



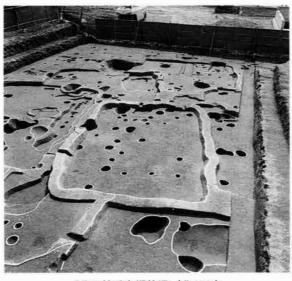
SB27付近完掘状況 (西から)



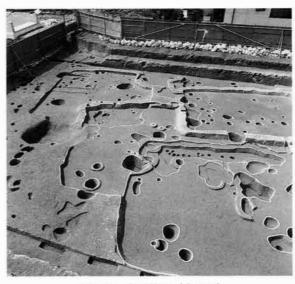
SB34付近完掘状況 (東から)



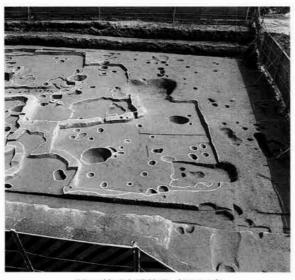
SB41付近完掘状況 (東から)



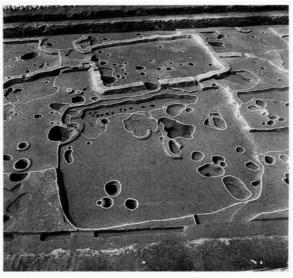
SB45付近完掘状況 (北から)



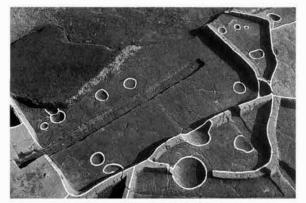
SB47付近完掘状況(東から)



SB48付近完掘状況 (西から)



SB50付近完掘状況(東から)



SB1、2 完掘状況 (南西から)



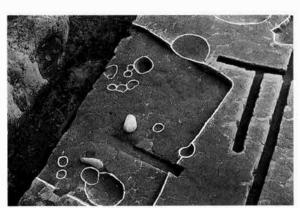
SB2遺物出土状況 (西から)



SB1、2、3、5、19完掘状況(北西から)



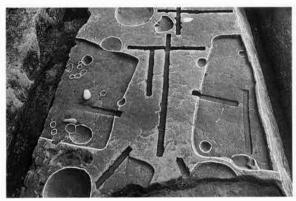
SB6 炭化材、焼土検出状況 (西から)



SB6 完掘状況 (北西から)



SB 6 遺物出土状況 (南から)



SB6、8 完掘状況 (北から)



SB9カマド完掘状況 (西から)



SB10遺物出土状況 (東から)



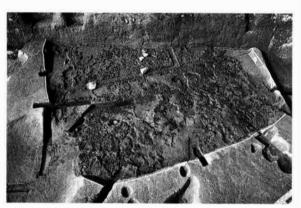
SB11完掘状況(南西から)



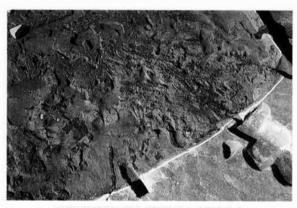
SB11焼土検出状況(南から)



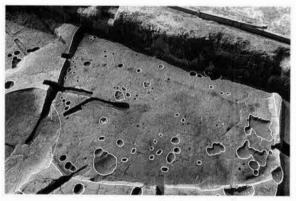
SB12遺物出土状況 (東から)



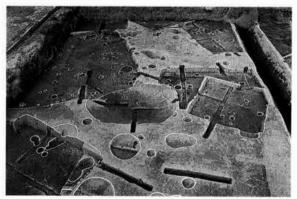
SB12炭化材、焼土検出状況(東から)



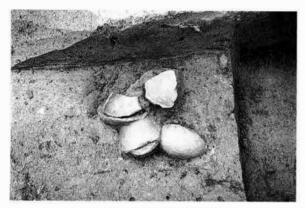
SB12炭化材、焼土検出状況(東から)



SB12完掘状況 (北東から)



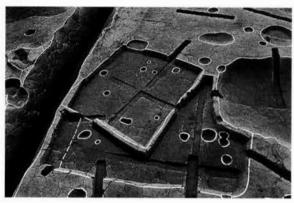
SB12付近完掘状況(南から)



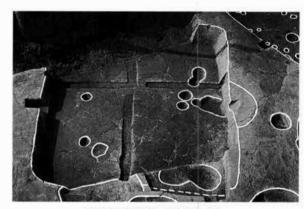
SB14遺物出土状況 (南から)



SB14遺物出土状況 (北から)



SB14、15完掘状況 (北から)



SB16完掘状況 (北東から)



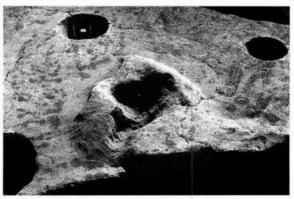
SB18完掘状況 (西から)



SB19遺物出土状況(南東から)



SB20床面検出状況 (西から)



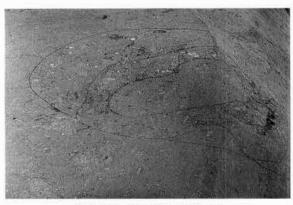
SB21カマド完掘状況 (西から)



SB26、54、55床面検出状況 (西から)



SB27焼土検出状況(東から)



SB27焼土検出状況(南から)



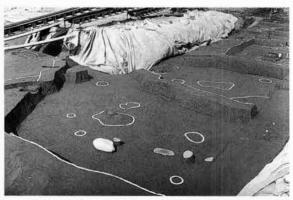
SB30、SK139床面検出状況(南東から)



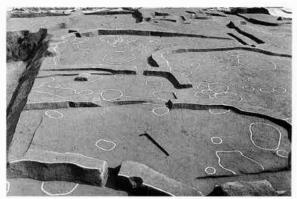
SB31、32床面検出状況(南から)



SB32床面検出状況 (南東から)



SB33、49床面検出状況 (南東から)



SB34、35、36床面検出状況 (西から)



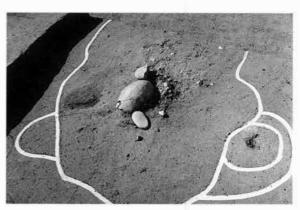
SB37床面検出状況 (西から)



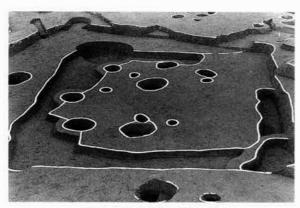
SB38床面検出状況 (東から)



SB38焼土検出状況 (北から)



SB38-P1検出状況 (東から)



SB39、53完掘状況 (西から)



SB40焼土半載状況 (南から)



SB40焼土完掘状況 (南西から)



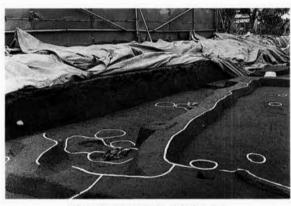
SB41床面検出状況 (東から)



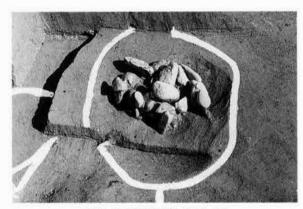
SB41 b 焼土半載状況 (東から)



SB41 a 遺物出土状況 (北から)



SB44床面検出状況 (南東から)



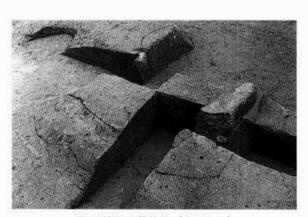
SB44-P1検出状況 (西から)



SB44-P3検出状況(南西から)



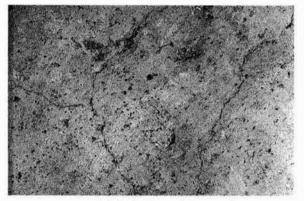
SB45床面検出状況(南から)



SB46焼土半載状況 (南西から)



SB47床面検出状況 (西から)



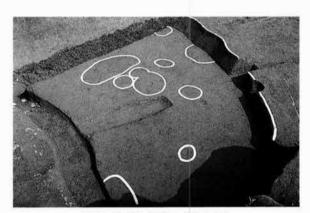
SB47炭化米検出状況(南西から)



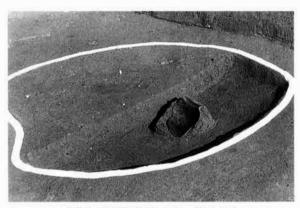
SB49上層遺物出土状況 (南東から)



SB50床面検出状況(南から)



SB51床面検出状況 (北から)



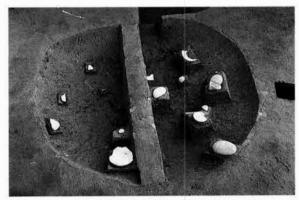
SB54-P11遺物出土状況(南から)



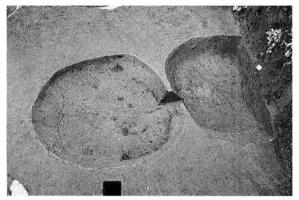
SB55礫検出状況(南から)



SB55付近床面検出状況(南から)



SK 8 遺物出土状況 (北から)



SK8、9 完掘状況 (西から)



SK29完掘状況(東から)



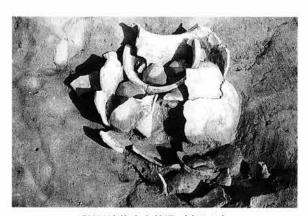
SK42遺物出土状況 (西から)



SK47半載状況(南から)



SK72遺物出土状況(東から)



SK98遺物出土状況(東から)



SK99半載状況 (北東から)



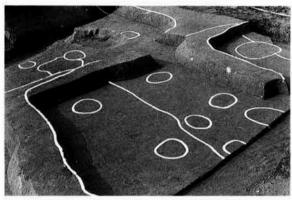
SK99遺物出土状況(北から)



SK99の西 遺物出土状況 (東から)



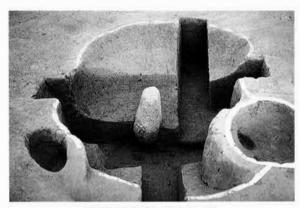
SK131遺物出土状況(南から)



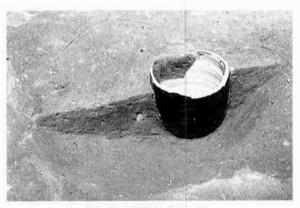
SK139床面検出状況(南東から)



P206遺物出土状況 (南から)



P206完掘状況(南西から)



P215半載状況(北から)



D区落ち込み礫検出状況(南東から)



SD 6 完掘状況(東から)



SD1完掘状況(南から)



SD1コーナー完掘状況(北から)



SD 1 B-B'断面 (南から)



SU1遺物出土状況 (東から)



SA2~4 完掘状況 (西から)



SA7~10完掘状況(南西から)



SA11~13完掘状況 (北西から)



B区遺物出土状況



B区遺物出土状況



B区遺物出土状況(北から)



7 Gグリッド遺物出土状況 (北から)



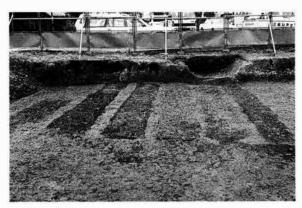
SI1検出状況 (北西から)



SI1半載状況 (南東から)



SI 2 検出状況 (南西から)

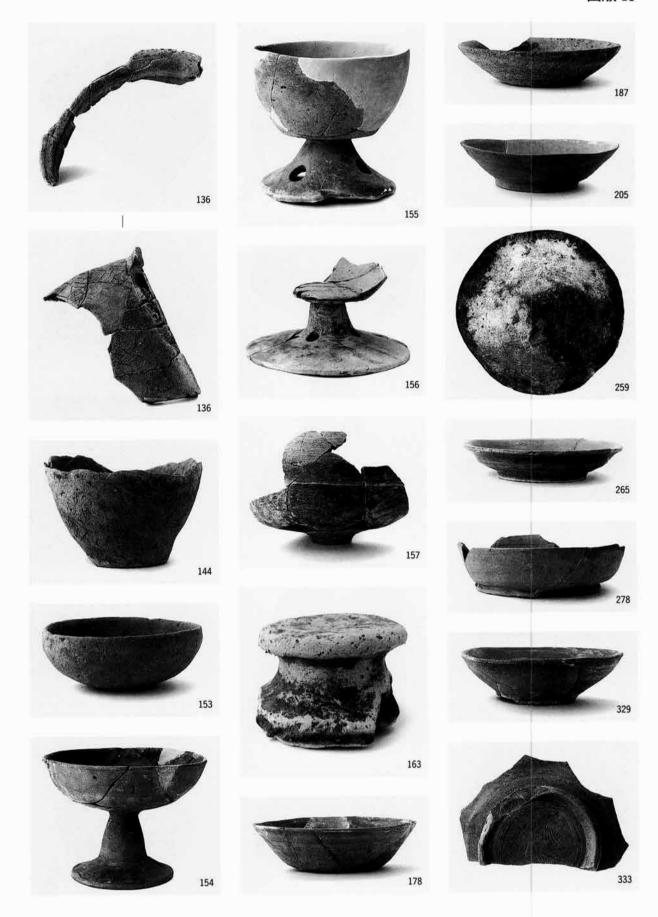


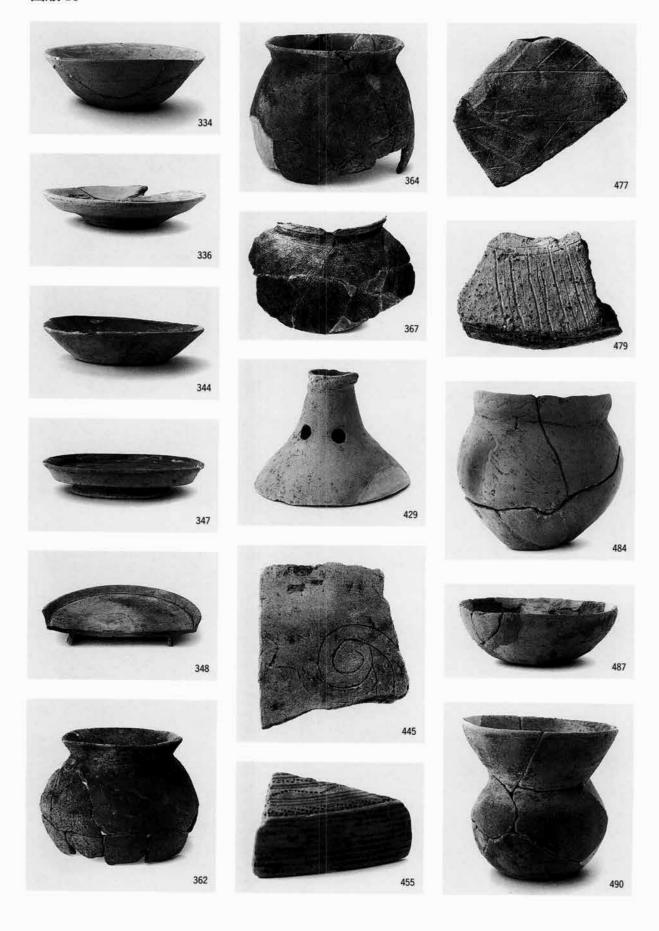
SI3~8検出状況(南東から)

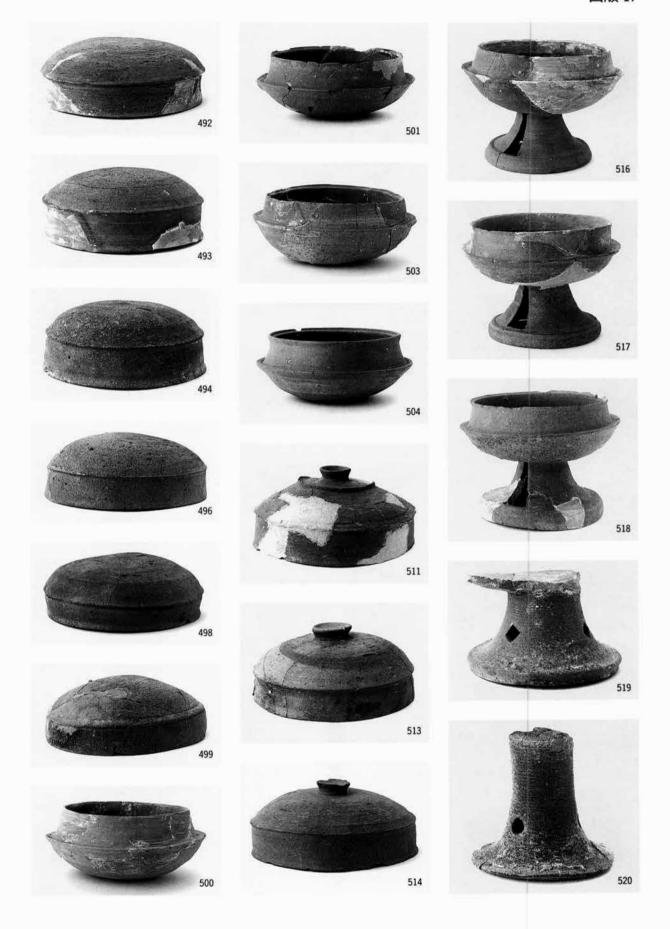


SX1完掘状況(北西から)

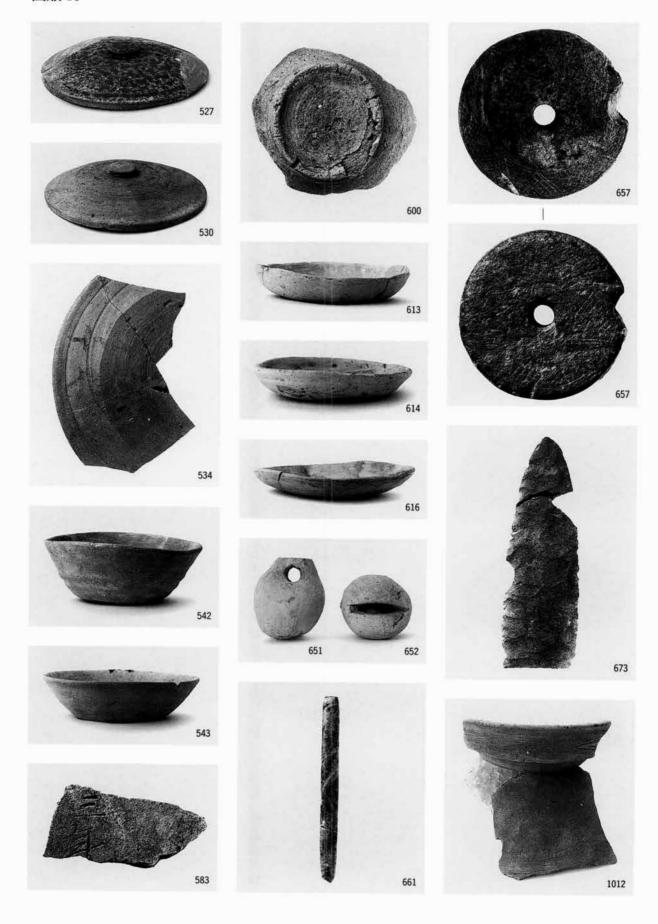








図版 18





















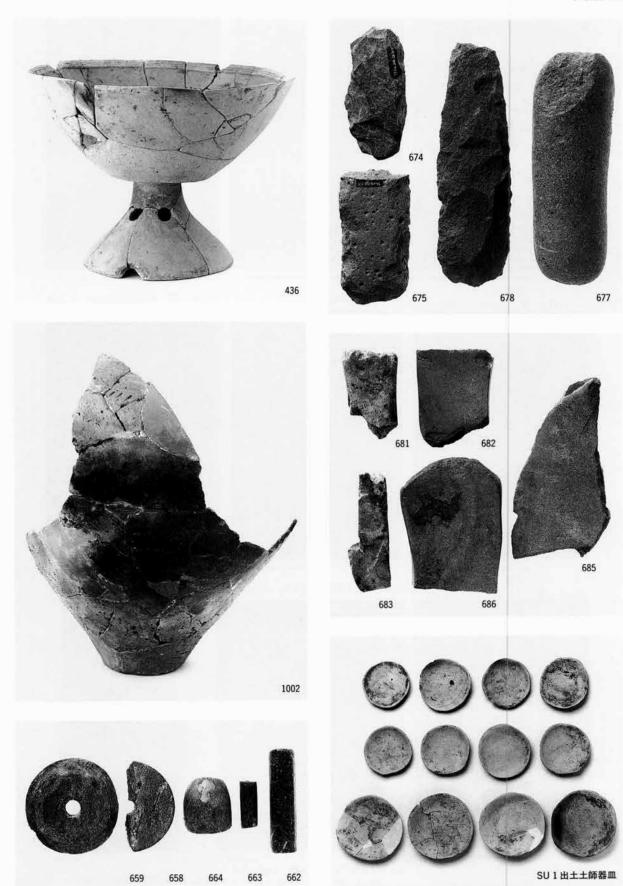




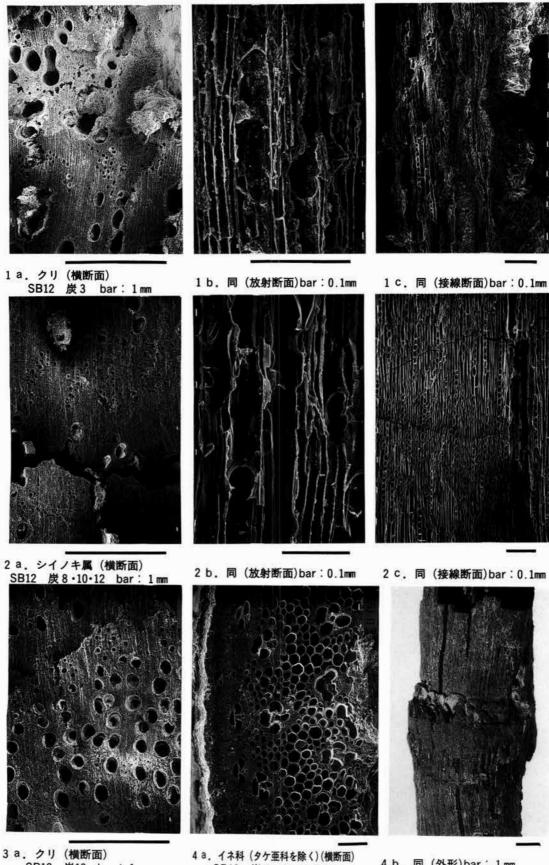








図版 24 竪穴住居出土炭化材の電子顕微鏡写真



SB12 炭13 bar: 1 mm

SB12 炭1 bar: 0.1mm

4 b. 同 (外形)bar: 1 mm

報告書抄録

ふりがな	ほりたしろ	のう	ちい	 せき					
書 名	堀田城之内遺跡								
副書名	岐阜環状線建設工事に伴う緊急発掘調査報告書								
巻次	A 1 TO STOCK OF THE 1 / AND JURING LETTER II II								
シリーズ名	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・								
シリーズ番号	第30集								
編著者名	小野木学、植田弥生、古田靖志								
編集機関	財団法人岐阜県文化財保護センター								
所在地	〒500 岐阜県岐阜市司町 1 (岐阜総合庁舎内) Tel058 (264) 1111 (814)								
発行年月日	西暦1997年 3 月31日								
ふりがな	ふりがな		コード		北緯	東経	調査期間	調査面積m²	調査原因
所収遺跡名	所在名市		J村	遺跡番号					
^{ほりたしろのうち} 堀田城之内 遺跡	ぎょけんぎょし 岐阜県岐阜市 ながら良堀田	212	201	G33G 03153	35° 26′ 40″	136° 47′ 20″	19940711 19950324 19950526 19960322	2,000 m ² 2,138 m ²	岐阜環状線 建設工事に 伴う
所収遺跡名	種 別 主な	時代	Ë	とな遺	構	主	な 遺 物	特記	事項
- 堀田城之内 遺跡		時代	竪分	文住居 立柱建物	56軒 3棟 6条 140基 777基	建	上器 比器 器 器 網 碗・小皿 器 皿	古墳時代住居を変われる。 戦国時代周辺に任	七多数検出し 古代の 古代出し できるできると できると

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第30集

堀田城之内遺跡

岐阜環状線建設工事に伴う緊急発掘調査報告書

1997年 3 月25日 印刷 1997年 3 月31日 刊行

編集・発行 財団法人 岐阜県文化財保護センター 岐阜県岐阜市司町1 (岐阜総合庁舎内)

印刷西濃印刷株式会社

